



第二編 保安 第一章 安寧

何年何月何日

投票管理者

何市町村長 氏

投票立會人

氏 氏 氏  
名 名 名

選舉錄樣式

何府縣第何區衆議院議員選舉會選舉錄 何年何月何日  
何府縣第何區衆議院議員選舉會選舉錄 何年何月何日

一 選舉會場ハ何郡市役所(何ノ場所)ニ之ヲ設ケタリ

二 左ノ選舉立會人ハ何レモ選舉會開會ノ時刻マテニ選舉會ニ參會シタリ

住所 氏 名  
住所 氏 名  
住所 氏 名

選舉會開會ノ時刻ニ至リ選舉立會人中何名參會セサルニ由リ選舉長ハ臨時ニ選舉區内ニ於ケル選舉人中ヨリ左ノ者ヲ選舉立會人ニ選任シタリ

何年何月何日選舉長ハ總テノ投票函ノ送致ヲ受ケタルヲ以テ其ノ翌何日午前第何時ヨリ選舉會ヲ開キ其ノ事務ヲ開始シタリ

〔神奈川管〕

八四

四 選舉立會人中氏名ハ一旦參會シタルモ午後第何時何々ノ事故ヲ以テ其ノ職ヲ辭シタル爲其ノ定數ヲ缺キタルニ由リ選舉長ハ臨時ニ選舉區内ニ於ケル選舉人中ヨリ午前第何時左ノ者ヲ選舉立會人ニ選任シタリ

住所 氏 名  
選舉長ハ選舉立會人立會ノ上(各郡市別ニ)逐次投票函ヲ開キ投票ノ總數ト投票人ノ總數トヲ計算シタルニ左ノ如シ

投票總數 何  
投票人總數 何  
外 假ニ爲シタル投票數 何  
假ニ爲シタル投票人數 何

(右各郡市別内譯左ノ如シ)  
(投票數) (何票)  
(投票人數) (何人)

(假ニ爲シタル投票數) (何票)  
(假ニ爲シタル投票人數) (何人)

投票總數ト投票人總數ト符合セリ  
(何郡市ハ)投票總數ト投票人總數ト符合セス即チ投票總數ハ投票人總數ニ比シ何票多ク又ハ少シ(其ノ

〔神奈川管〕

理由ノ明カナルモノハ之ヲ記載スヘシ(投票管理者ヨリ拒否ノ決定ヲ受ケタル者ニ於テ假ニ投票ヲ爲シタル者左ノ如シ)

住所 氏 名  
住所 氏 名  
住所 氏 名  
住所 氏 名  
住所 氏 名

事由何々

事由何々 住所 氏 名

一 事由何々 住所 氏 名  
一 事由何々 住所 氏 名

七 選舉長ハ(各郡市別ニ)各投票所ノ投票ヲ混同シ選舉立會人ト共ニ投票ヲ點檢シ選舉長(選舉事務ニ從事スル官職氏名)ハ每票記載ノ氏名ヲ朗讀シタリ

八 選舉事務ニ從事スル官職氏名及官職氏名ノ二名ハ投票記載ノ氏名ノ朗讀ニ應ジ各別ニ同一被選舉人ノ得票ヲ點數簿ニ記入シ且其ノ一名ニ於テ各被選舉人ノ得票ヲ記入スル毎ニ其ノ得票數ヲ呼ビ他ノ一名ト共ニ其ノ得票數ヲ校合シタリ

九 選舉長ニ於テ選舉立會人ノ意見ヲ聽キ有效又ハ無効ト決定シタル投票左ノ如シ

第二編 保安 第一章 安寧

一 有效ト決定シタルモノ (何票)  
一 無効ト決定シタルモノ (何票)  
内 一 成規ノ用紙ヲ用キサルモノ (何票)  
二 一票中二人以上ノ被選舉人ヲ記載シタルモノ (何票)  
三 被選舉人ノ何人タルヲ確認シ難キモノ (何票)  
總計 (何票)

(右各郡市別内譯左ノ如シ)  
(何郡市)  
(一) 有效ト決定シタルモノ (何票)  
(二) 無効ト決定シタルモノ (何票)  
内 (一) 成規ノ用紙ヲ用キサルモノ (何票)  
(二) 一票中二人以上ノ被選舉人ヲ記載シタルモノ (何票)  
(三) 被選舉人ノ何人タルヲ確認シ難キモノ (何票)  
(何票)  
(何票)

(計 何票)

十 午後何時投票ノ點檢了リタルヲ以テ選舉長ハ各被選舉人ノ得票數(チ各郡市別ニ朗讀シ終リニ其ノ總數)ヲ朗讀シタリ

十一 各被選舉人ノ得票數左ノ如シ

何票 氏名  
(内)  
(何郡何票)  
(何市何票)  
何票 氏名

十二 選舉區内ノ議員定數何人ヲ以テ選舉人名簿ニ記載セラレタル者ノ總數何人ヲ除シテ得タル數ハ何人ニシテ此ノ五分ノ一ノ數ハ何票ナリ

得票者中此ノ數ニ達スルモノヲ舉ケレハ左ノ如シ  
何票 氏名  
何票 氏名  
右ノ内有效投票ノ最多數ヲ得タル左ノ何名ヲ以テ

當選人トス

(但シ氏名及氏名ハ得票ノ數相同キニ依リ其ノ年齡ヲ調査スルニ氏名ハ何年何月何日生氏名ハ何年何月何日生ニシテ氏名年長者ナルヲ以テ則氏名ヲ以テ當選人ト定メタリ

同年月日ナルヲ以テ選舉長ニ於テ抽籤シタルニ氏名當選セリ依テ氏名ヲ以テ當選人ト定メタリ)

十三 選舉長ハ(各郡市別ニ)點檢済投票ノ有效無效及不受理ノ決定アリタル投票ヲ大別シ尙有效ノ決定アリタル投票ニ在テハ得票者毎ニ之ヲ區別シ無効ノ決定アリタル投票ニ在テハ之ヲ類別シテ各別ニ之ヲ封筒ニ入レ選舉立會人ト共ニ之ニ封印シタリ

十四 午後何時選舉會ノ事務ヲ了ス  
十五 左ノ何名ハ選舉會ノ事務ニ從事シタリ  
官職 氏名  
官職 氏名  
官職 氏名

十六 選舉會ニ臨監シタル官吏左ノ如シ  
官職 氏名  
官職 氏名  
十七 以上ノ外選舉ニ關シ選舉長ニ於テ緊要ト認ムル事項アルトキハ之ヲ記載スヘシ

(神奈川縣)

選舉長ハ此ノ選舉證ヲ作リ之ヲ朗讀シタル上選舉立會人ト共ニ茲ニ署名ス

何年何月何日

選舉長 何府縣何郡市長 氏名  
選舉立會人 氏名 氏名 氏名 氏名  
衆議院議員當選證書樣式 用紙烏ノ子四ツ切

衆議院議員當選證書  
住所 氏名  
右ノ者何府縣第何區ニ於テ衆議院議員ニ當選シタルコトヲ證ス  
年月日 地方長官 氏名 名印

點數簿樣式 用紙美濃紙

Table with columns for vote counts (何郡市) and names (氏名). The table is a grid used for recording election results.

●神官神職ハ衆議院議員選舉競爭ニ關與スヘカラス

明治二十七年二月六日  
内務省訓令第五號

北海道廳 府縣

衆議院議員ノ選舉ニ際シ神官神職ハ自己享有ノ選舉權ヲ行フノ外直接ト間接トヲ論セス總テ政論ニ容喙シ朋黨ニ加  
盟シ選舉ノ競爭ニ關與ス可ラス專心一意本務ニ從事セシムヘシ

●府縣制(抄録)

明治三十二年三月十六日  
法律第六十四號

改正 明治四一年法律第二號、大正三年第三五號、一一年第五五號

第二章 府縣會

第一款 組織及選舉

第四條 府縣會議員ハ各選舉區ニ於テ之ヲ選舉ス

選舉區ハ都市ノ區域ニ依ル但シ東京市京都市大阪市其ノ他勅令ヲ以テ指定シタル市ニ於テハ區ノ區域ニ依ル  
府縣知事ハ府縣會ノ議決ヲ經内務大臣ノ許可ヲ受ケ前項ノ規定ニ依ル選舉區ヲ分チテ數選舉區ト爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ選舉區ヲ分ツ場合ニ付テ必要ナル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五條 府縣會議員ハ府縣ノ人口七十萬未滿ハ議員三十人ヲ以テ定員トシ七十萬以上百萬未滿ハ五萬ヲ加フル毎ニ  
一人ヲ増シ百萬以上ハ七萬ヲ加フル毎ニ一人ヲ増ス

各選舉區ニ於テ選舉スヘキ府縣會議員ノ數ハ府縣會ノ議決ヲ經テ府縣知事之ヲ定ム

議員ノ配當ニ關シ必要ナル事項ハ内務大臣之ヲ定ム

議員ノ定數ハ總選舉ヲ行フ場合ニ非サレハ之ヲ増減セス

第六條 府縣内ノ市町村公民ニシテ一年以來其ノ府縣内ニ於テ直接國稅ヲ納ムル者ハ府縣會議員ノ選舉權及被選舉  
權ヲ有ス

〔神奈川管〕

〔神奈川管〕

ト看做ス

確定名簿ニ登錄セラレタル者ハ其ノ名簿調製期日後選舉權ノ納稅要件ヲ闕クニ至リタル場合ト雖其ノ確定名簿據  
置ノ期間内仍舊選舉權ヲ有ス

府縣會議員ハ住所ヲ移シタル爲市町村ノ公民權ヲ失フコトアルモ其ノ住所同府縣内ニ在ルトキハ之カ爲其ノ職ヲ  
失フコトナシ

府縣會議員ノ選舉權及被選舉權ノ要件中其ノ年限ニ關スルモノハ府縣都市町村ノ廢置分合若ハ境界變更ノ爲中斷  
セラレコトナシ

陸海軍軍人ニシテ現役中ノ者及戰時又ハ事變ニ際シ召集中ノ者ハ府縣會議員ノ選舉權及被選舉權ヲ有セス

市町村公民權停止中ノ者ハ府縣會議員ノ選舉權及被選舉權ヲ有セス

左ニ掲ケル者ハ府縣會議員ノ被選舉權ヲ有セス其ノ之ヲ罷メタル後一箇月ヲ經過セサル者亦同シ

一 其ノ府縣ノ官吏及有給吏員

二 檢事警察官吏及收稅官吏

三 神官神職僧侶其ノ他諸宗教師

四 小學校教員

前項ノ外ノ官吏ニシテ當選シ之ニ應セントスルトキハ所屬長官ノ許可ヲ受ケヘシ

選舉事務ニ關係アル官吏吏員ハ其ノ關係區域内ニ於テ被選舉權ヲ有セス其ノ之ヲ罷メタル後一箇月ヲ經過セサル  
者亦同シ

府縣ニ對シ請負ヲ爲シ若ハ府縣ニ於テ費用ヲ負擔スル事業ニ付府縣知事又ハ其ノ委任ヲ受ケタル者ニ對シ請負ヲ  
爲ス者及其ノ支配人又ハ主トシテ同一ノ行爲ヲ爲ス法人ノ無限責任社員、役員及支配人ハ其ノ府縣ニ於テ被選舉  
權ヲ有セス

前項ノ役員トハ取締役、監查役及之ニ準スヘキ者並清算人ヲ謂フ

府縣會議員ハ衆議院議員ト相兼スルコトヲ得ス

第七條 府縣會議員ハ名譽職トス

議員ノ任期ハ四年トシ總選舉ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第八條 府縣會議員中開員アルトキハ三箇月以内ニ補開選舉ヲ行フヘシ

議員開員ト爲リタルトキ其ノ議員方第二十九條第二項ノ規定ノ適用ニ依リ當選者ト爲リタル者ナル場合又ハ本條本項、第三十二條第一項但書若ハ第三十六條第一項但書ノ規定ニ依ル第二十九條第二項ノ規定ノ適用ニ依リ當選者ト爲リタル者ナル場合ニ於テハ選舉長ハ直ニ第二十九條第二項ノ規定ノ適用又ハ準用チ受ケタル他ノ得票者ニ就キ當選者ヲ定ムヘシ此ノ場合ニ於テハ第二十九條第二項及第三十一條ノ規定ヲ準用ス

第九條 町村長ハ毎年九月十五日ヲ期トシ其ノ日ノ現在ニ依リ其ノ町村内ノ選舉人名簿ニ本ヲ調製シ其ノ一本ヲ十月一日マテニ郡長ニ送付スヘシ

第十條 市長ハ毎年九月十五日ヲ期トシ其ノ日ノ現在ニ依リ十月十五日マテニ其ノ選舉區ノ選舉人名簿ヲ調製スヘシ

第十一條 選舉人其ノ住所ヲ有スル市町村外ニ於テ直接國稅ヲ納ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ證明ヲ得テ九月二十日マテニ其ノ住所ニ市町村長ニ届出シヘシ其ノ期限内ニ届出チ爲ササルトキハ其ノ納稅ハ選舉人名簿ニ記載セラルヘキ要件ニ算入セス

第十二條 郡市町村長ハ十月二十日ヨリ十五日間其ノ郡市役所町村役場ニ於テ選舉人名簿ヲ關係者ノ縱覽ニ供スヘシ若關係者ニ於テ異議アルトキ又ハ正當ノ事故ニ依リ前條ノ手續ヲ爲スコト能ハスシテ名簿ニ登錄セラレサルトキハ縱覽期限内ニ之ヲ郡市長ニ申立ルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ郡市長ハ其ノ申立チ受ケタル日ヨリ十日以内ニ之ヲ決定スヘシ

前項郡市長ノ決定ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得前項ノ裁決ニ關シテハ府縣知事郡市長ヨリモ亦訴訟ヲ提起スルコトヲ得

選舉人名簿ハ十二月十五日ヲ以テ確定期限トシ確定名簿ハ次年ノ十二月十四日マテ之ヲ設置クヘシ

府縣參事會ノ裁決確定シ又ハ訴訟ノ判決ニ依リ名簿ノ修正ヲ要スルトキハ郡市長ニ於テ直ニ之ヲ修正スヘシ

本條ニ依リ郡市長ニ於テ名簿ヲ修正シタルトキハ其ノ要領ヲ告示シ郡長ハ本人住所地ノ町村長ニ通知シ町村長ハ名簿ヲ修正シ之ヲ告示スヘシ

〔神奈川縣〕

確定名簿ニ登錄セラレザル者ハ選舉ニ參與スルコトヲ得ス但シ選舉人名簿ニ記載セラルヘキ確定裁決書若ハ判決書ヲ所持シ選舉ノ當日投票所ニ到ル者ハ此ノ限ニ在ラス

確定名簿ニ登錄セラレタル者選舉權ヲ有セザルトキハ選舉ニ參與スルコトヲ得ス但シ名簿ハ之ヲ修正スル限ニ在ラス

異議ノ決定若ハ訴訟ノ裁決確定シ又ハ訴訟ノ判決アリタルニ依リ名簿無効トナリタルトキハ九月十五日ノ現在ニ依リ更ニ名簿ヲ調製スヘシ但シ名簿調製ノ期日マテニ選舉權ヲ失ヒタル者ハ名簿ニ登錄スル限ニ在ラス

天災事變等ノ爲必要アルトキハ更ニ選舉人名簿ヲ調製シ又ハ之ヲ縱覽ニ供スヘシ

前二項ノ名簿調製ノ期日縱覽修正及確定ニ關スル期限等ハ府縣知事ノ定ムル所ニ依ル

府縣郡市町村ノ廢置分合境界變更ノ場合ニ於ケル名簿ノ分合ニ關シテハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十三條 府縣會議員ノ選舉ハ府縣知事ノ告示ニ依リ之ヲ行フ其ノ告示ニハ選舉ヲ行フヘキ選舉區投票ヲ行フヘキ日時及選舉スヘキ議員ノ員數ヲ記載シ選舉ノ日ヨリ少クモ二十日前ニ之ヲ發スヘシ

天災事變等ノ爲投票ヲ行フコトヲ得ザルトキ又ハ更ニ投票ヲ行フノ必要アルトキハ府縣知事ハ當該選舉區又ハ投票區ニ付投票ヲ行フヘキ日時ヲ定メ少クモ七日前ニ之ヲ告示スヘシ

第十四條 府縣會議員ノ選舉ハ郡市長之ヲ管理ス

第十五條 投票區ハ市町村ノ區域ニ依ル但シ第四條第三項ノ規定ノ適用ニ依リ市ノ區域内ニ數選舉區アルトキハ其ノ選舉區ノ區域ニ依ル

府縣知事ハ命令ノ定ムル所ニ依リ前項ノ規定ニ依リ投票區ノ區域内ニ二箇以上ノ投票區ヲ設ケ又ハ數町村ノ區域ニ依リ一投票區ヲ設ケルコトヲ得

投票所ハ市役所町村役場又ハ市町村長ノ指定シタル場所ニ之ヲ設ケ市町村長其ノ事務ヲ管理ス

投票所ハ市町村長ニ於テ選舉ノ日ヨリ少クモ五日前ニ之ヲ告示スヘシ

第二項ノ場合ニ於テ投票ニ關シ本法ヲ適用シ難キトキハ命令ヲ以テ特別ノ規定ヲ設ケルコトヲ得

第十六條 市町村長ハ臨時ニ其ノ管理スル投票區域内ニ於ケル選舉人中ヨリ投票立會人二名乃至四名ヲ選任スヘシ  
投票立會人ハ名譽職トス

第十七條 選舉人ニ非サル者ハ投票所ニ入ルコトヲ得ス但シ投票所ノ事務ニ從事スル者投票所ヲ監視スル職權ヲ有  
スル者又ハ警察官吏ハ此ノ限ニ在ラス

投票所ニ於テ演説討論ヲ爲シ若ハ喧擾ニ涉リ投票ニ關シ協議若ハ勸誘ヲ爲シ其ノ他投票所ノ秩序ヲ紊ス者アルト  
キハ投票管理者ハ之ヲ制止シ命ニ從ハサルトキハ之ヲ投票所外ニ退出セシムヘシ

前項ノ規定ニ依リ退出セシメラレタル者ハ最後ニ至リ投票ヲ爲スコトヲ得但シ投票管理者投票所ノ秩序ヲ紊スノ  
虞ナシト認ムル場合ニ於テ投票ヲ爲サシムルヲ妨ケス

第十八條 選舉ハ投票ニ依リ之ヲ行フ  
投票ハ一人一票ニ限ル

選舉人ハ選舉ノ當日投票時間内ニ自ラ投票所ニ到リ選舉人名簿ノ對照ヲ經又ハ確定裁決書若ハ判決書ヲ提示シテ  
投票ヲ爲スヘシ

投票時間内ニ投票所ニ入りタル選舉人ハ其ノ時間ヲ過ケルモ投票ヲ爲スコトヲ得  
選舉人ハ投票所ニ於テ投票用紙ニ自ラ被選舉人一名ノ氏名ヲ記載シテ投函スヘシ

投票用紙ニハ選舉人ノ氏名ヲ記載スルコトヲ得ス  
自ラ被選舉人ノ氏名ヲ書スルコト能ハサル者ハ投票ヲ爲スコトヲ得ス

投票用紙ハ府縣知事ノ定ムル所ニ依リ一定ノ式ヲ用ウヘシ  
選舉人名簿調製ノ後選舉人其ノ投票區域外ニ住所ヲ移シタル場合ニ於テ仍選舉權ヲ有スルトキハ前住所地ノ投票  
所ニ於テ投票ヲ爲スヘシ

第三十二條 第一項若ハ第三十六條ノ選舉又ハ補選選舉同時ニ行フ場合ニ於テハ一ノ選舉ヲ以テ合併シテ之ヲ行  
フ

第十九條 投票ノ拒否ハ投票立會人之ヲ議決ス可否同數ナルトキハ市町村長之ヲ決スヘシ

第二十條 市町村長ハ投票簿ヲ製シ投票ニ關スル頭末ヲ記載シ投票立會人ト共ニ之ニ署名スヘシ

〔神奈川縣〕

第二十一條 投票ヲ終リタルトキハ市町村長ハ其ノ指定シタル投票立會人ト共ニ直ニ投票函及投票録ヲ選舉會場ニ送  
致スヘシ

第二十二條 島嶼其ノ他交通不便ノ地ニ對シテハ府縣知事ハ適宜ニ其ノ投票期日ヲ定メ選舉會ノ期日マテニ其ノ投  
票函ヲ送致セシムルコトヲ得

第二十三條 選舉會ハ郡役所市役所又ハ郡市長ノ指定シタル場所ニ於テ之ヲ開クヘシ  
前項選舉會ノ場所及日時ハ郡市長豫メ之ヲ告示スヘシ

第二十四條 郡市長ハ選舉人中ヨリ選舉立會人二名乃至六名ヲ選任スヘシ  
選舉立會人ハ名譽職トス

第二十五條 郡市長ハ選舉長ト爲リ郡ニ於テハ投票函ノ總テ到達シタル翌日市ニ於テハ投票ノ翌日選舉立會人立會  
ノ上投票函ヲ開キ投票ノ總數ト投票人ノ總數トヲ計算スヘシ若シ投票ト投票人トノ總數ニ差異ヲ生シタルトキハ其  
ノ由ヲ選舉録ニ記載スヘシ但シ場合ニ依リ選舉會ハ郡ニ於テハ投票函到達ノ日市ニ於テハ投票ノ日之ヲ開クコト  
ヲ得

天災事變等ノ爲所定ノ期日ニ選舉會ヲ開クコトヲ得サルトキハ郡市長ハ前項ノ規定ニ拘ラス更ニ其ノ期日ヲ定ム  
ヘシ

第一項ノ計算終リタルトキハ選舉長ハ選舉立會人ト共ニ投票ヲ點檢スヘシ

第二十六條 選舉人ハ其ノ選舉會ニ參觀ヲ求ムルコトヲ得

第二十七條 左ノ投票外之ヲ無効トス  
一 成規ノ用紙ヲ用キサルモノ

二 一投票中二人以上ノ被選舉人ヲ記載シタルモノ

三 被選舉人ノ何人タルヲ確認シ難キモノ

四 被選舉權ナキ者ノ氏名ヲ記載シタルモノ

五 被選舉人ノ氏名ノ外他事ヲ記入シタルモノ但シ爵位職業身分住所又ハ敬稱ノ類ヲ記入シタルモノハ此ノ限ニ  
在ラス

六 被選舉人ノ氏名ヲ自書セサルモノ  
七 現ニ府縣會議員ノ職ニ在ル者ノ氏名ヲ記載シタルモノ

前項第七號ノ規定ハ總選舉ノ場合ニ於テ第二十二條ノ規定ニ依リ投票期日ヲ定メタルトキハ之ヲ適用セス

第二十八條 投票ノ效力ハ選舉立會人之ヲ議決ス可否同數ナルトキハ選舉長之ヲ決スヘシ

第二十九條 府縣會議員ノ選舉ハ有效投票ノ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選者トス但シ其ノ選舉區ニ配當セラレタル議員定數ヲ以テ選舉人名簿ニ登錄セラレタル人員數ヲ除シテ得タル數ノ七分ノ一以上ノ得票アルコトヲ要ス

當選者ヲ定ムルニ當リ得票ノ數同シキトキハ年長者ヲ取り年同シキトキハ選舉長抽籤シテ之ヲ定ム

第三十條 選舉長ハ選舉錄ヲ製シテ選舉ノ顛末ヲ記載シ選舉ヲ終リタル後之ヲ朗讀シ選舉立會人二名以上ト共ニ之ニ署名シ投票選舉人名簿其ノ他關係書類ト共ニ選舉及當選ノ效力確定スルニ至ルマテ之ヲ保存スヘシ

第三十一條 選舉ヲ終リタルトキハ選舉長ハ直ニ當選者ニ當選ノ旨ヲ告知シ同時ニ選舉錄ノ寫ヲ添ヘ當選者ノ住所氏名ヲ府縣知事ニ報告スヘシ

當選者當選ノ告知ヲ受ケタルトキハ十日以内ニ其ノ當選ヲ承諾スルヲ否テ府縣知事ニ申立ツヘシ

一人ニシテ數選舉區ノ選舉ニ當リタルトキハ最終ニ當選ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ十日以内ニ何レノ選舉ニ應スヘキカヲ府縣知事ニ申立ツヘシ

前二項ノ申立ヲ其ノ期限内ニ爲ササルトキハ當選ヲ辭シタルモノト看做ス

第六條第九項ノ官吏ニシテ當選シタル者ニ關シテハ本條ニ定ムル期間ヲ二十日以内トス

第三十二條 當選者當選ヲ辭シタルトキ、數選舉區ノ選舉ニ當リ前條第三項ノ規定ニ依リ一ノ選舉區ノ選舉ニ應ジタル爲他ノ選舉區ニ於テ當選者タラサルニ至リタルトキ、死亡者ナルトキ又ハ選舉ニ關スル犯罪ニ依リ刑ニ處セラレ其ノ當選無効トナリタルトキハ更ニ選舉ヲ行フヘシ但シ其ノ當選者第二十九條第二項ノ規定ノ適用又ハ準用ニ依リ當選者ト爲リタル者ナル場合ニ於テハ第八條第二項ノ例ニ依ル

當選者選舉ニ關スル犯罪ニ依リ刑ニ處セラレ其ノ當選無効トナリタルトキ其ノ前ニ其ノ者ニ關スル補闕選舉若ハ前項ノ選舉ノ告示ヲ爲シタル場合又ハ更ニ選舉ヲ行フコトナクシテ當選者ヲ定メタル場合ニ於テハ前項ノ規定ヲ適用セス

〔神奈川條〕

第三十三條 當選者其ノ當選ヲ承諾シタルトキハ府縣知事ハ直ニ當選證書ヲ付與シ及其ノ住所氏名ヲ告示スヘシ

第三十四條 選舉人選舉若ハ當選ノ效力ニ關シ異議アルトキハ選舉ニ關シテハ選舉ノ日ヨリ當選ニ關シテハ前條告示ノ日ヨリ十四日以内ニ之ヲ府縣知事ニ申立ツルコトヲ得

前項ノ異議ハ之ヲ府縣參事會ノ決定ニ付スヘシ

府縣知事ニ於テ選舉若ハ當選ノ效力ニ關シ異議アルトキハ第一項申立ノ有無ニ拘ラス選舉ニ關シテハ第三十一條第一項ノ報告ヲ受ケタル日ヨリ當選ニ關シテハ同條第二項又ハ第三項ノ申立アリタル日ヨリ三十日以内ニ府縣參事會ノ決定ニ付スルコトヲ得

前二項ノ場合ニ於テハ府縣參事會ハ其ノ送付ヲ受ケタル日ヨリ十四日以内ニ之ヲ決定スヘシ

本條府縣參事會ノ決定ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ決定ニ關シテハ府縣知事郡市長ヨリモ亦訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第八條、第三十二條又ハ第三十六條第二項ノ選舉ハ之ニ關係アル選舉又ハ當選ニ關スル異議申立期間、異議ノ決定確定セサル間又ハ訴訟ノ繫屬スル間之ヲ行フコトヲ得ス

府縣會議員ハ選舉又ハ當選ニ關スル決定確定シ又ハ判決アルマテハ會議ニ參與スルノ權ヲ失ハス

第三十五條 選舉ノ規定ニ違反スルコトアルトキハ選舉ノ結果ニ異動ヲ生スルノ虞アル場合ニ限リ其ノ選舉ノ全部又ハ一部ヲ無効トス

當選者ニシテ被選舉權ヲ有セサルトキハ其ノ當選ヲ無効トス

第三十六條 選舉若ハ當選無効ト確定シタルトキハ更ニ選舉ヲ行フヘシ但シ更ニ選舉ヲ行フコトナクシテ當選者ヲ定メ得ヘキ場合ニ於テハ第二十九條第二項及第三十一條ノ規定ヲ準用ス

議員ノ定數ニ足ル當選者ヲ得ルコト能ハサルトキハ其ノ不足ノ員數ニ付更ニ選舉ヲ行フヘシ此ノ場合ニ於テハ第二十九條第一項但書ノ規定ヲ適用セス

第三十七條 府縣會議員ニシテ被選舉權ヲ有セサル者ハ其ノ職ヲ失フ其ノ被選舉權ノ有無ニ關シテハ府縣會議員カ左ノ各號ノ一ニ該當スルニ因リ被選舉權ヲ有セサル場合ヲ除ク外府縣參事會其ノ異議ヲ決定ス

一 禁治產者又ハ準禁治產者ト爲リタルトキ

- 二 家資分訖又ハ破産ノ宣告ヲ受ケ其ノ宣告確定シタルトキ
  - 三 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ
  - 四 選舉ニ關スル犯罪ニ依リ罰金ノ刑ニ處セラレタルトキ
- 府縣會ニ於テ其ノ議員中被選舉權ヲ有セザル者アリト認ムルトキハ之ヲ府縣知事ニ通知スヘシ但シ議員ハ自己ノ資格ニ關スル會議ニ於テ證明スルコトヲ得ルモ其ノ議決ニ加ハルコトヲ得ス
- 府縣知事ハ前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ之ヲ府縣參事會ノ決定ニ付スヘシ府縣知事ニ於テ被選舉權ヲ有セザル者アリト認ムルトキ亦同シ
- 第三十四條 第四項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス
- 本條府縣參事會ノ決定ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得
- 前項ノ決定ニ關シテハ府縣知事ヨリモ亦訴訟ヲ提起スルコトヲ得
- 府縣會議員ハ其ノ被選舉權ヲ有セストスレバ決定確定シ又ハ判決アルマテハ會議ニ參與スルノ權ヲ失ハス
- 第三十八條 本款ニ規定スル異議ノ決定及訴願ノ裁決ハ其ノ決定書若ハ裁決書ヲ交付シタルトキ直ニ之ヲ告示スヘシ
- 第三十九條 第四條第二項但書ノ市ニ於テハ市長トアルハ區長又市トアルハ區、市役所トアルハ區役所ト看做シ本款ノ規定ヲ準用ス
- 町村組合ニシテ町村ノ事務ノ全部又ハ役場事務ヲ共同處理スルモノハ之ヲ一町村其ノ組合ノ管理者ハ之ヲ町村長ト看做シ本款ノ規定ヲ準用ス
- 第四十條 府縣會議員ノ選舉ニ付テハ衆議院議員選舉ニ關スル罰則ヲ準用ス
- 附 則(大正十一年法律第五十五號)
- 本法中選舉ニ關スル規定ハ次ノ總選舉ヨリ之ヲ施行シ其ノ他ノ規定ノ施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(大正十一年五月勅令第二百五十五號ヲ以テ同月十五日ヨリ施行)
- 大正十年法律第五十八號又ハ法律第五十八號中公民權ニ關スル規定ハ之ヲ施行セザル市町村ニ於テハ府縣制中市町村公民ニ關スル規定ノ適用ニ付之ヲ施行シタルモノト看做ス

〔神奈川縣〕

本法ニ依リ初テ議員ヲ選舉スルニ必要ナル選舉人名簿ニ關シ第九條乃至第十二條ニ規定スル期日又ハ期間ニ依リキトキハ勅令ヲ以テ別ニ期日又ハ期間ヲ定ム但シ其ノ選舉人名簿ハ次ノ選舉人名簿確定ノ日迄其ノ效力ヲ有ス

### ●府縣制ニ依リ投票區及投票ニ關スル件

大正三年六月二十三日  
內務省令第十一號

- 府縣制第十五條ニ依リ投票區及投票ニ關スル件左ノ通定ム
- 第一條 府縣制第十五條第一項ノ規定ニ依リ投票區ノ區域内ニ二箇以上ノ投票區ヲ設ケ又ハ數町村ノ區域ニ依リ一投票區ヲ設ケルコトヲ要スルトキハ府縣知事之ヲ定メ管内ニ告示スヘシ
- 第二條 二箇以上ノ投票區ヲ設ケタル場合ニ於テハ左ノ規定ニ依ル
- 一 選舉人名簿ハ每投票區各別ニ之ヲ調製スヘシ
  - 二 投票所ノ一ハ市町村長之ヲ管理シ他ノ投票所ハ市町村長ノ指名シタル市町村吏員之ヲ管理ス但シ府縣制第四條第三項ノ規定ニ依リ市ノ區域内ニ數選舉區ヲ設ケタル場合ニ於テハ市長ノ選任シタル市吏員力選舉長タル市町村長及選舉長タル市吏員ハ選舉前選舉人名簿ヲ關係管理者ニ送致スヘシ
  - 三 市町村長ニアラザル市町村吏員ノ管理スル投票所ニ關シテハ府縣制第十六條第十九條及第二十條ノ規定ニ依ル市町村長ノ職務ハ管理者之ヲ行フ
  - 四 投票所終リタルトキハ市町村長ノ指名シタル管理者ハ其ノ指定シタル投票立會人ト共ニ直ニ投票區投票錄及選舉人名簿ヲ市町村長ノ管理スル投票所ニ送致スヘシ但シ府縣制第四條第三項ノ規定ニ依リ市ノ區域内ニ數選舉區ヲ設ケタル場合ニ於テハ市長ノ選任シタル市吏員力選舉長タル選舉區ニ在リテハ選舉長タル市吏員ノ管理スル投票所ニ送致スヘシ
  - 五 町村長ニ於テ前項ノ送致ヲ受ケタルトキハ投票區及投票錄ハ其ノ管理ニ係ル投票區及投票錄ト共ニ之ヲ選舉



第二編 保安 第一章 安寧

會場ニ送致スヘシ

六 市ニ於テハ投票函ノ總テ到達シタル後ニ非サレハ選舉會ヲ開クコトヲ得ス  
前項第六號ノ規定ハ府縣制第四條第三項ノ規定ニ依リ分チタル選舉區ノ選舉會ニ之ヲ準用ス

第三條 數町村ノ區域ニ依リ一投票區ヲ設ケタル場合ニ於テハ左ノ規定ニ依ル

一 投票所ヲ管理スヘキ者ハ郡長ニ於テ關係町村長又ハ町村長ノ職務ヲ行フ者ノ中ニ就キ之ヲ指名ス  
二 府縣制第十五條第三項第四項第十六條第十九條第二十條及第二十一條ノ規定ニ依ル町村長ノ職務ハ管理者之  
ヲ行フ

三 町村長ハ選舉前選舉人名簿ヲ管理者ニ送致スヘシ

四 投票ヲ終リタルトキハ管理者ハ選舉人名簿ヲ關係町村長ニ返送スヘシ

五 町村費ヲ以テ支辨スヘキ投票所ノ費用ハ之ヲ關係町村ニ平分スヘシ

第四條 本令中市、市長トアルハ府縣制第四條第二項但書ノ市ニ在リテハ區、區長トシ郡長トアルハ島嶼ニ在リテハ  
島司トス

附 則

本令ハ大正三年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十二年五月內務省令第十九號府縣會議員選舉投票ニ關スル件ハ之ヲ廢止ス

府縣會議員選舉區分區令

大正十一年八月一日  
勅令第三百五十五號

改正 大正一二年八月勅令第三九三號

府縣會議員選舉區分區令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

府縣會議員選舉區分區令

第一條 府縣制第四條第三項ノ規定ニ依リ選舉區ヲ分ツハ總選舉ヲ行フ場合ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス分チタ  
ル選舉區ヲ廢止シ又ハ其ノ區域ヲ變更スル亦同シ但シ郡市町村ノ廢置分合又ハ境界變更ニ因リ分チタル選舉區ノ  
〔神奈川縣〕

〔神奈川縣〕

區域ノ變更ヲ要スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二條 分チタル選舉區ヲ廢止シ又ハ其ノ區域ヲ變更セムトスルトキハ府縣制第四條第三項ノ例ニ依ル

第三條 選舉區ヲ分チ又ハ分チタル選舉區ヲ廢止シ若ハ其ノ區域ヲ變更シタルトキハ府縣知事之ヲ告示スヘシ

第四條 郡市長ハ分チタル選舉區ノ一選舉區ノ選舉長ト爲リ他ノ選舉區ノ選舉長ハ郡市ノ官吏吏員ノ中ヨリ郡市長  
之ヲ選任スヘシ

郡市長ノ選任シタル選舉長故障アルトキハ郡市長ハ臨時ニ郡市ノ官吏吏員ヲシテ其ノ事務ヲ管掌セシムヘシ

第五條 選舉立會人ハ分チタル選舉區毎ニ之ヲ選任スヘシ

郡市長選舉立會人ヲ選任シタルトキハ郡市長ノ選任シタル選舉長ニ其ノ選舉區ノ選舉立會人ノ住所氏名ヲ通知ス  
ヘシ

選舉立會人指定ノ時刻ニ至リ參會セザルトキ又ハ參會シタルモ中途ヨリ定數ヲ缺キタルトキハ郡市長ノ選任シタ  
ル選舉長ハ臨時ニ選舉人中ヨリ選舉立會人ヲ選任スヘシ

第六條 郡市長ハ其ノ選任シタル選舉長ニ選舉前其ノ選舉區ノ選舉人名簿ヲ送致スヘシ

第七條 郡市長ノ選任シタル選舉長ハ選舉錄、投票、選舉人名簿其ノ他關係書類ヲ郡市長ニ送致スヘシ

選舉錄、投票、選舉人名簿其ノ他關係書類ハ郡市長ニ於テ之ヲ保存スヘシ

第八條 府縣制第二十五條第一項ノ規定ハ本令ニ依ル選舉會ニ、府縣制第三十四條第六項ノ規定ハ郡市長ノ選任シ  
タル選舉長ニ之ヲ準用ス

第九條 市長ノ選任シタル市吏員カ選舉長タル選舉區ニ在リテハ其ノ市吏員投票所ノ事務ヲ管理シ府縣制第十  
六條、第十九條及第二十條ニ規定スル市長ノ職務ヲ行フ

第十條 本令中郡ニ關スル規定ハ島嶼ニ、郡長ニ關スル規定ハ島司ニ之ヲ適用ス

府縣制第四條第二項但書ノ市ニ在リテハ本令中市ニ關スル規定ハ區ニ、市長ニ關スル規定ハ區長ニ之ヲ適用ス

附 則

本令ハ次ノ總選舉ヨリ之ヲ施行ス

附 則

本令ハ次ノ總選舉ヨリ之ヲ施行ス

第二編 保安 第一章 安寧

市制(抄録)

明治四十四年四月七日  
法律第六十八號

改正 大正一〇年法律第五八號、一一年第五六號

第一章 總則

第二款 市住民及其ノ權利義務

第八條 市内ニ住所ヲ有スル者ハ其ノ市住民トス

市住民ハ本法ニ從ヒ市ノ財産及營造物ヲ共用スル權利ヲ有シ市ノ負擔ヲ分任スル義務ヲ負フ

第九條 市住民ニシテ左ノ要件ヲ具備スル者ハ市公民トス但シ貧困ノ爲公費ノ救助ヲ受ケタル後二年ヲ經サル者、

禁治産者、準禁治産者及六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者ハ此ノ限ニ在ラス

一 帝國臣民タル男子ニシテ年齢二十五年以上ノ者

二 獨立ノ生計ヲ營ム者

三 二年以來其ノ市住民タル者

四 二年以來其ノ市ノ直接市税ヲ納ムル者

市ハ前項二年ノ制限ヲ特免スルコトヲ得

家督相続ニ依リ財産ヲ取得シタル者ニ付テハ其ノ財産ニ付被相続人ノ爲シタル納税ヲ以テ其ノ者ノ爲シタル納税ト看做ス

市公民ノ要件中其ノ年限ニ關スルモノハ市町村ノ廢置分合又ハ境界變更ノ爲中斷セラレルコトナシ

第十條 市公民ハ市ノ選舉ニ參與シ市ノ名譽職ニ選舉セラレル權利ヲ有シ市ノ名譽職ヲ擔任スル義務ヲ負フ

左ノ各號ノ一ニ該當セサル者ニシテ名譽職ノ當選ヲ辭シ又ハ其ノ職ヲ辭シ若ハ其ノ職務ヲ實際ニ執行セサルトキ

ハ市ハ一年以上四年以下其ノ市公民權ヲ停止シ場合ニ依リ其ノ停止期間以内其ノ者ノ負擔スヘキ市税ノ十分ノ一

以上四分ノ一以下ヲ増課スルコトヲ得

一 疾病ニ罹リ公務ニ堪ヘサル者

二 業務ノ爲常ニ市内一居ルコトヲ得サル者

〔神奈川縣〕

〔神奈川縣〕

三 年齢六十年以上ノ者

四 官公職ノ爲市ノ公務ヲ執ルコトヲ得サル者

五 四年以上名譽職市吏員、名譽職參事會員、市會議員又ハ區會議員ノ職ニ任シ爾後同一ノ期間ヲ經過セサル者

六 其ノ他市會ノ議決ニ依リ正當ノ理由アリト認ムル者

前項ノ處分ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服アルトキハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ

出訴スルコトヲ得

第二項ノ處分ハ其ノ確定ニ至ル迄執行ヲ停止ス

第三項ノ裁決ニ付テハ府縣知事又ハ市長ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第十一條 市公民第九條第一項ニ掲ケタル要件ノ一ヲ闕キ又ハ同項但書ニ當ルニ至リタルトキハ其ノ公民權ヲ失フ

市公民租稅滯納處分中ハ其ノ公民權ヲ停止ス家資分散若ハ破産ノ宣告ヲ受ケ其ノ確定シタルトキヨリ復權ノ決定

確定スルニ至ル迄又ハ六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタルトキヨリ其ノ執行ヲ終リ若ハ其ノ執行ヲ受ケ

ルコトナキニ至ル迄亦同シ

陸海軍ノ現役ニ服スル者ハ市ノ公務ニ參與スルコトヲ得ス其ノ他ノ兵役ニ在ル者ニシテ戰時又ハ事變ニ際シ召集

セラレタルトキ亦同シ

第二章 市會

第一款 組織及選舉

第十三條 市會議員ハ其ノ被選舉權アル者ニ就キ選舉人之ヲ選舉ス

議員ノ定數左ノ如シ

一 人口五萬未滿ノ市 三十人

二 人口五萬以上十五萬未滿ノ市 三十六人

三 人口十五萬以上二十萬未滿ノ市 四十人

四 人口二十萬以上三十萬未滿ノ市 四十四人

五 人口三十萬以上ノ市 四十八人

第二編 保安 第一章 安寧

人口三十萬ヲ超ユル市ニ於テハ人口十萬、人口五十萬ヲ超ユル市ニ於テハ人口二十萬ヲ加フル毎ニ議員四人ヲ増加ス

議員ノ定數ハ市條例ヲ以テ特ニ之ヲ増減スルコトヲ得

議員ノ定數ハ總選舉ヲ行フ場合ニ非サレハ之ヲ増減セス但シ著シク人口ノ増減アリタル場合ニ於テ内務大臣ノ許可ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十四條 市公民ハ總テ選舉權ヲ有ス但シ公民權停止中ノ者又ハ第十一條第三項ノ場合ニ當ル者ハ此ノ限ニ在ラス

第十五條 選舉人ハ分チテ二級トス

選舉人中選舉人ノ總數ヲ以テ選舉人ノ納ムル直接市稅總額ヲ除シ其ノ平均額以上ヲ納ムル者チ一級トシ其ノ他ノ選舉人チ二級トス但シ一級選舉人ノ數議員定數ノ二分ノ一ヨリ少キトキハ納稅額最多キ者議員定數ノ二分ノ一ト同數ヲ以テ一級トス兩級ノ間ニ同額ノ納稅者二人以上アルトキハ其ノ市内ニ住所ヲ有スル年數ノ多キ者ヲ以テ上級ニ入ル住所ヲ有スル年數同シキトキハ年長者ヲ以テシ年齡ニ依リ難キトキハ市長抽籤シテ之ヲ定ムヘシ

選舉人ハ每級各別ニ議員定數ノ二分ノ一ヲ選舉ス但シ選舉區アル場合ニ於テ議員ノ數二分ヲ難キトキハ其ノ配當方法ハ第十六條ノ市條例中ニ之ヲ規定スヘシ

被選舉人ハ各級ニ通シテ選舉セラレルコトヲ得

第二項ノ直接市稅ノ納額ハ選舉人名簿割製期日ノ屬スル會計年度ノ前年度ノ賦課額ニ依ルヘシ

第十六條 市ハ市條例ヲ以テ選舉區ヲ設クルコトヲ得二級選舉ノ爲ノミニ付亦同シ

選舉區ノ數及其ノ區域並各選舉區ヨリ選出スル議員數ハ前項ノ市條例中ニ之ヲ規定スヘシ

第六條ノ市ニ於テハ區ヲ以テ選舉區トス其ノ各選舉區ヨリ選出スル議員數ハ市條例ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

選舉人ハ住所ニ依リ所屬ノ選舉區ヲ定ム第七十六條又ハ第七十九條第二項ノ規定ニ依リ市公民タル者ニシテ市内ニ住所ヲ有セザル者ニ付テハ市長ハ本人ノ申出ニ依リ其ノ申出ナキトキハ職權ニ依リ其ノ選舉區ヲ定ムヘシ

選舉區ニ於テハ前條ノ規定ニ準シ選舉人ノ等級ヲ分ツヘシ但シ一級選舉人ノ數其ノ選出スヘキ議員配當數ヨリ少キトキハ納稅最多キ者議員配當數ト同數ヲ以テ一級トス

(神宮川管)

(神宮川管)

被選舉人ハ各選舉區ニ通シテ選舉セラレルコトヲ得

第十七條 特別ノ事情アルトキハ市ハ府縣知事ノ許可ヲ得區劃ヲ定メテ選舉分會ヲ設クルコトヲ得二級選舉ノ爲ノミニ付亦同シ

第十八條 選舉權ヲ有スル市公民ハ被選舉權ヲ有ス

左ニ掲グル者ハ被選舉權ヲ有セス其ノ之ヲ罷メタル後一月ヲ經過セザル者亦同シ

- 一 所屬府縣ノ官吏及有給吏員
- 二 其ノ市ノ有給吏員
- 三 檢事警察官吏及收稅官吏
- 四 神官神職僧侶其ノ他諸宗教師
- 五 小學校教員

市ニ對シ請負ヲ爲ス者及其ノ支配人又ハ主トシテ同一ノ行爲ヲ爲ス法人ノ無限責任社員、役員及支配人ハ被選舉權ヲ有セス

前項ノ役員トハ取締役、監査役及之ニ準スヘキ者並清算人ヲ謂フ

父子兄弟タル緣故アル者ハ同時ニ市會議員ノ職ニ在ルコトヲ得ス其ノ同時ニ選舉セラレタルトキハ同級ニ在リテハ得票ノ數ニ依リ其ノ多キ者一人ヲ當選者トシ同數ナルトキ又ハ等級若ハ選舉區ヲ異ニシテ選舉セラレタルトキハ年長者ヲ當選者トシ年齡同シキトキハ市長抽籤シテ當選者ヲ定ム其ノ時ヲ異ニシテ選舉セラレタルトキハ後ニ選舉セラレタル者議員タルコトヲ得ス

議員ト爲リタル後前項ノ緣故ヲ生シタル場合ニ於テハ年少者其ノ職ヲ失フ年齡同シキトキハ市長抽籤シテ失職者ヲ定ム

市長市參與又ハ助役ト父子兄弟タル緣故アル者ハ市會議員ノ職ニ在ルコトヲ得ス

第十九條 市會議員ハ名譽職トス

議員ノ任期ハ四年トシ總選舉ノ第一日ヨリ之ヲ起算ス

第二編 保安 第一章 安寧

1011

議員ノ定數ニ異動ヲ生シタル爲解任ヲ要スル者アルトキハ每級各別ニ市長抽籤シテ之ヲ定ム選舉區アル場合ニ於テハ第十六條ノ市條例中ニ其ノ解任ヲ要スル者ノ選舉區及等級ヲ規定シ市長抽籤シテ之ヲ定ムヘシ但シ解任ヲ要スル選舉區及等級ニ關員アルトキハ其ノ關員ヲ以テ之ニ充ツヘシ  
議員ノ定數ニ異動ヲ生シタル爲新ニ選舉セラレタル議員ハ總選舉ニ依リ選舉セラレタル議員ノ任期滿了ノ日迄在任ス

選舉區又ハ其ノ配當議員數ノ變更アリタル場合ニ於テ之ニ關シ必要ナル事項ハ第十六條ノ市條例中ニ之ヲ規定スヘシ

第二十條 市會議員中關員ヲ生シ其ノ關員議員定數ノ三分ノ一以上ニ至リタルトキ又ハ府縣知事市長若ハ市會ニ於テ必要ト認ムルトキハ補關選舉ヲ行フヘシ

議員關員ト爲リタルトキ其ノ議員カ第三十條第二項ノ規定ノ適用ニ依リ當選者ト爲リタル者ナル場合又ハ本條本項若ハ第三十三條ノ規定ニ依リ第三十條第二項ノ規定ノ適用ニ依リ當選者ト爲リタル者ナル場合ニ於テハ市長ハ直ニ第三十條第二項ノ規定ノ適用又ハ準用ヲ受ケタル他ノ得票者ニ就キ當選者ヲ定ムヘシ此ノ場合ニ於テハ第三十條第二項ノ規定ヲ準用ス

補關議員ハ其ノ前任者ノ殘任期間在任ス

補關議員ハ前任者ノ選舉セラレタル等級及選舉區ニ於テ之ヲ選舉スヘシ

第二十一條 市長ハ選舉期日前六十日ヲ期トシ其ノ日ノ現在ニ依リ選舉人ノ資格ヲ記載セル選舉人名簿ヲ調製スヘシ但シ選舉區アルトキハ選舉區毎ニ名簿ヲ調製スヘシ

第六條ノ市ニ於テハ市長ハ區長ヲシテ前項ノ名簿ヲ調製セシムヘシ

市長ハ選舉期日前四十日ヲ期トシ其ノ日ヨリ七日間毎日午前八時ヨリ午後四時迄市役所第六條ノ市ニ於テハ區役所又ハ告示シタル場合ニ於テ選舉人名簿ヲ關係者ノ縦覽ニ供スヘシ關係者ニ於テ異議アルトキハ縦覽期間内ニ之ヲ市長第六條ノ市ニ於テ申立ツルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ市長ハ縦覽期間滿了後三日以内ニ市會ノ決定ニ付スヘシ市會ハ其ノ送付ヲ受ケタル日ヨリ七日以内ニ之ヲ決定スヘシ

〔神奈川管〕

〔神奈川管〕

前項ノ決定ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決又ハ第五項ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第三項ノ決定及前項ノ裁決ニ付テハ市長ヨリモ訴願又ハ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

前二項ノ裁決ニ付テハ府縣知事ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

前四項ノ場合ニ於テ決定若ハ裁決確定シ又ハ判決アリタルニ依リ名簿ノ修正ヲ要スルトキハ市長ハ其ノ確定期日前ニ修正ヲ加ヘ第六條ノ市ニ於テハ區長ヲシテ修正セシムヘシ

選舉人名簿ハ選舉期日前三日ヲ以テ確定ス

確定名簿ハ第三條又ハ第四條ノ處分アリタル場合ニ於テ府縣知事ノ指定スルモノヲ除クノ外其ノ確定シタル日ヨリ一年以内ニ於テ行フ選舉ニ之ヲ用ユ選舉區アル場合ニ於テハ各選舉區ニ涉リ同時ニ調製シタルモノハ確定シタル日ヨリ一年以内ニ於テ行フ選舉ニ之ヲ用キ一部ノ選舉區限リ調製シタルモノハ確定シタル日ヨリ一年以内ニ該選舉區ニ於テノミ行フ選舉ニ之ヲ用ユ但シ名簿確定後裁決確定シ又ハ判決アリタルニ依リ名簿ノ修正ヲ要スルトキハ選舉ヲ終リタル後ニ於テ次ノ選舉期日前四日迄ニ之ヲ修正スヘシ

選舉人名簿ヲ修正シタルトキハ市長ハ直ニ其ノ要領ヲ告示シ第六條ノ市ニ於テハ區長ヲシテ之ヲ告示セシムヘシ

選舉分會ヲ設ケルトキハ市長ハ確定名簿ニ依リ分會ノ區劃毎ニ名簿ノ抄本ヲ調製スヘシ第六條ノ市ニ於テハ區長ヲシテ之ヲ調製セシムヘシ

確定名簿ニ登錄セラレサル者ハ選舉ニ參與スルコトヲ得ス但シ選舉人名簿ニ登錄セラレヘキ確定裁決書又ハ判決書ヲ所持シ選舉ノ當日選舉會場ニ到ル者ハ此ノ限ニ在ラス

前項但書ノ選舉人ハ等級ノ標準タル直接市税ニ依リ其ノ者ノ納額ニシテ名簿ニ登錄セラレタル一級選舉人中ノ最少額ヨリ多キトキハ一級ニ於テ其ノ他ハ二級ニ於テ選舉ヲ行フヘシ

確定名簿ニ登錄セラレタル者選舉權ヲ有セサルトキハ選舉ニ參與スルコトヲ得ス但シ名簿ハ之ヲ修正スル限ニ在ラス

第三項乃至第六項ノ場合ニ於テ決定若ハ裁決確定シ又ハ判決アリタルニ依リ名簿無効ト爲リタルトキハ更ニ名簿

ヲ調製スヘシ其ノ名簿ノ調製、縦覽、修正、確定及異議ノ決定ニ關スル期日、期限及期間ハ府縣知事ノ定ムル所ニ依ル名簿ノ喪失シタルトキ亦同シ  
選舉人名簿調製後ニ於テ選舉期日ヲ變更スルコトアルモ其ノ名簿ヲ用キ縦覽、修正、確定及異議ノ決定ニ關スル期日、期限及期間ハ前選舉期日ニ依リ之ヲ算定ス

第二十二條 市長ハ選舉期日前少クトモ七日間選舉會場、投票ノ日時及各級ヨリ選舉スヘキ議員數ヲ告示スヘシ選舉區アル場合ニ於テハ各級ヨリ選舉スヘキ議員數ヲ選舉區毎ニ分別シ選舉分會ヲ設ケル場合ニ於テハ併セテ其ノ等級及區劃ヲ告示スヘシ

各選舉區ノ選舉ハ同日時ニ之ヲ行ヒ選舉分會ノ選舉ハ本會ト同日時ニ之ヲ行フヘシ天災事變等ニ依リ同日時ニ選舉ヲ行フコト能ハサルトキハ市長ハ其ノ選舉ヲ終ラサル選舉會又ハ選舉分會ノミニ關シ更ニ選舉會場及投票ノ日時ヲ告示シ選舉ヲ行フヘシ

第二十三條 市長ハ選舉長ト爲リ選舉會ヲ開閉シ其ノ取締ニ任ス  
各選舉區ノ選舉會ハ市長又ハ其ノ指名シタル吏員第六條ノ市ニ於テハ區長選舉長ト爲リ之ヲ開閉シ其ノ取締ニ任ス  
市長第六條ノ市ニハ選舉人中ヨリ二人乃至四人ノ選舉立會人ヲ選任スヘシ但シ選舉區アルトキ又ハ選舉分會ヲ設ケタルトキハ各別ニ選舉立會人ヲ設ケヘシ

選舉立會人ハ名譽職トス  
第二十四條 選舉人ニ非サル者ハ選舉會場ニ入ルコトヲ得ス但シ選舉會場ノ事務ニ從事スル者、選舉會場ヲ監視スル職權ヲ有スル者又ハ警察官吏ハ此ノ限ニ在ラス

選舉會場ニ於テ演説討論ヲ爲シ若ハ喧擾ニ涉リ又ハ投票ニ關シ協議若ハ勸誘ヲ爲シ其ノ他選舉會場ノ秩序ヲ紊ス者アルトキハ選舉長又ハ分會長ハ之ヲ制止シ命ニ從ハサルトキハ之ヲ選舉會場外ニ退出セシムヘシ

（神奈川管）

（神奈川管）

前項ノ規定ニ依リ退出セシメラレタル者ハ最後ニ至リ投票ヲ爲スコトヲ得但シ選舉長又ハ分會長會場ノ秩序ヲ紊スノ虞ナシト認ムル場合ニ於テ投票ヲ爲サシムルヲ妨ケス  
第二十五條 選舉ハ無記名投票ヲ以テ之ヲ行フ  
投票ハ一人一票ニ限ル

選舉人ハ選舉ノ當日投票時間内ニ自ラ選舉會場ニ到リ選舉人名簿又ハ其ノ抄本ノ對照ヲ經テ投票ヲ爲スヘシ投票時間内ニ選舉會場ニ入りタル選舉人ハ其ノ時間ヲ過ケルモ投票ヲ爲スコトヲ得

選舉人ハ選舉會場ニ於テ投票用紙ニ自ラ被選舉人一人ノ氏名ヲ記載シテ投票スヘシ但シ確定名簿ニ登錄セラレタル毎級選舉人ノ數其ノ選舉スヘキ議員數ノ三倍ヨリ少キ場合ニ於テハ連名投票ノ法ヲ用ウヘシ

自ラ被選舉人ノ氏名ヲ書スルコト能ハサル者ハ投票ヲ爲スコトヲ得ス  
投票用紙ハ市長ノ定ムル所ニ依リ一定ノ式ヲ用ウヘシ  
選舉區アル場合ニ於テ選舉人名簿ノ調製後選舉人ノ所屬ニ異動ヲ生スルコトアルモ其ノ選舉人ハ前所屬ノ選舉區ニ於テ投票ヲ爲スヘシ

選舉分會ニ於テ爲シタル投票ハ分會長少クトモ一人ノ選舉立會人ト共ニ投票函ノ儘之ヲ本會ニ送致スヘシ  
第二十六條 第三十三條若ハ第三十七條ノ選舉、増員選舉又ハ補闕選舉ヲ同時ニ行フ場合ニ於テハ一ノ選舉ヲ以テ合併シテ之ヲ行フ

第二十七條 (削除)  
第二十八條 左ノ投票ハ之ヲ無効トス  
一 成規ノ用紙ヲ用キサルモノ

二 現ニ市會議員ノ職ニ在ル者ノ氏名ヲ記載シタルモノ  
三 一投票中二人以上ノ被選舉人ノ氏名ヲ記載シタルモノ  
四 被選舉人ノ何人タルカヲ確認シ難キモノ  
五 被選舉權ナキ者ノ氏名ヲ記載シタルモノ

六 被選舉人ノ氏名ノ外他事ヲ記入シタルモノ但シ爵位職業身分住所又ハ敬稱ノ類ヲ記入シタルモノハ此ノ限ニ

在ラス

七 被選舉人ノ氏名ヲ自書セザルモノ

連名投票ノ法ヲ用キタル場合ニ於テハ前項第一號第六號及第七號ニ該當スルモノ並其ノ記載ノ人員選舉スヘキ定數ニ過キタルモノハ之ヲ無効トシ前項第二號第四號及第五號ニ該當スルモノハ其ノ部分ノミヲ無効トス

第二十九條

投票ノ拒否及效力ハ選舉立會人之ヲ決定ス可否同數ナルトキハ選舉長之ヲ決スヘシ

第三十條

市會議員ノ選舉ハ有效投票ノ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選者トス但シ各級ニ於テ選舉スヘキ議員數ヲ以テ選舉人名簿ニ登錄セラレタル各級ノ人員數ヲ除シテ得タル數ノ七分ノ一以上ノ得票アルコトヲ要ス

第三十一條

選舉長又ハ分會長ハ選舉錄ヲ調製シテ選舉又ハ投票ノ顛末ヲ記載シ選舉又ハ投票ヲ終リタル後之ヲ朗讀シ選舉立會人二人以上ト共ニ之ニ署名スヘシ

第三十二條

當選者定マリタルトキハ市長ハ直ニ當選者ニ當選ノ旨ヲ告知シ第六條ノ市ニ於テハ區長ヲシテ之ヲ告知セシムヘシ

第三十三條

當選者當選ヲ辭セムトスルトキハ當選ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ五日以内ニ之ヲ市長ニ申立ツヘシ

第三十四條

一人ニシテ數級又ハ數選舉區ニ於テ當選シタルトキハ最終ニ當選ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ五日以内ニ何レノ當選ニ應スヘキカヲ市長ニ申立ツヘシ其ノ期間内ニ之ヲ申立テサルトキハ市長抽籤シテ之ヲ定ム

第三十五條

第十八條第二項ニ掲ケサル官吏ニシテ當選シタル者ハ所屬長官ノ許可ヲ受ケルニ非サレハ之ニ應スルコトヲ得ス

第三十六條

前項ノ官吏ハ當選ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ之ニ應スヘキ旨ヲ市長ニ申立テサルトキハ其ノ當選ヲ辭シタルモノト看做ス

第三十七條

當選者當選ヲ辭シタルトキ、數級若ハ數選舉區ニ於テ當選シタル場合ニ於テ前條第三項ノ規定ニ依リ一ノ級若ハ選舉區ノ當選ニ應ジ若ハ抽籤ニ依リ一ノ級若ハ選舉區ノ當選者ト定マリタル爲他ノ級若ハ選舉區ニ於テ當選者ヲラサルニ至リタルトキ、死亡者ナルトキ又ハ選舉ニ關スル犯罪ニ依リ刑ニ處セラレ其ノ當選無効ト爲リタルトキハ更ニ選舉ヲ行フヘシ但シ其ノ當選者第三十條第二項ノ規定ノ適用又ハ準用ニ依リ當選者ト爲リタル者ナル場合ニ於テハ第二項ノ例ニ依ル

第三十八條

當選者選舉ニ關スル犯罪ニ依リ刑ニ處セラレ其ノ當選無効ト爲リタルトキ其ノ前ニ其ノ者ニ關スル補闕選舉若ハ前項ノ選舉ノ告示ヲ爲シタル場合又ハ更ニ選舉ヲ行フコトナクシテ當選者ヲ定メタル場合ニ於テハ前項ノ規定ヲ適用セス

第三十九條

選舉ヲ終リタルトキハ市長ハ直ニ選舉錄ノ謄本ヲ添ヘ之ヲ府縣知事ニ報告スヘシ

第四十條

依リ抽籤ヲ爲シタルトキハ市長ハ直ニ當選者ノ住所氏名ヲ告示シ併セテ之ヲ府縣知事ニ報告スヘシ

第四十一條

選舉ノ規定ニ違反スルコトアルトキハ選舉ノ結果ニ異動ヲ生スルノ虞アル場合ニ限り其ノ選舉ノ全部又ハ一部ヲ無効トス

第四十二條

選舉人選舉又ハ當選ノ效力ニ關シ異議アルトキハ選舉ニ關シテハ第三十四條第一項ノ報告ヲ受ケタル日ヨリ四條第二項ノ告示ノ日ヨリ七日以内ニ之ヲ市長ニ申立ツルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ市長ハ七日以内ニ市會ノ決定ニ付スヘシ市會ハ其ノ送付ヲ受ケタル日ヨリ十四日以内ニ之ヲ決定スヘシ

第四十三條

府縣知事ハ選舉又ハ當選ノ效力ニ關シ異議アルトキハ選舉ニ關シテハ第三十四條第一項ノ報告ヲ受ケタル日ヨリ當選ニ關シテハ同條第二項ノ報告ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ之ヲ府縣參事會ノ決定ニ付スルコトヲ得

第四十四條

前項ノ決定アリタルトキハ同一事件ニ付爲シタル異議ノ申立及市會ノ決定ハ無効トス

第四十五條

第二項若ハ第六項ノ裁決又ハ第三項ノ決定ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第二編 保安 第一章 安寧

府縣知事ハ選舉又ハ當選ノ效力ニ關シ異議アルトキハ選舉ニ關シテハ第三十四條第一項ノ報告ヲ受ケタル日ヨリ當選ニ關シテハ同條第二項ノ報告ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ之ヲ府縣參事會ノ決定ニ付スルコトヲ得

第二編 保安 第一章 安寧

前項ノ決定アリタルトキハ同一事件ニ付爲シタル異議ノ申立及市會ノ決定ハ無効トス

第二編 保安 第一章 安寧

第二項若ハ第六項ノ裁決又ハ第三項ノ決定ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第二編 保安 第一章 安寧

府縣知事ハ選舉又ハ當選ノ效力ニ關シ異議アルトキハ選舉ニ關シテハ第三十四條第一項ノ報告ヲ受ケタル日ヨリ當選ニ關シテハ同條第二項ノ報告ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ之ヲ府縣參事會ノ決定ニ付スルコトヲ得

第二編 保安 第一章 安寧

前項ノ決定アリタルトキハ同一事件ニ付爲シタル異議ノ申立及市會ノ決定ハ無効トス

第二編 保安 第一章 安寧

府縣知事ハ選舉又ハ當選ノ效力ニ關シ異議アルトキハ選舉ニ關シテハ第三十四條第一項ノ報告ヲ受ケタル日ヨリ當選ニ關シテハ同條第二項ノ報告ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ之ヲ府縣參事會ノ決定ニ付スルコトヲ得

第二編 保安 第一章 安寧

前項ノ決定アリタルトキハ同一事件ニ付爲シタル異議ノ申立及市會ノ決定ハ無効トス

第二編 保安 第一章 安寧

府縣知事ハ選舉又ハ當選ノ效力ニ關シ異議アルトキハ選舉ニ關シテハ第三十四條第一項ノ報告ヲ受ケタル日ヨリ當選ニ關シテハ同條第二項ノ報告ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ之ヲ府縣參事會ノ決定ニ付スルコトヲ得

第二編 保安 第一章 安寧

前項ノ決定アリタルトキハ同一事件ニ付爲シタル異議ノ申立及市會ノ決定ハ無効トス

第二編 保安 第一章 安寧

府縣知事ハ選舉又ハ當選ノ效力ニ關シ異議アルトキハ選舉ニ關シテハ第三十四條第一項ノ報告ヲ受ケタル日ヨリ當選ニ關シテハ同條第二項ノ報告ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ之ヲ府縣參事會ノ決定ニ付スルコトヲ得

第二編 保安 第一章 安寧

前項ノ決定アリタルトキハ同一事件ニ付爲シタル異議ノ申立及市會ノ決定ハ無効トス

第二編 保安 第一章 安寧

府縣知事ハ選舉又ハ當選ノ效力ニ關シ異議アルトキハ選舉ニ關シテハ第三十四條第一項ノ報告ヲ受ケタル日ヨリ當選ニ關シテハ同條第二項ノ報告ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ之ヲ府縣參事會ノ決定ニ付スルコトヲ得

第二編 保安 第一章 安寧

前項ノ決定アリタルトキハ同一事件ニ付爲シタル異議ノ申立及市會ノ決定ハ無効トス

第二編 保安 第一章 安寧

府縣知事ハ選舉又ハ當選ノ效力ニ關シ異議アルトキハ選舉ニ關シテハ第三十四條第一項ノ報告ヲ受ケタル日ヨリ當選ニ關シテハ同條第二項ノ報告ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ之ヲ府縣參事會ノ決定ニ付スルコトヲ得

第二編 保安 第一章 安寧

前項ノ決定アリタルトキハ同一事件ニ付爲シタル異議ノ申立及市會ノ決定ハ無効トス

第二編 保安 第一章 安寧

府縣知事ハ選舉又ハ當選ノ效力ニ關シ異議アルトキハ選舉ニ關シテハ第三十四條第一項ノ報告ヲ受ケタル日ヨリ當選ニ關シテハ同條第二項ノ報告ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ之ヲ府縣參事會ノ決定ニ付スルコトヲ得

第二編 保安 第一章 安寧

前項ノ決定アリタルトキハ同一事件ニ付爲シタル異議ノ申立及市會ノ決定ハ無効トス

第二編 保安 第一章 安寧

府縣知事ハ選舉又ハ當選ノ效力ニ關シ異議アルトキハ選舉ニ關シテハ第三十四條第一項ノ報告ヲ受ケタル日ヨリ當選ニ關シテハ同條第二項ノ報告ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ之ヲ府縣參事會ノ決定ニ付スルコトヲ得

第二編 保安 第一章 安寧

前項ノ決定アリタルトキハ同一事件ニ付爲シタル異議ノ申立及市會ノ決定ハ無効トス

第二編 保安 第一章 安寧

府縣知事ハ選舉又ハ當選ノ效力ニ關シ異議アルトキハ選舉ニ關シテハ第三十四條第一項ノ報告ヲ受ケタル日ヨリ當選ニ關シテハ同條第二項ノ報告ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ之ヲ府縣參事會ノ決定ニ付スルコトヲ得

第二編 保安 第一章 安寧

前項ノ決定アリタルトキハ同一事件ニ付爲シタル異議ノ申立及市會ノ決定ハ無効トス

第二編 保安 第一章 安寧

府縣知事ハ選舉又ハ當選ノ效力ニ關シ異議アルトキハ選舉ニ關シテハ第三十四條第一項ノ報告ヲ受ケタル日ヨリ當選ニ關シテハ同條第二項ノ報告ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ之ヲ府縣參事會ノ決定ニ付スルコトヲ得

第二編 保安 第一章 安寧

前項ノ決定アリタルトキハ同一事件ニ付爲シタル異議ノ申立及市會ノ決定ハ無効トス

第二編 保安 第一章 安寧

第一項ノ決定ニ付テハ市長ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得  
第二項若ハ前項ノ裁決又ハ第三項ノ決定ニ付テハ府縣知事又ハ市長ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得  
第二十條、第三十三條又ハ第三十七條第三項ノ選舉ハ之ニ關係アル選舉又ハ當選ニ關スル異議申立期間、異議ノ決定若ハ訴訟ノ裁決確定セサル間又ハ訴訟ノ繫屬スル間之ヲ行フコトヲ得ス  
市會議員ハ選舉又ハ當選ニ關スル決定若ハ裁決確定シ又ハ判決アル迄ハ會議ニ列席シ議事ニ參與スルノ權ヲ失ハ

ス  
第三十七條 當選無効ト確定シタルトキハ市長ハ直ニ第三十條ノ例ニ依リ更ニ當選者ヲ定ムヘシ

選舉無効ト確定シタルトキハ更ニ選舉ヲ行フヘシ  
議員ノ定數ニ足ル當選者ヲ得ルコト能ハサルトキハ其ノ不足ノ員數ニ付更ニ選舉ヲ行フヘシ此ノ場合ニ於テハ第三十條第一項但書ノ規定ヲ適用セス

第三十八條 市會議員ニシテ被選舉權ヲ有セサル者ハ其ノ職ヲ失フ其ノ被選舉權ノ有無ハ市會議員カ左ノ各號ノ一ニ該當スルニ因リ被選舉權ヲ有セサル場合ヲ除クノ外市會之ヲ決定ス

一 禁治産者又ハ禁治産者ト爲リタルトキ

二 家資分散又ハ破産ノ宣告ヲ受ケ其ノ宣告確定シタルトキ

三 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

四 選舉ニ關スル犯罪ニ依リ罰金ノ刑ニ處セラレタルトキ

市長ハ市會議員中被選舉權ヲ有セサル者アリト認ムルトキハ之ヲ市會ノ決定ニ付スヘシ市會ハ其ノ送付ヲ受ケタル日ヨリ十四日以内ニ之ヲ決定スヘシ

第一項ノ決定ヲ受ケタル者其ノ決定ニ不服アルトキハ府縣參事會ニ訴訟シ其ノ裁決又ハ第四項ノ裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第一項ノ決定及前項ノ裁決ニ付テハ市長ヨリモ訴訟又ハ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

前二項ノ裁決ニ付テハ府縣知事ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第三十六條第九項ノ規定ハ第一項及前三項ノ場合ニ之ヲ準用ス

〔附則〕

〔附則〕

第一項ノ決定ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ理由ヲ附シ之ヲ本人ニ交付スヘシ

第三十九條 第二十一條及第三十六條ノ場合ニ於テ府縣參事會ノ決定及裁決ハ府縣知事、市會ノ決定ハ市長直ニ之ヲ告示スヘシ

第四十條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル勅令ニ依リ設置スル議會ノ議員ノ選舉ニ付テハ衆議院議員選舉ニ關スル關則ヲ準用ス

市制第六條ノ市ノ區ニ關スル件

明治四十四年九月二十五日  
勅令第二百四十四號

改正 大正一〇年七月勅令第三二七號

朕市制第六條ノ市ノ區ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 市制第六條ノ市ノ區ニ關シテハ本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條 府縣知事ハ市會ノ意見ヲ徵シ府縣參事會ノ議決ヲ經テ市條例ヲ設定シ新ニ區會ヲ設ケルコトヲ得

第三條 區内ニ住所ヲ有スル市民ニシテ其ノ區ニ於テ直接市稅ヲ納ムル者ハ總テ選舉權ヲ有ス但シ公民權停止中ノ者又ハ市制第十一條第三項ノ場合ニ當ル者ハ此ノ限ニ在ラス

第四條 選舉人ハ分チテ二級トス

選舉人中選舉人ノ總數ヲ以テ選舉人ノ區ニ於テ納ムル直接市稅總額ヲ除シ其ノ平均額以上ヲ納ムル者ヲ一級トシ

其ノ他ノ選舉人ヲ二級トス但シ一級選舉人ノ數議員定數ノ二分ノ一ヨリ少キトキハ納稅額最多キ者議員定數ノ二分

分ノ一ト同數ヲ以テ一級トス兩級ノ間ニ同額ノ納稅者二人以上アルトキハ其ノ區内ニ住所ヲ有スル年數ノ多キ者

ヲ以テ上級ニ入ル住所ヲ有スル年數同シキトキハ年長者ヲ以テ之ニ依リ難キトキハ區長抽籤シテ之ヲ定ムヘシ

選舉人ハ毎級各別ニ議員定數ノ二分ノ一ヲ選舉ス

被選舉人ハ各級ニ通シテ選舉セラルコトヲ得

第二項ノ直接市稅ノ納額ハ選舉人名簿調製期日ノ屬スル會計年度ノ前年度ノ賦課額ニ依ルヘシ

第二編 保安 第一章 安寧

第二編 保安 第一章 安寧

第五條 第三條ノ規定ニ依リ選舉權ヲ有スル市民ハ被選舉權ヲ有ス

左ニ掲タル者ハ被選舉權ヲ有セス其ノ之ヲ罷メタル後一月ヲ經過セサル者亦同シ

一 所屬府縣ノ官吏及有給吏員

二 其ノ市ノ有給吏員但シ他ノ區所屬ノ市有給吏員ハ此ノ限ニ在ラス

三 検事警察官吏及收稅官吏

四 神官神職僧侶其ノ他諸宗教師

五 小學校教員

市又ハ區ニ對シ請負ヲ爲ス者及其ノ支配人又ハ主トシテ同一ノ行爲ヲ爲ス法人ノ無限責任社員、役員及支配人ハ被選舉權ヲ有セス

前項ノ役員トハ取締役、監査役及之ニ準スヘキ者並清算人ヲ謂フ

父子兄弟タル縁故アル者ハ同時ニ區會議員ノ職ニ在ルコトヲ得ス其ノ同時ニ選舉セラレタルトキハ同級ニ在リテ

ハ得票ノ數ニ依リ其ノ多キ者一人ヲ當選者トシ同數ナルトキ又ハ等級ヲ異ニシテ選舉セラレタルトキハ年長者ヲ

當選者トシ年齡同シキトキハ區長抽籤シテ當選者ヲ定ム其ノ時ヲ異ニシテ選舉セラレタルトキハ後ニ選舉セラレ

タル者議員タルコトヲ得ス

議員ト爲リタル後前項ノ縁故ヲ生シタル場合ニ於テハ年少者其ノ職ヲ失フ年齡同シキトキハ區長抽籤シテ失職者

ヲ定ム

區長ト父子兄弟タル縁故アル者ハ區會議員ノ職ニ在ルコトヲ得ス

第六條 區會議員ハ市ノ名譽職トス

議員ノ任期ハ四年トシ總選舉ノ第一日ヨリ之ヲ起算ス

議員ノ定數ニ異動ヲ生シタル爲解任ヲ要スル者アルトキハ毎級各別ニ區長抽籤シテ之ヲ定ム但シ解任ヲ要スル等

級ニ關員アルトキハ其ノ關員ヲ以テ之ニ充ツヘシ

議員ノ定數ニ異動ヲ生シタル爲新ニ選舉セラレタル議員ハ總選舉ニ依リ選舉セラレタル議員ノ任期滿了ノ日迄在

任ス

〔神奈川縣〕

第七條 (削除)

第八條 選舉ヲ終リタルトキハ區長ハ直ニ選舉錄ノ原本ヲ添ヘ市長ヲ經テ之ヲ府縣知事ニ報告スヘシ

市制第三十二條第二項ノ期間ヲ經過シタルトキ、同條第三項若ハ第五項ノ申立アリタルトキ又ハ同條第三項ノ規

定ニ依リ抽籤ヲ爲シタルトキハ區長ハ直ニ當選者ノ住所氏名ヲ告示シ併セテ市長ヲ經テ之ヲ府縣知事ニ報告スヘシ

第九條 區會ノ組織及區會議員ノ選舉ニ關シテハ前數條ニ定ムルモノノ外市制第十三條第十七條第二十條乃至第二

十六條第二十八條乃至第三十三條第三十五條乃至第三十九條ノ規定ヲ準用ス但シ區會議員ノ定數ニ付テハ市ハ區

會ノ意見ヲ徵シ市條例ヲ以テ特ニ之ヲ増減スルコトヲ得

第十條 區會ノ職務權限ニ關シテハ市會ノ職務權限ニ關スル規定ヲ準用ス

區長ト區會トノ關係ニ付テハ市長ト市會トノ關係ニ關スル規定及市制第九十二條ノ規定ヲ準用ス

第十一條 區會ヲ設ケサル區ニ於テハ區會ノ職務ハ市會之ヲ行フ

第十二條 市ハ區會ノ意見ヲ徵シ區ノ營造物ニ關シ市條例又ハ市規則ヲ設ケルコトヲ得

市制第二百二十九條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十三條 區ハ其ノ財產及營造物ニ關シ必要ナル費用ヲ支辨スル義務ヲ負フ

前項ノ支出ハ區ノ財產ヨリ生スル收入、使用料其ノ他法令ニ依リ區ニ屬スル收入ヲ以テ之ニ充テ仍不足アルトキ

ハ市ハ其ノ區ニ於テ特ニ賦課徵收スル市稅ヲ以テ之ニ充ツヘシ

前項ノ市稅ニ付市會ノ議決スヘキ事項ハ區會之ヲ議決ス但シ市ノ定メタル制限ヲ超ユルコトヲ得ス

市制第九十八條第四項ノ規定ニ依リ市ノ負擔スル費用ニ付テハ前二項ノ規定ヲ準用ス

第十四條 前數條ニ定ムルモノノ外區ニ關シテハ市制第一百四條第一百五條第一百三十條第二項乃至第六項第三百三十

一條及第三百三十三條乃至第四百三十三條ノ規定ヲ準用ス但シ第三百三十條第三項ノ市參事會ハ區會、第四百四十一條第

二項ノ名譽參事會員ハ區會議員トス

前項ノ規定ニ依リ市制第三百三十一條第一項ヲ準用スル場合ニ於テハ市ハ區會ノ意見ヲ徵シ市條例ヲ定メ區ヲシテ

第二編 保安 第一章 安寧



第二編 保安 第一章 安寧

手数料ヲ徴收セシムルコトヲ得

第十五條 區ノ監督ニ付テハ市ノ監督ニ關スル規定ヲ準用ス

附則

本令ハ明治四十四年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

附則(大正十年勅令第三百二十七號)

本令ハ次ノ總選舉ヨリ之ヲ施行ス

●町村制(抄録)

明治四十四年四月七日  
法律第六十九號

第三章 大正一〇年法律第五九號

第一章 總則

第二條 町村住民及其ノ權利義務

第六條 町村内ニ住所ヲ有スル者ハ其ノ町村住民トス

町村住民ハ本法ニ從ヒ町村ノ財産及營造物ヲ共用スル權利ヲ有シ町村ノ負擔ヲ分任スル義務ヲ負フ

第七條 町村住民ニシテ左ノ要件ヲ具備スル者ハ町村公民トス但シ貧困ノ爲公費ノ救助ヲ受ケタル後二年ヲ經サレ

者、禁治産者、準禁治産者及六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者ハ此ノ限ニ在ラス

一 帝國臣民タル男子ニシテ年齢二十五年以上ノ者

二 獨立ノ生計ヲ營ム者

三 二年以來其ノ町村住民タル者

四 二年以來其ノ町村ノ直接町村稅ヲ納ムル者

町村ハ前項二年ノ制限ヲ特免スルコトヲ得

家督相続ニ依リ財産ヲ取得シタル者ニ付テハ其ノ財産ニ付被相続人ノ爲シタル納稅ヲ以テ其ノ者ノ爲シタル納稅

ト看做ス

町村公民ノ要件中其ノ年限ニ關スルモノハ市町村ノ廢置分合又ハ境界變更ノ爲中斷セラレタルコトナシ

(神奈川警)

(神奈川警)

直接町村稅ヲ賦課セサル町村ニ於テハ町村公民ノ要件中納稅ニ關スル規定ヲ適用セス

第八條 町村公民ハ町村ノ選舉ニ參與シ町村ノ名譽職ニ選舉セラレ權利ヲ有シ町村ノ名譽職ヲ擔任スル義務ヲ負

フ

左ノ各號ノ一ニ該當セサル者ニシテ名譽職ノ當選ヲ辭シ又ハ其ノ職ヲ辭シ若ハ其ノ職務ヲ實際ニ執行セサルトキ

ハ町村ハ一年以上四年以下其ノ町村公民權ヲ停止シ場合ニ依リ其ノ停止期間以内其ノ者ノ負擔スヘキ町村稅ノ十

分ノ一以上四分ノ一以下ヲ増課スルコトヲ得

一 疾病ニ罹リ公務ニ堪ヘサル者

二 業務ノ爲常ニ町村内ニ居ルコトヲ得サル者

三 年齢六十一年以上ノ者

四 官公職ノ爲町村ノ公務ヲ執ルコトヲ得サル者

五 四年以上名譽職町村吏員、町村會議員又ハ區會議員ノ職ニ任シ爾後同一ノ期間ヲ經過セサル者

六 其ノ他町村會ノ議決ニ依リ正當ノ理由アリト認ムル者

前項ノ處分ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服アルトキハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ

出訴スルコトヲ得

第二項ノ處分ハ其ノ確定ニ至ル迄執行ヲ停止ス

第三項ノ裁決ニ付テハ府縣知事又ハ町村長ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第九條 町村公民第七條第一項ニ掲ケタル要件ノ一ヲ闕キ又ハ同項但書ニ當ルニ至リタルトキハ其ノ公民權ヲ失

フ

町村公民租稅滯納處分中ハ其ノ公民權ヲ停止ス家資分散若ハ破産ノ宣告ヲ受ケ其ノ確定シタルトキヨリ復權ノ決

定確定スルニ至ル迄又ハ六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタルトキヨリ其ノ執行ヲ終リ若ハ其ノ執行ヲ四

タルコトナキニ至ル迄亦同シ

陸海軍ノ現役ニ服スル者ハ町村ノ公務ニ參與スルコトヲ得ス其ノ他ノ兵役ニ在ル者ニシテ戰時又ハ事變ニ際シ召

集セラレタルトキ亦同シ

第二編 保安 第一章 安寧

第二章 町村會

第一款 組織及選舉

第十一條 町村會議員ハ其ノ被選舉權アル者ニ就キ選舉人之ヲ選舉ス

議員ノ定數左ノ如シ

- 一 人口千五百未滿ノ町村 八人
- 二 人口千五百以上五千未滿ノ町村 十二人
- 三 人口五千以上一萬未滿ノ町村 十八人
- 四 人口一萬以上二萬未滿ノ町村 二十四人
- 五 人口二萬以上ノ町村 三十人

議員ノ定數ハ町村條例ヲ以テ特ニ之ヲ増減スルコトヲ得

議員ノ定數ハ總選舉ヲ行フ場合ニ非サレハ之ヲ増減セス但シ著シク人口ノ増減アリタル場合ニ於テ内務大臣ノ許可ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十二條 町村公民ハ總テ選舉權ヲ有ス但シ公民權停止中ノ者又ハ第九條第三項ノ場合ニ當ル者ハ此ノ限ニ在ラス

第十三條 町村ハ町村條例ヲ以テ選舉人ヲ分チテ二級ト爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ市制ノ例ニ依ル

第十四條 特別ノ事情アルトキハ町村ハ郡長ノ許可ヲ得區劃ヲ定メテ選舉分會ヲ設クルコトヲ得

第十五條 選舉權ヲ有スル町村公民ハ被選舉權ヲ有ス

左ニ掲クル者ハ被選舉權ヲ有セス其ノ之ヲ罷メタル後一月ヲ經過セサル者亦同シ

一 所屬府縣郡ノ官吏及有給吏員

二 其ノ町村ノ有給吏員

三 檢事警察官吏及收稅官吏

四 神官神職僧侶其ノ他諸宗教師

五 小學校教員

町村ニ對シ請負ヲ爲ス者及其ノ支配人又ハ主トシテ同一ノ行爲ヲ爲ス法人ノ無限責任社員、役員及支配人ハ被選

〔神奈川縣〕

〔神奈川縣〕

舉權ヲ有セス

前項ノ役員トハ取締役、監査役及之ニ準スヘキ者並清算人ヲ謂フ

父子兄弟タル緣故アル者ハ同時ニ町村會議員ノ職ニ在ルコトヲ得ス其ノ同時ニ選舉セラレタルトキハ得票ノ數ニ

依リ其ノ多キ者一人ヲ當選者トシ同數ナルトキハ年長者ヲ當選者トシ年齡同シキトキハ町村長抽籤シテ當選者ヲ

定ム其ノ時ヲ異ニシテ選舉セラレタルトキハ後ニ選舉セラレタル者議員タルコトヲ得ス

議員ト爲リタル後前項ノ緣故ヲ生シタル場合ニ於テハ年少者其ノ職ヲ失フ年齡同シキトキハ町村長抽籤シテ失職

者ヲ定ム

町村長又ハ助役ト父子兄弟タル緣故アル者ハ町村會議員ノ職ニ在ルコトヲ得ス

第十六條 町村會議員ハ名譽職トス

議員ノ任期ハ四年トシ總選舉ノ日ヨリ之ヲ起算ス

議員ノ定數ニ異動ヲ生シタル爲解任ヲ要スル者アルトキハ町村長抽籤シテ之ヲ定ム但シ議員アルトキハ其ノ議員

ヲ以テ之ニ充ツヘシ

議員ノ定數ニ異動ヲ生シタル爲新ニ選舉セラレタル議員ハ總選舉ニ依リ選舉セラレタル議員ノ任期滿了ノ日迄在

任ス

第十七條 町村會議員中議員ヲ生シ其ノ議員定數ノ三分ノ一以上ニ至リタルトキ又ハ郡長町村長若ハ町村會ニ

於テ必要ト認ムルトキハ補開選舉ヲ行フヘシ

議員開員ト爲リタルトキ其ノ議員カ第二十七條第二項ノ規定ノ適用ニ依リ當選者ト爲リタル者ナル場合又ハ本條

本項若ハ第三十條ノ規定ニ依ル第二十七條第二項ノ規定ノ適用ニ依リ當選者ト爲リタル者ナル場合ニ於テハ町村

長ハ直ニ第二十七條第二項ノ規定ノ適用又ハ準用ヲ受クタル他ノ得票者ニ就キ當選者ヲ定ムヘシ此ノ場合ニ於テ

ハ第二十七條第二項ノ規定ヲ準用ス

補開議員ハ其ノ前任者ノ殘任期間在任ス

第十八條 町村長ハ選舉期日前六十日期トシ其ノ日ノ現在ニ依リ選舉人ノ資格ヲ記載セル選舉人名簿ヲ調製スヘ

町村長ハ選舉期日前四十日ヲ期トシ其ノ日ヨリ七日間毎日午前八時ヨリ午後四時迄町村役場又ハ告示シタル場所ニ於テ選舉人名簿ヲ關係者ノ縱覽ニ供スヘシ關係者ニ於テ異議アルトキハ縱覽期間内ニ之ヲ町村長ニ申立タルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ町村長ハ縱覽期間満了後三日以内ニ町村會ノ決定ニ付スヘシ町村會ハ其ノ送付ヲ受ケタル日ヨリ七日以内ニ之ヲ決定スヘシ

前項ノ決定ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決又ハ第四項ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第二項ノ決定及前項ノ裁決ニ付テハ町村長ヨリモ訴願又ハ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

前二項ノ裁決ニ付テハ府縣知事ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

前四項ノ場合ニ於テ決定若ハ裁決確定シ又ハ判決アリタルニ依リ名簿ノ修正ヲ要スルトキハ町村長ハ其ノ確定期日前ニ修正ヲ加フヘシ

選舉人名簿ハ選舉期日前三日ヲ以テ確定ス

確定名簿ハ第三條ノ處分アリタル場合ニ於テ府縣知事ノ指定スルモノヲ除ク外其ノ確定シタル日ヨリ一年以内ニ於テ行フ選舉ニ之ヲ用ウ但シ名簿確定後裁決確定シ又ハ判決アリタルニ依リ名簿ノ修正ヲ要スルトキハ選舉ヲ終ラタル後ニ於テ次ノ選舉期日前四日迄ニ之ヲ修正スヘシ

選舉人名簿ヲ修正シタルトキハ町村長ハ直ニ其ノ要領ヲ告示スヘシ

選舉分會ヲ設ケルトキハ町村長ハ確定名簿ニ依リ分會ノ區別毎ニ名簿ノ抄本ヲ調製スヘシ

確定名簿ニ登錄セラレタル者ハ選舉ニ參與スルコトヲ得但シ選舉人名簿ニ登錄セラレヘキ確定裁決書又ハ判決書ヲ所持シ選舉ノ當日選舉會場ニ到ル者ハ此ノ限ニ在ラス

確定名簿ニ登錄セラレタル者選舉權ヲ有セザルトキハ選舉ニ參與スルコトヲ得但シ名簿ハ之ヲ修正スル限ニ在ラス

〔神奈川縣〕

〔神奈川縣〕

選舉人名簿調製後ニ於テ選舉期日ヲ變更スルコトアルモ其ノ名簿ヲ用キ設置、修正、確定及異議ノ決定ニ關スル期日、期限及期間ハ前選舉期日ニ依リ之ヲ算定ス

第十九條 町村長ハ選舉期日前少クトモ七日間選舉會場、投票ノ日時及選舉スヘキ議員數ヲ告示スヘシ選舉分會ヲ設ケル場合ニ於テハ併セテ其ノ區別ヲ告示スヘシ

選舉分會ノ選舉ハ本會ト同日時ニ之ヲ行フヘシ

天災事變等ニ依リ選舉ヲ行フコト能ハサルニ至リタルトキハ町村長ハ其ノ選舉ヲ終ラサル選舉會又ハ選舉分會ノミニ關シ更ニ選舉會場及投票ノ日時ヲ告示シ選舉ヲ行フヘシ

第二十條 町村長ハ選舉長ト爲リ選舉會ヲ開閉シ其ノ取締ニ任ス

選舉分會ハ町村長ノ指名シタル吏員選舉分會長ト爲リ之ヲ開閉シ其ノ取締ニ任ス

町村長ハ選舉人中ヨリ二人乃至四人ノ選舉立會人ヲ選任スヘシ但シ選舉分會ヲ設ケタルトキハ各別ニ選舉立會人ヲ設ケヘシ

選舉立會人ハ名譽職トス

第二十一條 選舉人ニ非サル者ハ選舉會場ニ入ルコトヲ得但シ選舉會場ノ事務ニ從事スル者、選舉會場ヲ監視スル職權ヲ有スル者又ハ警察官吏ハ此ノ限ニ在ラス

選舉會場ニ於テ演說討論ヲ爲シ若ハ喧擾ニ涉リ又ハ投票ニ關シ協議若ハ勸誘ヲ爲シ其ノ他選舉會場ノ秩序ヲ紊ス者アルトキハ選舉長又ハ分會長ハ之ヲ制止シ命ニ從ハサルトキハ之ヲ選舉會場外ニ退出セシムヘシ

前項ノ規定ニ依リ退出セシメラレタル者ハ最後ニ至リ投票ヲ爲スコトヲ得但シ選舉長又ハ分會長會場ノ秩序ヲ紊スノ虞ナシト認ムル場合ニ於テ投票ヲ爲サシムルヲ妨ケス

第二十二條 選舉ハ無記名投票ヲ以テ之ヲ行フ

投票ハ一人一票ニ限ル

選舉人ハ選舉ノ當日投票時間内ニ自ラ選舉會場ニ到リ選舉人名簿又ハ其ノ抄本ノ對照ヲ經テ投票ヲ爲スヘシ

投票時間内ニ選舉會場ニ入りタル選舉人ハ其ノ時間ヲ過ケルモ投票ヲ爲スコトヲ得

選舉人ハ選舉會場ニ於テ投票用紙ニ自ラ被選舉人一人ノ氏名ヲ記載シテ投函スヘシ

第二編 保安 第一章 安寧

自ラ被選舉人ノ氏名ヲ書スルコト能ハサル者ハ投票ヲ爲スコトヲ得ス  
投票用紙ハ町村長ノ定ムル所ニ依リ一定ノ式ヲ用ウヘシ  
選舉分會ニ於テ爲シタル投票ハ分會長少クトモ一人ノ選舉立會人ト共ニ投票函ノ儘之ヲ本會ニ送致スヘシ  
第二十三條 第三十條若ハ第三十四條ノ選舉、増員選舉又ハ補闕選舉ヲ同時ニ行フ場合ニ於テハ一ノ選舉ヲ以テ合  
併シテ之ヲ行フ

第二十四條 (削除)

第二十五條 左ノ投票ハ之ヲ無効トス

- 一 成規ノ用紙ヲ用キサルモノ
- 二 現ニ町村會議員ノ職ニ在ル者ノ氏名ヲ記載シタルモノ
- 三 一投票中二人以上ノ被選舉人ノ氏名ヲ記載シタルモノ
- 四 被選舉人ノ何人タルカヲ確認シ難キモノ
- 五 被選舉權ナキ者ノ氏名ヲ記載シタルモノ
- 六 被選舉人ノ氏名ノ外他事ヲ記入シタルモノ但シ爵位職業身分住所又ハ敬稱ノ類ヲ記入シタルモノハ此ノ限ニ在ラス
- 七 被選舉人ノ氏名ヲ自書セサルモノ

第二十六條 投票ノ拒否及效力ハ選舉立會人之ヲ決定ス可否同數ナルトキハ選舉長之ヲ決スヘシ

選舉分會ニ於ケル投票ノ拒否ハ其ノ選舉立會人之ヲ決定ス可否同數ナルトキハ分會長之ヲ決スヘシ

第二十七條 町村會議員ノ選舉ハ有效投票ノ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選者トス但シ選舉スヘキ議員數ヲ以テ選舉人名簿ニ登錄セラレタル人員數ヲ除シテ得タル數ノ七分ノ一以上ノ得票アルコトヲ要ス

前項ノ規定ニ依リ當選者ヲ定ムルニ當リ得票ノ數同シキトキハ年長者ヲ取リ年齡同シキトキハ選舉長抽籤シテ之ヲ定ムヘシ

第二十八條 選舉長又ハ分會長ハ選舉錄ヲ調製シテ選舉又ハ投票ノ願末ヲ記載シ選舉又ハ投票ヲ終リタル後之ヲ即  
讀シ選舉立會人二人以上ト共ニ之ニ署名スヘシ

〔神奈川管〕

〔神奈川管〕

選舉分會長ハ投票函ト同時ニ選舉錄ヲ本會ニ送致スヘシ

選舉錄ハ投票、選舉人名簿其ノ他ノ關係書類ト共ニ選舉及當選ノ效力確定スルニ至ル迄之ヲ保存スヘシ

第二十九條 當選者定マリタルトキハ町村長ハ直ニ當選者ニ當選ノ旨ヲ告知スヘシ

當選者當選ヲ辭セムトスルトキハ當選ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ五日以内ニ之ヲ町村長ニ申立ツヘシ

第十五條第二項ニ掲ケサル官吏ニシテ當選シタル者ハ所屬長官ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ニ應スルコトヲ得  
ス

前項ノ官吏ハ當選ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ之ニ應スヘキ旨ヲ町村長ニ申立テサルトキハ其ノ當選ヲ  
辭シタルモノト看做ス

第三十條 當選者當選ヲ辭シタルトキ、死亡者ナルトキ又ハ選舉ニ關スル犯罪ニ依リ刑ニ處セラレ其ノ當選無効ト  
爲リタルトキハ更ニ選舉ヲ行フヘシ但シ其ノ當選者第二十七條第二項ノ規定ノ適用又ハ準用ニ依リ當選者ト爲リ  
タル者ナル場合ニ於テハ第十七條第二項ノ例ニ依ル

當選者選舉ニ關スル犯罪ニ依リ刑ニ處セラレ其ノ當選無効ト爲リタルトキ其ノ前ニ其ノ者ニ關スル補闕選舉若ハ  
前項ノ選舉ノ告示ヲ爲シタル場合又ハ更ニ選舉ヲ行フコトナクシテ當選者ヲ定メタル場合ニ於テハ前項ノ規定ヲ  
適用セス

第三十一條 選舉ヲ終リタルトキハ町村長ハ直ニ選舉錄ノ原本ヲ添ヘ之ヲ郡長ニ報告スヘシ

第二十九條第二項ノ期間ヲ經過シタルトキ又ハ同條第四項ノ申立アリタルトキハ町村長ハ直ニ當選者ノ住所氏名  
ヲ告示シ併セテ之ヲ郡長ニ報告スヘシ

第三十二條 選舉ノ規定ニ違反スルコトアルトキハ選舉ノ結果ニ異動ヲ生スルノ虞アル場合ニ限リ其ノ選舉ノ全部  
又ハ一部ヲ無効トス

第三十三條 選舉人選舉又ハ當選ノ效力ニ關シ異議アルトキハ選舉ニ關シテハ選舉ノ日ヨリ當選ニ關シテハ第三十  
一條第二項ノ告示ノ日ヨリ七日以内ニ之ヲ町村長ニ申立ツルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ町村長ハ七日以内ニ町村  
會ノ決定ニ付スヘシ町村會ハ其ノ送付ヲ受ケタル日ヨリ十四日以内ニ之ヲ決定スヘシ  
前項ノ決定ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願スルコトヲ得

第二編 保安 第一章 安寧

郡長ハ選舉又ハ當選ノ效力ニ關シ異議アルトキハ府縣知事ノ指揮ヲ受ケ選舉ニ關シテハ第三十一條第一項ノ報告ヲ受ケタル日ヨリ當選ニ關シテハ同條第二項ノ報告ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ之ヲ處分スルコトヲ得  
前項ノ處分アリタルトキハ同一事件ニ付爲シタル異議ノ申立及町村會ノ決定ハ無効トス  
第三項ノ處分ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決又ハ第二項若ハ第六項ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第一項ノ決定及第二項又ハ前項ノ裁決ニ付テハ町村長ヨリモ訴願又ハ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第二項第五項又ハ前項ノ裁決ニ付テハ府縣知事ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第十七條、第三十條又ハ第三十四條第三項ノ選舉ハ之ニ關係アル選舉又ハ當選ニ關スル異議申立期間、異議ノ決定若ハ訴願ノ裁決確定セサル間又ハ訴訟ノ繫屬スル間之ヲ行フコトヲ得ス

町村會議員ハ選舉又ハ當選ニ關スル處分、決定若ハ裁決確定シ又ハ判決アル迄ハ會議ニ列席シ議事ニ參與スルノ權ヲ失ハス

第三十四條 當選無効ト確定シタルトキハ町村長ハ直ニ第二十七條ノ例ニ依リ更ニ當選者ヲ定ムヘシ  
選舉無効ト確定シタルトキハ更ニ選舉ヲ行フヘシ

議員ノ定數ニ足ル當選者ヲ得ルコト能ハサルトキハ其ノ不足ノ員數ニ付更ニ選舉ヲ行フヘシ此ノ場合ニ於テハ第二十七條第一項但書ノ規定ヲ適用セス

第三十五條 町村會議員ニシテ被選舉權ヲ有セサル者ハ其ノ職ヲ失フ其ノ被選舉權ノ有無ハ町村會議員カ左ノ各號ノ一ニ該當スルニ因リ被選舉權ヲ有セサル場合ヲ除クノ外町村會之ヲ決定ス

一 禁治產者又ハ準禁治產者ト爲リタルトキ  
二 家資分散又ハ破產ノ宣告ヲ受ケ其ノ宣告確定シタルトキ  
三 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ  
四 選舉ニ關スル犯罪ニ依リ罰金ノ刑ニ處セラレタルトキ

町村長ハ町村會議員中被選舉權ヲ有セサル者アリト認ムルトキハ之ヲ町村會ノ決定ニ付スヘシ  
町村會ハ其ノ送付ヲ受ケタル日ヨリ十四日以内ニ之ヲ決定スヘシ

〔神奈川等〕

第一項ノ決定及前項ノ裁決ニ付テハ町村長ヨリモ訴願又ハ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

前二項ノ裁決ニ付テハ府縣知事ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第三十三條第九項ノ規定ハ第一項及前三項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第一項ノ決定ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ理由ヲ附シ之ヲ本人ニ交付スヘシ

第三十六條 第十八條及第三十三條ノ場合ニ於テ府縣參事會ノ決定及裁決ハ府縣知事、郡長ノ處分ハ郡長、町村會ノ決定ハ町村長直ニ之ヲ告示スヘシ

第三十七條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル勅令ニ依リ設置スル議會ノ議員ノ選舉ニ付テハ衆議院議員選舉ニ關スル罰則ヲ準用ス

第三十八條 特別ノ事情アル町村ニ於テハ郡長ハ府縣知事ノ許可ヲ得テ其ノ町村ヲシテ町村會ヲ設ケス選舉權ヲ有スル町村民ノ總會ヲ以テ之ニ充テシムルコトヲ得  
町村總會ニ關シテハ町村會ニ關スル規定ヲ準用ス

### 第三節 出版、新聞紙、著作

#### ● 出版法 明治二十六年四月十四日 法律第十五號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル出版法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

出版法  
第一條 凡ソ機械會密其ノ他何等ノ方法ヲ以テスルチ問ハス文書圖書ヲ印刷シテ之ヲ發賣シ又ハ頒布スルチ出版ト云ヒ其ノ文書ヲ著述シ又ハ編纂シ若ハ圖書ヲ作爲スル者ヲ著作者ト云ヒ發賣頒布ヲ擔當スル者ヲ發行者ト云ヒ印刷ヲ擔當スル者ヲ印刷者ト云フ

第二條 新聞紙又ハ定期ニ發行スル雜誌ヲ除クノ外文書圖書ノ出版ハ總テ此ノ法律ニ依ルヘシ但シ專ラ學術、技藝、統計、廣告ノ類ヲ記載スル雜誌ハ此ノ法律ニ依リ出版スルコトヲ得

第三條 文書圖書ヲ出版スルトキハ發行ノ日ヨリ到達スヘキ日數ヲ除キ三日前ニ製本二部ヲ添ヘ内務省ニ届出ヘ

第四條 官廳ニ於テ文書圖書ヲ出版スルトキハ其ノ官廳ヨリ發行前ニ製本二部ヲ内務省ニ送付スヘシ

第五條 出版届ハ著作人又ハ其ノ相續者及發行者連印ニテ之ヲ差出スヘシ但シ非賣品ハ著作人又ハ發行者ノミヨリ届出ルコトヲ得

第六條 文書圖書ナキ文書圖書ヲ出版スルトキ若ハ著作人又ハ其ノ相續者ヲ知ルヘカラサルトキハ其ノ由テ記シ發行者ヨリ差出スヘシ

第七條 學校、會社、協會等ニ於テ著作ノ名義ヲ以テ出版スル文書圖書ハ其ノ學校、會社、協會等ヲ代表スル者發行者ト連印シテ之ヲ届出ヘシ

第八條 文書圖書ノ發行者ハ文書圖書ノ販賣ヲ以テ營業トスル者ニ限ル但シ著作人又ハ其ノ相續者ハ發行者ヲ兼メルコトヲ得

第九條 文書圖書ノ發行者ハ其ノ氏名、住所及發行ノ年月日ヲ其ノ文書圖書ノ末尾ニ記載スヘシ

第十條 文書圖書ノ印刷者ハ其ノ氏名、住所及印刷ノ年月日ヲ其ノ文書圖書ノ末尾ニ記載シ住所ト印刷所ト同シカラサルトキハ印刷所ヲ記載スヘシ

第十一條 印刷所若クハ共有ニ係ルトキハ營業上其ノ印刷所ヲ代表スル者ヲ以テ印刷者トス

第十二條 前二項ノ印刷所ニシテ若クハ營業上慣行ノ名稱アルモノハ其ノ名稱ヲ記載スヘシ

第十三條 書簡、通信、報告、社則、塾則、引札、諸藝ノ番附諸種ノ用紙證書ノ類及寫眞ハ第三條第六條第七條第八條ニ據ルヲ要セス但シ第十六條第十七條第十八條第十九條第二十一條第二十六條第三十七條ニ觸ル者ハ此ノ法律ニ依テ處分ス

第十四條 文書圖書ノ冊號ヲ逐ヒ順次ニ出版スル者ハ其ノ都度第三條ノ手續ヲ爲スヘシ但シ雜誌類ニ在テハ内務大臣ノ許可ヲ經テ其ノ手續ヲ省略スルコトヲ得

第十五條 此ノ法律ニ依リ出版スル雜誌ニシテ十二箇月間一回ヲモ發行セサルトキハ廢刊シタルモノト看做スヘシ

第十六條 第十一條一タヒ出版届ヲ爲シタル文書圖書ノ再版ハ出版届ヲ要セスト雖若改正増減シ又ハ註解、附録、繪畫等ヲ加ヘタルトキハ仍第三條ニ依ルヘシ

第十七條 演説若ハ講義ノ筆記ハ演説者若ハ講義者ヲ以テ著作トス但シ筆記者ニ於テ演説者若ハ講義者ノ承諾ヲ得テ自ラ之ヲ出版スルトキハ筆記者ヲ看做スヘシ此ノ場合ニ於テ記載ノ事項第十六條第十七條第十八條

第十九條第二十一條第二十六條第二十七條ニ觸ルモノハ演説者若ハ講義者筆記者ト同ク其ノ罪ヲ論ス

第二十條 公開ノ席ニ於テ爲シタル演説ヲ新聞紙若ハ雜誌ノ通信者ニ於テ筆記シ其ノ新聞紙若ハ雜誌ニ記載シタルモノ及總テ演説者講義者ノ承諾ヲ經スシテ其ノ筆記ヲ出版シタルモノニ關シテハ演説者若ハ講義者ハ著作ノ責ニ任セ

ス

第二十一條 公開ノ席ニ於テ爲シタル演説ノ外ハ講義者又ハ演説者ノ承諾ヲ經ルニ非サレハ他人ニ於テ其ノ筆記ヲ出版スルコトヲ得ス但シ本項ニ違フ者ハ版權法ニ據リ其ノ責ニ任セシム

第二十二條 二種以上ノ著作若ハ演説講義ノ筆記ヲ編纂シテ一部ノ書ト爲ストキハ編纂者ヲ著作者ト看做スヘシ

第二十三條 前條第一項ノ末段及第二項第三項ハ本條ニ適用スヘシ

第二十四條 翻譯ハ翻譯者ヲ以テ著作者ト看做スヘシ

第二十五條 學校、會社、協會等ニ於テ著作ノ名義ヲ以テ出版スル文書圖書ハ其ノ出版届ニ署名シタル代表者ヲ以テ著作者ト看做スヘシ

第二十六條 罪犯ヲ曲庇シ又ハ刑事ニ觸レタル者若ハ刑事裁判中ノ者ヲ救護シ若ハ賞恤スルノ文書ヲ出版スルコトヲ得ス

第二十七條 (重罪輕罪)ノ豫審ニ關スル事項ハ公判ニ付セサル以前ニ於テ之ヲ出版スルコトヲ得ス

第二十八條 傍聽ヲ禁シタル訴訟ノ事項ハ之ヲ出版スルコトヲ得ス

第二十九條 外交軍事其ノ他官廳ノ機密ニ關シ公ニセサル官ノ文書及官廳ノ議事ハ當該官廳ノ許可ヲ得ルニ非サレハ之ヲ出版スルコトヲ得ス

第三十條 法律ニ依リ傍聽ヲ禁シタル公會ノ議事ハ之ヲ出版スルコトヲ得ス

第三十一條 安寧秩序ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞亂スルモノト認ムル文書圖書ヲ出版シタルトキハ内務大臣ニ於テ其ノ發賣頒布ヲ禁シ其ノ刻版及印本ヲ差押フルコトヲ得

第三十二條 外國ニ於テ印刷シタル文書圖書ニシテ安寧秩序ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞亂スルモノト認ムルトキハ内務大臣ニ於テ其ノ發賣頒布ヲ禁シ其ノ刻版及印本ヲ差押フルコトヲ得

第三十三條 外國ニ於テ印刷シタル文書圖書ニシテ安寧秩序ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞亂スルモノト認ムルトキハ内務大臣ニ於テ其ノ發賣頒布ヲ禁シ其ノ刻版及印本ヲ差押フルコトヲ得

第三十四條 外國ニ於テ印刷シタル文書圖書ニシテ安寧秩序ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞亂スルモノト認ムルトキハ内務大臣ニ於テ其ノ發賣頒布ヲ禁シ其ノ刻版及印本ヲ差押フルコトヲ得

第三十五條 外國ニ於テ印刷シタル文書圖書ニシテ安寧秩序ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞亂スルモノト認ムルトキハ内務大臣ニ於テ其ノ發賣頒布ヲ禁シ其ノ刻版及印本ヲ差押フルコトヲ得

臣ハ其ノ文書圖書ノ内國ニ於ケル發賣頒布ヲ禁シ其ノ印本ヲ差押アルコトヲ得

第二十一條 軍事ノ機密ニ關スル文書圖書ハ當該官廳ノ許可ヲ得ルニ非サルハ之ヲ出版スルコトヲ得ス

第二十二條 第三條ノ届出ヲ爲サスシテ文書圖書ヲ出版シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十三條 第六條ヲ犯ス者ハ十一日以上三月以下ノ「輕禁錮」又ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十四條 發行者自己ノ氏名、住所又ハ發行ノ年月日又ハ印刷者ノ氏名、住所又ハ印刷ノ年月日ヲ其ノ發行スル

文書圖書ニ記載セス其ノ之ヲ記載スルモ實ヲ以テセサル者ハ二圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十五條 印刷者自己ノ氏名、住所又ハ印刷ノ年月日ヲ其ノ印刷スル所ノ文書圖書ニ記載セス若ハ之ヲ記載スル

モ實ヲ以テセサル者ハ罰前條ニ同シ

住所ト印刷所ト同シカラサルトキ及印刷所ニシテ營業上慣行ノ名稱アルトキ印刷所及名稱ヲ記載セサル者亦罰

項ニ同シ

第二十六條 政體ヲ變壞シ國憲ヲ紊亂セムトスル文書圖書ヲ出版シタルトキハ著作者、發行者、印刷者ヲ二月以上

二年以下ノ「輕禁錮」ニ處シ「二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加」ス

第二十七條 風俗ヲ壞亂スル文書圖書ヲ出版シタルトキハ著作者、發行者ヲ十一日以上六月以下ノ「輕禁錮」又ハ十

圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十八條 第十六條第十七條第十八條第二十一條ニ觸ル、文書圖書ヲ出版シタルトキハ著作者、發行者ヲ十一日

以上一年以下ノ「輕禁錮」又ハ十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十九條 第二十六條第二十七條第二十八條ノ場合ニ於テ刻版及印本ハ檢事ニ於テ假ニ之ヲ差押アルコトヲ得

第三十條 前條ノ差押ヲ爲ストキハ製本ノ體裁ニヨリ其ノ差押ノヘキ部分ト他ノ部分ト分割シ得ルニ於テハ之ヲ分

割スルコトアルヘシ

第三十一條 文書圖書ヲ出版シ因テ誹毀ノ訴ヲ受ケタル場合ニ於テ其ノ私行ニ涉ルモノヲ除クノ外裁判所ニ於テ專

ラ公益ノ爲ニスルモノト認ムルトキハ被告人ニ事實ノ證明ヲ許スコトヲ得若クシテ證明シタルトキハ其ノ罪ヲ免ス

〔神奈川會〕

損害賠償ノ訴ヲ受ケタルトキモ亦同シ

第三十二條 此ノ法律ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ自首減輕、(再犯加重、數罪俱發)ノ例ヲ用キス

第三十三條 此ノ法律ニ關スル公訴ノ時效ハ一年ヲ經過スルニ因テ成就ス

第三十四條 此ノ法律ニ依リ出版スル雜誌ニシテ其ノ記載ノ事項第二條ノ範圍外ニ涉ルトキハ内務大臣ハ此ノ法律

ニ依リテ出版スルコトヲ差止ムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ一箇年ヲ經ルニ非サルハ更ニ此ノ法律ニ依リテ出版

スルコトヲ得ス

第三十五條 文書圖書ヲ印刷スルトキハ直ニ發賣頒布セスト雖其ノ目的發賣頒布ニ在ルモノハ總テ此ノ法律ニ依

ル

豫約出版法 明治四十三年四月十六日 法律第五十五號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル豫約出版法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

豫約出版法

第一條 代金ノ全部又ハ一部ヲ前收シ文書圖書ノ頒布ヲ豫約スル出版ニ對シテハ出版法ニ依ルノ外尙本法ヲ適用

ス

第二條 發行者ハ左ノ事項ヲ記載シ内務大臣ニ届出ツヘシ

一 題號

二 發行ノ年月日及順次發行ノ場合ハ其ノ豫定年月日

三 著作者ノ氏名

四 内容、製本及紙數ノ概要

五 豫約定價及代金前收ノ方法

六 發行所

七 發行者ノ氏名、生年月日、法人ナルトキハ其ノ名稱及代表者ノ氏名

前項ノ届出ハ書面ヲ以テシ發行者又ハ其ノ法定代理人ヨリ豫約手續ニ著手ノ日ヨリ十日以前ニ管轄地方官廳ニ之

第二編 保安 第一章 安寧

ヲ差出スヘシ

第三條 豫約出版物ニ付出版法ニ依リテ爲ス出版屆書ニハ第二條ニ依リテ届出ヲ爲シタルコト及其ノ年月日ヲ記載スヘシ

第四條 發行者又ハ其ノ法定代理人ハ第二條ノ届出ト同時ニ保證金トシテ管轄地方官廳ニ左ノ金額ヲ納ムヘシ

一 豫約定價十圓未満ハ金五百圓

二 豫約定價十圓以上ハ金千圓

保證金ハ命令ヲ以テ定ムル種類ノ有價證券ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

第五條 發行所、發行者ノ法定代理人、發行者法人ナルトキハ其ノ名稱及代表者ニ變更アリ又ハ發行者能力ヲ失ヒ、死亡若ハ解散シ又ハ死亡若ハ解散ニ因リ法律上豫約出版ヲ廢絶スルノ已ムヲ得サルニ至リタルトキハ十日以内ニ

内務大臣ニ届出ツヘシ

前項ノ届出ハ書面ヲ以テシ發行者又ハ其ノ法定代理人、其ノ死亡ニ係ルトキハ相續人、相續人定マラス又ハ相續人ナキトキハ戸主若ハ同居ノ親族、法人ノ合併ニ因リ解散ニ係ルトキハ其ノ法人ノ權利及義務ヲ承繼シタル法人、破産ニ因リ解散ニ係ルトキハ破産管財人ヨリ管轄地方官廳ニ之ヲ差出スヘシ

第六條 法律上已ムヲ得サルニ非サル豫約出版ノ廢絶又ハ第二條第一項第一號乃至第五號ノ事項ノ變更及死亡若ハ解散ニ因ラザル發行者ノ變更ハ新舊發行者又ハ其ノ法定代理人ヨリ其ノ事由ヲ具シタル書面ヲ以テ豫メ管轄地方官廳ヲ經由シ内務大臣ノ許可ヲ受クヘシ

前項ノ許可ハ豫約當事者ノ解除權行使ヲ妨ケラレルコトナシ

第七條 相續人又ハ法人ノ合併ニ因リ其ノ權利及義務ヲ承繼シタル法人ハ豫約出版ニ關スル權利及義務ヲ承繼ス

第八條 保證金ニ對スル權利及義務ハ發行者變更ノ場合ニ於テ承繼發行者之ヲ承繼ス

第九條 保證金ハ適法ニ豫約出版ヲ廢絶シ又ハ完全ニ豫約ヲ履行シタル後ニ非サレハ其ノ還付ヲ請求シ又ハ其ノ債權ヲ讓渡スルコトヲ得ス但シ國稅徵收法及之ヲ準用スル法令ヲ適用シ又ハ豫約解除若ハ豫約不履行ニ因リ代金返還若ハ損害賠償ヲ命スル判決ヲ執行スルハ此ノ限ニ在ラス

〔神奈川條〕

〔神奈川條〕

第十一條ノ罰金又ハ刑事訴訟費用ヲ完納セザルトキハ檢事ハ保證金ノ全部又ハ一部ヲ之ニ充ツルコトヲ得

第十條 發行者又ハ其ノ法定代理人ハ保證金ノ圓額ヲ生シタル場合ニ於テ之ヲ填補スヘシ

第十一條 第二條、第四條ノ規定ニ依ラスシテ豫約手續ニ著手シ又ハ第六條若ハ第九條ニ違反シ又ハ管轄地方官廳ノ督促ヲ受ケタル後七日以内ニ保證金ヲ填補セザル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十三條 本法ハ新聞紙、出版法第二條但書ニ依ル雜誌及官廳ニ於テ出版スル文書圖書ニ之ヲ適用セス

官廳出版物ニ關スル注意

明治二十五年三月十七日 内務省訓令第六號

廳府縣

官廳出版物ノ中令達告示ヲ爲スモノヲ除クノ外自今總テ(出版條例第四條)ニ據ルヘシ

但其製本中ニ印刷出版ノ年月日(出版ノ日附ハ當省ハ製本送付ノ日印)

官廳名印刷者ノ氏名住所ヲ記載シ仍ホ書肆ニ付シテ發行セシムルトキハ該書肆ヲ發行者トシテ其氏名住所ヲモ記載スヘシ

弘曆者ノ外頒曆嚴禁ノ件

明治三年四月二十二日 太政官布告

頒曆授時之儀ハ至重之典章ニ候處近來種々之頒曆世上ニ流布候趣無謂事ニ候自今弘曆者之外取扱候儀一切嚴禁被仰出候事

本曆竝略本曆頒布ニ關スル件

明治十五年四月二十六日 太政官布達第八號

本曆竝略本曆ハ明治十六年曆ヨリ伊勢神宮ニ於テ頒布セシムヘシ



第二編 保安 第一章 安寧

一枚摺略曆ハ明治十六年曆ヨリ何人ニ限ラス出版條例ニ準據シ出版スルコトヲ得  
但明治元年(十)内務省甲第三十九號布達ハ取消ス

一枚摺略曆出版方

明治二十三年十月三十一日  
文部省令第二號

改正 明治四一年九月文部省令第二九號

明治十五年四月太政官第八號布達第二項ニ依リ出版スル所ノ一枚摺略曆ハ自今左ノ規定ニ依ルヘシ

- 一枚摺略曆ハ左ニ列記スル事項ニ限リ記載スルモノトス
  - 一年號及紀元ノ年數干支
  - 毎月ノ一日
  - 日月食並其時間
  - 大祭祝日並神社例祭大祓
  - 日曜表甲子表庚申表己巳表
  - 二十四節氣及雜節
  - 新月滿月
  - 第二號乃至第七號ニ相當スル陽曆日
- 以上ノ事項ハ東京帝國大學ニ於テ編纂スル所ノ曆ニ依ルヘシ但前各號規定ノ外本曆略本曆ニ掲載セザル事項ヲ記入スルハ此ノ限ニ在ラス

神社寺院ノ守札及神佛號記載ノ畫像ハ其神社寺院ノ  
外出版ヲ許サス

明治十五年十月十八日  
内務省達乙第五十五號

府縣

神社寺院之守札ト可認モノ及神佛號ヲ記載セル畫像ハ其神社寺院ノ外出版不相成儀ト可心得此旨相達候事

(神奈川管)

但從前屆済ノ分ト雖モ本文ニ概觸シ不都合ト認ムル場合ニ於テハ更ニ申出ツヘシ

社寺守札等出版ノ件

明治十五年十月二十三日  
布達甲第六十七號

神社寺院ノ守札ト可認モノ及神佛號ヲ記載セル畫像ハ其神社寺院ノ外出版不相成候條此旨布達候事

出版ニ關スル願屆書式

明治三十二年七月十四日  
内務省告示第八十號

出版ニ關スル願屆書式左ノ通之ヲ定ム

全何冊(枚)

第一書式

出版屆

「著作者ノ氏名、稱號」著(編輯、演說、講義、翻譯)  
一文書圖畫ノ題號 全何冊(枚)

右出版法ニ依リ年月日ヨリ發行候間製本二部相添此段御  
届申上候也

年 月 日

一文書圖畫ノ題號 全何冊(枚)

一初版發行ノ年月日

右出版法ニ依リ年月日ヨリ發行候間製本二部相添此段御  
届申上候也

年 月 日

原籍及住所 發行所 商號 氏 名印 年齢

原籍及住所 發行所 商號 氏 名印 年齢

原籍及住所 著作者(相續者) 氏 名印

第二書式

再版屆

「著作者ノ氏名、稱號」著(編輯、演說、講義、翻譯)

第三書式

學術(技藝、統計、廣告)雜誌出版屆

一雜誌ノ題號 第何號

右ハ專ラ學術(技藝、統計、廣告)ニ關スル事項ヲ記載シ  
出版法ニ依リ年月日發行候間製本二部相添此段御届申上

第二編 保安 第一章 安寧

第二編 保安 第一章 安寧

發也  
年月日

原籍及住所

編輯者

原籍及住所

發行者

商號

內務大臣宛

名印

名印

名印

名印

右ハ專ラ學術(技藝、統計、廣告)ニ關スル事項ヲ記載シ出版法ニ依リ出版候間出版ノ都度届出ノ手續ヲ省略シテ製本二部ノミ相納候様致度此段相願候也

年月日

原籍及住所

編輯者

原籍及住所

發行者

商號

內務大臣宛

名印

名印

名印

一雜誌ノ題號

第何號ヨリ

學術(技藝、統計、廣告)雜誌出版手續省略願

第何號ヨリ

內務大臣宛

●新聞紙法

明治四十二年五月六日  
法律第四十一號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル新聞紙法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

新聞紙法

- 第一條 本法ニ於テ新聞紙ト稱スルハ一定ノ題號ヲ用キ時期ヲ定メ又ハ六箇月以内ノ期間ニ於テ時期ヲ定メスシテ發行スル著作物及定時期以外ニ本著作物ト同一題號ヲ用キテ臨時發行スル著作物ヲ謂フ
- 第二條 左ニ掲ケル者ハ新聞紙ノ發行人又ハ編輯人タルコトヲ得ス
  - 一 本法ヲ施行スル帝國領土内ニ居住セサル者
  - 二 陸海軍軍人ニシテ現役若ハ召集中ノ者
  - 三 未成年者、禁治產者及準禁治產者

〔神奈川管〕

〔神奈川管〕

四 懲役又ハ禁錮ノ刑ノ執行中又ハ執行猶豫中ノ者

第三條 印刷所ハ本法ヲ施行スル帝國領土外ニ之ヲ設ケルコトヲ得ス

第四條 新聞紙ノ發行人ハ左ノ事項ヲ內務大臣ニ届出ツヘシ

- 一 題號
- 二 掲載事項ノ種類
- 三 時事ニ關スル事項ノ掲載ノ有無
- 四 發行ノ時期、若時期ヲ定メサルトキハ其ノ旨
- 五 第一回發行ノ年月日
- 六 發行所及印刷所
- 七 持主ノ氏名、若法人ナルトキハ其ノ名稱及代表者ノ氏名
- 八 發行人、編輯人及印刷人ノ氏名年齢但シ編輯人二人以上アルトキハ其ノ主トシテ編輯事務ヲ擔當スル者ノ氏名年齢

前項ノ届出ハ持主又ハ其ノ法定代理人ノ連署シタル書面ヲ以テシ第一回發行ノ日ヨリ十日以前ニ管轄地方官廳ニ差出スヘシ

第五條 前條第一項第一號乃至第三號ノ事項ノ變更ハ變更ノ日ヨリ十日以前ニ第四號若ハ第六號ノ事項又ハ持主、編輯人、印刷人ノ變更ハ變更前又ハ變更後七日以内ニ前條ノ手續ニ依リ發行人ヨリ之ヲ內務大臣ニ届出ツヘシ但シ持主變更ノ届出ニハ死亡ニ因ル場合ノ外新舊持主又ハ其ノ法定代理人ノ連署ヲ要ス

第六條 死亡シ又ハ第二條ニ該當スルニ至リタル發行人ノ權利及義務ヲ承繼シタル發行人ハ其ノ發行人ト爲リタル日ヨリ七日以内ニ前條ノ手續ヲ爲スヘシ

前項ノ場合ノ外發行人ノ變更ハ變更ノ日ヨリ十日以前ニ前條ノ手續ヲ爲スヘシ

第七條 新聞紙ハ届出ヲ爲シタル發行時期又ハ發行休止ノ日ヨリ起算シテ百日間、三回發行ノ期間ヲ通シテ百日ヲ超ユル新聞紙ニ在リテハ三回發行ノ期間之ヲ發行セサルトキハ其ノ發行ヲ廢止シタルモノト看做ス

第八條 發行人若ハ編輯人死亡シ又ハ第二條ニ該當スルニ至リ後任ノ發行人若ハ編輯人ヲ定メサル間又ハ發行人若

第二編 保安 第一章 安寧

第二編 保安 第一章 安寧

ハ編輯人一箇月以上本法ヲ施行スル帝國領土外ニ旅行スル場合ニ於テハ假發行人若ハ假編輯人ヲ設クルニ非サレハ新聞紙ノ發行ヲ爲スコトヲ得ス

第九條 編輯人ノ責任ニ關スル本法ノ規定ハ左ニ掲クル者ニ之ヲ準用ス

- 一 編輯人以外ニ於テ實際編輯ヲ擔當シタル者
- 二 掲載ノ事項ニ署名シタル者
- 三 正誤書、辯駁書ノ事項ニ付テハ其ノ掲載ヲ請求シタル者

第十條 新聞紙ニハ發行人、編輯人、印刷人ノ氏名及發行所ヲ掲載スヘシ

第十一條 新聞紙ハ發行ト同時ニ内務省ニ二部、管轄地方官廳、地方裁判所檢事局及區裁判所檢事局ニ各一部ヲ納ムヘシ

第十二條 時事ニ關スル事項ヲ掲載スル新聞紙ハ管轄地方官廳ニ保證トシテ左ノ金額ヲ納ムルニ非サレハ之ヲ發行スルコトヲ得ス

- 一 東京市、大阪市及其ノ市外三里以内ノ地ニ於テハ二千圓
- 二 人口七萬以上ノ市又ハ區及其ノ市又ハ區外一里以内ノ地ニ於テハ千圓
- 三 其ノ他ノ地方ニ於テハ五百圓

前項ノ金額ハ一箇月三回以下發行スルモノニ在リテハ其ノ半額トス

第十三條 保證金ニ對スル權利及義務ハ發行人變更ノ場合ニ於テ後任發行人之ヲ承繼スルモノトス

第十四條 保證金ハ發行ヲ廢止シタルトキニ非サレハ其ノ還附ヲ請求シ又ハ其ノ債權ヲ讓渡スルコトヲ得ス但シ國稅徵收法及之ヲ準用スル法令ヲ適用シ又ハ名譽ニ對スル罪ニ因ル損害賠償ノ判決ヲ執行スルハ此ノ限ニ在ラス

第十五條 保證金ヲ納ムル新聞紙ニ關シ發行人又ハ編輯人罰金又ハ刑事訴訟費用ノ官渡確定ノ日ヨリ十日以内ニ之ヲ完納セサルトキハ檢事ハ保證金ノ全部又ハ一部ヲ之ニ充ツルコトヲ得

第十六條 保證金ハ其ノ圓額ヲ生シタル場合ニ於テ之ヲ填補スルニ非サレハ其ノ新聞紙ヲ發行スルコトヲ得ス但シ

〔神奈川管〕

圓額ヲ生シタル日ヨリ七日以内ハ此ノ限ニ在ラス

第十七條 新聞紙ニ掲載シタル事項ノ錯誤ニ付其ノ事項ニ關スル本人又ハ直接關係者ヨリ正誤又ハ正誤書、辯駁書ノ掲載ヲ請求シタルトキハ其ノ請求ヲ受ケタル後次回又ハ第三回ノ發行ニ於テ正誤ヲ爲シ又ハ正誤書、辯駁書ノ全文ヲ掲載スヘシ

正誤、辯駁ハ原文ト同號ノ活字ヲ用ウヘシ

正誤、辯駁ノ趣旨法令ニ違反スルトキ又ハ請求者ノ氏名住所ヲ明記セサルトキハ之ヲ掲載スルコトヲ要セス

正誤書、辯駁書ノ字數原文ノ字數ヲ超過シタルトキハ其ノ超過ノ字數ニ付發行人ノ定メタル普通廣告料ト同一ノ料金を要求スルコトヲ得

第十八條 官報又ハ他ノ新聞紙ヨリ抄録セシ事項ニシテ官報又ハ新聞紙ニ於テ正誤シ又ハ正誤書、辯駁書ヲ掲載シタルトキハ本人又ハ直接關係者ノ請求ナシト雖其ノ官報又ハ新聞紙ヲ得タル後前條ノ例ニ依リ正誤シ又ハ正誤書、辯駁書ヲ掲載スヘシ但シ料金を要求スルコトヲ得ス

第十九條 新聞紙ハ公判ニ付スル以前ニ於テ豫審ノ内容其ノ他檢事ノ差止めタル捜査又ハ豫審中ノ被告事件ニ關スル事項又ハ公開ヲ停メタル訴訟ノ辯論ヲ掲載スルコトヲ得ス

第二十條 新聞紙ハ官署、公署又ハ法令ヲ以テ組織シタル議會ニ於テ公ニセサル文書又ハ公開セサル會議ノ議事ヲ許可ヲ受ケスシテ掲載スルコトヲ得ス請願書又ハ訴訟書ニシテ公ニセラレサルモノ亦同シ

第二十一條 新聞紙ハ犯罪ヲ煽動若ハ曲庇シ又ハ犯罪人若ハ刑事被告人ヲ賞恤若ハ救護シ又ハ刑事被告人ヲ陷害スルノ事項ヲ掲載スルコトヲ得ス

第二十二條 第四條乃至第六條ノ届出ヲ爲サス若ハ届出ヲ爲スモ實ヲ以テセス又ハ保證金ヲ納メ若ハ之ヲ填補スヘキ場合ニ於テ之ヲ納メ若ハ之ヲ填補セシメシテ發行シタルトキハ正當ノ届出ヲ爲シ又ハ保證金ヲ納メ若ハ之ヲ填補スル迄管轄地方官廳ニ於テ新聞紙ノ發行ヲ差止めムヘシ

第二十三條 内務大臣ハ新聞紙掲載ノ事項ニシテ安寧秩序ヲ紊シ又ハ風俗ヲ害スルモノト認ムルトキハ其ノ發賣及頒布ヲ禁止シ必要ノ場合ニ於テハ之ヲ差押アルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ内務大臣ハ同一主旨ノ事項ノ掲載ヲ差止めムルコトヲ得

第二編 保安 第一章 安寧

第二十四條 內務大臣ハ外國若ハ本法ヲ施行セサル帝國領土ニ於テ發行シタル新聞紙掲載ノ事項ニシテ安寧秩序ヲ紊シ又ハ風俗ヲ害スルモノト認ムルトキハ其ノ本法施行ノ地域内ニ於ケル發賣及頒布ヲ禁止シ必要ナル場合ニ於テハ之ヲ差押フルコトヲ得

新聞紙ニ對シ一年以内ニ二回以上前項ノ處分ヲ爲シタルトキハ內務大臣ハ其ノ新聞紙ヲ本法施行ノ地域内ニ輸入又ハ移入スルヲ禁止スルコトヲ得

第二十五條 前條第二項ニ依リ禁止ノ命令ニ違反シテ輸入又ハ移入シタル新聞紙及第四十三條ニ依ル禁止ノ裁判ニ違反シテ發賣又ハ頒布スルノ目的ヲ以テ印刷シタル新聞紙ハ管轄地方官廳ニ於テ之ヲ差押フルコトヲ得

第二十六條 本法ニ依リ差押ヘタル新聞紙ニシテ二年以上其ノ差押ヲ解除セラレサルトキハ差押ヲ執行シタル行政官廳ニ於テ之ヲ處分スルコトヲ得

第二十七條 陸軍大臣、海軍大臣及外務大臣ハ新聞紙ニ對シ命令ヲ以テ軍事若ハ外交ニ關スル事項ノ掲載ヲ禁止シ又ハ制限スルコトヲ得

第二十八條 第二條ニ該當スル者ニシテ事實ヲ詐リ發行人又ハ編輯人ト爲リタルトキハ三月以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十九條 第三條ニ違反シタル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十條 第四條乃至第六條ノ届出ヲ爲サス若ハ届出ヲ爲スモ實ヲ以テセス又ハ第四條第一項第一號、第四號乃至第六號ニ關シ届出ノ事項ニ違反シタル行爲ヲ爲シ又ハ第十一條ニ違反シタルトキハ發行人ヲ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第三十一條 第四條第一項第二號又ハ第三號ニ關シ届出ノ事項ニ違反シタル行爲ヲ爲シタルトキハ發行人及編輯人ヲ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第三十二條 第八條第一項ニ違反シタルトキハ發行人死亡シ又ハ第二條ニ該當スルニ至リタル場合ニ於テハ實際發行ヲ爲シタル者、其ノ他ノ場合ニ於テハ發行人ヲ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第三十三條 第十條ニ違反シ又ハ掲載ニ實ヲ以テセサルトキハ發行人及編輯人ヲ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第三十四條 第十二條第一項、第二項、第十六條ニ違反シ又ハ第二十二條ニ依ル差止ノ命令ニ違反シタルトキハ發行人ヲ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十五條 第十七條第一項、第二項又ハ第十八條ニ違反シタルトキハ編輯人ヲ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

前項ノ罪ハ私事ニ係ル場合ニ於テ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第三十六條 第十九條、第二十條ニ違反シタルトキハ編輯人ヲ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十七條 第二十一條ニ違反シタルトキハ編輯人ヲ三月以下ノ禁錮又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十八條 第二十三條ニ依ル禁止若ハ差止ノ命令、第二十四條ニ依ル禁止ノ命令、第四十三條ニ依ル禁止ノ裁判ニ違反シタルトキハ發行人、編輯人ヲ六月以下ノ禁錮又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十九條 第二十三條第一項、第二十四條第一項、第二十五條ニ依ル差押處分ノ執行ヲ妨害シタル者ハ六月以下ノ禁錮又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十條 第二十七條ニ依ル禁止又ハ制限ノ命令ニ違反シタルトキハ發行人、編輯人ヲ二年以下ノ禁錮又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十一條 安寧秩序ヲ紊シ又ハ風俗ヲ害スル事項ヲ新聞紙ニ掲載シタルトキハ發行人、編輯人ヲ六月以下ノ禁錮又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十二條 皇室ノ尊嚴ヲ冒瀆シ政體ヲ變改シ又ハ朝憲ヲ紊亂セムトスルノ事項ヲ新聞紙ニ掲載シタルトキハ發行人、編輯人、印刷人ヲ二年以下ノ禁錮及三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十三條 本法ニ定メタル犯罪ニハ刑法併合罪ノ規定ヲ適用セス

第四十四條 本法ニ定メタル犯罪ニハ刑法併合罪ノ規定ヲ適用セス

第四十五條 新聞紙ニ掲載シタル事項ニ付名譽ニ對スル罪ノ公訴ヲ提起シタル場合ニ於テ其ノ私行ニ涉ルモノヲ除クノ外裁判所ニ於テ惡意ニ出テス専ラ公益ノ爲ニスルモノト認ムルトキハ被告人ニ事實ヲ證明スルコトヲ許スコトヲ得若其ノ證明ノ確立ヲ得タルトキハ其ノ行爲ハ之ヲ罰セス公訴ニ關聯スル損害賠償ノ訴ニ對シテハ其ノ義務ヲ免ル

附則

新聞紙條例ハ之ヲ廢止ス  
本法施行前ヨリ發行スル新聞紙ニシテ本法ノ規定ニ依リ保證金ニ關額ヲ生スルニ至リタルトキハ本法施行ノ日ヨリ  
三年間其ノ填補ヲ猶豫ス  
第二十六條ノ規定ハ本法施行前ノ差押ニ係ル新聞紙ニ之ヲ準用ス

●新聞紙法及豫約出版法ニ依リ保證金ニ充ツルコトヲ  
得ル有價證券ノ種類

明治四十三年四月十六日  
內務省令第十五號

改正 大正一〇年二月內務省令第五號  
新聞紙法第十二條第三項及豫約出版法第四條第二項ニ依リ管轄地方官廳ニ納ムヘキ保證金ニ充ツルコトヲ得ル有價  
證券ノ種類左ノ如シ  
一 國債證券

附則

明治四十二年五月內務省令第十五號ハ之ヲ廢止ス  
附則(大正十年內務省令第五號)  
本令ハ大正十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス  
本令施行前納付シタル國債以外ノ有價證券ハ本令施行ノ日ヨリ五年ヲ限リ本令ノ規定ニ拘ラス仍其ノ效力ヲ有ス

●新聞紙若クハ刻版及印本差押ノ件

明治二十九年二月五日  
內務省令第二號

總府縣 東京府  
ヲ除ク

(神奈川管)

〔新聞紙條例第二十條〕及出版法第十九條ニ據リ新聞紙若クハ刻版及印本ヲ差押ヘタルトキハ當該官廳ニ於テ嚴密ニ  
封印ヲ施シ發行人若クハ發行者及刻版所有者ヲシテ看守セシムルコトヲ得若シ發行人若クハ發行者及刻版所有者ノ  
承諾ヲ得タルトキハ警察官立會ノ上其新聞紙若クハ刻版及印本ヲ破棄セシムルモ妨ナシ但明治二十一年一月調第四  
五號訓令第二項中第五及第四項ハ自今消滅シタルモノト心得ヘシ

●著作權法

明治三十二年三月四日  
法律第三十九號

改正 明治四三年六月法律第六三號、大正九年八月第六〇號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル著作權法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

著作權法

第一章 著作者ノ權利

第一條 文書演述圖畫建築彫刻模型寫眞演奏歌唱其ノ他文藝學術若ハ美術ノ範圍ニ屬スル著作物ノ著作者ハ其ノ著  
作物ヲ複製スルノ權利ヲ專有ス  
第二條 著作權ハ之ヲ讓渡スコトヲ得  
第三條 發行又ハ興行シタル著作物ノ著作權ハ著作者ノ生存間及其ノ死後三十年間繼續ス  
教人ノ合著作ニ係ル著作物ノ著作權ハ最終ニ死亡シタル者ノ死後三十年間繼續ス  
第四條 著作者ノ死後發行又ハ興行シタル著作物ノ著作權ハ發行又ハ興行ノトキヨリ三十年間繼續ス  
第五條 無名又ハ變名著作物ノ著作權ハ發行又ハ興行ノトキヨリ三十年間繼續ス但シ其ノ期間内ニ著作者其ノ實名  
ノ登錄ヲ受ケタルトキハ第三條ノ規定ニ從フ  
第六條 官公衙學校社寺協會會社其ノ他團體ニ於テ著作ノ名義ヲ以テ發行又ハ興行シタル著作物ノ著作權ハ發行又  
ハ興行ノトキヨリ三十年間繼續ス  
第七條 著作權者原著作物發行ノトキヨリ十年内ニ其ノ翻譯物ヲ發行セサルトキハ其ノ翻譯權ハ消滅ス  
前項ノ期間内ニ著作權者其ノ保護ヲ受ケントスル國語ノ翻譯物ヲ發行シタルトキハ其ノ國語ノ翻譯權ハ消滅セ

第八條 冊號ヲ逐ヒ順次ニ發行スル著作物ニ關シテハ前四條ノ期間ハ每冊若ハ每號發行ノトキヨリ起算ス  
 一部分ツツチ漸次ニ發行シ全部完成スル著作物ニ關シテハ前四條ノ期間ハ最終部分ノ發行ノトキヨリ起算ス但シ  
 三年ヲ經過シ仍繼續ノ部分ヲ發行セザルトキハ既ニ發行シタル部分ヲ以テ最終ノモノト看做ス  
 第九條 前六條ノ場合ニ於テ著作權ノ期間ヲ計算スルニハ著作者死亡ノ年又ハ著作物ヲ發行又ハ興行シタル年ノ翌  
 年ヨリ起算ス

第十條 相續人ナキ場合ニ於テ著作權ハ消滅ス  
 第十一條 左ニ記載シタルモノハ著作權ノ目的物ト爲ルコトヲ得ス  
 一 法律命令及公文書  
 二 新聞紙ニ記載シタル雜報及時事ノ記事  
 三 公開セル裁判所、議會並政談集會ニ於テ爲シタル演述

第十二條 無名又ハ變名著作物ノ發行者又ハ興行者ハ著作權者ニ屬スル權利ヲ保全スルコトヲ得但シ著作者其ノ實  
 名ノ登錄ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス  
 第十三條 數人ノ合著作ニ係ル著作物ノ著作權ハ各著作者ノ共有ニ屬ス  
 各著作者ノ分擔シタル部分明瞭ナラサル場合ニ於テ著作者中ニ其ノ發行又ハ興行ヲ拒ム者アルトキハ他ノ著作者  
 ハ其ノ者ニ賠償シテ其ノ持分ヲ取得スルコトヲ得但シ反對ノ契約アルトキハ此ノ限ニ在ラス  
 各著作者ノ分擔シタル部分明瞭ナル場合ニ於テ著作者中ニ其ノ發行又ハ興行ヲ拒ム者アルトキハ他ノ著作者ハ自  
 己ノ部分ヲ分擔シ單獨ノ著作物トシテ發行又ハ興行スルコトヲ得但シ反對ノ契約アルトキハ此ノ限ニ在ラス  
 本條第二項ノ場合ニ於テハ發行又ハ興行ヲ拒ミタル著作者ノ意ニ反シテ其ノ氏名ヲ其ノ著作物ニ掲グルコトヲ得  
 ス

第十四條 數多ノ著作物ヲ適法ニ編輯シタル者ハ著作者ト看做シ其ノ編輯物全部ニ付テノミ著作權ヲ有ス但シ各部  
 ノ著作權ハ其ノ著作者ニ屬ス  
 第十五條 著作權ノ相續讓渡及質入ハ其ノ登錄ヲ受ケルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

〔神奈川警〕

無名又ハ變名著作物ノ著作者ハ其ノ實名ノ登錄ヲ受ケルコトヲ得  
 第十六條 登錄ハ行政廳之ヲ行フ

第十七條 未タ發行又ハ興行セザル著作物ノ原本及其ノ著作權ハ債權者ノ爲ニ差押テ受ケルコトナシ但シ著作權者  
 ニ於テ承諾ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十八條 著作權ヲ承繼シタル者ハ著作者ノ同意ヲ得テ其ノ著作者ノ氏名稱號ヲ變更シ若ハ其ノ題號ヲ改メ又ハ  
 其ノ著作物ヲ改竄スルコトヲ得ス

第十九條 原著物ニ關シテ、傍調、句讀、批評、註解、附錄、圖畫ヲ加ヘ又ハ其ノ他ノ修正増減ヲ爲シ若ハ翻案シ  
 タルカ爲メ新ニ著作權ヲ生スルコトナシ但シ新著作物ト看做サルヘキモノハ此ノ限ニ在ラス

第二十條 新聞紙ニ掲載シタル記事ニ關シテハ小説及文藝學術若ハ美術ノ範圍ニ屬スル著作物ヲ除ク外著作權者カ  
 特ニ轉載ヲ禁スル旨ヲ明記セザルトキハ其ノ出所ヲ明示シテ轉載スルコトヲ得

第二十一條 翻譯者ハ著作者ト看做シ本法ノ保護ヲ享有ス但シ原著者ノ權利ハ之カ爲ニ妨ケラレルコトナシ

第二十二條 原著物ト異リタル技術ニ依リ適法ニ美術上ノ著作物ヲ複製シタル者ハ著作者ト看做シ本法ノ保護ヲ  
 享有ス

第二十三條 寫眞著作權ハ十年間繼續ス  
 前項ノ期間ハ其ノ著作物ヲ始メテ發行シタル年ノ翌年ヨリ起算ス若シ發行セザルトキハ種板ヲ製作シタル年ノ翌  
 年ヨリ起算ス

寫眞術ニ依リ適法ニ美術上ノ著作物ヲ複製シタル者ハ原著物ノ著作權ト同一ノ期間内本法ノ保護ヲ享有ス但シ  
 當事者間ニ契約アルトキハ其ノ契約ノ制限ニ從フ

第二十四條 文藝學術ノ著作物中ニ挿入シタル寫眞ニシテ特ニ其ノ著作物ノ爲ニ著作シ又ハ著作セシメタルモノナ  
 ルトキハ其ノ著作權ハ文藝學術ノ著作物ノ著作者ニ屬シ其ノ著作權ト同一ノ期間内繼續ス

第二十五條 他人ノ囑托ニ依リ著作シタル寫眞肖像ノ著作權ハ其ノ囑托者ニ屬ス

第二十六條 寫眞ニ關スル規定ハ寫眞術ト類似ノ方法ニ依リ製作シタル著作物ニ準用ス

第二十七條 著作權者ノ不明ナル著作物ニシテ未タ發行又ハ興行セザルモノハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ發行又ハ

興行スルコトヲ得

第二十八條 外國人ノ著作權ニ付テハ條約ニ別段ノ規定アルモノヲ除ク外本法ノ規定ヲ適用ス但シ著作權保護ニ關シ條約ニ規定ナキ場合ニハ帝國ニ於テ始メテ其ノ著作物ヲ發行シタル者ニ限リ本法ノ保護ヲ享有ス

第二章 偽作

第二十九條 著作權ヲ侵害シタル者ハ偽作者トシ本法ニ規定シタルモノノ外民法第三編第五章ノ規程ニ從ヒ之ニ因リテ生シタル損害ヲ賠償スルノ責ニ任ス

第三十條 既ニ發行シタル著作物ヲ左ノ方法ニ依リ複製スルハ偽作ト看做リス  
第一 發行スルノ意思ナク且器械的又ハ化學的方法ニ依ラスシテ複製スルコト

第二 自己ノ著作物中ニ正當ノ範圍内ニ於テ節錄引用スルコト

第三 普通教育上ノ修身書及讀本ノ目的ニ供スル爲ニ正當ノ範圍内ニ於テ拔萃蒐輯スルコト

第四 文學學術ノ著作物ノ文句ヲ自己ノ著作シタル脚本ニ挿入シ又ハ樂譜ニ充用スルコト

第五 文藝學術ノ著作物ヲ説明スルノ材料トシテ美術上ノ著作物ヲ挿入シ又ハ美術上ノ著作物ヲ説明スルノ材料トシテ文藝學術ノ著作物ヲ挿入スルコト

第六 圖畫ヲ彫刻物模型ニ作リ又ハ彫刻物模型ヲ圖畫ニ作ルコト

本條ノ場合ニ於テハ其ノ出所ヲ明示スルコトヲ要ス

第三十一條 帝國ニ於テ發賣頒布スルノ目的ヲ以テ偽作物ヲ輸入スル者ハ偽作者ト看做ス

第三十二條 練習用ノ爲ニ著作シタル問題ノ解答書ヲ發行スル者ハ偽作者ト看做ス

第三十二條ノ二 活動寫眞術ニ依リ他人ノ著作物ヲ複製シ又ハ興行スル者ハ偽作者ト看做ス

第三十二條ノ三 音ヲ器械的ニ複製スルノ用ニ供スル機器ニ他人ノ著作物ヲ寫調スル者ハ偽作者ト看做ス

第三十三條 善意ニシテ且過失ナク偽作ヲ爲シテ利益ヲ受ケ之カ爲ニ他人ニ損失ヲ及ホシタル者ハ其ノ利益ノ存スル限度ニ於テ之ヲ返還スル義務ヲ負フ

第三十四條 教人ノ合著作ニ保ル著作物ノ著作權者ハ偽作ニ對シ他ノ著作權者ノ同意ナクシテ告訴ヲ爲シ及自己ノ持分ニ對スル損害ノ賠償ヲ請求シ又ハ自己ノ持分ニ應ジテ前條ノ利益ノ返還ヲ請求スルコトヲ得

〔神奈川管〕

〔神奈川管〕

第三十五條 偽作ニ對シ民事ノ訴訟ヲ提起スル場合ニ於テハ既ニ發行シタル著作物ニ於テ其ノ著作物トシテ氏名ヲ掲ケタル者ヲ以テ其ノ著作ト推定ス

無名又ハ變名著作物ニ於テハ其ノ著作物ニ發行者トシテ氏名ヲ掲ケタル者ヲ以テ其ノ發行者ト推定ス

未タ發行セサル脚本及樂譜ノ興行ニ關シテハ其ノ興行ニ著作者トシテ氏名ヲ顯ハシタル者ヲ以テ其ノ著作ト推定ス

著作者ノ氏名ヲ顯ハササルトキハ其ノ興行者ヲ以テ其ノ著作者ト推定ス

第三十六條 偽作ニ關シ民事ノ出訴又ハ刑事ノ起訴アリタルトキハ裁判所ハ原告又ハ告訴人ノ申請ニ依リ保證ヲ立テシメ又ハ立テシメスシテ假ニ偽作ノ疑アル著作物ノ發賣頒布ヲ差止メ若ハ之ヲ差押ヘ又ハ其ノ興行ヲ差止ムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ偽作ニ非サル旨ノ判決確定シタルトキハ申請者ハ差止又ハ差押ヨリ生シタル損害ヲ賠償スルノ責ニ任ス

第三十七條 偽作ヲ爲シタル者及情ヲ知テ偽作物ヲ發賣シ又ハ頒布シタル者ハ五十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十八條 第十八條ノ規定ニ違反シタル者ハ三十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十九條 第二十條及第三十條第二項ノ規定ニ違反シ出所ヲ明示セスシテ複製シタル者並第十三條第四項ノ規定ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十條 著作權ニ非サル者ノ氏名稱號ヲ附シテ著作物ヲ發行シタル者ハ三十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十一條 著作權ノ消滅シタル著作物ト雖之ヲ改竄シテ著作者ノ意ヲ害シ又ハ其ノ題號ヲ改メ若ハ著作者ノ氏名稱號ヲ隱匿シ又ハ他人ノ著作物ト詐稱シテ發行シタル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十二條 虛偽ノ登錄ヲ受ケタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十三條 偽作物及專ラ偽作ノ用ニ供シタル器械器具ハ偽作者、印刷者、發賣者及頒布者ノ所有ニ在ル場合ニ限リ之ヲ沒收ス

第二編 保安 第一章 安寧

第四十四條 本章ニ規定シタル罪ハ被害者ノ告訴ヲ待テ其ノ罪ヲ論ス但シ第三十八條ノ場合ニ於テ著作者ノ死亡シタルトキ並第四十條乃至第四十二條ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第四十五條 本章ノ罪ニ對スル公訴ノ時效ハ二年ヲ經過スルニ因リテ完成ス

第四章 附則

第四十六條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(明治三十二年六月勅令第三百十三號ヲ以テ同年七月十五日ヨリ施行)

明治二十六年法律第十六號版權法明治二十年勅令第七十八號脚本樂譜條例明治二十年勅令第七十九號寫真版權條例ハ本法施行ノ日ヨリ廢止ス

第四十七條 本法施行前ニ著作權ノ消滅セサル著作物ハ本法施行ノ日ヨリ本法ノ保護ヲ享有ス

第四十八條 本法施行前偽作ト認メラレサリシ複製物ニシテ既ニ複製シタルモノ又ハ複製ニ著手シタルモノハ之ヲ完成シテ發賣頒布スルコトヲ得

前項ノ複製ノ用ニ供シタル器械器具ノ現存スルトキハ本法施行後五年間仍其ノ複製ノ爲之ヲ使用スルコトヲ得

第四十九條 本法施行前翻譯シ又ハ翻譯ニ著手シ其ノ當時ニ於テ偽作ト認メラレサリシモノハ之ヲ完成シテ發賣頒布スルコトヲ得但シ其ノ翻譯物ハ本法施行後七年内ニ發行スルコトヲ要ス

前項ノ翻譯物ハ發行後五年間仍之ヲ複製スルコトヲ得

第五十條 本法施行前既ニ興行シ若ハ興行ニ著手シ其ノ當時ニ於テ偽作ト認メラレサリシモノハ本法施行後五年間仍之ヲ興行スルコトヲ得

第五十一條 第四十八條乃至第五十條ノ場合ニ於テハ勅令ノ定ムル手續ヲ履行スルニ非サレハ其ノ複製物ヲ發賣頒布シ又ハ興行スルコトヲ得ス

● 著作權ニ關スル登録手續

明治四十三年六月十五日  
内務省令第二十三號

改正 大正二年一月内務省令第一號  
著作權ニ關スル登録手續左ノ通之ヲ定ム

〔神奈川管〕

〔神奈川管〕

第一條 著作權ニ關スル登録ヲ受ケムトスル者ハ本手續ニ依リ内務大臣ニ願出ヘシ

第二條 登録願書ニハ左ノ區別ニ從ヒ各列記事項ヲ記載スルヲ要ス

一 相續登録ノ場合

著作權者ノ氏名

相續人ノ氏名、住所(外國人ハ國籍及住所)

二 讓渡又ハ質入登録ノ場合

著作物ノ題號及冊(箇)數

讓渡人又ハ質入人ノ氏名、住所(外國人ハ國籍及住所)

讓受人又ハ質取人ノ氏名、住所(外國人ハ國籍及住所)

二ノ二 信託登録ノ場合

著作物ノ題號及冊(箇)數

委託者、受託者、受益者及信託管理人ノ氏名住所(外國人ハ國籍及住所)

三 實名登録ノ場合

著作物ノ題號及冊(箇)數

著作權者ノ稱號若無名著作物ナルトキハ其ノ旨

著作權者ノ氏名、住所(外國人ハ國籍及住所)

發行者ノ氏名、住所(外國人ハ國籍及住所)

四 質權相續登録ノ場合

著作物ノ題號及冊(箇)數

質入登録ノ年月日及番號

質取人ノ氏名

第二編 保安 第一章 安寧



第二編 保安 第一章 安寧

五 實權讓渡登録ノ場合  
相續人ノ氏名、住所(外國人ハ國籍及住所)

實權讓渡人ノ氏名、住所(外國人ハ國籍及住所)

實權讓受人ノ氏名、住所(外國人ハ國籍及住所)

六 登録ノ更正、變更、抹消ノ場合  
著作物ノ題號及冊(箇)數

更正、變更、抹消ノ事項及其ノ理由

願人ノ氏名住所

前項第一號乃至第三號ノ場合ニ於テハ願書ニ著作物ノ明細書ヲ添附スルノ外尙第一號及第四號ノ場合ニ於テハ戶籍謄本ヲ添付スヘシ

第三條 著作物ノ明細書ニハ左ノ事項ヲ記載スルヲ要ス

- 一 著作物ノ題號
  - 二 著作者ノ氏名稱號
  - 三 著作ノ年月日
  - 四 發行又ハ興行ノ年月日若發行又ハ興行ヲ爲ササルトキハ其ノ旨
  - 五 著作物ノ内容又ハ體裁若著作物ノ體裁ヲ明瞭ナラシムル爲メ必要ナルトキハ其ノ圖面
  - 六 著作物ニ付登録ヲ受ケタルコトアル場合ハ前登録ノ年月日
- 第四條 內務大臣ハ第一條ノ願出アリタルトキハ之ヲ登録簿ニ登録シ官報ニ公告ス
- 第五條 登録簿ノ閱覽又ハ其ノ謄本若クハ抄本ノ下付ハ何人モ之ヲ請求スルコトヲ得

〔神奈川警〕

〔神奈川警〕

前項ノ請求ハ書面ヲ以テシ且ツ登録ノ年月日若クハ登録番號ヲ記入スヘシ

第六條 前條ノ請求ヲ爲サムトスル者ハ左ノ區別ニ從ヒ手数料ヲ納ムヘシ

一 登録簿ノ閱覽 金參拾錢

二 登録簿謄本ノ下付 原簿一枚毎ニ 金參拾錢

三 登録簿抄本ノ下付 金貳拾錢

前項ノ手数料ハ收入印紙ヲ用ユルモノトス

第七條 登録簿ノ閱覽ニ關スル日時ハ別ニ之ヲ定ム

附 則

本令ハ明治四十三年法律第六十三號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス(明治四十三年七月六日ヨリ施行)

明治三十二年內務省令第二十八號ハ之ヲ廢止ス

● 著作權者不明ノ著作物ニ關スル件

明治三十二年六月二十八日 內務省令第二十七號

著作權者不明ノ著作物ニ關スル件左ノ通之ヲ定ム  
著作權法第二十七條ニ依リ著作物ヲ發行又ハ興行セントスル者ハ其ノ由著作物ノ題號及著作者ノ氏名稱號等ヲ官報及東京ノ四社以上ノ重ナル新聞紙並ニ著作者ノ氏名住所明ナル場合ハ其ノ居住地ノ新聞紙ニ七日以上廣告スヘシ  
前項期日ノ最終日ヨリ六箇月以内ニ著作權者ノ出テサルトキハ之ヲ發行又ハ興行スルコトヲ得

● 登録稅收入印紙ノ消印方ノ件

明治四十年六月 內務省警發第一三號警保局長通牒

印紙ハ從來諸種ノ肉色ヲ以テ消印スルヲ例トセリ然ルニ此等肉色ハ化學的作用ニ於テ容易ニ洗滌除却シ得ルヲ以テ印紙ノ再用ヲ行フニ難セサルモノアルニ依リ當局ニテハ左記ノ通り著作權登録稅トシテ貼用納付スル收入印紙ノ消

第二編 保安 第一章 安寧

印ヲ調製シ目下之レヲ使用致居候處成績良好ニ有之右ハ消印押捺ノ際印紙面ノ一部ヲ切リ取リ再ヒ印紙ヲ使用シ得  
サル仕組ニ相成居候近來收入印紙消印ノ場合多キヲ加ヘ候折柄ニ付御参考ノ爲メ此段及通譯候也



- 一ハ外枠眞鍮
- 二ハ内枠護膜製
- 三ハ圓形鋼鐵針(捺ス時ハ圓形ニ針疵カ付)
- 四ハ護膜製
- 五ハ鋼鐵(捺ス時ハ口形ニ切レ取ル)

但三、五ノ部分ハ消滅シタルトキハ取替得ラル製作ナリ

### 第四節 御肖像、御紋章、標章

●御肖像ニ關スル件 明治二十五年十一月 內務省訓第七四一號

聖上  
皇太后宮

皇后宮御肖像販賣ノ儀默許ニ附セラレ候ニ付テハ販賣者ニ於テ取扱上自然不敬ニ涉ル等ノ所爲無之標別紙取締心得  
書ニ準據シ其向營業者ニ厚ク注意セラレヘシ

聖上  
皇太后宮

〔神奈川警〕

〔神奈川警〕

皇太后宮

東宮御肖像ト認ムヘキ寫眞畫銅石版木畫木版錦繪等ハ其尊號ヲ標記シアルト否トテ問ハス總テ御肖像ト看做スヘ  
シ

- 一御肖像ハ不敬ニ涉ルヘキ場所ニ掲ケ又ハ陳列セシムヘカラス
- 一御肖像ハ露店ニ於テ販賣セシムヘカラス
- 一扇子圖陶漆器織物其他引札類及販弄品等ニハ御肖像ヲ畫カシムヘカラス

●御肖像ニ關スル件 明治三十一年十二月二十八日 內務省諭告

御肖像ハ左ノ各項ニ準據シテ苟モ心得違ノ次第無之標厚ク注意ヲ加フヘシ  
右諭告ス

- 第一 天皇皇族ノ御肖像ハ其尊號御稱號ヲ標記シアルト否トテ問ハス御肖像トシテノ外ハ寫出スヘカラス
- 第二 御肖像ハ總テ粗造ニ流レ不敬ニ涉ルヘカラス
- 第三 御肖像ハ不敬ニ涉ルヘキ場所ニ掲ケ又ハ陳列スヘカラス
- 第四 御肖像ハ露店ニ於テ發賣頒布スヘカラス

●御肖像取締ニ關スル件 明治三十二年一月 內示第一號

御肖像取扱ニ關シ明治三十一年十二月二十八日內務大臣ヨリ諭告ヲ發セラレタルニ付テハ明治二十五年十二月內示  
第三十一號ハ自然廢止ニ歸スル義ニ候條今後ハ右諭告ニ基キ不都合無之様取締方注意セラレヘシ

●御肖像ニ關スル注意 大正九年二月二十七日 訓令第一〇號

近來新聞紙雜誌其ノ他ノ出版物ニ行幸啓又ハ大祭祝日等ニ際シ御肖像ヲ掲載セラルルコト尠ナカラス之レ新聞紙其  
ノ他ノ出版物ニ依リ皇室ノ御近況ヲ洽ク國民ニ紹介シ尊敬ノ念ヲ深カラシムルニ外ナラサルヘク其ノ主旨固ク各々

ヘキニアラスト雖モ領布ノ數漸ク増加スルニ伴ヒ不知不識ノ裡ニ之カ取扱ヲ粗略ニスル等ノ事アラムカ國民トシテ  
寔ニ恐懼ニ堪ヘス而シテ是等ノ行爲ニ對シ法令ヲ制定シ所謂ヲ以テ臨ムカ如キハ好マシカラサル義ナルヲ以テ青年  
會校友會或ハ衛生講話其ノ他多衆會同ノ機會ヲ利用シ苟モ御肖像ノ掲ケアル新聞紙類ヲ商品其他ノ包装用ニ供シ又  
ハ之レカ出版物ヲ露店若クハ露店ト相擇ハサル場所ニ掲出又ハ陳列スル等ノ事アラサルヘク懇切叮嚀ニ一般ノ注意  
ヲ促シ以テ之レカ取扱ヲ鄭重ニスルノ良風ヲ馴致セシムヘシ

●會符榜示等ニ禁裏御用等ノ文字ヲ書シ及提灯賣物等

ニ菊御紋章ヲ畫クヲ禁ス

明治元年三月二十八日  
太政官布告

禁裏御用或ハ禁裏御料又ハ禁裏御内杯ト會符榜示杭標札等ニ書記シ候儀ハ有之間敷事ニ候處往々見受候ニ付以來  
絶度相改 御用 御料ト而已書記イタシ候様被 仰出候事

但標札ハ姓名相記シ又ハ官名役名等記シ候儀不苦候事

一 提灯又ハ陶器其ノ外賣物等ニ御紋ヲ畫キ候事共如何ノ儀ニ候以來右ノ類御紋ヲ私ニ附候事絶度可禁止旨被仰出  
候事

但御用ニ付是點被免之分モ一應伺出可申事

右ノ通被仰出候條末々迄不洩可申違事

●菊御紋章ニ關スル件

明治四年六月十七日  
太政官布告

菊御紋禁止ノ儀ハ兼テ御布告有之候處猶又向後由緒ノ有無ニ不關皇族ノ外總テ被禁止候尤御紋ニ紛敷品相用候儀モ  
同様不相成候條相改可申事

但從來諸社ノ社頭ニ於テ相用來候分ハ地方官ニ於テ取調可申出候事

●社寺菊御紋濫用停止

明治二年八月二十五日  
太政官布告

社寺ニテ是迄菊御紋用ヒ來ル者不少候處今般 御改正相成社ハ伊勢八幡上下賀茂等寺ハ泉涌寺般若舟院等之外ハ一切  
被差止候旨被 仰出候事

(神奈川警)

(神奈川警)

但格別由緒有之社寺ハ由緒書ヲ以テ可伺出候事

●菊御紋改メノ件

明治二年十月十日  
留守官達無難

菊御紋ノ儀於親王家ハ十四五葉以下或ハ裏菊等品ヲ相用可申旨兼テ被仰出有之候處宮門跡黑御所華族等ニ於テモ右  
ニ準シ候儀勿論ノ事ニ候是迄親王家始メ社寺ノ向ヘ寄附ニ相成來候分 朝廷御寄附ニ紛敷甚不都合ノ次第ニ付早々  
相改候様從東京御沙汰候間此段相違候事

●菊御紋ニ紛敷品ヲ社寺ニ寄附スルヲ禁ス

明治三年三月十七日  
太政官布告

一 親王家ニ而用來候菊御紋葉替又ハ裏表等品ヲ替ヘ御紋ニ不紛様可致旨先般 御沙汰之通ニ候條右紋付之品々社寺  
ヘ致寄附候儀堅禁止被 仰出候事

●宮堂上ヨリ菊御紋ノ品祈願所ヘ寄附禁止

明治二年二月二十八日  
太政官布告

從來宮堂上ヨリ諸國寺院ヘ祈願所ト唱ヘ安ニ 菊御紋附ノ品々寄附致候儀無謂次第ニ付堅ク禁止被 仰出候尤新ニ  
祈願所ニ致候儀モ一切不相成候此旨可相心得様 御沙汰候事  
但無據舊來之由緒ヲ以 御紋附ノ品其儘致寄附且新ニ祈願所ニ致置度分ハ其筋ヘ伺出可受御差圖候事

●官幣社社殿ノ裝飾及社頭ノ幕提燈ニ限リ菊御紋ヲ用

ユルヲ許ス

明治七年四月二日  
太政官達

各通 (開拓使) 京都府 大阪府 兵庫縣 埼玉縣 (足柄縣) 千葉縣 (新治縣) 栃木縣 奈良縣  
(堺縣) 愛知縣 滋賀縣 鳥根縣 和歌山縣 (小倉縣) 宮崎縣 鹿兒島縣  
社寺ニテ菊御紋相用候義禁止ノ旨明治二年己巳八月布告候處自今官幣社社殿ノ裝飾及社頭之幕提燈ニ限リ菊御紋相  
用不苦候條此旨管内官幣社ヘ可相違事

●國幣社社殿裝飾等ニ菊御紋ヲ用ユルヲ許ス

明治十二年四月二十二日  
太政官達第二十號

國幣社所在(使)府縣

社寺ニテ菊御紋相用候儀ニ付明治二年八月布告ノ趣モ有之候處自今國幣社社殿ノ裝飾及社頭ノ幕提燈ニ限リ菊御紋相用不苦候條此旨管內國幣社ヘ可相違事

●菊御紋掲表禁止布告前神佛堂ニ裝飾シタル分ニ限リ存置ヲ許ス

明治十二年五月二十二日  
太政官達第二十三號

(使)府縣

一般社寺ニ於テ菊御紋相用候儀不相成旨明治二年八月布告ノ趣モ候處右布告前神佛堂ニ裝飾シタル分ニ限リ其儘存シ置苦シカラス候此旨相違候事

●社寺ニ於ケル菊御紋章ノ件

明治十二年六月十九日  
布達乙第百二十三號

郡(區)役所

一般社寺ニ於テ菊御紋相用候儀不相成旨明治二年八月公布ノ趣モ有之候處右公布前神佛堂ニ裝飾シタル分ニ限リ其儘存シ置苦シカラサル旨其筋ヨリ違有之候條其旨右註飾アル社寺ヘ可及告示此旨相違候事

●菊御紋章ヲ畫キタル賣品取締方

明治十三年四月五日  
宮内省達乙第二號

府縣

菊御紋章ヲ賣物等ニ畫キ候儀並紛數品相用候儀モ不相成旨明治元年三月二十八日明治四年六月十七日太政官布告ノ趣モ有之候處近來往々賣品ニ御紋章ヲ畫キ候向有之哉ニ付取締方一層注意可致候此旨相違候事

●內國勸業博覽會ノ賞牌ヲ製造物品又ハ看板廣告等ヘ附スルヲ許ス

明治十一年四月二日  
內務省布達甲第九號

(神奈川管)

(神奈川管)

明治十年內國勸業博覽會ニ於テ授與ノ賞牌ハ受領人ノ適宜ニ任セ右賞牌ノ寫ヲ製造ノ物品又ハ其外ト包ミ或ハ看板廣告書等ノ類ヘ相付ケ候義ハ不苦候條此旨爲心得布達候事

●賞牌中菊御紋章ノミヲ模寫シテ行使スルヲ得サル件

明治二十九年三月  
示令第一三號

內國勸業博覽會ニ於テ授與ノ賞牌ヲ寫シ製品又ハ看板廣告書ニ添付スルハ明治十一年四月內務省布達第九號ニ據リ差支無之候處右賞牌ヲ略シ單ニ菊御紋章ノミヲ寫シ賣賣等ノ文字ヲ其ノ上下又ハ左右ニ記シ商品製品若クハ看板廣告ノ類ニ添付スルハ不相成旨ニ付見當リ次第説諭ヲ加ヘ撤去セシメラルヘシ

●菊御紋章ニ關スル件

明治二十九年四月十三日  
警甲第一三號警保局長通牒

內國勸業博覽會ニ於テ授與ノ賞牌眞影ヲ寫シ製品又ハ看板廣告書等ニ添付候儀不苦旨ハ明治十一年四月本省布達甲第九號ノ趣モ有之候處近來右賞牌ノ內單ニ菊御紋章ノミヲ寫シ賣賣等ノ文字ヲ其上下又ハ左右ニ記シ商品製品若クハ看板廣告ノ類ニ添付スル者有之趣ニ候處右布達ノ趣旨ハ全ク賞牌ヲ其儘寫シタルモノニ限ル義ニシテ賞牌ヲ略シ菊御紋章アル部分ノミ貼付若クハ掲出セシムル義ハ不都合ト被存候條右等ノモノハ御差止ノ上相當御取締相成度依命此段及通牒候也

●桐章ノ使用ハ禁止ニアラサル件

明治三十年七月二十九日  
宮内省內事課回答丙第三二二號

內務書記官宛

本月二十七日付文第四八一號桐章使用ノ儀ニ付御照會之趣右桐章ハ從來禁令以外トシテ取扱居候間左様御承知有之度此段及御答候也

●菊御紋章取締ニ關スル件

明治三十三年八月  
示令第一四七號

菊御紋章禁制ノ義ニ付テハ明治元年三月同四年六月太政官布告ヲ公布セラレ尙取締方ニ付テハ明治十三年四月宮内省乙第二號達ノ趣モ有之候處爾來事業ノ勃興ニ伴ヒ各種ノ商品廣告看板又ハ私著ノ文書圖書等ニ之ヲ私用シ近時ニ至リ濫用ノ弊漸ク滋ケ取締上默過スヘカラサル義ニ有之今般主務大臣ヨリ右ニ關シ訓令之次第モ有之候條此際一般

ニ禁制ノ趣旨諭告大要左記標準ニ依リ取扱ヒテ爲シ禁止ノ命ニ應セサル者ニ對シテハ懸賞説諭ヲ加ヘ其從ハサル者アルニ於テハ行政執行法第五條第一項ニ依リ處分ノ強制ヲ期セラルヘシ

左記

- 一 印刷描出其ノ他方法ノ如何ニ拘ハラズ商品、商品容器、封皮、引札、廣告、看板、建築物ノ門扉門頭又ハ其他ノ物件ニ菊御紋章若クハ菊御紋章類似ノ圖形ヲ表出シ之ヲ發賣頒布シ又ハ之ヲ觀覽ノ用ニ供スルコトヲ得ス
- 二 帝室若クハ政府ノ授與ニ係ル賞牌、賞狀、感狀、免狀ノ類ヲ節略模寫シテ菊御紋章ノ部分ヲ前項ノ物件ニ摺出私用スルコトヲ得ス
- 三 私著ノ文書圖畫ニ在テハ御陵圖御系譜御歴代ノ尊號ヲ掲ケル場合ト雖菊御章若ハ菊御紋章類似ノ圖形ヲ之ニ表出スルコトヲ得ス
- 四 帝室若ハ政府ノ所有若ハ授與ニ係ル物件ノ形狀ヲ復寫、攝影、模圖等ニ依リテ表出シタルモノハ前各項ノ限リニ在ラス

### ●菊御紋章取締ニ關スル件

明治三十三年八月十八日  
內務大臣訓令第八二三號

菊御紋章禁制ノ儀ニ付テハ明治元年三月同四年六月太政官布告ヲ公布セラレ尙取締方ニ付テハ明治十三年四月宮内省乙第二號達ノ趣旨モ有之候處爾來事業ノ勃興ニ伴ヒ各種ノ商品廣告看板又ハ私著ノ文書圖畫等ニ之ヲ利用シ近時ニ至リ濫用ノ弊漸ク滋ク取締上默過スヘカラサル儀ニ候條此際貴管下一般ニ禁制ノ趣旨ヲ諭告シ大要左記標準ニ依リ取扱ヲ爲シ禁止ノ命ニ應セサル者ニ對シテハ懸賞説諭ヲ加ヘ其ノ從ハサル者アルニ於テハ行政執行法第五條第一項ニ依リ處分ノ強制ヲ期セララルヘシ

右訓令ス

〔參照〕 左記 (但左記ハ明治三十三年八月示令第一四七號ト同一ニ付略ス)

### ●菊御紋章取締ニ關スル件

明治三十四年十一月二十五日  
警發第一五一號警保局長

菊御紋章及其ノ類似ノ圖形ニ關スル大阪府知事ノ照會ニ對シ別紙ノ通り回答致置候條御參考ノ爲メ此段通知候也

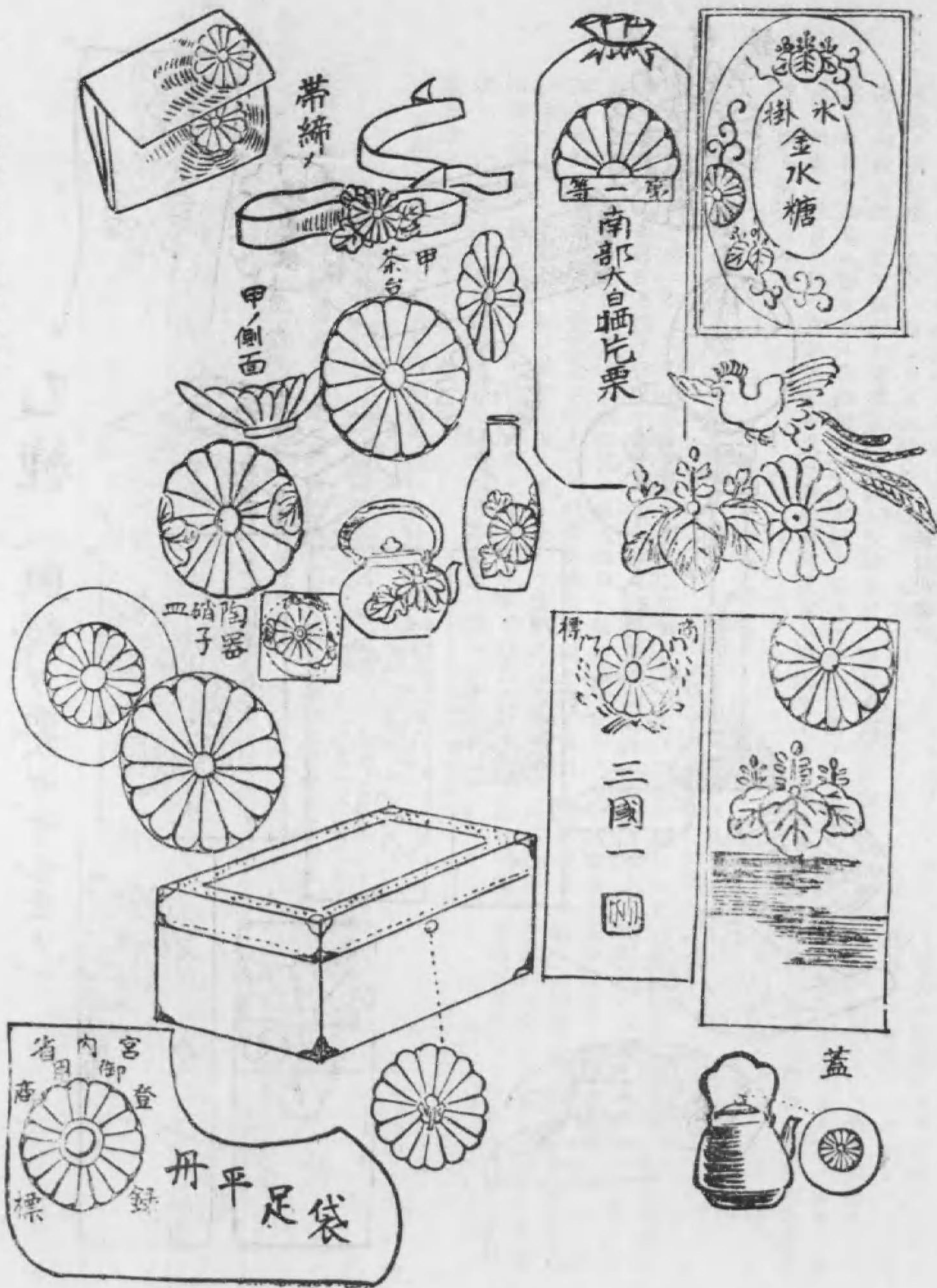
(別紙)

〔神奈川警〕

〔神奈川警〕

## 甲種 (取締ヲ要スルモノ)



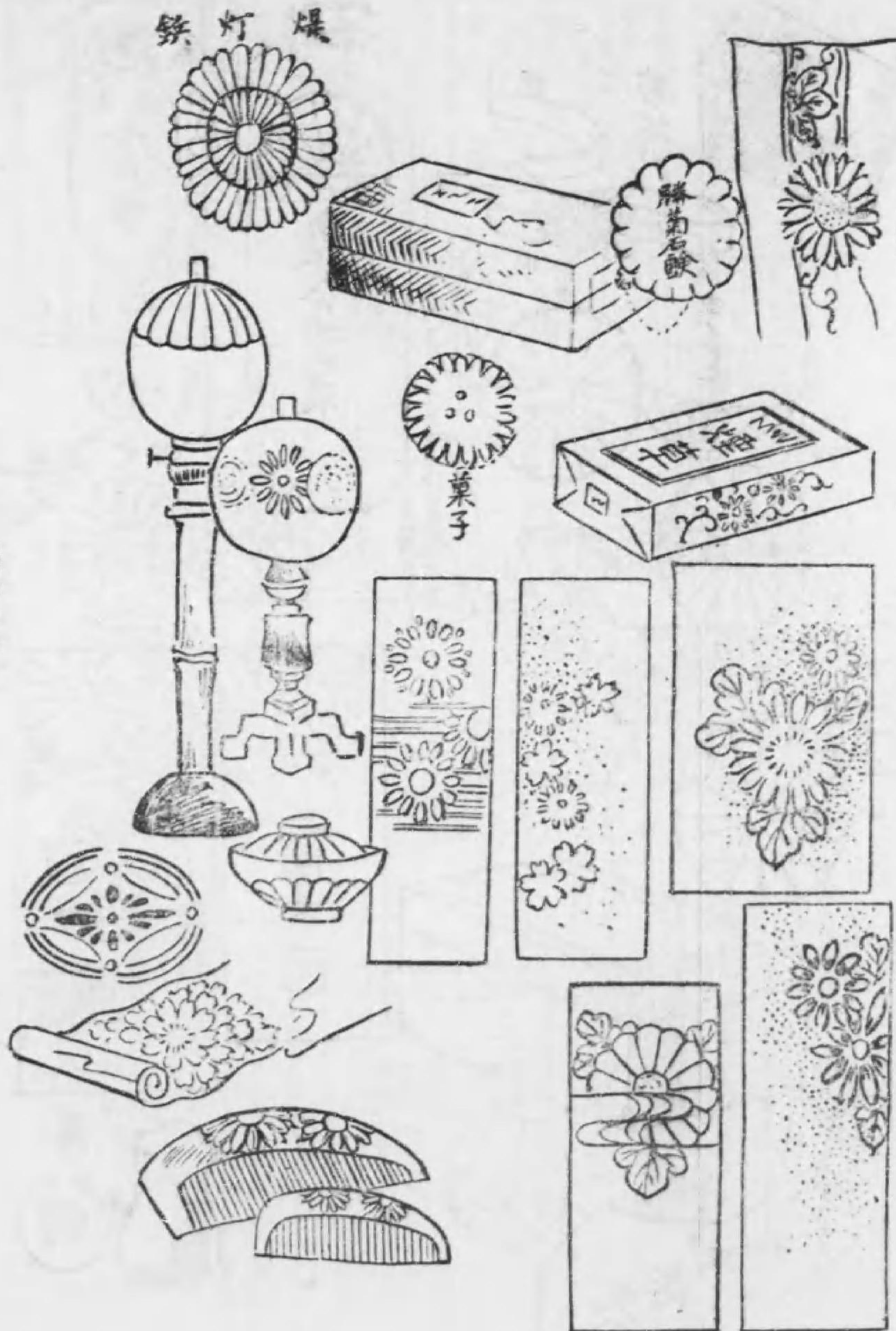


〔神奈川管〕



〔神奈川管〕

乙種 (取締ヲ要セザルモノ)



〔神奈川警〕

菊御紋章取締ノ件

明治三十七年八月十二日  
内示第八號

〔神奈川警〕

菊御紋章取締ノ件ニ付テハ明治三十三年八月示令第一四七號ヲ以テ其標準ヲ指示シ及示令置候處自今私著ノ文書圖畫ニシテ御陵園御系譜御歴代ノ尊號ヲ掲ケル場合ハ御肖像勅語ヲ掲ケルニ方リ之ト相俟テ菊御紋章ヲ表示シ又私人傳來ノ家紋菊一文字ノ類ニシテ全然菊御紋章ト別種ニ屬スルモノノ如キハ取締上寛假スルモ差支ヘ之ナカルヘク從來菊御紋章竝ニ之ト類似ノ圖形表出ニ關シ取締勳行ノ趣旨ハ商品廣告其ノ他ニ於テ之ヲ濫用スルノ弊ヲ禁遏スルニ在ルヲ以テ是等ニ對シテハ依然嚴密ナル取締ヲ爲スヘキハ勿論ナリト雖モ如上例示ノ類ニ對シ私人ニ於テ帝室ニ對スル尊敬ノ誠意ヲ以テ之ヲ表示シ又ハ全然菊御紋章ト別種ニ屬スルモノノ如キハ不問ニ附シ可然候條是斟酌シ宜嚴宜キニ從ヒ措置スヘシ

菊御紋章取締ノ件

明治三十七年八月九日  
内務大臣訓令第五〇七號

菊御紋章取締ノ件ニ付テハ明治三十三年訓令第八二二號ヲ以テ其ノ標準ヲ指示シ及訓令置候處自今私著ノ文書圖畫ニシテ御陵園御系譜御歴代ノ尊號ヲ掲ケル場合又ハ御肖像勅語御詠(御詠ナルコトヲ明記スルモノニ限ル)ヲ掲ケルニ方リ之ト相俟テ菊御紋章ヲ表示シ又ハ私人傳來ノ家紋菊一文字ノ類ニシテ全然菊御紋章ト別種ニ屬スルモノノ如キハ取締上寛假スルモ差支ヘ之ナカルヘク從來菊御紋章竝ニ之ト類似ノ圖形表出ニ關シ取締勳行ノ趣旨ハ商品廣告其ノ他ニ於テ之ヲ濫用スルノ弊ヲ禁遏スルニ在ルヲ以テ是等ニ對シテハ依然嚴密ナル取締ヲ爲スヘキハ勿論ナリト雖モ如上例示ノ類ニ對シ私人ニ於テ帝室ニ對スル尊敬ノ誠意ヲ以テ之ヲ表示シ又ハ全然菊御紋章ト別種ニ屬スルモノノ如キハ不問ニ付シ可然候條是斟酌シ宜嚴宜キニ從ヒ措置セラルヘシ

菊御紋章取締ニ關スル件

大正七年九月十三日  
内務省北警第五八號警保局長通牒

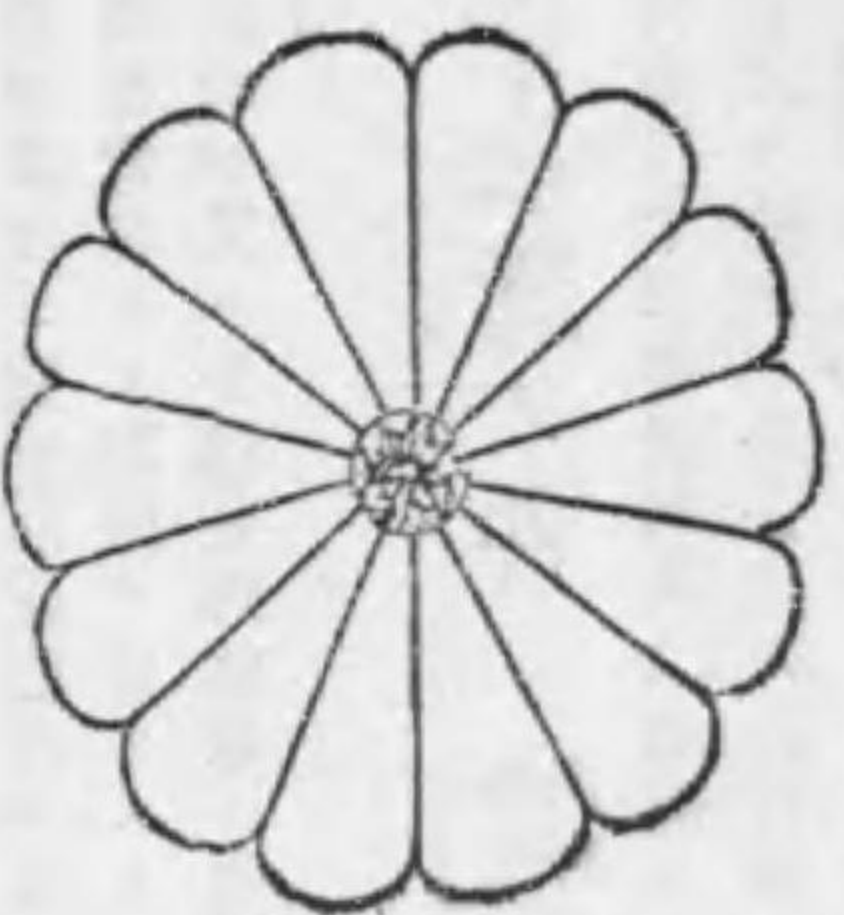
本件ニ付別紙甲號北海道廳長官ヨリ何書ニ對シ乙號ノ通牒取計置候間御承知相成度候

第二編 保安 第一章 安寧

(甲號)

菊御紋章ニ關スル件(大正七年八月六日高祕收第三、三〇八號)

本月一日ヨリ管下札幌ニ於テ開催中ノ開道五十年紀念博覽會々場内ニ於テ東京湘南木工場出張所加茂増五郎ナル者先帝陛下明治二年京都ヨリ東京ヘ行幸ノ際ニ於ケル東海道五十三次ノ光景ヲ模型及油繪ヲ以テ表示シタルモノヲ公衆ニ觀覽セシメ居リ候處各所ニ別紙略圖ノ如キ菊御紋章ヲ染抜キタル幕ヲ張リ油繪中行在所及御乘馬ノ鞍ニモ同様菊御紋章ヲ描キタルモノ有之右ハ模型作製當時東京ニ於テ平山成信會長トナリ宗務課長遠藤久敬及警視廳監督ノ下ニ撰寫シ或ハ作製シタルモノニシテ既ニ各地ニ於テ興行ノ公衆ノ觀覽ニ供シ來レル旨申立居リ候モ御紋章染抜キノ幕ヲ使用スルカ如キハ菊御紋章禁止ニ關スル布告ノ趣旨ニモ相反シ穩當ナラサルニ思料セラレ候ニ付取締上何分ノ御指揮相仰キ度此段御伺候也



(乙號)

菊御紋章ニ關スル件依命通牒(大正七年九月十三日北警第五八號)

客月六日付高祕收第三、三〇八號ヲ以テ開道五十年紀念博覽會ニ於テ明治天皇明治二年京都ヨリ東京行幸ノ際ニ於ケル東海道五十三次ノ模型及油繪ノ出品者ニ於テ菊御紋章描出ノ幕使用ノ件ニ關シ御伺出相成候處右ハ御意見ノ通

〔神奈川警〕

〔神奈川警〕

穩ナラサル義ト存候間使用御差止相成度尙伺書中ニ記載有之候行在所及御乘馬ノ鞍ニ表示ノ御紋章其ノ他ノ事實ニ付テハ別紙宮内省トノ照覆ニ依リ御承知相成度本件別ニ指令不相成候間右申進候也

(別紙)

菊御紋章ニ關スル件(大正七年九月二日內務省警北第一三四號)

目下北海道ニ於テ開催中ノ開道五十年紀念博覽會ニ於テ 明治天皇明治二年京都ヨリ東京ヘ行幸ノ際ニ於ケル五十三次ノ光景ヲ模型及油繪ヲ以テ表示シタルモノヲ一般公衆ノ觀覽ニ供シ居リ候處右出品者ニ於テ菊御紋章ヲ描出シタル幕使用致居候趣キヲ以テ別紙寫ノ通措置方ニ關シ北海道廳長官ヨリ稟伺有之本件ハ菊御紋章類似(別紙ニ依レハ花辨十四)ノ圖形ヲ幕ニ描出シタルモノニ係リ穩カナラサル義ト存候間使用差止方相當ト存居候ハ共別紙中模型作製及油繪ノ撰寫ハ總務課長及警視廳ニ於テ監督ノ上調製候趣記載有之候ニ付爲念警視廳ヘ事實及問合候處一昨年奠都五十年博覽會ヲ上野ニ開催ノ節陳列シタル際入場者ニ對シ不敬ニ涉ルコト無之様注意セシメ觀覽ニ供シ候事有之候モ同廳監督ノ下ニ調製候事實ニ付テハ當時ノ記錄等無之斯ル事實ハ可無之トノコトニ有之候就テハ本件似寄ノ事實ニテモ有之候哉參考迄ニ承知致度尙別紙記載ノ行在所及御乘馬ノ鞍ニ菊御紋章表示ノ分ハ相當ノ手續ヲ經テ帝室御所有ニ係ルモノヲ撰擬撰製シ若シ拜寫シタルモノニ有之候哉自然右様ノモノニ無之トスルモ本件菊御紋章取締ニ關シテハ前項ノ使用ヲ差止ムル外他ハ帝室ニ對シ敬意ヲ表スルノ至誠ニ出テタルモノト認メ不問ニ付シ可然被存候得共以上ノ事實竝御意見承知致度候

同件(大正七年九月七日宮内省總務課第一九二號)

九月二日附警北第一三四號照會ノ件模型作製及油繪ノ撰寫ニ關シ監督若クハ之ニ類スル指示等ヲ爲シタルコト無之行在所及御乘馬ノ鞍等ニ關シテモ亦撰寫等ヲ許シタルコト無之候ヘ共取締方ニ關シテハ貴見ノ通ニテ差支無之ト存候

●香川縣誕生寺紋章ヲ菊御紋章ト別箇ノ紋章ト看做スノ件

大正十一年十二月二十八日  
警發乙第四四六號內務省警保局長



香川縣仲多度郡善通寺町弘法大師誕生紀念法參會ニ於テ印刷物(會員名簿)紀念章等ニ別紙圖樣ノ紋章描出致居候處右紋章ニ付テハ菊御紋章類似トシテ差止處分ニ出テラレタル向モ有之候へ共本件紋章ハ相當大サノ圖經内ニ善ノ字ヲ描出シタルモノニシテ一見菊御紋章ト誤別スルコト容易ナルモノニモ有之菊御紋章ト全然別箇ノ紋章ト看做シ取締上不同ニ附シ度旨ヲ以テ今回宮内省ト送協議候處別紙寫ノ通格別意見無之趣回答ノ次第モ有之候間明治三十七年訓第五〇七號訓令末段ノ趣旨ニ依リ御取扱相成様致度右申進候也



●菊御紋章ニ關スル件

大正十二年七月三日 警發乙第三一九號ノ内警保局長通牒

別紙甲號ノ通宮内省へ及照會候處乙號ノ通回答有之候條御參考迄此段及通牒候也

(甲號)

菊御紋章ニ關スル件(大正十二年七月三日警發乙第三一九號)

佐賀縣西松浦郡有田町陶器行商人ニ於テ別紙寫ノ通り菊御紋章類似ノ圖樣描出ノモノ販賣致居候件ニ關シ之カ取締ニ付同縣ヨリ問合有之候處本品製造元ハ長崎縣ニシテ九州方面ニ於テハ相當販路ヲ有シ其ノ圖樣ハ果實密柑ノ斷面ヲ描出致候モノニ有之哉ニ聞及候本件ハ菊御紋章ニ一見紛ハシキ廉モ有之様被存候得共模樣ノ交錯致居候點モ有之不同ニ附シ度存候得共一應御意見承知致度候

(神奈川警)

(神奈川警)

(別紙寫)

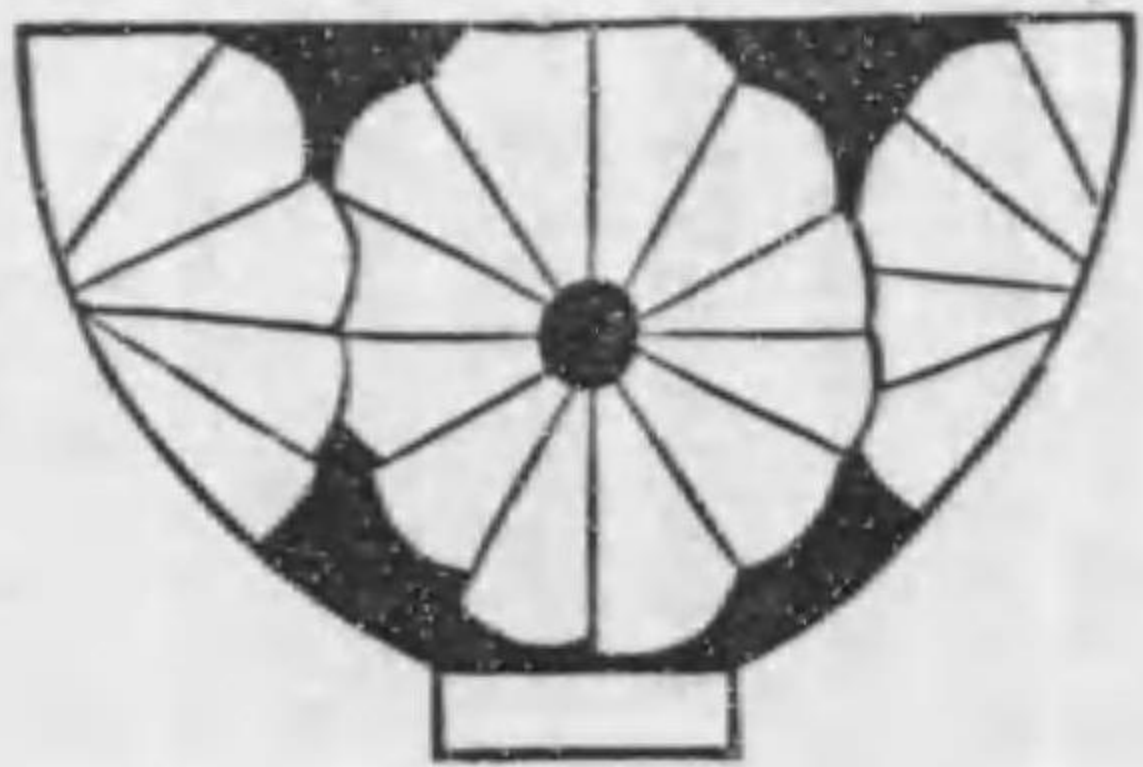
千茶碗

面上ニ内ヲ見テ見ルニ面



直徑二分五分

側面ヨリ見テ見ルニ面



高サ一寸五分 花繪ノ色ハ藍色

(乙號)

(大正十二年七月五日第一六四號)(宮内大臣官房庶務課長回答) 本月三日付警務受第三一九號菊御紋章ニ關スル件照會ノ趣了承仕リ異存無之候

●菊御紋章取締ニ關スル件

大正十三年九月八日 十三保發第二四九號

各學校ノ御眞影奉安殿又ハ奉安室ニ菊御紋章描出ノ義ニ付今般別紙ノ通り警保局長ヨリ通牒有之候條此段及通牒候也

追テ別紙通牒文中「學校ヨリ直接申出タルモノニ限リ」トハ取締官廳ノ諒解ヲ得タルモノト云フ意味ニシテ假令取締官廳ノ諒解ヲ得ス描出シタリトスルモ取締官カシムヘシト云フニアラサルヲ以テ爲念申添候

(別紙)

菊御紋章取締ニ關スル件通牒(大正十三年九月二十九日內務省發警第六六號)

各學校御眞影奉安殿又ハ奉安室ニ菊御紋章描出ノ義ハ從來之ヲ差許ササルノ取扱ニ相成居候處今後學校ヨリ直接申出タルモノニ限リ之ヲ描出テ差許スモ支障無之候條右御含ノ上御處理相成度本件ハ宮内省トモ内議濟ニ有之候也

●菊御紋章取締ニ關スル件

大正十三年九月二十四日 警保局長知事宛

本件ニ關シ客月二十九日付發警第六六號ヲ以テ及通牒置候處右ニ付菊御紋章描出ニ當リ學校ヨリ直接申出ヲ爲スヘキ官廳ニ付往々御問合セノ向モ有之候處右ハ當該取締警察官憲ノ指示シタルモノト御承知相成度爲念右申進候也

●菊御紋章取締ニ關スル件

大正十三年十月十日 十三保收第一九一九一號

首題ノ件ニ關シ內務省警保局長ヨリ別紙ノ通り通牒有之候條依命此段及通牒候也

(別紙)

菊御紋章取締ニ關スル件通牒(大正十三年十月二日警保局長發甲第一〇三號)

首題ノ件ニ關スル別紙甲號茨城縣知事照會ニ對シ乙號ノ通り回答致置候間御參考迄申進候也

(甲號)

菊御紋章取締ニ關スル件照會(大正十三年九月十九日學視第四九六號)

標記ノ件本年八月二十九日內務省發警第六六號御通牒ノ處右學校ノ御眞影奉安殿又ハ奉安室前ニ掲用スヘキ幕ニ菊御紋章ヲ描出スルコトモ差許サル義ニ有之候哉差掛ヲ疑義ニ互リ候ニ付至急何分ノ御回報相成度此段及照會候也

(乙號)

追テ本縣ニ於テハ多數出願ノ向有之狀況ニ付乍序申添候

[神奈川警]

[神奈川警]

菊御紋章取締ニ關スル件回答(大正十三年十月十日警保局長發乙第一四七七號)

首題ノ件ニ關シ客月十九日付學視第四九六號ヲ以テ御照會有之候處八月廿九日發警第六六號當局通牒ハ奉安殿又ハ奉安室ニ掲用スヘキ幕ノ如キ轉用ノ容易ナルモノニ迄菊御紋章描出ヲ認ムルノ趣旨ニ無之候間御承知相成度候

●菊御紋章取締ニ關スル件

大正十三年十一月十四日 十三保收第二二八六七號保安課長通牒

首題ノ件ニ關シ內務省警保局長ヨリ別紙ノ通り通牒有之候條相當御留意相成度此段及通牒候也

(別紙)

菊御紋章取締ニ關スル件通牒(大正十三年十一月七日警保局長發甲第一二八號)

近來菊御紋章及之カ類似ノ紋章ヲ商品其ノ他ニ描出使用スルモノ不勝之ニ對シテハ相當御措置ノ上其ノ圖樣添付御報告ノ向有之候處右圖樣中ニハ御紋章描出ノ程度ニ達セズ花辨ノ形狀生花ニ擬シタル意匠ト認ムヘキモノ往々有之尤モ本件ノ區分ニ付テハ其ノ限界ヲ定ムルニ於テ困難ノモノニ有之候得共商品等ノ中ニハ其ノ販路ノ廣ク各地ニ渡リ居リ候モノモ有之處分上慎重注意ヲ要スヘキ義ト存候從來御報告有之候向ノ送付圖樣ニ徵スルニ昨今各地ニ於テ販賣致居候櫛笄簪類ニ菊花ヲ描出セルモノノ如キ其ノ中ニ就キ花辨ノ確然紋型ヲ爲シ一見菊御紋章若ハ之カ類似ト認メラルモノニ對シテハ取締上相當措置スヘキハ勿論ニ有之候得共其ノ多クハ紋型ヲ爲サス花辨ノ上部稍彎曲セル等生花ニ擬シタリト認ムルチ相當トスヘク殊ニ其ノ描出セシ花樣概ネ極小ニシテ中ニハ枝葉ト交錯纏絡シ格別目立タサルモノモ有之是等ハ不問被差置可然ト存候間取締上苛察ニ失セサル様御配慮相煩度本件ハ販賣業者、製造業者等ニ於テ警察取締ニ因テ被ムルノ影響寔ニ不少處分上慎重考慮ヲ要スヘキ義ニ有之爲念右申進候也

●菊御紋章取締ノ件通牒

大正十三年十二月十四日 警保局長發甲第一三九號內務省警保局長通牒

十二月二日付高第一二五六二號靜岡縣知事報告ノ本件ニ關シ同月二十八日別紙ノ通り同縣知事ニ通牒致置候間御了知相成度候

(別紙)

菊御紋章取締ノ件通牒(大正十三年十月二十八日警保局長發乙第一六〇〇號)

內務省警保局長ヨリ靜岡縣知事宛

首題ノ件ニ關シ本月二日付高第一二五六三號ヲ以テ御報告有之候處右褒賞之記ヲ其ノ原文ト照合スルニ原文中「除蟲菊」トアルヲ「のみとり菊」ト改メタル以外ハ總テ原文ト同一ニシテ褒狀ヲ節略模寫シテ菊御紋章ノ部分ヲ描出使用シタルモノトハ難認ク明治三十三年八月訓第八二三號第二項反面ノ趣旨ニ依リ取締上不問ニ附シ置カレ可然モノト思料セラレ候間將來御取締上御一考相煩度候

●皇室ニ關スル文字ヲ商品其他ノ物件ニ濫用取締ノ件

明治三十四年十二月二十三日  
内務省訓令第二十號

廳府縣 東京府  
ヲ除ク

近來往々客種ノ商品容器封皮引札廣告看板等ノ物件ニ於テ帝室御用東宮御用其ノ他皇室ニ關スル文字ヲ濫用スル者ナキニアラス右ハ明治元年(三月)太政官布告ノ精神ニ違背シ種カナラサル儀ニ付心得違ノ者ナキ樣嚴重取締ルヘ

●皇室ニ關スル文字濫用取締

明治三十四年十二月  
告諭

近來各種ノ商品、商品容器、封皮、引札、廣告、看板等ノ物件ニ於テ帝室御用、東宮御用、宮内省御用其ノ他皇室ニ關スル文字ヲ濫用スルモノ往々有之哉ノ趣右ハ明治元年三月太政官布告ノ精神ニ違背シ種カナラサル儀ニ付自今右等心得違ノ儀無之樣注意スヘシ

明治三十六年十月  
示令第九七號

天皇陛下 御用御覽宮内省御用等ノ文字ヲ商品引札ニ表出スル儀ニ付テハ從來相當取締相成居候處往々同様ノ文字ヲ外國文ヲ以テスル場合ニ抹消等ノ處分ヲ爲サシメス一見不推衡ノ觀ヲ呈スルモノ有之候條將來如斯場合ニ於テハ單ニ日本文ノミニ止メス外國文ニ就テハ同様相當措置セラルヘシ

〔神奈川管〕

●勳章記章褒章ノ佩用取締ニ關スル件

明治四十一年十二月二日  
勅令第二百九十二號

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ勳章記章褒章ノ佩用取締ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム  
第一條 勳章又ハ布告、勅令ニ依リ制定セラレタル各種ノ記章、褒章ヲ佩用シタル者又ハ其ノ佩用ノ停止ニ違反シタル者ハ五十圓以下ノ罰金、拘留又ハ科料ニ處ス外國勳章、記章ノ佩用禁止若ハ停止ニ違反シタル者又ハ佩用免許狀ナクシテ佩用シタル者亦同シ  
第二條 勳章又ハ布告、勅令ニ依リ制定セラレタル各種ノ記章、褒章ニ類似シタル標章ヲ佩用シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス外國勳章ニ類似シタル標章ヲ佩用シタル者亦同シ

附則

明治二十八年勅令第百十八號ハ之ヲ廢止ス  
日本赤十字社ノ記章ノ佩用ニ關スル例規ハ本令ニ依リ變更ヲ受クルコトナシ

●赤十字記章名稱等使用者處罰ノ件

大正二年三月八日  
勅令第十六號

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ赤十字記章名稱等使用者處罰ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム  
第一條 擅ニ白地ニ赤十字ノ記章、赤十字若ハ「シエネツア」十字ノ名稱又ハ之ト類似ノ記章若ハ名稱ヲ使用シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス  
擅ニ「シエネツア」條約ノ原則ヲ海戰ニ應用スル條約第五條ニ定メタル特殊徽章又ハ之ト類似ノ徽章ヲ船舶ニ使用シタル者ノ罰亦前項ニ同シ  
第二條 戰時ニ於テ擅ニ赤十字ノ記章又ハ之ト類似ノ記章ヲ表示シタル旗又ハ臂章ヲ使用シタル者ハ三月以下ノ禁錮ニ處ス前條第二項ノ罪ヲ犯シタル者亦同シ

附則

本令ハ大正二年十月二十二日ヨリ之ヲ施行ス

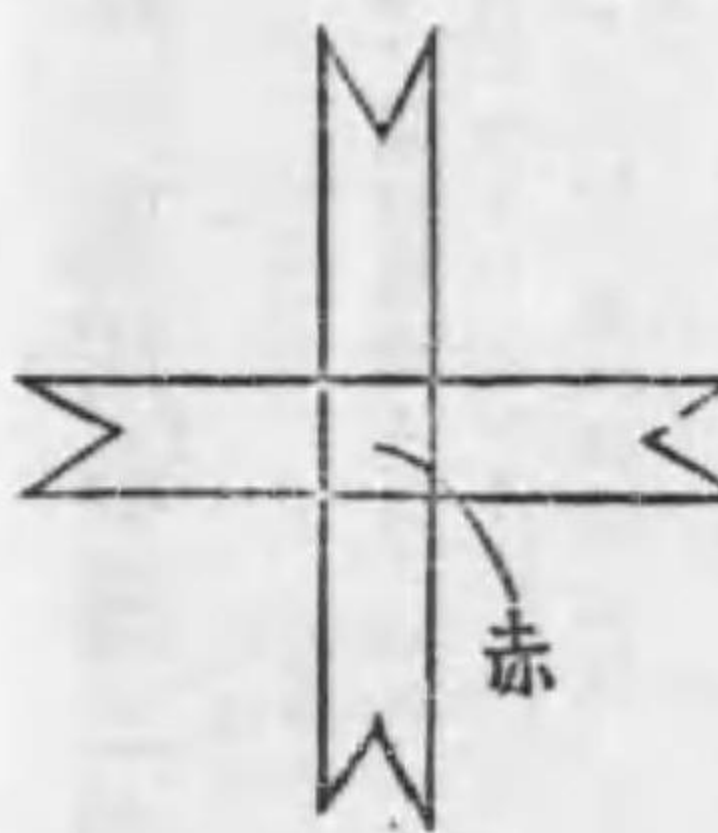
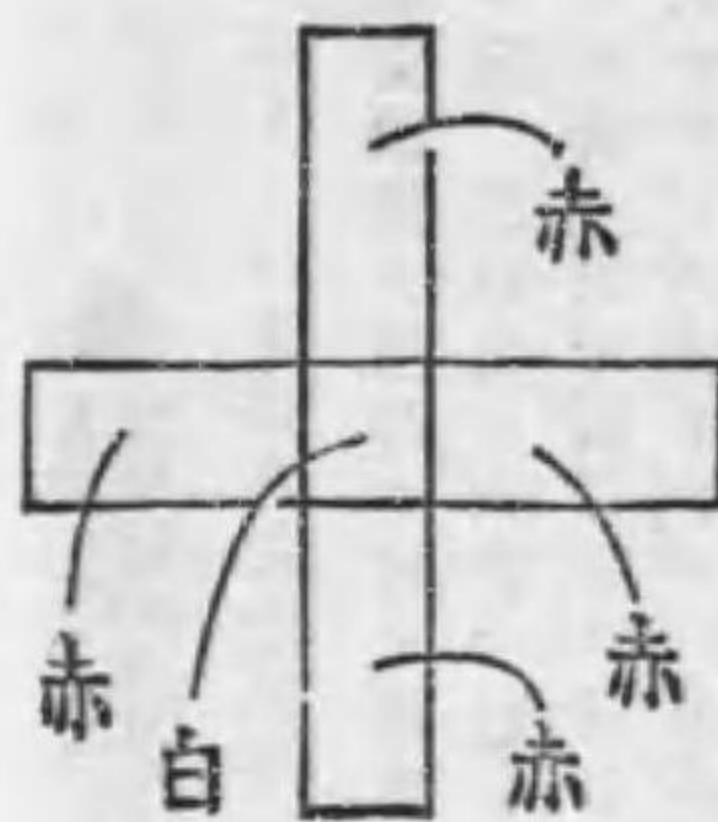
●赤十字記章名稱等取締ノ件依命通牒

大正二年十月二十一日  
內務省第一五三九號內務省警保局長通牒

本年三月勅令第十六號赤十字記章名稱等擅用者取締ノ件ニ付テハ別紙ノ區別ニ準據シ御取扱相成度尤モ右ハ大要ヲ列舉シタルニ過キサル義ニ有之候間實際執行ノ場合ニ於テハ種々ノ事例相生スヘク思料被致候ニ付彼是比較對照ノ上別紙ニ例示セルモノト類似候モノ、如キハ大體別紙ノ區別ニ準シ適應ノ御措置相成度尙本件ハ將來赤十字ノ記章及名稱等ヲ擅用スルモノナカラシムルニ有之候ハ申進候迄モ無之義ニ候間取締ノ目的ヲ達スルヲ以テ趣旨ト爲シ處罰ヲ目的トスレ様ノ事無之様致度存候ニ付貴管下ニ於テ商品其ノ他ニ之ヲ使用スルモノニ對シテハ勅令ノ趣旨懇篤御説示ノ上違反者ナキニ努メラレ取締上苛察ニ涉ラサル様貴部下ニ對シ御注意相成度候

〔別紙〕赤十字記章、名稱及之ニ類似トシテ取締ヲ要スルモノ

- 一、赤十字ヲ描出スル生地ハ白地ニ非ラサルモ相當ノ距離ヲ隔テ、之ヲ望見スレハ白地ニ赤十字ノ記章ヲ描出シタルモノト殆ト同一ニ認メラル、モノ例ヘハ卵黃色若ハ薄青色ニ赤十字ヲ描出スル類ノ如シ
- 一、白地若ハ之ニ準スヘキ生地ニ薄紅色、藍色ノ類ニテ十字ヲ描出スル等赤十字記章ニ紛ハシキモノ
- 一、白地若ハ之レニ準スヘキ生地ニ左圖ノ如キ赤十字記章ニ紛ハシキ形狀ヲ描出セルモノ



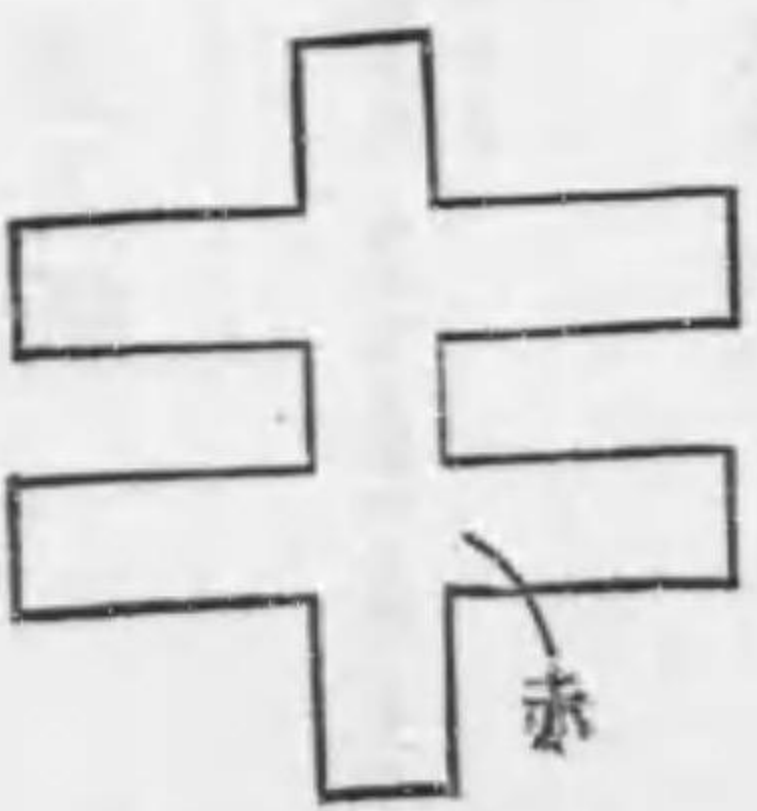
〔神奈川警〕

- 一、赤十字若ハ之ニ紛ハシキ十字ヲ描出セルモノ、上部、下部、周圍等ニ木草葉其ノ他ノ裝飾ヲ施セルモノ
- 一、商品其ノ他ノモノ、名稱ニ赤十字ノ文字ヲ使用セルモノ

同上取締ヲ要セサルモノ

- 一、商標登錄ヲ經タル赤十字及之ニ類似スル記章ニシテ商標權存續期間内ニ屬スルモノ
- 一、黒地綠地其ノ他之ニ準スヘキ濃色ノ生地ニ赤十字ヲ描出スルモノ
- 一、生地ノ何色タルチ間ハス例ヘハ白色、黒色、金色、銀色等ニシテ十字ヲ描出スルカ如キ赤十字若ハ之ニ類似ノ記章ニ紛ハシカラサルモノ
- 一、左記形狀若ハ之ニ類スルモノ

左記形狀



- 一、白十字ノ文字ヲ名稱ニ使用スル類ノモノ

●類似勳章記章等佩用禁止及處分方

明治二十七年十月  
示令第八六號

神佛各教派部内ニ於テ近頃官ノ徽章又ハ内外國勳章ニ類似スルモノヲ調製シ紋章章標等ニ用フルモノ往々有之哉ニ

相關候條内實使用ノ向發見ノ上ハ差止メ置キ其ノ事實報告セラルヘシ

●外國人類似勳章佩用ノ件

明治三十二年六月 示令第五二號

勳章記章類似ノ標章佩禁止ニ關シテハ明治二十八年勅令第百十八號ヲ以テ規定ノ趣モ有之候處外國人カ外國ニ於テ得タル勳章記章ノ如キハ無論該勅令ノ範圍外ト認候ニ付條約實施後ニ於テ外國人カ本邦ニ於テ外國勳章記章ヲ佩用スルモ右勅令ノ適用ヲ受ケサルモノトシ禁止スヘキ限リニ在ラスト心得ヘシ

第五節 通貨、證券、印紙、漉入紙

●貨幣法

明治三十年三月二十九日 法律第十六號

改正 明治三十九年四月法律第二十六號、四〇年三月第六號、大正五年二月第八號、七年五月第四二號、九年七月第五號、一一年四月第七三號 朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル貨幣法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

貨幣法

第一條 貨幣ノ製造及發行ノ權ハ政府ニ屬ス

第二條 純金ノ量目二分ヲ以テ價格ノ單位ト爲シ之ヲ圓ト稱ス

第三條 貨幣ノ種類ハ左ノ九種トス

- 金貨幣
  - 二十圓
  - 十圓
  - 五圓
- 銀貨幣
  - 五十錢
  - 二十錢

〔神奈川管〕

〔神奈川管〕

白銅貨幣

十錢

五錢

青銅貨幣

一錢

五厘

第四條 貨幣ノ算則ハ總テ十進一位ノ法ヲ用キ一圓以下ハ一圓ノ百分ノ一ヲ錢ト稱シ錢ノ十分ノ一ヲ厘ト稱ス

第五條 貨幣ノ品位ハ左ノ如シ

一 金貨幣 純金九百分參和銅一百分

二 銀貨幣 純銀七百二十分參和銅二百八十分

三 白銅貨幣 「ニツケル」二百五十分參和銅七百五十分

四 青銅貨幣 銅九百五十分錫四十分亞鉛十分

第六條 貨幣ノ量目ハ左ノ如シ

一 二十圓金貨幣 四匁四分四厘四毛四

二 十圓金貨幣 二匁二分二厘二毛二

三 五圓金貨幣 一匁一分一厘一毛一

四 五十錢銀貨幣 一匁三分二厘

五 二十錢銀貨幣 五分二厘八毛

六 十錢白銅貨幣 一匁

七 五錢白銅貨幣 七分

八 一錢青銅貨幣 一匁

九 五厘青銅貨幣 五分六厘

第七條 金貨幣ハ其ノ額ニ制限ナク法貨トシテ通用ス銀貨幣ハ十圓マテ白銅貨幣ハ五圓マテ青銅貨幣ハ一圓マテテ

第二編 保安 第一章 安寧

限リ法貨トシテ通用ス

第八條 貨幣ノ形式ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第九條 金銀貨幣純分ノ公差ハ金貨幣ハ一千分ノ一銀貨幣ハ一千分ノ三トス

第十條 金銀貨幣量目ノ公差ハ左ノ如シ

- 一 金貨幣二十圓ハ每片八毛六四一千枚毎ニ八分三厘十圓ハ每片六毛零五一千枚毎ニ六分二厘五圓ハ每片四毛三
- 二 銀貨幣五十錢ハ每片一厘七毛一一千枚毎ニ一厘零分六厘六毛六二十錢ハ每片一厘零毛七一千枚毎ニ五分三厘

三毛三トス

第十一條 金貨幣ノ通用最輕量目ハ二十圓金貨幣四々四分二厘十圓金貨幣二々二分一厘五圓金貨幣一々一分零厘五毛トス

第十二條

金貨幣ニシテ磨損ノ爲通用最輕量目ヲ下ルモノ及銅貨幣白銅貨幣又ハ青銅貨幣ニシテ著シク磨損シタル

モノ其ノ他流通不便ノ貨幣ハ其ノ額面價格ヲ以テ無手数料ニテ政府ニ於テ之ヲ引換フヘシ

第十三條 貨幣ニシテ模様ノ認識シ難キモノ又ハ私ニ極印ヲ爲シ其ノ他故意ニ毀傷セリト認ムルモノハ貨幣タルノ

效用ナキモノトス

第十四條 金地金ヲ輪納シ金貨幣ノ製造ヲ請フ者アルトキハ政府ハ其ノ請求ニ應スヘシ

附 則

第十五條 從來發行ノ金貨幣ハ此ノ法律ニ依リ發行スル金貨幣ノ倍位ニ通用スヘシ

第十六條 (從來發行ノ一圓銀貨幣ハ金貨幣一圓ノ割合ヲ以テ政府ノ都合ニ依リ漸次之ヲ引換フヘシ)

(前項引換ノ終了マテハ金貨幣一圓ノ割合ヲ以テ無制限ニ法貨トシテ其ノ通用ヲ許シ通用禁止ノ場合ニ於テハ六箇月以前ニ勅令ヲ以テ之ヲ公布スヘシ) 通用禁止ノ翌日ヨリ起算シ滿五箇年內ニ引換ヲ請求セサルトキハ爾後地

金トシテ取扱フヘシ

第十七條 從來發行ノ五錢銀貨幣及銅貨幣ハ從前ノ通り通用スヘシ

第十八條 此ノ法律發布以後ハ一圓銀貨幣ノ製造ヲ廢ス但シ右期日以前ニ政府ニ輪納シタル銀地金ハ此ノ限ニ在リ

[神奈川幣]

ス

第十九條 此ノ法律ニ牴觸スル從前ノ法令ハ總テ之ヲ廢止ス

第二十條 此ノ法律ハ第十八條ヲ除ク外明治三十年十月一日ヨリ施行ス

附 則 (明治三十九年法律第二十六號)

本法ハ明治三十九年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

從來發行ノ銀貨幣ハ從前ノ通り通用スヘシ

附 則 (明治四十年法律第六號)

本法ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

從來發行ノ十錢銀貨幣ハ從前ノ通り通用スヘシ

附 則 (大正五年法律第八號)

本法ハ大正五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

從來發行ノ白銅貨幣及青銅貨幣ハ從前ノ通り通用スヘシ

附 則 (大正七年法律第四十二號)

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從來發行ノ銀貨幣ハ從前ノ通り通用スヘシ

附 則 (大正九年法律第五號)

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從來發行ノ十錢銀貨幣及五錢白銅貨幣ハ從前ノ通り通用スヘシ

附 則 (大正十一年法律第七十三號)

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從來發行ノ銀貨幣ハ從前ノ通り通用スヘシ

● 通用禁止貨幣紙幣引換請求期限

明治二十三年三月一日  
法律第十三號

朕通用ヲ禁止シタル貨幣紙幣ノ引換ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム  
政府發行ノ補助貨幣及紙幣ニシテ通用ヲ廢止シタルモノハ其廢止ノ翌日ヨリ起算シ滿五箇年內ニ引換ヲ請求セザレ  
ハ期滿免除トシテ政府ハ其引換義務ヲ免ル、モノトス但明治二十年六月三十日ヲ以テ通用ヲ廢止シタル拾錢紙幣ハ  
本法發布ノ日ヨリ起算シ滿三年ヲ以テ期滿免除ノ期限トス

●磨損其ノ他流通不便貨幣ノ引換場所

大正十一年十一月十七日  
大藏省告示第五百十號

明治三十年法律第十六號貨幣法第十二條ニ依ル磨損其ノ他流通不便貨幣ノ引換ハ日本銀行本支店ヲシテ之ヲ取扱ハ  
シム但シ各代理店ニ於テモ引換ノ取次ヲ爲スヘシ  
明治三十年大藏省告示第五十八號ハ之ヲ廢止ス

●磨損其ノ他流通不便ノ貨幣引換ニ關スル件

大正十三年九月二十九日  
高藏收第八九〇九號

首題ノ件ニ關シ別紙寫ノ通り警保局長ヨリ通牒有之候ニ付テハ該通牒ノ趣旨ニ依リ可然御取扱相成度依命此段及通  
牒候也  
別紙

磨損其ノ他流通不便ノ貨幣引換ニ關スル件通牒(大正十三年九月二十六日警保局發甲第一〇〇號)  
內務省警保局長ヨリ各廳府縣知事宛

從來偽造貨幣トシテ御報告相成候現品中眞偽判別シ難キモノハ日本銀行ニ託シ鑑定ヲ需メ其ノ結果眞貨幣ト判明シ  
タルモノ近時其ノ數不少候處尤現品中ニハ磨損又ハ燒損其ノ他流通不便ノモノモ有之其ノ儘之ヲ本人ニ還付シ更ニ  
之ヲ行使スルニ於テハ再ヒ偽造貨幣トシテ取扱ハレ候事ナキヲ保シ難ク候條本件鑑定ノ結果眞貨幣ト決定シタルモ

〔神奈川警〕

〔神奈川警〕

ノニシテ如上流通不便ノモノハ日本銀行、同支店、同代理店ニ於テ引換ヲ爲シタル上所有者ニ交附方御取計相成様致  
度右申進候

●小額紙幣發行ニ關スル件

大正六年十月三十日  
勅令第二百二號

朕茲ニ緊急ノ必要アリト認メ樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ帝國憲法第八條第一項ニ依リ小額紙幣發行ニ關スル件ヲ裁可シ  
之ヲ公布セシム

之ヲ公布セシム

第一條 政府ハ補助銀貨ニ代用スル爲臨時必要ニ隨ヒ五十錢、二十錢及十錢ノ小額紙幣ヲ發行スルコトヲ得

第二條 政府ハ小額紙幣發行高ニ對シ同額ノ通貨ヲ以テ其ノ引換準備ニ充テ日本銀行ヲシテ之ヲ保管セシム

第三條 小額紙幣ハ十圓迄ヲ限リ法貨トシテ通用ス

第四條 小額紙幣ハ通貨ヲ以テ之ヲ引換フ

小額紙幣ハ日本銀行本支店ニ於テ之ヲ引換フヘシ但シ五圓ニ滿タサル端數ハ引換通貨ノ到達スヘキ時間引換ヲ延  
期スルコトヲ得

第五條 小額紙幣ノ形式ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條 小額紙幣ノ發行、銷却及損傷紙幣ノ引換ニ關スル規定ハ主務大臣之ヲ定ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
小額紙幣ハ講和條約調印ノ日ヨリ一年ヲ經過シタル後ハ之ヲ發行セス

●大正六年勅令第二百二號ニ依ル小額紙幣發行ノ件

大正六年十一月九日  
大藏省告示第七十七號

大正六年勅令第二百二號ニ依ル小額紙幣ハ大正六年十一月八日ヨリ之ヲ發行セリ

●小額紙幣發行ニ關スル件

大正九年七月二十七日  
法律第六號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル小額紙幣發行ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム  
大正六年勅令第二百二號ニ依ル小額紙幣ハ當分ノ内ニテ發行スルコトヲ得但シ二十錢及十錢ノ小額紙幣ハ損傷紙幣  
引換ノ爲ニスル場合ヲ除クノ外大正十年四月一日以後ニテ發行セズ

附則  
本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

### ● 小額紙幣ノ發行銷却及損傷紙幣ノ引換ニ關スル件

大正六年十月三十日  
大藏省令第三十號

改正 大正七年六月大藏省令第二五號

小額紙幣ノ發行銷却及損傷紙幣ノ引換ニ關スル件左ノ通之ヲ定ム

第一條 大藏大臣ハ小額紙幣ノ發行及銷却ヲ爲シタルトキハ其ノ種類、枚數及金額ヲ告示スヘシ

第二條 汚損若クハ毀傷シタル小額紙幣ハ日本銀行本支店ニ於テ無手数料ニテ之ヲ引換フヘシ

第三條 小額紙幣ニシテ表裏兩面ヲ具備シ其ノ三分ノ二以上ヲ存スルモノハ券面金額ノ全額、五分ノ二以上ヲ存ス  
ルモノハ券面金額ノ半額ヲ以テ之ヲ引換フヘシ表裏ノ模様大部分認識シ難キモ紙質色彩等ニ依リ眞正ノ小額紙幣  
ト認メタルモノ亦同シ

第四條 小額紙幣ノ細片ヲ合シ其ノ各片相吻合シ若クハ吻合セサルモ同一紙幣ノ紙片ナルコトヲ認メタルモノニ付  
テハ前條ヲ適用ス

第五條 前二條ニ該當スルモノト雖小額紙幣ノ紙質色彩ノ變化其ノ他ノ原因ニ依リ眞偽鑑定シ難キモノ及銷却ノ爲  
穿孔ヲ施シタル疑アルモノハ之ヲ引換ヘズ

附則  
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治十七年五月二十六日  
太政官布告第十八號

### ● 兌換銀行券條例

〔神奈川警〕

明治十七年五月二十六日  
太政官布告第十八號

〔神奈川警〕

改正 明治一八年五月布告第九號、二一年八月勅令第五九號、二三年五月法律第三四號、三〇年三月第一八號、三二年三月第五五號

兌換銀行券條例別紙ノ通制定シ明治十七年七月一日ヨリ施行ス

但明治七年九月第百號布告ハ此條例布告ノ日ヨリ滿一ケ年ノ後廢止ス

右奉 勅旨布告候事

(別紙)

#### 兌換銀行券條例

第一條 兌換銀行券ハ日本銀行條例第十四條ニ據リ同銀行ニ於テ發行シ金貨ヲ以テ兌換スルモノトス

第二條 日本銀行ハ兌換銀行券發行高ニ對シ同額ノ金銀貨及地金銀ヲ置キ其引換準備ニ充ツヘシ但シ銀貨及銀地金  
ハ引換準備總額ノ四分ノ一ヲ超過スルコトヲ得ズ

日本銀行ハ前項ノ外特ニ壹億貳千萬圓ヲ限リ政府發行ノ公債證書大藏省證券其他確實ナル證券又ハ商業手形ヲ保  
證トシ兌換銀行券ヲ發行スルコトヲ得但本項壹億貳千萬圓ノ内貳千七百萬圓ハ明治二十二年一月一日以降ニ係ル  
國立銀行紙幣ノ消却高ヲ限トシ漸次發行スルモノトス

日本銀行ハ市場ノ景況ニ由リ流通貨幣ノ増加ヲ必要ト認ムルトキハ大藏大臣ノ許可ヲ得テ前二項發行高ノ外更ニ  
政府發行公債證書大藏省證券其他確實ナル證券若クハ商業手形ヲ保證トシ兌換銀行券ヲ發行スルコトヲ得此場合  
ニ於テハ其發行額ニ對シ一箇年百分ノ五ヲ下ラサル割合ヲ以テ發行稅ヲ納ムヘシ但其割合ハ其時々大藏大臣之ヲ  
定ム

日本銀行ハ政府發行紙幣消却ノ爲メ貳千貳百萬圓ヲ限リ無利子ヲ以テ政府ニ貸付スヘシ

前項貸付金ノ償還年限及毎年償還金額ハ大藏大臣之ヲ定ム

第三條 兌換銀行券ノ種類ハ壹圓五圓拾圓貳拾圓五拾圓百圓貳百圓ノ七種トス但シ(大藏卿)ハ各種ニ就テ其發行高ヲ  
定ムヘシ

第四條 兌換銀行券ハ租稅海關稅其他一切ノ取引ニ差支ナク通用スルモノトス

第五條 兌換銀行券ハ(大藏卿)ノ指定スル書式圖形ニヨリ日本銀行ニ於テ之ヲ製造シ時々其製造高ヲ(大藏卿)ニ上  
申スヘシ但其見本ハ發行期日前(大藏卿)ヨリ告示スヘシ

第二編 保安 第一章 安寧

一七七



第六條 兌換銀行券ノ引換ヲ請フ者アルトキハ日本銀行本店及ヒ支店ニ於テ營業時間中何時ニテモ兌換スヘシ  
但支店ニ於テハ本店ヨリ準備金ノ到達スヘキ時間其兌換ヲ延期スルコトヲ得

第七條 金貨ヲ持參シテ兌換銀行券ニ引換ンコトヲ請フモノアルトキハ日本銀行本店及ヒ支店ニ於テ無手数料ニテ之ヲ交換スルモノトス

第八條 日本銀行ハ兌換銀行券發行額及交換準備ニ關スル出納日表及每週平均高表ヲ製シ之ヲ大藏大臣ヘ進達シ且每週平均高表ハ官報ニ廣告スヘシ

第九條 「大藏卿」ハ日本銀行監理官ヲシテ特ニ兌換銀行券發行ノ件ヲ監督セシムヘシ但監理官ニ於テ必要ナリトスルトキハ何時ニテモ其手許有高及ヒ帳簿ヲ検査スルコトヲ得

第十條 兌換銀行券ノ染汚毀損等ニヨリ通用シ難キモノハ日本銀行本店及ヒ支店ニ於テ無手数料ニテ之ヲ引換フヘシ

第十一條 兌換銀行券ノ製造、損券引換及ヒ消却等ノ手續ハ「大藏卿」之ヲ定ムヘシ

第十二條 「兌換銀行券ノ偽造變造ニ係ル罪ハ刑法偽造紙幣ノ各本條ニ照シテ處斷ス」

### ●金貨幣又ハ金地金ヲ輸出セムトスル者等取締方

大正六年九月十二日  
大藏省令第二十八號

金貨幣又ハ金地金ヲ輸出セムトスル者ハ大藏大臣ノ許可ヲ受クヘシ但シ外國ニ旅行スル者金貨幣百圓未滿ヲ携帯スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ニ違反スル者ハ三月以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

金地トシテ販賣シ又ハ使用スル目的ヲ以テ金貨幣ヲ蒐集、鑄造又ハ毀傷シタル者ノ罪亦前項ニ同シ

附則  
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

### ●銀貨幣又ハ銀地金ヲ輸出セムトスル者等取締方

〔神奈川警〕

〔神奈川警〕

大正六年九月六日  
大藏省令第二十六號

銀貨幣又ハ銀地金ヲ輸出セムトスル者ハ大藏大臣ノ許可ヲ受クヘシ但シ外國ニ旅行スル者銀貨幣五十圓未滿ヲ携帯スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ニ違反スル者ハ三月以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

金地トシテ販賣シ又ハ使用スル目的ヲ以テ銀貨幣ヲ蒐集、鑄造又ハ毀傷シタル者ノ罪亦前項ニ同シ

附則  
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

### ●通貨及證券模造取締法

明治二十八年四月五日  
法律第二十八號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル通貨及證券模造取締法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 貨幣、政府發行紙幣、銀行紙幣、兌換銀行券、國債證券及地方債證券ニ紛ハシキ外觀ヲ有スルモノヲ製造シ又ハ販賣スルコトヲ得ス

第二條 前條ニ違反シタル者ハ一月以上三年以下ノ「重禁錮」ニ處シ「五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加」ス

第三條 第一條ニ掲ケタル物件ハ刑法ニ依リ沒收スル場合ノ外人ノ所有ヲ問ハス警察官ニ於テ之ヲ破毀スヘシ

第四條 第一條ニ掲ケタル物件ニハ明治九年布告第五十七號ヲ適用ス

### ●紙幣類似證券取締法

明治三十九年五月八日  
法律第五十一號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル紙幣類似證券取締法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

紙幣類似證券取締法  
第一條 一樣ノ形式ヲ具ヘ箇々ノ取引ニ基カスシテ金額ヲ定メ多數ニ發行シタル證券ニシテ紙幣類似ノ作用ヲ爲スモノト認ムルトキハ主務大臣ニ於テ其ノ發行及流通ヲ禁止スルコトヲ得

前項ノ規定ハ一様ノ價格ヲ表示シテ物品ノ給付ヲ約束スル證券ニ付之ヲ準用ス

第二條 前條ニ依リ證券ノ發行及流通ヲ禁止シタルトキハ主務大臣ハ直ニ其ノ旨ヲ公告ス

禁止ノ公告後ニ發行シ又ハ流通セシムルノ目的ヲ以テ授受シタル證券ハ無効トス

第三條 禁止ニ違反シテ證券ヲ發行シ又ハ其ノ證券ヲ授受シタル者ハ一年以下ノ〔重禁錮〕又ハ千圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ證券ヲ沒收ス

禁止ニ違反シテ證券ヲ流通セシムルノ目的ヲ以テ授受シタル者ノ罰亦前項ニ同シ

第四條 禁止ノ公告後ニ發行シ又ハ流通セシムルノ目的ヲ以テ授受シタル證券ハ裁判ニ依リ沒收スル場合ヲ除クノ外何人ノ所有ヲ問ハス行政處分ヲ以テ之ヲ官沒ス

### ● 學校生徒ノ商業實習ノ爲ニ紙幣ニ紛ハシキ紙片使用

禁止ノ件 明治二十七年五月二十六日 文部省訓令第五號

道廳 府縣

公私商業學校尋常中學校專修科其他ノ學校ニ於テ生徒ノ商業實習ノ爲ニ紙幣ニ見紛ハシキ裝飾ヲ加ヘタル紙片ヲ用フヘカラス

### ● 紙幣類似印刷物取締ノ件 明治二十七年二月十二日 縣令第三號

紙幣類似ノ印刷物ヲ所持シ又ハ授受若クハ賣買スルコトヲ得ス違フ者ハ一日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ〔五錢〕以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

### ● 外國ニ於テ流通スル貨幣紙幣銀行券證券偽造變造及模造ニ關スル件 明治三十八年三月二十日 法律第六十六號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル外國ニ於テ流通スル貨幣紙幣銀行券證券偽造變造及模造ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ

〔神奈川警〕

〔神奈川警〕

公布セシム

第一條 流通セシムルノ目的ヲ以テ外國ニ於テノ流通スル金銀貨、紙幣、銀行券、帝國官府發行ノ證券ヲ偽造シ又ハ變造シタル者ハ〔重懲役〕又ハ〔輕懲役〕ニ處ス

金銀貨以外ノ硬貨ヲ偽造シ又ハ變造シタル者ハ〔輕懲役〕又ハ二年以上五年以下ノ〔重禁錮〕ニ處ス

第二條 流通セシムルノ目的ヲ以テ偽造又ハ變造ニ係ル前條ニ記載シタル物ヲ帝國若ハ外國ニ輸入シタル者ハ前條ノ例ニ同シ

第三條 情ヲ知テ偽造又ハ變造ニ係ル第一條ニ記載シタル物ヲ行使シ若ハ流通セシムルノ目的ヲ以テ授受シタル者ハ〔輕懲役〕又ハ六月以上五年以下ノ〔重禁錮〕ニ處ス

取得シタル後其ノ偽造又ハ變造ナルコトヲ知テ行使シ若ハ流通セシムルノ目的ヲ以テ授付シタル者ハ其ノ名價三倍以下ノ罰金ニ處ス但シ二圓以下ニ降スコトヲ得ス

第四條 第一條ノ偽造又ハ變造ノ用ニ供シ若ハ供セシムルノ目的ヲ以テ器械若ハ原料ヲ製造シ、授受シ若ハ準備シ又ハ帝國若ハ外國ニ輸入シタル者ハ六月以上五年以下ノ〔重禁錮〕ニ處ス

第五條 販賣スルノ目的ヲ以テ第一條ニ記載シタル物ニ紛ハシキ外觀ヲ有スル物ヲ製造シ又ハ帝國若ハ外國ニ輸入シタル者ハ二年以下ノ〔重禁錮〕又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ニ記載シタル物ヲ販賣シタル者ハ前項ノ例ニ同シ

第六條 前數條ニ規定シタル罪ヲ犯シ禁錮ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

第七條 〔本法ニ規定シタル罪ヲ犯シ禁錮ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス〕

第八條 本法ニ規定シタル罪ヲ犯シタル者偽造又ハ變造ニ係ル第一條ニ記載シタル物ノ未タ行使セラレサル前又ハ

第五條ニ記載シタル物ノ未タ授付セラレサル前ニ於テ官ニ自首シタルトキハ主刑ヲ免除スルコトヲ得

第九條 本法ニ規定シタル罪ヲ犯シ外國ニ於テ確定裁判ヲ經タル者ト雖更ニ之ヲ處罰スルコトヲ妨クス但シ犯人既

ニ外國ニ於テ言渡サレタル刑ノ全部又ハ一部ノ執行ヲ受ケタトキハ刑ノ執行ヲ減免スルコトヲ得

第十條 偽造又ハ變造ニ係ル第一條ニ記載シタル物及第五條ニ記載シタル物ハ裁判ニ依リ沒收スル場合ノ外何人ノ所有ヲ問ハス行政ノ處分ヲ以テ之ヲ官沒ス

官没ニ關スル手續ハ別ニ命令ヲ以テ之ヲ定ム  
第十一條 偽造又ハ變造ニ係ル第一條ニ記載シタル物及第五條ニ記載シタル物ニハ明治九年布告第五十七號ヲ準用ス

附則

本法ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
明治三十七年勅令第七十七號ハ之ヲ廢止ス

●明治三十八年法律第六十六號第十條ノ官没ニ關スル

件 明治三十八年三月二十日  
內務省令第二號

明治三十八年法律第六十六號第十條ノ官没ハ警察署長若ハ警察分署長ニ於テ命令書ヲ交付シテ之ヲ爲スヘシ

明治三十八年三月二十日  
外務省令第一號

明治三十八年法律第六十六號第十條ノ官没ハ領事官ニ於テ命令書ヲ交付シテ之ヲ爲スヘシ

●印紙犯罪處罰法

明治四十二年四月二十八日  
法律第三十九號

廢帝國議會ノ協贊ヲ經タル印紙犯罪處罰法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

印紙犯罪處罰法

第一條 行使ノ目的ヲ以テ帝國政府ノ發行スル印紙又ハ印紙金額ヲ表彰スヘキ印章ヲ偽造又ハ變造シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス行使ノ目的ヲ以テ印紙ノ消印ヲ除去シタル者亦同シ  
第二條 偽造、變造ノ印紙、印紙金額ヲ表彰スヘキ印章若ハ消印ヲ除去シタル印紙ヲ使用シ又ハ行使ノ目的ヲ以テ之ヲ人ニ交付シ、輸入シ若ハ移入シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス印紙金額ヲ表彰スヘキ印章ヲ不正ニ使用シタル者亦同シ

〔神奈川警〕

〔神奈川警〕

前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第三條 帝國政府ノ發行スル印紙其ノ他印紙金額ヲ表彰スヘキ證票ヲ再ヒ使用シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第四條 本法ハ何人チ問ハス帝國外ニ於テ第一條又ハ第二條ノ罪ヲ犯シタル者ニ之ヲ適用ス

第五條 偽造、變造ノ印紙、印紙金額ヲ表彰スヘキ印章又ハ消印ヲ除去シタル印紙ハ裁判ニ依リ沒收スル場合ノ外何人ノ所有チ問ハス行政ノ處分ヲ以テ之ヲ官没ス  
官没ニ關スル手續ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

附則

刑法施行法第二十五條第一項第二號及第二十六條第十一號ハ之ヲ削ル

●印紙犯罪處罰法第五條ノ規定ニ依ル官没ニ關スル件

明治四十二年四月二十八日  
內務省令第十三號

明治四十二年法律第三十九號第五條ノ官没ハ警察署長若ハ警察分署長ニ於テ命令書ヲ交付シテ之ヲ爲スヘシ  
前項警察署長若ハ警察分署長ノ職務ハ樺太ニ在テハ樺太廳支廳長若ハ支廳出張所長之ヲ行フ

明治四十二年四月二十八日  
外務省令第二號

印紙犯罪處罰法第五條ノ規定ニ依ル官没ハ帝國領事官カ裁判權ヲ行使スルコトヲ得ル地域ニ於テハ帝國領事官ヨリ命令書ヲ交付シテ之ヲ爲スヘシ

明治四十二年四月二十八日  
大藏省令第二十八號  
明治四十二年法律第三十九號第五條ノ官没ハ稅務署長ニ於テ命令書ヲ交付シテ之ヲ爲スヘシ

●印紙模造取締規則

大正五年七月二十日  
大藏省令第十八號

印紙模造取締規則

帝國政府ノ發行スル印紙又ハ印紙金額ヲ表彰スヘキ印章ニ紛ハシキ外觀ヲ有スルモノハ大藏大臣ノ許可ヲ受ケタル  
場合ノ外之ヲ製造、輸入、移入、販賣、頒布又ハ使ハスルコトヲ得ス  
前項ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ五圓以上ノ科料ニ處ス

附則  
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●偽造變造等ノ郵便切手類官沒ニ關スル手續

大正五年七月二十七日  
內務省令第九號

郵便法第五十五條ノ三ノ官沒ハ警察署長若ハ警察分署長ニ於テ命令書ヲ交付シテ之ヲ爲ス

附則

本令ハ大正五年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

大正五年七月二十四日  
外務省令第三號

郵便法第五十五條ノ三ノ規定ニ依ル官沒ハ帝國領事官カ裁判權ヲ行使スルコトヲ得ル地域ニ於テハ其ノ郵便官署ノ  
取扱中ニ係ルモノヲ除キ帝國領事官ヨリ命令書ヲ交付シテ之ヲ爲スヘシ

附則

本令ハ大正五年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

大正五年七月二十七日  
逓信省令第四十五號

〔神奈川警〕

〔神奈川警〕

郵便法第五十五條ノ三ニ依ル官沒ハ逓信局長又ハ一、二等郵便、電信、電話局長ニ於テ命令書ヲ交付シテ之ヲ爲  
ス

附則

本令ハ大正五年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

●逓信省徽章、通信日附印及郵便切手類模造取締規則

明治四十二年十二月二十九日  
逓信省令第六十五號

改正 大正二年六月逓信省令第二三號

逓信省徽章、通信日附印及郵便切手類模造取締規則左ノ通相定ム

逓信省徽章、通信日附印及郵便切手類模造取締規則

第一條 逓信省徽章ハ逓信大臣ノ許可ヲ受ケタル場合ノ外之ヲ使用スルコトヲ得ス

第二條 郵便、電信及電話官署ニ於テ使用スル通信日附印ニ紛ハシキ印章ヲ描出スヘキモノ又ハ之ニ紛ハシキ印影  
ヲ有スルモノハ逓信大臣ノ許可ヲ受ケタル場合ノ外之ヲ製造、販賣、頒布又ハ使用スルコトヲ得ス

第三條 未使用又ハ使用済ノ帝國政府及郵便聯合條約國政府ノ發行ニ係ル現行郵便切手其ノ他郵便料金ヲ表彰スヘ  
キ證票ニ紛ハシキ外觀ヲ有スルモノハ逓信大臣ノ許可ヲ受ケタル場合ノ外之ヲ印刷、製造、販賣、頒布又ハ使用  
スルコトヲ得ス

第四條 第一條ニ違反シタル者ハ二十圓以下ノ科料ニ處ス

第二條及第三條ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

本規程ハ明治四十三年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

附則

本規程ハ明治四十三年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

●濫入紙製造取締規則

明治二十年七月二十五日  
勅令第三十六號

濫入紙製造取締規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第二編 保安 第一章 安寧

流入紙製造取締規則

- 第一條 文字畫紋ヲ流入シタル紙ヲ製造スル者ハ現品ノ見本ヲ添ヘ管轄廳東京府ハニ届出ヘシ違フ者ハ一回以上一回九十五錢以下ノ科料ニ處ス警視廳
- 第二條 紙幣兌換銀行券公債證書大藏省證券其他政府發行ノ證券ニ類似ノ文字畫紋又ハ凸ニ文字畫紋ヲ流入シタル紙ヲ人民ニ於テ製造スルコトヲ禁ス違フ者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第三條 此規則ハ本年九月一日ヨリ施行ス

流入紙製造者ヨリ届出アリタルトキ取扱方

明治四十三年六月十六日  
大藏省訓令第十六號

警視廳 北海道廳 府縣東京府ハニ届出ヘシ違フ者ハ一回以上一回九十五錢以下ノ科料ニ處ス警視廳

管轄廳東京府ハニ届出ヘシ違フ者ハ一回以上一回九十五錢以下ノ科料ニ處ス警視廳  
 現品ノ見本ヲ添ヘ届出アリタルトキハ其ノ見本カ流入紙取締規則第二條ニ該當スルコトナキヤ否ヤヲ調査スヘシ  
 前項見本ニシテ流入紙取締規則第二條ニ該當スト認メ若ハ其ノ疑アル場合ニ於テハ管轄廳東京府ハニ届出ヘシ違フ者ハ一回以上一回九十五錢以下ノ科料ニ處ス警視廳  
 省ニ送達スヘシ

流入紙取締ニ關スル件

明治四十三年六月十六日  
大藏次官通牒第七一七六號

今般大藏省令第三十一號ヲ以テ明治二十年大藏省令第十二號ヲ廢止セラレ之ト同時ニ訓令第十六號ヲ以テ流入紙ニ關スル取扱方相定メラレ候處右ハ從來ノ繁雜ナル手数數ヲ省略スル主旨ニ外ナラス候ニ付之カ取締ニ付テハ一層勵行相成候様致度此段及通牒候也  
 (參照) 明治二十年八月大藏省令第十二號ハ流入紙製造届出手續ナリ

〔神奈川県〕

〔神奈川県〕

文字畫紋流入紙製造届書經由方

明治二十年八月二十九日  
縣令第三十八號

今般勅令第三十六號及七(大藏省令第十二號)ヲ以テ文字畫紋流入紙製造取締規則發布ニ付本廳ヘ差出スヘキ届書ハ所轄警察署ヲ經由スヘシ

證券又ハ證票ノ賣買受授取締ニ關スル件

大正七年八月二十四日  
縣令第七十號

證券又ハ證票ノ賣買受授取締ニ關スル件  
 公共團體又ハ慈善團體カ救済ノ目的ヲ以テ特定ノ人ニ對シ發給スル證券又ハ證票ヲ賣買受授シ依テ不正ノ利ヲ圖リタル者ハ參拾圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス  
 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

共通商品券ノ取締ニ關スル件

大正十四年九月二十二日  
訓示甲第一九號

共通商品券(組合員タル各商店ニ對シ商品トノ引換ヲ請求シ得ヘキ證券)中左記甲ノ條件ニ據リ發行スルモノニシテ弊害ナキモノニ限リ紙幣類似證券ト認メサルコトニ決定シタル旨内務、大藏兩次官ヨリ通牒アリタルヲ以テ此種商品券ノ發行ヲ爲サムトスル者ニ對シテハ左記乙號ノ通取締セラルヘシ

(甲)

- 一 共通商品券ハ主トシテ共通商品券ノ發行ヲ目的トセル組合ニ於テノミ發行スルコト
- 二 組合ニ於テ發行スル共通商品券ニ記載スヘキ商品ハ一種ニ限ルコト
- 三 共通商品券ニハ引換フヘキ品種ヲ明記スルコト

第二編 保安 第一章 安寧

- 四 組合員タルヘキ營業者ハ前號ノ品種商品ノミテ販賣スルモノナルコト
  - 五 組合員タルヘキ營業者ハ順次ニ隣接セル最小行政區劃内ニ營業所ヲ有スルモノニ限ルコト
  - 六 組合ニ加入スル營業者ハ組合契約ヲ以テ組合ニ於テ發行スル共通商品券ニ對シテ連帶ニテ引換ノ義務ヲ有スルモノナルコトヲ定メ其ノ旨共通商品券ニ記載スルコト
  - 七 共通商品券ハ六ヶ月以内ニ之ヲ引換フルモノナルコト
  - 八 發行者及發行ノ年月日ヲ明記スルコト
  - 九 券面價格ハ五圓以下三十圓以上ニ限ルコト
- ②
- 一 共通商品券發行者ハ發行ニ關スル規約發行條件發行限度商品券ノ金額品種及加更者住所氏名職業ヲ實施前知事ニ届出セシムルコト
  - 二 組合ヨリ三ヶ月毎ニ發行總高及回収高(金額種類別内譯ヲ附シ)知事ニ届出シムルコト
  - 三 共通商品券ノ行使力發行者及組合商店以外ニ於テ流通シ又ハ記名品種以外ノ物品ヲ給付スルノ事實ヲ生シタルトキハ其ノ旨速ニ知事ニ報告スルコト
  - 前二號ノ届出ハ所轄警察官署ヲ經由スルコト

### ●公共團體ニ於テ使用スル收入證紙發行ニ關スル件

大正元年十一月十六日  
内務省訓令第十七號

北海道廳 府廳

公共團體ニ於テ使用料手数料等徴收上ノ便宜ノ爲收入證紙發行ニ付テハ今後經何ニ及ハス但從來指示ノ事項ヲ遵守シ已テ得ス金額ヲ表示スル場合ハ算用數字ヲ用非政府發行ノ收入印紙ニ紛ハシカラサル様注意スヘシ

〔神奈川警〕

〔神奈川警〕

### 第六節 検視、解剖、診断、検案

#### ●検視心得

明治二十二年四月  
廳達乙第四〇號

- 第一條 變死傷アリタルヲ知リタルトキ又ハ其報告ニ接シタルトキハ直ニ現場ニ臨ミ醫員及ヒ立會人一名以上(其事ニ關係アル)ヲ會同シ検視ヲ遂ク其死傷原因等ヲ取調ヘ第一號書式ニ準シ調査ヲ作ルヘシ若シ事件犯罪ニ係ルモノハ相當檢證ノ手續ヲ爲スヘシ
- 第二條 前條ノ報告ヲ受ケタル場合ニ於テハ現場ノ模様ヲ變換セサル様注意セシムルヲ要ス但時宜ニ依リ調査ヲ派遣シ取締ヲ爲サシムルコトアルヘシ
- 第三條 検視官ハ先ツ其死傷者ヲ發見シタル者ニ就キ其狀況ヲ聞キタル後検視ニ著手シ検視終リタルトキハ發見人其他關係人ニ對シ第二號書式ニ依リ問答書ヲ作ルヘシ但時宜ニ依リ書面ヲ徴スルモ妨ケナシ
- 第四條 検視ハ頭髮ノ間ヨリ手足ニ至ル迄全體漏サス之ヲ檢シ而シテ絞絞溺水者ハ特ニ注意シ若シ不審ト認ムル點ハ詳密取調ヘ且醫員ニ質問ス可シ
- 第五條 體中疵所アルトキハ其傷痕ノ淺深廣狭又出血ノ多少又ハ皮膚ノ變色腫起腐爛膨脹等詳カニ調査ニ記スヘシ
- 第六條 検視調査ノ外第三號書式ニ依リ場所ヲ記入シ又現場ノ模様ハ詳細其實況ヲ記シ調査ニ添付スヘシ
- 第七條 死者ニ係ル檢案書ハ二通ヲ徴シ一通ハ検視官檢印ノ上死體引取人ニ下附シ一通ハ檢視書類ニ添付ス可シ
- 第八條 自死ニシテ遺書アルトキ犯罪ノ證據トナルヘキモノハ之ヲ差押ヘ犯罪ニ關係ナキモノハ死者ノ引取人ニ下附スヘシ
- 第九條 検視終リタルトキハ其屍體及所持品ハ引取人ニ渡スヘシ若シ引取人ナキトキハ其地市町村長ニ引渡シ第四號書式ノ受書ヲ徴スヘシ
- 第十條 検視ニ關スル書類ハ每葉ニ契印シ塗抹改竄スヘカラス文字ノ挿入削除アリタルトキハ字體ヲ存シ其數ヲ附記シ認印スヘシ

第十一條 風水震雷其他ノ變災ニ罹リ人畜ノ死傷アルトキハ本則ニ準シ檢視ヲ爲スヘシ  
 第十二條 中毒患者及死亡者ノ檢視ヲ爲シタルトキハ詳細其原因ヲ取調鑑定ヲ要スル毒品ハ警察本部ヘ送付スヘシ  
 第十三條 駐在所巡查ニ於テ檢視ヲ終了シタル場合ニ於テハ速カニ一件書類ヲ本署ニ送付スヘシ  
 第十四條 檢視ノ事件重大ニ涉リ公衆ノ耳目ヲ惹クヘキモノハ其願末ヲ警察部ヘ報告スヘシ

第一號書式

何 某印

檢視調書

明治年月日何時住所番地某ヨリ何所ニ(縊死又ハ溺死又ハ何何)アル旨報告ニ接シ醫員何某同道即時現場へ出張(發見人某親屬某村長又ハ代理者)ヲ立會ハセ檢視スルニ何處ノ梁(又ハ何樹高サ何尺)ヨリ何何ヲ以テ縊死(頸部何何面部何何皮膚何何肛門何何鼻液ヲ出ス云云)又ハ何川何處ノ岸深サ何尺ノ處ニ溺死(身體膨脹面部何何何日間經過セシ者ト認ムトカ死屍腐爛云云)(住所氏名不分明ノ者ナルトキハ詳細ニ物色スヘシ)其他異狀ナキヲ以テ死體及所持品ハ親屬へ引渡(引取人ナキトキハ市町村長へ引渡假埋葬爲致)茲ニ檢視ヲ終リ此調書ヲ作り立會人ニ讀ミ聞カセタル處相違ナキ旨ヲ以テ左ニ署名捺印ス

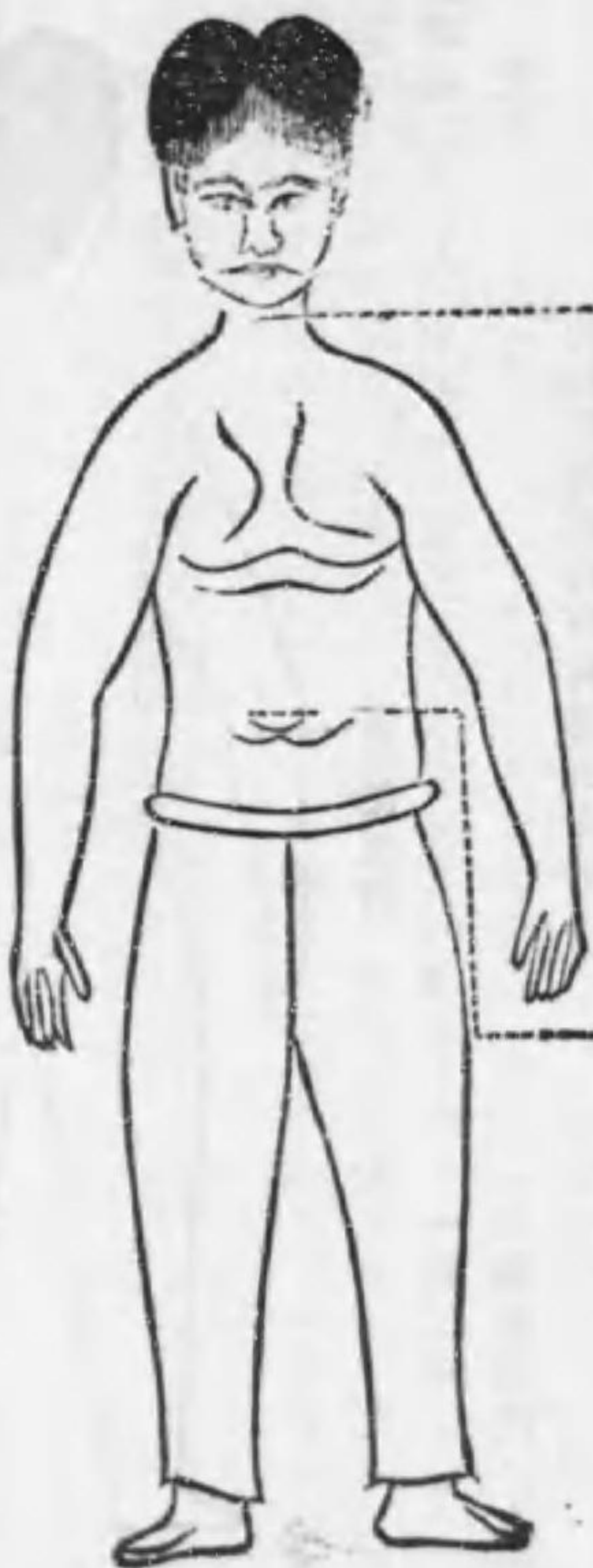
右ハ其一例ヲ示シタルモノナレハ天災其他死傷ノ模様ニ依リ便宜取捨スヘシ  
 第二號書式  
 變死傷關係人調書  
 何死傷人ニ係ル事件ニ付事實ヲ證明セシムル爲メ(發見人又ハ親屬又ハ關係人)何某ニ對シ左ノ訊問ヲナス問其方ノ住所身分職業氏名年齢ハ  
 答云云  
 問何死傷人ヲ發見シタル手續(又ハ變死傷ノ實況ヲ見聞セシ始末)ハ如何  
 答云云  
 問云云  
 答云云  
 右錄取スル處ヲ讀ミ聞カセタルニ相違ナキ旨ヲ以テ本職ト共ニ左ニ署名捺印ス  
 明治年月日何處ニ於テ  
 警部(警部補又ハ代理巡查)某印

〔神奈川警〕

何 某印  
立會人

〔神奈川警〕

第三號書式



咽喉縫レ痕何何色ニ變ストカ又ハ其痕跡ニ條ニシテ緊ク縫レ何何

刀傷長三寸三分 深一寸五分 幅三分

切疵長何寸  
深何寸  
幅何寸

打撲傷方何寸赤色  
ニ變シ腫起ス



挫傷何何

第四號書式

受書

何府何國郡市町村番地身分

氏名

年齢

一何何

何枚

右御檢視濟ノ上御引渡相成正ニ受取候也

引取人

年月日

又ハ

何町村長

何

某印

男(女)死體一人  
年齢何年位

所持品  
一何何

何個

〔神奈川警〕

若シ族籍氏名不詳ナルトキハ人相書ヲ添付スヘシ

〔神奈川警〕

● 檢視又ハ解剖ニ關スル件

明治十年二月二十二日  
太政官布告第二十二號

變死ニ係ル屍ヲ警察官吏検査スル時ニ於テ解剖ヲ行ハサレハ其致命ノ原因ヲ確知シ難キ旨醫師申立ル時ハ檢事  
(檢事派出ナキ地)ノ許可ヲ受ケ其部分ヲ解剖検査セシムルコトヲ得  
方ハ其地方長官  
石布告候事

● 官廳内竝艦船等ニテ變死者檢視取扱方

明治十三年二月二十五日  
太政官達第十四號

〔官〕省院〔使〕府縣

明治十二年三月第十二號達左ノ通改正候條此旨相達候事  
官廳内竝ニ官有ノ工場及ヒ船艦等ニテ變死ニ係ル者及ヒ重傷死ニ至ル者ハ近傍ノ警察所ヘ報知シ檢視ヲ受クヘシ  
但軍人軍屬ニシテ陸海軍官限リ處分ヲ了シ警察官ノ檢視ヲ要セサル分及ヒ遠洋航海中ニ係ル者ハ此限ニアラス

● 變死者檢視處分警察署管轄ノ件

明治十四年一月  
第一〇號

本縣接續地ノ地方管轄境ニ於テ相生シ候死傷者檢視處分ノ儀ハ先キニ訴テ受ケ及ヒ發見シタル警察署之ヲ爲シ且ツ  
其ノ接續地ヲ管轄スル警察署ニ告知ス可シ此旨相達候事

● 變死者檢視處分警察署管轄ノ件

明治二十六年十二月  
廳訓第一四八號

加賀町警察署水上分署所轄河川ニ起生シタル變死人及漂著物難破船ニ關スル事務ハ最初發見シタル地ノ警察署ニ於  
第二編 保安 第一章 安寧



ヲ取扱フコトヲ得但處分濟ノ上ハ水上分署ニ通知スヘシ

●警察官檢視ノ節戸長立會ヲ要セサル件

明治十九年三月十六日  
布達乙第六十八號

郡區役所〔戸長〕役場

從事行政司法ノ事務ニ付警察官檢視檢證等之節多クハ〔戸長〕ノ立會ヲ要シ來リ候處自今法ニ明文アル場合ノ外立會ニ及ハス

●變死傷者ノ身分及原因ヲ檢視調書ニ明記スヘシ

明治二十二年六月  
令第五九三號

變死傷者檢視ノ際其ノ住所、氏名、年齢及致死ノ原因ヲ詳記スルハ當然ニ候處檢視調書及報告書ニモ記載セサルモノ往住有之不都合ニ付其ノ住所、氏名、年齢、致死ノ原因ヲ知り得タルモノハ必ス檢視調書ニ詳記スヘシ

●在監人變死者檢視方ノ件

明治三十三年十一月  
示令第一七七號

在監人變死ノ際ニ於ケル檢視方ハ總テ警察官ノ檢視ヲ受クヘキコトニ省議決定候ニ付右様取計ハレ度旨監獄局長ヨリ通牒有之候條此旨心得ヘシ

●在監人變死ノ際ニ於ケル檢視方ノ件

明治三十三年十一月十六日  
司法省監獄局長通牒

知事宛

在監人變死ノ際ニ於ケル檢視方ノ義ニ就テハ從來區々ノ取扱ニ相成居候趣ニ有之候處右ハ總テ警察官ノ檢視ヲ受クヘキコトニ省議決定候條右様御取計相成度此段及通牒候也

〔神奈川警〕

〔神奈川警〕

●陸軍軍人軍屬變死ノ場合ノ取扱ニ關スル件

明治四十二年六月五日  
警保收第三二七〇號

陸軍刑法第八條第一號乃至第三號第五號及第九條第一項第一號第二號ニ定メタル陸軍軍人軍屬變死ノ場合ニ於ケル檢視方ハ左ノ區別ニ依リ取扱フヘキコトニ陸軍省ト協定候旨其ノ筋ヨリ通牒アリタルニ付可然御措置相成度候

左記

- 一、兵營内演習中其ノ他引率者アル等部隊内ニ於ケル變死ノ場合ハ部隊長又ハ憲兵ニ於テ檢視ヲ爲スヲ以テ警察官ニ於テハ之ニ與ラサルコト
- 二、部隊外ニ於ケル變死ノ場合ハ憲兵屯在ノ所在地ニ限リ憲兵ニ於テ其ノ他ハ總テ警察官ニ於テ檢視ヲ行フコト追而尤協定ハ刑事訴訟法及陸軍治罪法等ニ定ムル司法警察官ノ權限ニハ何等影響無之義ニ有之候條爲念申添候也

〔別紙〕

同件(明治四十二年六月二日內務省陸甲第八三號  
內務省警保局長有松英義ヨリ神奈川縣知事男爵周布公平宛)

陸軍刑法第八條第一號乃至第三號第五號及第九條第一項第一號第二號ニ定メタル陸軍軍人軍屬變死ノ場合ニ於ケル檢視方ハ左ノ區別ニ依リ取扱フヘキコトニ陸軍省ト協定候條可然御措置相成候條致度依命此段及通牒候也  
左記ハ六月五日警保收第三二七〇號保安課長通牒文ト同シ

●海軍軍人軍屬變死ノ場合ノ取扱ニ關スル件

明治四十四年十月四日  
警保收第八〇七七號

海軍軍人軍屬變死ノ場合ニ於ケル檢視方ニ付別紙ノ通り警保局長ヨリ通牒有之候條可然御措置相成度候也

〔別紙〕

同 件 (明治四十四年九月三十日內務省警第四〇九六號)  
 (內務省警保局長法學博士古賀廉造ヨリ神奈川縣知事男爵周布公平宛)  
 海軍刑法第八條第九條及第十條ニ定メタル海軍軍人軍屬變死ノ場合ニ於ケル檢視方ニ付テハ左ノ區別ニ依リ取扱フ  
 ヘキコトニ海軍省ト協定候條可然御措置相成度依命此段及通牒候也

左記

- 一、艦船部隊又ハ海軍營造物内ニ於ケル變死ノ場合ハ海軍官憲ニ檢視ヲ爲スヲ以テ警察官ニ於テハ之ニ與ラサル  
 コト
  - 二、前號ノ艦船部隊外又ハ營造物外ニ在リテハ憲兵屯在地ニ限リ憲兵ニ於テ其ノ他ノ場合ハ總テ警察官ニ於テ檢  
 視ヲ行フコト
- 追而尤協定ハ刑事訴訟法及海軍治罪法等ニ定ムル司法警察官ノ權限ニハ何等影響無之義ニ付御了知相成度爲  
 念此段申添候也

### ●住所氏名不明ノ死體判明セシトキ通知方

明治三十九年十二月十八日  
訓令第三十八號

郡役所 市役所 町村役場

市町村長カ警察官署ヨリ住所氏名ノ分明ナラサル死體ノ引取ヲ了シ公告其ノ他ノ方法ニ依リ調査ノ結果其ノ住所氏  
 名等判明セシトキハ遲滞ナク前ニ檢視ヲ了シタル警察官署ニ通知スヘシ

### ●變死人ノ報告ニ關スル件

大正十一年一月七日  
戊警刑發第二號

爾今變死人ノ報告ハ特種ノ場合ヲ除クノ外別紙様式ニ依リ報告相成度依命此段及通牒候也

(別紙) 様式

變死人ノ件報告

年 月 日

警察署長

〔神奈川警〕

〔神奈川警〕

變死ノ種類	同年月日時	同場所	現場ノ模様	屍體ノ模様	當該變死ノ 特有ナル症狀	死者及原因	關係醫・師及 檢案上ノ意見	關係警察官 屍體及携帶 品ノ處置	住所氏名不詳 ナルトキハ特 ニ人相著衣携 帶品ノ詳細及 其ノ各徵	種ノ特 見動機及 見人	發見 考	變死ニ特有ナル 症狀ト如シ
												變死ニ特有ナル 症狀トハ假令ハ溺死ニアリテハ腹部膨滿、 腔門哆開、眼瞼ノ溢血、突端ノ齒外突出等外部ノ症 狀ヲ記スルカ如シ

### ●變死體取扱ノ件

大正十三年一月十四日  
十三刑發第三號

本年一月一日ヨリ實施セラレタル改正刑事訴訟法第百八十二條ニ依ル變死體取扱ニ關シ過般横濱地方裁判所檢事局  
 ト打合セテ結果差當リ左記ノ通り取扱フ事ニ商議致候ニ付御了知相成度爲念此段及通牒候也  
 追而當課ニ對スル變傷屍體ノ報告ハ從前通りニ付申添候

左記

- 一、變死體ヲ發見シタル時ハ一應其ノ狀況ヲ調査ノ上現場ヲ保存シ電話ヲ以テ所轄檢事局ニ報告シ其ノ指揮ヲ受ケルコト
- 二、前項ノ場合特命ナキ限リ從前通り行政檢視ノ取扱ヲ爲シ書類ハ其ノ儘其ノ署ニ保存シ檢事局ニ對シテハ別ニ書面上ノ手續ヲ要セス

●病死體解剖ニ關スル件

明治九年九月 內務省達無號

病死體解剖ノ儀ハ醫術進步ノ爲メ緊要ノ事柄ニ付雙方熟談ノ上ハ區戸長或ハ醫務取締ヘ肩置患部ノ剖觀不苦候條此旨相達候事

●死體解剖出願方

明治十七年三月十二日 布達甲第十三號

死體解剖ノ儀ハ是迄當廳ヘ出願ノ上差許シ來リ候處今後死者ノ遺書及其親屬醫師熟談ノ書面(遺書ナキモノハ親屬ノ遺書ヲ以テ)ヲ以テ所轄警察署ヘ願出許可ヲ受ケヘシ此旨相達候事 (醫師連署親屬ナキモノ醫師ヨリ)

●所患局部解剖願出取扱方ノ件

明治十六年十一月 內務省指令

本人ノ遺書又ハ至親ノ承諾ヲ得タル死體ヲ醫學研究ノ爲メ所患局部ノ解剖ヲ行フトキハ其醫員竝ニ死者ノ親戚等連署爲願出候ノミニテ可然哉(茨城縣例) 右達署爲願出候儀ト可心得事

●死體解剖ヲ許可シタルトキハ其ノ願末ヲ具申スヘキノ件

明治十八年四月 縣內第六四五號

(神奈川警)

(神奈川警)

昨十七年三月ヨリ同十二月迄ニ係ル死體解剖人員別表ニ依リ取調可申出且ツ病體解剖說等有之モノハ該書類寫相添ヘ進達スヘシ爾後死體解剖許可シタルトキハ其願末ヲ具申スヘシ此旨相達候事

(附記)明治十八年四月內務省發第三八三號ヲ以テ死體解剖人員及死體解剖記事(十七年三月ヨリ同)取調報告ス

ヘキノ件達アリタルモ同十九年一月內務省發第二五號ヲ以テ客年四月發第三八三號ヲ以テ死體解剖人員及死體解剖記事等御差出相成度旨及照會置候處右ハ自今其ノ儀ニ不及候最モ死體解剖數ノミ從前ノ通御報告相成候條致度此段更ニ及照會候也

●病死體解剖ハ雙方熟談ノ上タリトモ官許ヲ得ヘキノ件

明治十八年十二月 內務省指令

病死體解剖ノ儀ハ醫術進步ノ爲メ緊要ノ事柄ニ付雙方熟談ノ上郡役所ヘ肩置候ハ、患部ノ剖觀不苦哉ノ旨伺出候モノ有之右ハ明治九年七月三府ヘ御達ノ類例モ有之同様心得可然哉(山形縣例) 右ハ雙方熟談ノ上タリトモ官ノ許可ヲ可得義ト可心得事

●刑死者及病死者遺骸ノ下付ヲ請フモノナキトキハ解剖實驗ニ供スルヲ得ルノ件

明治十八年七月 內務省達甲第二五號

監獄則ニ揚タル所ノ刑死者及病死者ニシテ親族故舊其遺骸ノ下付ヲ請フモノナキトキハ官公立醫學學校若ハ病院ニ於テ該遺骸ヲ解剖實驗ノ用ニ供スルコトヲ得此旨相達候事 但死體剖觀ノ後ハ整理シテ原體ニ復シ不都合無之様取計ヲハシムヘシ

●私立醫學學校及病院又ハ開業醫ニ於テ刑死者ノ解剖ニ關スル件

明治十八年九月 內務省指令

本年七月御省甲第二十五號御達監獄則ニ揚ケル所ノ刑死者及死者ニシテ親屬故舊其遺骸ノ下付ヲ請フ者ナキトキハ官公立醫學校若クハ病院云云ト有之就テハ私立醫學校及病院又ハ開業醫ニシテ該遺骸ヲ解剖スルハ不相成儀ニ候哉果シテ然ラハ假令死者生前ニ解剖ヲ承諾シタル者モ右同様ノ儀ト心得可然哉(靜岡縣伺)

右官公立醫學校若クハ病院ニ限ル儀ト心得事  
但死者生前ニ於テ其私立醫學校及病院又ハ某開業醫ニ對シ承諾セシ者ハ此限ニアラス

### ●刑死者ノ遺骸解剖ハ其遺骸ノ下附ヲ請願セサルモノニ限ルノ件

明治十八年十月  
內務省指令

第一條 本年七月御省甲第二十五號御達ニ刑死者及病死者ニシテ親屬故舊其遺骸ノ下付ヲ請フ者ナキトキハ官公立醫學校若クハ病院ニ於テ解剖實驗ノ用ニ供スルコトヲ得ト有之候處右ハ監獄則第七十九條第一項ニ依リ其死亡シタル時限ヨリ二十四時間以內ニ遺骸ノ下付ヲ請フ者ナケレハ直ニ解剖スルトセハ親屬故舊遠地ニアル者ハ或ハ失望ノ掛念アルニ付時限ニ關セス全ク遺骸ノ下付ヲ出願セサル者ニ限リ解剖差許シ可然哉

第二條 前條遺骸解剖ノ儀ハ義ニ刑死者遺骸ノ下付ヲ請フ者ナキモノノ外何人ニ不拘本人ノ請願ニ非サルモノト其遺族者ノ承諾ヲ得サル者トハ解剖不相成旨神奈川縣へ御指令ノ趣モ有之候處甲第二十五號御達ニ依レハ死者ノ請願並ニ遺族者ノ承諾ヲ要セサル儀ト心得可然哉(栃木縣伺)

第一條 伺ノ通り

但既ニ二十四時間ヲ過キ假埋葬セシ者ハ解剖ヲ許スヘカラサルモノトス

第二條 伺ノ通り

### ●刑死者及病死者ノ遺骸解剖後ニ於ケル取扱方ノ件

明治十八年十二月  
內務省指令

(神奈川警)

(神奈川警)

本年御省甲第二十五號ヲ以テ監獄則ニ揚ケル所ノ刑死者及死亡者ニシテ親屬故舊其遺骸ノ下付ヲ請フモノナキ時ハ官公立醫學校若クハ病院ニ於テ該遺骸ヲ解剖實驗ノ用ニ供スルコトヲ得ルノ義御達相成候ニ付テハ右刑死者等解剖施行ノ節ハ同達但書ノ通り死體剖製後總理シテ原體ニ復シ不都合無之様可致ハ勿論ノ義ニ有之候得共總理シテ原體ニ復セシ上ハ適宜埋葬若クハ火葬ニ取計可然哉(岡山縣伺)

### ●死體解剖願出方

明治二十一年九月二十四日  
文部省告示第十號

從來死體解剖ノ儀帝國大學醫科大學へ願出ル者アルトキハ該學ニ於テ開屆來候處自今文部省直轄高等中學校醫學部ニ於テモ同様可開屆ニ付右望ノ者ハ該醫學部へ願出ヘシ

明治三十二年五月二十二日  
內務省告示第六十號

死體解剖ハ自今傳染病研究所及永樂病院ニ於テモ可開屆ニ付右望ノ者ハ兩所ノ中へ願出ヘシ

### ●死亡診斷書死體檢案書並死産證書死胎檢案書記載事項ノ件

明治三十三年九月三日  
內務省令第四十一號

死亡診斷書死體檢案書並死産證書死胎檢案書記載事項ノ件左ノ通相定ム

- 第一條 醫師ハ其ノ作爲スヘキ死亡診斷書又ハ死體檢案書ニ左ノ諸件ヲ記載スヘシ
  - 一 死亡者ノ氏名、其ノ職業及其ノ出生ノ年月日
  - 二 病死者ニ在テハ其ノ病名、自殺者ニ在テハ其ノ手段、自殺以外ノ變死者及中毒者ニ在テハ其ノ種類
  - 三 發病ノ年月日
  - 四 死亡ノ年月日時及其ノ場所
- 第二條 醫師及産婆ハ其ノ作爲スヘキ死産證書又ハ死胎檢案書ニ左ノ諸件ヲ記載スヘシ
  - 一 父ノ氏名、職業、私生子ニ在テハ母ノ氏名、職業及父母ノ出生ノ年月日

第二編 保安 第一章 安寧

- 二 死胎ノ嫡出子庶子私生子別及男女別
- 三 妊娠ノ月數
- 四 分娩ノ年月日時及其ノ場所

附 則

本令ハ明治三十四年二月一日ヨリ施行ス

●死亡診斷書死體檢案書並死産證書死胎檢案書様式並

記載方

明治三十三年十月九日  
内務省訓令第二十八號

廳府縣

本年九當省令第四十一號ヲ以テ規定シタル醫師ノ作爲スヘキ死亡診斷書、死體檢案書及醫師又ハ産婆ノ作爲スヘキ死産證書、死胎檢案書ノ様式並ニ其記載方ハ左ノ各項ニ準據セシメラルヘシ

第一 死亡診斷書、死體檢案書

七 發病ノ年月日(變死者自殺者等ニ在テハ之ヲ除ク)

八 死亡ノ年月日時

九 死亡ノ場所

右證明(檢案)候也

年 月 日

住 所

醫師 何 某印

記載方

- 一 戶籍上ノ氏名ヲ記スヘシ自殺者變死者等ニ在テ著シ氏名明カナラサルトキハ不詳ト記スヘシ
- 二 經久ノ死體ニシテ男女ノ區別明瞭ナラサルトキハ

〔神奈川警〕

- 一 氏名
- 二 男女ノ別
- 三 出生ノ年月日
- 四 職業 死亡者ノ職業  
家計ノ主ナル職業
- 五 病死、自殺、其他ノ變死、中毒ノ別
- 六 病名(自殺者ニ在テハ、手段及中毒者ニ在テハ種類)

死亡診斷書(死體檢案書)

〔神奈川警〕

三 不詳ト記スヘシ

自殺者變死者等ニシテ出生ノ年月日明瞭ナラサルトキハ推定年齡何歳ト記シ若シ推定シ能ハサル場合ニ於テハ不詳ト記スヘシ

四

死亡者家計ノ主働者ナル場合ニ於テハ死亡者ノ職業ノミヲ記シ、死亡者若シ幼者、老者、婦女等ニシテ一定ノ職業ナキ場合ニ於テハ家計ノ主ナル職業ヲ記シ死亡者ノ職業無シト記スヘシ又死亡者一定ノ職業アルモ他家計ノ主働者アル場合ニ於テハ死亡者ノ職業ト家計ノ主ナル職業トヲ併記スヘシ

五

總テ職業名ハ商又ハ工等單一ノ汎稱ニ據ラスシテ何商又ハ何工等成ルヘク細密ニ記スヘシ  
自殺者變死者等ニ在テ其職業明カナラサル場合ニ於テハ不詳ト記スヘシ  
病死ナルヤ自殺ナルヤ若クハ自殺以外ノ變死ナルヤ中毒ナルヤノ別ヲ記スヘシ

六

病死ノ場合ニ於テハ其死因トナリタル病名ノ外何等ノ事項ヲモ記スヘカラス  
同時ニ二種以上ノ疾病ニ侵サレ死亡シタル者ニシテ一ノ原病アリテ他ハ繼發病若クハ胎後病ナルトキハ其原病名ノミヲ記シ又各種獨立ノ疾病ナルトキハ主トシテ死亡ノ原因トナリタル病名ノミヲ記

第二編 保安 第一章 安寧

様式

第二 死産證書、死胎檢案書

スヘシ若シ以上ノ區別ヲ爲シ能ハサルトキハ各種ノ病名ヲ併記スヘシ

全ク死因タル病名ヲ診定シ能ハサルトキハ不詳ト記スヘシ

自殺者ニ在テハ其自殺ノ手段例之ハ縊死、刃傷、入水等ノ別ヲ記スヘシ

自殺以外ノ變死者及中毒者ニ在テハ其種類例之ハ溺死、壓死、燒死、他殺、河豚中毒、「アルコール」中毒等ノ別ヲ記スヘシ

病死者ニ在テハ死因トナリタル疫病ノ發病年月日ヲ記スヘシ若シ明瞭ナラサルトキハ推定何年何月何日ト記スヘシ又全ク推定シ能ハサル場合ニ於テハ不詳ト記スヘシ

病死、自殺、變死、中毒ニ拘ハラズ死亡ノ年月日時ヲ記スヘシ若シ自殺者、變死者等ニ在テ死亡ノ時明瞭ナラサルトキハ推定セル年月日時ヲ記スヘシ

此場合ニハ推定ノ二字ヲ冠セシムルヲ要ス

死亡ノ場所ハ郡市區町村大字名及番地(番戶、番屋敷)ヲ記スヘシ若シ自殺者、變死者等ニシテ漂

著セル死體ナルトキハ其漂著シタル場所ヲ記スヘシ此場合ニハ其下ニ漂著ト記スルヲ要ス

死産證書(死胎檢案書)

- 一 父ノ氏名(私生子ノ場母ノ氏名)
- 二 父ノ出生ノ年月日(私生子ノ場合ニ在テハ之ヲ除ク)
- 三 母ノ出生ノ年月日
- 四 父ノ職業(私生子ノ場母ノ職業)
- 五 妊娠ノ月數
- 六 分娩ノ年月日時
- 七 分娩ノ場所
- 八 死胎ノ男女ノ別
- 九 死胎ノ嫡出子、庶子、私生子ノ別

右證明(檢案)候也

年 月 日 住 所 醫師(産婆) 何 某印

記載方

- 一 死胎ノ嫡出子ナルカ又ハ庶子ナルトキハ其父ノ氏名ヲ記スヘシ若シ私生子ナルトキハ其母ノ氏名ヲ記スヘシ
- 二 死胎ノ嫡出子ナルカ又ハ庶子ナルトキハ其父ノ出

死亡診斷書死體檢按書死産證及死胎檢按書書式

〔神奈川警〕

〔神奈川警〕

本年内務省令第四十一號ニ依リ醫師ニ於テ作爲スヘキ死亡診斷書、死體檢按書及醫師又ハ産婆ノ作爲スヘキ死産證書、死胎檢按書式並其ノ記載方ハ左ノ各項ニ據ルヘシ

明治三十三年十二月十八日  
縣令第七十五號

標式

死亡診斷書(死體檢按書)

- 一 氏名
- 二 男女ノ別
- 三 出生ノ年月日
- 四 職業(死亡者ノ職業、家計ノ主ナル職業)
- 五 病死(自殺其ノ他ノ變死、中毒ノ區別)
- 六 病名(自殺者ニ手段及中毒者ニ在テハ變死者種別)
- 七 發病ノ年月日(變死者自殺者等ニ在テハ之ヲ除ク)
- 八 死亡ノ年月日時
- 九 死亡ノ場所

右證明(檢按)候也

年 月 日 住 所 醫師 何 某印

生ノ年月日ヲ記スヘシ

- 三 死胎ノ何タルニ拘ハラズ其母ノ出生ノ年月日ヲ記スヘシ
- 四 死胎ノ嫡出子ナルカ又ハ庶子ナルトキハ其父ノ職業ヲ記スヘシ若シ私生子ナルトキハ其母ノ職業ヲ記スヘシ
- 五 總テ職業名ハ商又ハ工等單一ノ汎稱ニ據ラスシテ何商又ハ何工等成ルヘク細密ニ記スヘシ
- 六 妊娠ノ月數ハ受孕ヨリ分娩ニ至ル妊娠ノ經過ニシテ死胎ハ約四週日テ一月ト做シタル第幾月目ニ該當スルカヲ記スヘシ
- 七 分娩ノ年月日時ヲ記スヘシ若シ明瞭ナラサルトキハ推定シタル年月日時ヲ記スヘシ此場合ニハ推定ノ二字ヲ冠セシムルヲ要ス
- 八 分娩ノ場所ハ郡市區町村大字名及番地(番戶、番屋敷)ヲ記スヘシ
- 九 死胎ノ男女孰レニ屬スルカヲ記スヘシ若シ鬼胎等ニ在テ男女ノ區別ヲ爲シ能ハサル場合ニ於テハ其事由ヲ添テ不詳ト記スヘシ

記載方

- 一 戶籍上ノ氏名ヲ記スヘシ自殺者、變死者等ニ在テ若シ氏名明カナラサルトキハ不詳ト記スヘシ
- 二 經久ノ死體ニシテ男女ノ區別明瞭ナラサルトキハ不詳ト記スヘシ
- 三 自殺者、變死者等ニシテ出生ノ年月明瞭ナラサルトキハ推定年何歳ト記シ若シ推定シ能ハサル場合ニ於テハ不詳ト記スヘシ
- 四 死亡者家計ノ主働者ナル場合ニ於テハ死亡者ノ職業ノミヲ記シ死亡者若シ幼者、老者、婦女等ニシテ一定ノ職業ナキ場合ニ於テハ家計ノ主ナル職業ヲ記シ死亡者ノ職業無シト記スヘシ又死亡者一定ノ職業アルモ他ニ家計ノ主働者アル場合ニ於テハ死亡者ノ職業ト家計ノ主ナル職業トヲ併記スヘシ
- 五 總テ職業名ハ商又ハ工等單一ノ汎稱ニ據ラスシテ何商又ハ何工等成ルヘク細密ニ記スヘシ
- 六 病死ノ場合ニ於テハ其ノ死因トナリタル病名ノ外何

等ノ事項ヲモ記スヘカラス  
同時ニ二種以上ノ疾病ニ侵サレ死亡シタル者ニシテ  
一ノ原病アリテ他ハ繼發病若ハ胎後病ナルトキハ其  
ノ原病名ノミヲ記シ又各種獨立ノ疾病ナルトキハ主  
トシテ死亡ノ原因トナリタル病名ノミヲ記スヘシ若  
シ以上ノ區別ヲ爲シ能ハサルトキハ各種ノ病名ヲ併  
記スヘシ

- 全ク死因タル病名ヲ診定シ能ハサルトキハ不詳ト記  
スヘシ
- 自殺者ニ在テハ其ノ自殺ノ手段例ヘハ縊死、刃傷、  
入水等ノ別ヲ記スヘシ
- 自殺以外ノ變死者及中毒者ニ在テハ其ノ種類例ヘハ  
溺死、壓死、燒死、他殺、河豚中毒「アルコール」  
中毒等ノ別ヲ記スヘシ
- 病死者ニ在テハ死因トナリタルノ疾病發病年月日ヲ  
記スヘシ若シ明瞭ナラサルトキハ推定セル年月日ヲ  
記スヘシ又全ク推定シ能ハサル場合ニ於テハ不詳ト  
記スヘシ
- 病死、自殺、變死、中毒ニ拘ハラズ死亡ノ年月日時  
ヲ記スヘシ若シ自殺者、變死者等ニ在テ死亡ノ時明  
瞭ナラサルトキハ推定セル年月日時ヲ記スヘシ此ノ  
場合ニハ推定ノ二字ヲ冠スルヲ要ス
- 死亡ノ場所ハ郡、市、區、町村、大字名及番地(香  
川、番屋敷)

〔神奈川県警〕

様式

戸、番屋敷)ヲ記スヘシ若シ自殺者、變死者等ニシ  
テ漂著セル死體ナルトキハ其ノ漂著シタル場所ヲ記  
スヘシ此ノ場合ニハ其下ニ漂著ト記スルヲ要ス  
第二 死産證書、死胎檢按書

死産證書(死胎檢按書)		
一	父ノ氏名(私生子ノ場 合ニ在テハ母ノ氏名)	
二	父ノ出生ノ年月日(私生子ノ場合ニ 母ノ出生ノ年月日)	
三	父ノ職業(私生子ノ場 合ニ在テハ母ノ職業)	
四	妊娠ノ月數	
五	分娩ノ年月日時	
六	分娩ノ場所	
七	死胎ノ男女ノ別	
八	死胎ノ胎出子、庶子、私生子ノ別	
九	右證明(檢按)候也	
年 月 日	住 所	
	醫師(産婆) 何	某印

一 死胎ノ胎出子ナルカ又ハ庶子ナルトキハ其ノ父ノ氏  
名ヲ記スヘシ若シ私生子ナルトキハ其ノ母ノ氏名ヲ  
記スヘシ

〔神奈川県警〕

- 二 死胎ノ胎出子ナルカ又ハ庶子ナルトキハ其ノ父ノ出  
生ノ年月日ヲ記スヘシ
- 三 死胎ノ何タルニ拘ハラズ其ノ母ノ出生ノ年月日ヲ記  
スヘシ
- 四 死胎ノ胎出子ナルカ又ハ庶子ナルトキハ其ノ父ノ職  
業ヲ記スヘシ若シ私生子ナルトキハ其ノ母ノ職業ヲ  
記スヘシ總テ職業名ハ商又ハ工等單一ノ汎稱ニ據ラ  
スシテ何商又ハ何工等成ルヘク細密ニ記スヘシ
- 五 妊娠ノ月數ハ受孕ヨリ分娩ニ至ル妊娠ノ經過ニシテ  
死胎ハ約四週日チ一月ト看做シタル第幾月日ニ該當  
スルカヲ記スヘシ

●胎兒ノ死體保存許可ニ關スル件

明治九年七月  
内務省指令

醫學經驗ノ爲メ小兒ノ死體ヲ「アルコール」ニ漬貯置度旨其父母並ニ醫院ヨリ願出ノ向有之事實其ノ父母ノ情願ニ出  
候儀ニテ雙方共不都合無之上ハ願意開届ク不苦哉(東京府何)

●妊娠六ヶ月流産死體保存ニ關スル件

明治三十一年十二月  
内務第五〇六號

開業醫ニシテ妊娠六ヶ月ニテ流産セル死體ヲ父母ノ承諾ヲ得テ醫學研究ノ爲メ貯藏セシト願出候者有之候處明治十

七年十一月御省達乙第四十號墓地取締規則標準第十一條ハ妊娠四ヶ月以上ノ死體ハ成人ノ死體同様埋葬ス可キ精神ニ被考且ツ斯ル死體ヲ一個ノ開業醫ニ於テ貯藏スルハ穩當ナ缺クノ嫌ナキニアラスト被存候ニ付一應貴省ノ御意見承知致度此段及御照會候也(神奈川縣知事照會)  
右ハ其父母醫師トノ間ノ熟議ヲ得候上ハ認許シ可然義ト被存候此段及回答候也(衛生局長回答)

### ●骨格ノ保存ハ官公立醫學學校病院ニ限ルノ件

明治二十二年五月  
內衛第四〇一號

死者生前ノ情願若クハ其遺族者ノ承諾ヲ得タル上ハ良民囚人ノ別ナク學術研究ノ爲メ全體解剖不苦旨他府縣何ニ對シ御指令ノ趣モ候得共尙又骨格保存ノ儀モ差許シ苦シカラス哉相伺候條至急御指揮相成度候也(新潟縣知事)  
右本年一月二十四日第四十八號何骨格保存ノ件ハ親屬故舊其ノ遺骸ノ下付ヲ請フ者ナキ刑死者及獄死者ニシテ生前其承諾ヲ得タルモノニ限リ官公立醫學學校病院ニ於テ保存スル儀ハ苦シカラス(內務大臣指令)

### 第七節 銃砲火藥、刀劍、石油、危險物

#### ●銃砲火藥類取締法

明治四十三年四月十三日  
法律第五十三號

改正 大正六年七月法律第二號、一二年三月第二號  
陸帝國議會ノ協贊ヲ經タル銃砲火藥類取締法改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

#### 銃砲火藥類取締法

第一條 銃砲ノ製造又ハ火藥類ノ製造、變形若ハ修理ハ其ノ營業者又ハ行政官廳ノ許可若ハ委託ヲ受ケタル者ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス但シ理化學上ノ實驗、鳥獸ノ捕獲及驅除、射的練習等ノ用ニ供スル火藥類ニ付命令ヲ以テ別段ノ規定ヲ設ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二條 火藥、爆藥ノ製造ハ帝國臣民又ハ帝國臣民ノミチ社員若ハ株主トスル會社ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス但シ行政官廳ノ委託ヲ受ケタル場合、行政官廳ノ許可ヲ受ケ新規發明ニ係ル火藥、爆藥ヲ一定ノ期間試驗ノ爲製

〔神奈川管〕

〔神奈川管〕

造スル場合又ハ前條但書ノ規定ニ該當スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三條 銃砲、火藥類ノ製造又ハ販賣ノ業ヲ營ムトスル者ハ行政官廳ノ許可ヲ受ケヘシ但シ製造業者カ其ノ製造シ又ハ加工シタル銃砲、火藥類ノ卸賣ヲ爲ス場合ハ此ノ限ニ在ラス

相續ニ依リ前項ノ營業ヲ繼續スル場合ハ許可ヲ受ケタルモノト看做ス  
銃砲ノ修繕又ハ改造ノ業ヲ營ム者ハ銃砲製造業者ト看做シ火藥類ノ變形又ハ修理ノ業ヲ營ム者ハ火藥類製造業者ト看做ス

第四條 行政官廳ハ銃砲販賣業者及火藥類販賣業者ノ道府縣ニ於ケル定員ヲ設ケルコトヲ得  
製造業者及行政官廳ノ許可ヲ受ケ其ノ委託額以上ノ同種類ノ火藥類ヲ製造スル者ニシテ其ノ製造シ又ハ加工シタル銃砲、火藥類ノ販賣業ヲ兼ヌルモノハ前項ノ定員ニ算入セス

第五條 銃砲、火藥類ノ製造、變形、修理又ハ販賣ニ關シ許可ヲ受ケタル者行政官廳ニ於テ指定シタル期間内ニ其ノ事業ヲ開始セス若ハ事業開始後一年以上其ノ事業ヲ休止シタルトキ又ハ法令ニ違反シタルトキ又ハ安寧秩序ヲ害スルノ虞アリト認ムルトキハ行政官廳ハ其ノ許可ヲ取消シ又ハ其ノ事業ヲ停止若ハ制限スルコトヲ得

第六條 軍用銃砲、火藥類ノ讓渡又ハ讓受ハ法令ニ特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外其ノ製造若ハ販賣ノ業ヲ營ム者又ハ特ニ行政官廳ノ許可ヲ受ケタル者ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第七條 銃砲、火藥類ハ之ヲ行商シ又ハ市場若ハ露店其ノ他屋外ニ於テ之ヲ販賣スルコトヲ得ス  
第八條 銃砲、火藥類ノ輸出ハ其ノ製造若ハ販賣ノ業ヲ營ム者又ハ特ニ行政官廳ノ許可ヲ受ケタル者ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第九條 銃砲、火藥類ノ輸入ハ行政官廳ノ委託ヲ受ケタル者若ハ其ノ販賣ノ業ヲ營ム者又ハ特ニ行政官廳ノ許可ヲ受ケタル者ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第十條 行政官廳ハ何時ニテモ當該官吏ヲシテ銃砲、火藥類ノ製造所、貯藏所其ノ他銃砲、火藥類ヲ收蔵スルノ疑アル場所ニ臨檢シ又ハ銃砲、火藥類及之ヲ收蔵アルノ疑アル物件若ハ營業上ノ帳簿其ノ他ノ書類ヲ檢査セシムルコトヲ得

行政官廳ハ危害豫防ノ爲銃砲、火藥類ノ製造所若ハ火藥類ノ貯藏所ノ改築若ハ修繕ヲ命ジ又ハ火藥類ニ關シ若ハ



其ノ貯蔵、運搬其ノ他ノ取扱ニ關シ取締上必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得  
第十一條 行政官廳ハ保安上、軍事上又ハ外交上必要アリト認ムル場合ニ於テ銃砲、火藥類ノ輸出若ハ輸入ヲ禁止シ又ハ制限スルコトヲ得

第十二條 行政官廳ハ安寧秩序ヲ保持スル爲必要アリト認ムルトキハ銃砲、火藥類ノ授受、運搬、携帶ヲ禁止シ又ハ制限スルコトヲ得

第十三條 前二條ノ場合ニ於テ行政官廳ハ銃砲、火藥類ノ假領置ヲ爲スコトヲ得

第十四條 左ノ事項ニ關シ必要ナル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム  
一 本法ノ適用ヲ受クヘキ銃砲、火藥類ノ範圍及新規發明ニ係ル火藥類ヲ一定ノ期間試験ノ爲製造スル場合ヲ除クノ外行政官廳ノ許可ヲ受ケ又ハ營業トシテ製造、變形又ハ修理シ得ル普通火藥類ノ範圍

二 銃砲、火藥類ノ取引、授受、使用、運搬、貯蔵其ノ他ノ取扱  
三 銃砲、火藥類ノ取扱人及火藥類ノ作業主任者ニ關スル事項  
四 銃砲、火藥類製造所及火藥類貯蔵所ニ關スル事項  
五 火藥類ヲ要スル工事又ハ工業ニ關スル事項

第十五條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ全部又ハ一部ハ命令ノ定ムル所ニ依リ銃砲、火藥類ニ非サル他ノ戎器又ハ爆發質物品ニ關シ之ヲ準用スルコトヲ得

第十六條 第一條、第八條若ハ第九條ノ規定ニ違反シ、許可ヲ受ケスシテ第三條ノ營業ヲ爲シ又ハ第五條若ハ第十條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者ハ二年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十七條 第八條若ハ第九條ノ規定ニ違反シ又ハ第十條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル場合ニ於テハ未遂罪ヲ罰ス

第十八條 第十二條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者ハ一年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十九條 第十條第二項ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ又ハ第十條第一項若ハ第十三條ノ規定ニ依ル當該官吏ノ職務ノ執行ヲ拒ミ若ハ之ヲ妨ケタル者又ハ其ノ執行ニ際シ當該官吏ノ尋問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虛偽ノ陳述ヲ爲シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

〔神奈川管〕

〔神奈川管〕

第十九條 第六條又ハ第七條ノ規定ニ違反シタル者ハ三百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第二十條 營業者又ハ行政官廳ノ許可ヲ受ケ銃砲、火藥類ニ關スル事業ヲ行フ者未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ之ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二十一條 營業者又ハ行政官廳ノ許可ヲ受ケ銃砲、火藥類ニ關スル事業ヲ行フ者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ營業又ハ事業ニ關シ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ處罰ヲ免ルコトヲ得ス

第二十二條 前二條ノ場合ニ於テハ罰金、科料又ハ沒收以外ノ刑ニ處スルコトヲ得ス

第二十三條 明治三十三年法律第五十二號ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依ル犯罪ニ之ヲ準用ス

附則  
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(明治四十四年三月勅令第十五號ヲ以テ同年五月一日ヨリ施行)  
刑法施行法第二十五條第一項中第一號ヲ削リ以下各號順次繰上ケ  
爆發物取締罰則ハ本法ノ爲其ノ效力ヲ妨ケラレルコトナシ

●銃砲火藥類取締法施行規則 明治四十四年三月十一日 勅令第十六號

改正 大正六年一〇月勅令第一八四號、一二年四月第一七六號  
朕極密顧問ノ諮詢ヲ經テ銃砲火藥類取締法施行規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

銃砲火藥類取締法施行規則  
第一條 銃砲火藥類取締法ニ於テ銃砲ト稱スルハ軍用銃砲及非軍用銃砲ヲ謂フ  
軍用銃砲トハ陸軍大臣又ハ海軍大臣ニ於テ軍用銃砲トシテ指定シタル銃砲及千米突以上ノ距離ニ有效ニ彈著スヘキ裝置ヲ有シ陸軍又ハ海軍ノ用ニ供シ得ヘキ銃砲ヲ謂ヒ非軍用銃砲トハ其ノ他ノ銃砲ヲ謂フ

第二條 銃砲火藥類取締法ニ於テ火藥類ト稱スルハ左ニ掲ケル火藥、爆發藥及火工品ヲ謂フ  
一 火藥 硝酸鹽類ヲ主トスル有煙火藥、硝化纖維素ヲ主トスル無煙火藥又ハ硝化纖維素トナイトログリセリン



前項ノ許可申請ハ第五條ノ主務大臣ニ之ヲ爲ス場合ニ於テハ作業地廳府縣長官ヲ經由スヘシ  
 第十一條 銃砲火藥類取締法第三條ノ規定ニ依リ火藥類販賣業者ニ與フル許可ヲ分チテ甲乙ノ二種トス  
 甲種ノ許可ヲ受ケタル火藥類販賣業者ハ火藥類ニ關スル各種ノ商行爲ヲ爲スコトヲ得  
 乙種ノ許可ヲ受ケタル火藥類販賣業者ハ火藥類ヲ輸入シ之ヲ官廳又ハ火藥類販賣業者ニ賣渡スノ外火藥類ニ關ス  
 ル他ノ商行爲ヲ爲スコトヲ得ス

第十二條 銃砲販賣業者及前條ノ火藥類販賣業者ノ道府縣ニ於ケル定員ハ内務大臣之ヲ定ム

第十三條 火藥類販賣業者ハ火藥庫ヲ備フルコトヲ要ス

第十四條 火藥類販賣業者ノ火藥類取扱ハ火藥類取扱免狀ヲ有スル者之ニ任スルコトヲ要ス一年間二千貫以上ノ火  
 藥又ハ千貫以上ノ爆藥ヲ消費スル者ニ付亦同シ

前項ノ規定ハ火藥及爆藥ヲ共ニ消費スル場合ニ於テハ爆藥一貫ヲ火藥二貫ト看做シ合算シタル數量ニ付之ヲ適用  
 シ消費ノ場所二箇以上アル場合ニ於テハ各消費場所ニ付之ヲ適用ス

第十五條 火藥類取扱免狀ニ關スル規定ハ内務大臣之ヲ定ム

第十六條 火藥類ノ製造又ハ變形修理ヲ爲ス作業所ニハ火藥類ノ作業主任者ヲ置クコトヲ要ス

火藥類ノ作業主任者ノ資格ニ關スル規定ハ内務大臣之ヲ定ム

第十七條 火藥類讓渡ノ許可ハ所轄廳府縣長官ニ之ヲ申請スヘシ  
 火藥類讓受ノ許可ハ消費地廳府縣長官ニ之ヲ申請スヘシ但シ消費地定マラス若ハ二箇所以上ニ互リ又ハ銃砲火藥  
 類取締法施行區域外ニ係ル場合ハ所轄廳府縣長官ニ之ヲ申請スヘシ

第十八條 左ノ各號ノ火藥類ノ讓渡及讓受ニ付テハ内務大臣ノ定メタル場合ニ限り前條ノ區分ニ依リ警察官署ニ之  
 ヲ申請スルコトヲ得

- 一 火藥 三貫以内
- 二 爆藥 一貫三百匁以内
- 三 工業用雷管 二千箇以内
- 四 信管 千箇以内

〔神奈川警〕

五 煙管 千箇以内

六 門管 千箇以内

七 導火線 五百間以内

第十八條 軍用銃砲又ハ左ノ各號ノ火藥類ノ讓渡及讓受ノ許可ハ所轄警察官署ニ之ヲ申請スヘシ

- 一 火藥 一貫三百匁以内
- 二 銃用實包 千箇以内
- 三 銃用空包 千箇以内
- 四 銃用實包又ハ銃用空包ニ要スル雷管又ハ雷管附藥莖 二千箇以内

第十九條 前條ノ許可ハ二月間其ノ效力ヲ有ス  
 前三條ノ許可ハ許可ヲ爲シタル行政官廳取締上必要ト認ムルトキハ何時ニテモ之ヲ取消スコトヲ得

第二十條 軍用銃砲又ハ火藥類ノ讓渡ハ公賣又ハ競賣法若ハ民事訴訟法ニ依リ競賣ノ場合ニ於テハ許可ヲ要セザル  
 モノトス

第二十一條 鑛業法ニ依リ鑛物ノ試掘若ハ探掘ヲ爲ス者又ハ内務大臣ノ定ムル所ニ依リ工事若ハ工業ノ爲火藥類消  
 費ノ許可ヲ受ケタル者力其ノ消費スル火藥類ヲ讓受ケル場合ニ於テハ第十七條各號ノ火藥類ニ限り、狩獵免許ヲ  
 受ケタル者力其ノ消費スル火藥類ヲ讓受ケル場合ニ於テハ第十八條各號ノ火藥類ニ限り行政官廳ノ許可ヲ要セザ  
 ルモノトス

第二十二條 火藥類ハ左ニ掲ケル者力其ノ火藥類ヲ所持スル場合ノ外之ヲ所持スルコトヲ得ス

- 一 火藥類販賣業者
- 二 火藥類製造業者又ハ委託若ハ許可ヲ受ケ火藥類ノ製造若ハ變形修理ヲ爲ス者
- 三 第十六條及第十七條ノ規定ニ依リ火藥類讓受ノ許可ヲ受ケタル者
- 四 前條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケスシテ火藥類ヲ讓受ケタル者

- 五 第二十三條ノ規定ニ依リ火藥類ノ輸入又ハ輸出ノ許可ヲ受ケタル者
  - 六 運送業者
  - 七 相續又ハ遺贈ニ因リ火藥類ノ所有權ヲ取得シタル者
  - 八 法人ノ合併ニ因リ火藥類ノ所有權ヲ取得シタル者
  - 九 前各號ニ掲ケル者ノ家族又ハ從業者
- 火藥類ヲ所持スル者廢業、許可ノ取消其ノ他ノ事由ニ因リ前項各號ニ該當セザルニ至ラズトキハ所轄警察官署ノ認可ヲ受ケ讓渡其ノ他必要ナル處分ヲ爲スヘシ
- 前二項ノ規定ハ第十八條各號ノ火藥類ニ之ヲ適用セス
- 第二十三條 銃砲火藥類取締法第八條ノ許可ハ輸出港、同法第九條ノ許可ハ輸入港ヲ管轄スル廳府縣長官ニ之ヲ申請スヘシ
- 前項ノ許可ハ軍用銃砲及軍用火藥類ニ付テハ輸出港又ハ輸入港ヲ管轄スル廳府縣長官ヲ經由シ陸軍ノ用ニ供スルモノニ付テハ内務大臣及陸軍大臣ニ、海軍ノ用ニ供スルモノニ付テハ内務大臣及海軍大臣ニ之ヲ申請スヘシ
- 第二十四條 前條ノ許可ハ一年間其ノ效力ヲ有ス但シ許可ヲ爲シタル行政官廳取締上必要ト認ムルトキハ何時ニテモ之ヲ取消スコトヲ得
- 第二十五條 輸入又ハ讓受ノ許可ヲ受ケタル火藥類ハ其ノ許可ヲ爲シタル行政官廳、第二十一條ノ規定ニ依リ許可ヲ受クスシテ讓受ケタル火藥類ハ所轄警察官署ノ許可ヲ受ケルニ非サレハ之ヲ他ノ用途ニ充ツルコトヲ得ス
- 第二十六條 銃砲火藥類取締法第十一條ノ規定ニ依リ銃砲火藥類ノ輸出若ハ輸入ノ禁止又ハ制限ハ内務大臣之ヲ行フ但シ陸軍ノ用ニ供スルモノニ付テハ内務大臣及陸軍大臣、海軍ノ用ニ供スルモノニ付テハ内務大臣及海軍大臣之ヲ行フ
- 第二十七條 火藥類ハ第十八條各號ノ一ニ該當スルモノ及左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ヲ除クノ外火藥庫又ハ倉庫以外ノ場所ニ之ヲ貯藏スルコトヲ得ス
- 一 土工其ノ他一時ノ事業ニ要スル火藥類ヲ其ノ事業中假貯藏所ニ貯藏スル場合
  - 二 一月以内ニ完了スヘキ土工其ノ他ノ事業ニ要スル火藥類ニシテ第十七條各號ノ一ニ該當スルモノヲ其ノ事業

〔神奈川警〕

〔神奈川警〕

- 三 中十日以内ヲ限リ所轄警察官署ノ許可ヲ受ケ其ノ指定シタル安全ノ場所ニ貯藏スル場合
  - 火藥ヲ裝填セサル雷管附藥莖ヲ安全ナル場所ニ貯藏スル場合
- 第二十八條 火藥類貯藏所ニ貯藏スル火藥類ハ左ノ數量ヲ超過スルコトヲ得ス

貯藏所ノ種類		火藥庫		假貯藏所	
火藥類ノ種類	數量	火藥庫	假貯藏所	火藥類ノ種類	數量
火藥	一萬	貫十	貫五	火藥	一萬
爆藥	五萬	貫三	貫二	爆藥	五萬
銃用實包	二萬	貫三	貫二	銃用實包	二萬
銃用空包	二萬	貫三	貫二	銃用空包	二萬
銃用雷管	五萬	貫三	貫二	銃用雷管	五萬
工業用雷管	三萬	貫一	貫五	工業用雷管	三萬
信管、爆管、門管	無	無	無	信管、爆管、門管	無

前項ニ掲ケサル火工品ハ其ノ原料タル火藥又ハ爆藥ノ數量ニ依リ前項ノ規定ヲ適用ス但シ雷管附藥莖及導火線ハ此ノ限ニ在ラス

- 第二十九條 内務大臣ハ安全ナル位置ニ於テ特別ノ設備ヲ爲シタル火藥庫ニ付危險ノ虞ナシト認ムル程度ニ於テ前條ノ數量ヲ超過スル火藥類ノ貯藏ヲ許可スルコトヲ得
- 第三十條 火藥類ノ製造又ハ變形修理ヲ爲ス作業所ニ存置シ得ヘキ火藥類ノ數量ハ其ノ設備ニ應シ製造若ハ變形修理ヲ委託若ハ許可シ又ハ其ノ營業ヲ許可シタル行政官廳之ヲ指定ス
- 第三十一條 火藥類ハ内務大臣ノ定ムル區別ニ依リ各別棟ノ火藥類貯藏所ニ之ヲ貯藏スヘシ但シ倉庫ニ在リテハ不燃質物ヲ以テ造リタル隔壁ニ依リ遮斷スル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス
- 第三十二條 火藥類貯藏所ノ新設ハ所在地廳府縣長官ノ許可ヲ受ケヘシ其ノ増築、改築、修繕又ハ模様替ノ工事ヲ爲ストキ亦同シ
- 工事ヲ竣リタル火藥類貯藏所ハ警察官ノ検査ヲ受ケルニ非サレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス
- 第三十三條 第二十八條ノ規定ニ依リ火藥類貯藏所ニ貯藏スルコトヲ得ヘキ最大數量ノ火藥類ノ貯藏ニ付テハ倉庫

ヲ除クノ外其ノ外壁ヨリ左ノ距離ヲ保有スヘシ

一 宮城、離宮、御用邸又ハ神宮ヘ二十町以上

二 皇陵、社寺、學校、公園、電氣瓦斯若ハ石油ノ工場、電力若ハ火力ヲ使用スル工場、發火質物件ヲ蓄積スル

場所、鐵道、軌道、汽船ノ常航路若ハ繫留所又ハ市街地ヘ四町以上

三 宅地、國道、縣道、電線、瓦斯ノ傳導管、火ヲ取扱フ場所、蓄積シタル燃焼物其ノ他内務大臣ノ指定シタル

箇所ヘ五十間以上

前項ノ距離ハ貯藏數量ノ増減ニ從ヒ貯藏數量ノ平方根ニ比例シテ之ヲ増減ス但シ各距離ノ五分ノ一ヲ下ルコトヲ

得ス

倉庫ハ其ノ外壁ノ周圍ニ一間以上ノ空地ヲ保有スヘシ但シ貯藏數量ヲ減少シ特ニ廳府縣長官ノ許可ヲ受ケタル場

合ハ此ノ限ニ在ラス

廳府縣長官ハ必要ト認ムルトキハ假貯藏所ニ付第一項及第二項ノ規定ニ依ル距離以上ニ於テ特ニ其ノ距離ヲ指定

スルコトヲ得

火藥類貯藏所相互ノ距離ニ付テハ本條ノ規定ヲ適用セス

第三十四條 内務大臣ハ天然又ハ人造ノ掩體ノ狀態其ノ他土地又ハ設備ノ狀況ニ依リ危險ノ虞ナシト認ムル程度ニ

於テ前條ニ定ムル距離ノ減少ヲ許可スルコトヲ得

第三十五條 第二十九條及前條ノ許可ハ狀況ノ變更ニ依リ何時ニテモ之ヲ取消スコトヲ得

第三十六條 第二十八條ノ規定ニ依リ倉庫ニ貯藏スルコトヲ得ヘキ數量ヲ超過スル火藥類ノ所轄警察官署ノ許可ヲ

受ケルニ非サレハ同時ニ之ヲ運搬スルコトヲ得ス

第三十七條 火藥類ハ他ノ物件ト混包シ又ハ變裝若ハ假裝シテ之ヲ所持、運搬又ハ託送スルコトヲ得ス

前項ノ物件ヲ發見シタル者ハ直ニ警察官ニ之ヲ届出ツヘシ

第三十八條 地盤又ハ物件ヲ破砕スルノ目的ヲ以テ火藥又ハ爆藥ヲ使用セムトスル者ハ使用地警察官署ノ許可ヲ受

ケルニ非サレハ内務大臣カ特ニ定メタル場合又ハ鑛業法ニ依ル鑛物ノ試掘若ハ探掘ニ關シテハ此ノ限ニ在ラス

第三十九條 拳銃、短銃又ハ仕込銃ハ職務又ハ銃砲ニ關スル營業ノ爲ニスル場合ヲ除クノ外所轄警察官署ノ許可ヲ

〔神奈川警〕

〔神奈川警〕

受ケルニ非サレハ之ヲ授受、運搬又ハ携帶スルコトヲ得ス

前項ノ規定ハ仕込刀劍其ノ他變裝シタル武器ニ之ヲ準用ス

第四十條 拳銃、短銃又ハ仕込銃ハ業務又ハ修學ノ爲ニスル場合ヲ除クノ外未成年者之ヲ所持シ又ハ未成年者ヲシ

テ之ヲ所持セシムルコトヲ得ス

前項ノ規定ハ仕込刀劍其ノ他ノ武器ニ之ヲ準用ス

第四十一條 火藥類ノ運搬、所持其ノ他ノ取扱ハ未成年者之ヲ爲シ又ハ未成年者、白痴者若ハ瘋癲者ヲシテ之ヲ爲

サシムルコトヲ得ス但シ第十八條各號ノ火藥類ニ付テハ十五歳以上ノ者ニ限り之ヲ爲シ又ハ之ヲ爲サシムルコト

ヲ得

第四十二條 營業者ハ許可ヲ受ケサル者ニ銃砲火藥類又ハ第三十九條ノ武器ヲ讓渡スコトヲ得ス但シ讓受ニ付許可

ヲ要セサル場合及銃砲火藥類取締法施行區域外ニ居住スル者ニシテ當該行政官廳ニ依リ移入ノ許可ヲ受ケタルモ

ノニ對シ銃砲火藥類ヲ移出讓渡スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第四十三條 試驗ノ結果不良品ト認定セラレタル火藥類ハ内務大臣ノ定ムル所ニ依リ其ノ所持者ニ於テ直ニ必要ナ

ル處置ヲ爲スヘシ

第四十四條 第十一條乃至第十五條、第二十二條、第二十七條、第二十九條及第三十一條乃至第三十六條ノ規定ハ

緩燃導火線ニ之ヲ適用セス

銃砲火藥類取締法第六條、第八條及第九條並本令第十一條乃至第十五條、第二十二條、第二十七條乃至第二十九

條及第三十一條乃至第三十六條ノ規定ハ煙火及通信大臣カ船舶備付用ノ爲特ニ指定シタル煙火類似ノ火工品ニ之

ヲ適用セス

緩燃導火線及煙火ニ付必要ナル規定ハ廳府縣長官之ヲ定ム

第二項ノ船舶備付用火工品ニ付必要ナル規定ハ通信大臣之ヲ定ム

第四十五條 第七條、第八條第二項、第十條第一項、第十三條、第十四條、第十五條ノ二第一項、第二十二條、第

二十五條、第二十七條、第二十八條、第三十一條、第三十二條、第三十六條、第三十七條第一項、第三十八條、

第四十二條及第四十三條ノ規定ニ違反シタル者、第三十三條ノ規定ニ違反シ又ハ本令ニ依ル許可若ハ指定ノ範圍

第二編 保安 第一章 安寧

ヲ超エテ火藥類ヲ貯藏シタル者並本令ニ基キテ發スル内務大臣ノ命令ノ規定ニ適合セザル火藥類貯藏所ニ火藥類ヲ貯藏シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十六條 第三十九條乃至第四十一條ノ規定ニ違反シタル者ハ三月以下ノ懲役若ハ五十圓以下ノ罰金又ハ拘留若ハ科料ニ處ス

第四十七條 第四條又ハ第三十七條第二項ノ規定ニ違反シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第四十八條 銃砲火藥類取締法第十條乃至第十三條及第十六條乃至第十八條ノ規定ハ銃砲火藥類ニ非サル他ノ武器及爆發質物品ニ之ヲ準用ス

第四十九條 公賣又ハ競賣法若ハ民事訴訟法ニ依ル競賣ヲ爲ス者ハ銃砲火藥類取締法及本令ノ適用ニ付テハ之ヲ讓渡人ト看做ス

第五十條 左ノ事項ハ内務大臣之ヲ定ム但シ鐵道ニ依ル輸送ニ關スル事項ハ鐵道大臣、郵便及船舶ニ依ル輸送及船舶ニ於ケル常用火藥類ノ貯藏ニ關スル事項ハ逓信大臣之ヲ定ム

一 火藥類ノ貯藏、收納、荷造其ノ他ノ取扱ノ方法及制限

二 第四十三條ノ規定ニ依ル火藥類試驗及不良品處置方法

三 火藥類運搬ノ方法及制限

四 火藥類作業所及火藥類貯藏所ノ設備

五 火藥類作業所及火藥類貯藏所ニ於テ遵守スヘキ事項

第五十一條 前條ノ規定ニ依ル命令ハ鑛業法第七十一條ノ規定ニ依リ農商務大臣ノ發スル命令ノ效力ヲ妨クルコトナシ

附則

本令ハ明治四十四年五月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ第十三條及第十四條ノ規定ハ仍二年間之ヲ適用セス

本令施行前火藥商又ハ甲種火藥商ノ許可ヲ受ケタル者ハ甲種火藥類販賣業者、輸入及卸賣ノ營業ニ限リ許可ヲ受ケタル者又ハ乙種火藥商ノ許可ヲ受ケタル者ハ乙種火藥類販賣業者トシテ各其ノ許可ヲ受ケタルモノト看做ス

本令施行ノ際本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ適合セザル火藥類貯藏所ハ所在地廳府縣長官ノ指定シタル

〔神奈川警〕

〔神奈川警〕

期間ニ於テ之ヲ改造スヘシ

●銃砲火藥類取締法施行細則

明治四十四年三月十一日 內務省令第二號

改正 大正三年一〇月內務省令第二六號、六年二月第一六號、一二年四月第一一號  
銃砲火藥類取締法施行細則左ノ通之ヲ定ム

銃砲火藥類取締法施行細則

第一條 銃砲ノ製造又ハ其ノ營業ノ許可申請書ニハ住所、氏名、年齢、職業、會社ニ在リテハ其ノ名稱、事務所ノ所

社員若ハ株主ノ名稱、製作ノ目的、製作品ノ種類、其ノ細密圖及説明、一定ノ期間内ニ製作スヘキ豫定數量、作業ノ方法及手續、作業所ノ位置、設備、職工其ノ地ノ勞務者ノ取締ニ關スル規定、試驗射撃ヲ爲ス場合ニ於ケル危害豫防ノ爲

特ニ設備スヘキ事項、所要火藥類ノ調達及貯藏ノ方法ヲ具スルコトヲ要ス

銃砲販賣營業ノ許可申請書ニハ住所、氏名、年齢、職業、會社ニ在リテハ其ノ名稱、事務所ノ所在地、代表、販賣所

及貯藏所ノ位置ヲ具スルコトヲ要ス

第二條 火藥類ノ製造若ハ變形修理又ハ其ノ營業ノ許可申請書ニハ住所、氏名、年齢、職業、會社ニ在リテハ其ノ名

代表者ノ住所、氏名、定款、製作ノ目的、製作品ノ種類及説明、一定ノ期間内ニ製作スヘキ豫定數量、作業主任

者ノ氏名及履歷、作業ノ方法及手續、作業所ノ位置、設備及其ノ附近ノ狀況、職工其ノ他ノ勞務者ノ最大員數及

其ノ取締ニ關スル規定、試驗爆發ヲ爲ス場合ニ於ケル危害豫防ノ爲特ニ設備スヘキ事項、所要火藥類ノ調達及貯

藏ノ方法、作業所ニ同時ニ置クヘキ火藥類又ハ其ノ原料若ハ半成品ノ種類、員數ノ最大限、其ノ他危害豫防ノ爲

特ニ規定スヘキ事項ヲ具スルコトヲ要ス

火藥類販賣營業ノ許可申請書ニハ住所、氏名、年齢、職業、會社ニ在リテハ其ノ名稱、事務所ノ所在地、代、甲種、

乙種ノ區別及販賣所ノ位置、設備ヲ具スルコトヲ要ス

第二條ノ二 銃砲ノ製造又ハ火藥類ノ製造若ハ變形修理又ハ其ノ營業ノ許可ヲ受ケタル者第一條及第二條ノ規定ニ

依リ許可申請書ニ具シタル事項、附近狀況ノ變更ヲ除クテ變更セムトスルトキハ許可ヲ受ケタル行政官廳ノ許可ヲ

受クヘシ但シ住所、氏名、職業、會社ニ在リテハ其ノ名稱、事務所ノ所在地、ニ付テハ其ノ變更後七日内ニ届出ツヘシ

第三條 銃砲火藥類製造業者其ノ製造シ又ハ加工シタル銃砲火藥類ノ卸賣ヲ爲ストキハ其ノ事業開始前販賣所ノ位置、設備ヲ營業地ノ廳府縣長官ニ届出ツヘシ  
相續ニ依リ銃砲火藥類ノ製造又ハ販賣ノ營業ヲ承繼シタル者ハ十日以内ニ其ノ營業ノ許可ヲ爲シタル行政官廳ニ之ヲ届出ツヘシ

第四條 火藥類取扱免狀ハ甲乙ノ二種トシ左ノ資格ヲ有スル者ニ限り本人ノ申請ニ依リ廳府縣長官銓衡ノ上之ヲ交付ス

甲種

一 實業學校令ニ依ル甲種實業學校又ハ之ト同等以上ノ學校其ノ他内務大臣ノ指定シタル學校ニ於テ火藥類ニ關スル學科ヲ修得シ五月以上直接火藥類ノ取扱ニ干與シタルノ履歷ヲ有スル者

二 陸軍工科學校ニ於テ火工術ヲ專修シタル者

三 陸軍又ハ海軍ニ於テ火藥類ノ取扱ヲ爲スニ充分ナル技能ヲ有スルノ證明書ヲ付與シタル者

四 別ニ定ムル規定ニ依リ試験ヲ受ケ合格シタル者

乙種

一 五月以上直接火藥類ノ取扱ニ干與シタルノ履歷ヲ有スル者

第五條 一年間五千貫以上ノ火藥又ハ二千五百貫以上ノ爆藥ヲ取扱フ場合ニ於テハ甲種火藥類取扱免狀ヲ有スル者其ノ取扱ニ任スルコトヲ要ス

火藥及爆藥ヲ共ニ取扱フ場合ニ於テ前項ノ規定ノ適用ニ付テハ爆藥一貫ヲ火藥二貫ト看做ス

第六條 火藥類取扱人ヲ定メタルトキハ其ノ氏名、履歷及火藥類取扱免狀ノ種別ヲ具シ火藥類販賣業者ニ在テハ營業地、其ノ消費者ニ左テハ消費地警察官署ニ之ヲ届出ツヘシ但シ消費地定マラス若ハ二箇所以上ニ互リ又ハ銃砲火藥類取締法施行區域外ニ係ル場合ハ所轄警察官署ニ之ヲ届出ツヘシ

第六條ノ二 火藥類作業主任者免狀ハ甲乙丙ノ三種トシ左ノ資格ヲ有スル者ニ限り本人ノ申請ニ依リ甲種及乙種火

〔神奈川警〕

〔神奈川警〕

藥類作業主任者免狀ハ内務大臣、丙種火藥類作業主任者免狀ハ廳府縣長官銓衡ノ上之ヲ交付ス

甲種

一 火藥學ニ關シ工學博士ノ學位ヲ有シ又ハ帝國大學ニ於ケル火藥學科專修ノ卒業證書ヲ有シ火藥類製造ノ經驗アル者

二 陸軍又ハ海軍ノ火藥類製造所ニ於テ三年以上火藥類製造ノ實務ニ從事シ當該製造所長又ハ技術上ノ首長ノ地位ニ在リタル者

三 高等工業學校又ハ之ト同等以上ノ學校ニ於ケル化學ニ關スル學科專修ノ卒業證書ヲ有シ乙種火藥類作業主任者免狀ヲ受ケタル後火藥類製造所ニ於テ三年以上火藥類製造ノ實務ニ從事シタル者

四 別ニ定ムル規定ニ依リ試験ヲ受ケ合格シタル者

乙種

一 高等工業學校又ハ之ト同等以上ノ學校ニ於ケル化學ニ關スル學科專修ノ卒業證書ヲ有シ火藥類製造ノ經驗アル者

二 陸軍又ハ海軍ノ火藥類製造所ニ於テ三年以上火藥類製造ノ實務ニ從事シ所屬長官ニ於テ火藥類製造ニ充分ナル技能ヲ有スルノ證明書ヲ付與シタル者

三 實業學校令ニ依ル甲種實業學校其ノ他内務大臣ノ指定シタル學校ニ於ケル化學ニ關スル學科專修ノ卒業證書ヲ有シ三年以上火藥類製造ノ實務ニ從事シタル者

四 別ニ定ムル規定ニ依リ試験ヲ受ケ合格シタル者

丙種

一 實業學校令ニ依ル甲種實業學校又ハ之ト同等以上ノ學校其ノ他内務大臣ノ指定シタル學校ニ於ケル化學ニ關スル學科ヲ修得シ一年以上火工品ノ製造ノ實務ニ從事シタル者

二 陸軍又ハ海軍ニ於テ火工品製造ニ充分ナル技能ヲ有スルノ證明書ヲ付與シタル者

三 別ニ定ムル規定ニ依リ試験ヲ受ケ合格シタル者

四 本令公布ノ際現ニ作業主任者タル者ニシテ相當ノ技能ヲ有スル者

第六條ノ三 火藥類ノ製造又ハ變形修理ヲ爲ス作業所ニハ左ノ免狀ヲ有スル火藥類作業主任者ヲ置クコトヲ要ス

一 火藥、爆藥ノ製造數量一日二十五貫以上ノ作業所ニハ甲種

二 火藥、爆藥ノ製造數量一日二十五貫未滿ノ作業所及火藥、爆藥ノ變形修理ノ數量又ハ火工品ノ製造若ハ變形修理ノ爲火藥、爆藥ヲ使用消費スル數量一日二十五貫未滿ノ作業所及火藥、爆藥ノ變形修理ノ數量又ハ火工品ノ製造若ハ變形修理ノ爲火藥、爆藥ヲ使用消費スル數量一日二十五貫未滿ノ作業所ニハ乙種

三 煙火原料用火藥、爆藥ノ製造數量一日二貫未滿ノ作業所及火藥、爆藥ノ變形修理ノ數量又ハ火工品ノ製造若ハ變形修理ノ爲火藥、爆藥ヲ使用消費スル數量一日二十五貫未滿ノ作業所ニハ丙種

ハ變形修理ノ爲火藥、爆藥ヲ使用消費スル數量一日二十五貫未滿ノ作業所ニハ丙種

第六條ノ四 内務大臣ハ保安上必要ト認ムル場合ニ於テハ甲種及乙種火藥類作業主任者ノ變更ヲ命シ若ハ其ノ免狀ノ返納ヲ命スルコトアルヘシ廳府縣長官ハ火藥類取扱人及丙種火藥類作業主任者ニ付亦同シ

第七條 銃砲火藥類製造業者又ハ販賣業者ハ其ノ製造又ハ取引シタル銃砲火藥類ノ種類、數量、製造又ハ取引ノ年月日及譲渡人並注文人、譲受人ノ住所氏名、法人ニ在テハ其ノ商號、事務所所在地其ノ他必要ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

軍用銃砲、拳銃、短銃及仕込銃ヲ譲渡シ若ハ譲受ケ又ハ火藥類ヲ銃砲火藥類取締法施行規則第十六條及第十七條ノ規定ニ依リ譲受ノ許可ヲ受ケタル者又ハ同施行規則第二十一條ノ規定ニ依リ譲受ノ許可ヲ要セサル者ニ譲渡シ又ハ同施行規則第十六條及第十七條ノ規定ニ依リ譲渡ノ許可ヲ受ケタル者又ハ同施行規則第二十二條第二項ノ規定ニ依リ譲渡ノ許可ヲ受ケタル者ヨリ譲受ケタルトキハ前項ニ掲ケタル事項ノ外譲受人又ハ譲渡人ノ譲受又ハ譲渡ノ事由ヲ記載スヘシ

第八條 銃砲火藥類製造業者又ハ販賣業者ハ一月間製造又ハ取引シタル銃砲火藥類ノ種類、數量並各種類月末現在高ヲ翌月十日迄ニ所轄警察官署ニ届出ツヘシ

第二十一條第一項、第二十二條及第二十二條ノ二ニ依リ交付ヲ受ケタル許可證、認可證、譲受證書又ハ委任狀ハ一月分取廻前項届出同時ニ所轄警察官署ニ之ヲ差出スヘシ

第九條 銃砲火藥類製造業者又ハ販賣業者ニ非サル者第二十一條第一項、第二十二條及第二十二條ノ二ニ依リ交付ヲ受ケタル許可證、認可證、譲受證書又ハ委任狀ハ十日以内ニ所轄警察官署ニ之ヲ差出スヘシ

第十條 輸入許可申請書ニハ輸入スヘキ銃砲火藥類ノ種類、數量、輸入ノ目的、買入先、輸入港名及火藥類ニ在テ

ハ其ノ成分、輸入數量ニ對スル貯藏ノ方法ヲ具スルコトヲ要ス  
輸出許可申請書ニハ輸出スヘキ銃砲火藥類ノ種類、數量輸出ノ目的、輸出先、輸出港名、積載スヘキ船名及輸出品調達ノ方法ヲ具スルコトヲ要ス  
第十一條 火藥類販賣業者火藥類ノ輸入ヲ爲サムトスルトキハ豫メ輸入火藥類ノ種類及成分、數量、輸入港へ到達ノ日取、積載スヘキ船名並貯藏ノ方法ヲ輸入港ヲ管轄スル廳府縣長官ニ届出ツヘシ  
第十二條 火藥類ヲ輸入シタル者ハ輸入ノ時ヨリ二十四時間以内ニ輸入シタル火藥類ノ種類、數量及陸揚シタル年月日ヲ輸入港所轄警察官署ニ届出ツヘシ  
第十三條 銃砲火藥類ノ製造又ハ販賣ノ業ヲ營ム者銃砲火藥類ノ輸出ヲ爲サムトスルトキハ輸出前ニ其ノ種類、數量、輸出ノ目的、輸出先、輸出港名、輸出ノ年月日、輸出取扱者及積載スヘキ船名ヲ輸出港ヲ管轄スル廳府縣長官ニ届出ツヘシ  
第十四條 銃砲火藥類取締法施行規則第十六條第十七條及第十八條ニ依リ許可申請書ニハ譲渡シ又ハ譲受ケヘキ銃砲火藥類ノ種類、數量、譲渡又ハ譲受ノ事由並火藥類ノ譲受ニ在テハ用途、消費ノ時、場所若シ消費ノ時又ハ場所定マラサルトキハ其ノ事由ヲ具スルコトヲ要ス但シ譲渡ニ付許可ヲ要スル者ヨリ火藥類ヲ譲受ケル場合ニ於テハ譲受ノ許可申請ニ際シ譲渡ノ許可アリタルコトヲ證明スルコトヲ要ス  
銃砲火藥類取締法施行規則第十六條及第十七條ノ規定ニ依リ火藥類譲受許可申請書ニ具スヘキ火藥類ノ數量ハ一年ヨリ長カラサル一定ノ期間ニ於ケル需用ノ數量ヲ以テスルコトヲ得  
銃砲火藥類取締法施行規則第二十二條第二項ノ規定ニ依リ認可申請書ニハ處分スヘキ火藥類ノ種類、數量、處分ノ方法及事由ヲ具スルコトヲ要ス  
第十五條 工所用、鑛業用、漁業用、船内銃砲用又ハ煙火製造用其ノ他工業用ニ充ツル火藥類ニ付テハ銃砲火藥類取締法施行規則第十七條ヲ適用ス  
第十六條 銃砲火藥類取締法施行規則第二十一條ノ規定ニ依リ工事若ハ工業ノ爲火藥類ヲ消費スルノ許可ハ所轄廳府縣長官ニ之ヲ申請スヘシ  
前項ノ許可申請書ニハ工事又ハ工業ノ種類、所要火藥類ノ種類、數量及其ノ使用ノ方法ヲ具スルコトヲ要ス

〔神奈川警〕

〔神奈川警〕



第十七條 行政官廳軍用銃砲火藥類ノ讓渡、讓受又ハ運搬ノ許可若ハ銃砲火藥類取締法施行規則第二十二條第二項ノ規定ニ依ル火藥類讓渡ノ認可又ハ拳銃、短銃、仕込銃ノ授受、運搬、携帯ノ許可ヲ爲ストキハ許可證又ハ認可證ヲ交付スルモノトス

銃砲火藥類取締法施行規則第十六條及第十七條ノ規定ニ依ル火藥類讓受許可證ハ第二十一條第二項ニ定メタル記入ノ餘白ナキニ至リタルトキハ之ヲ返納シテ新許可證ノ交付ヲ申請スルコトヲ得

本條ノ許可證又ハ認可證ハ甲號乃至己號様式ニ依ルモノトス

第十八條 前條ノ許可證ハ許可力取消サレ又ハ其ノ效力ヲ失ヒタルトキハ十日以内ニ所轄警察官署ニ之ヲ返納スヘシ

第十九條 軍用銃砲、拳銃、短銃、仕込銃、火藥類又ハ第十七條ノ許可證、認可證ヲ喪失シ、盜取セラレ又ハ其ノ所在不明トナリタルトキハ本人又ハ其ノ事實ヲ知りタル者ニ於テ其ノ事實ヲ知りタル時ヨリ二十四時間以内ニ銃砲火藥類ノ種類、數量又ハ許可證、認可證ノ種類、之ヲ下付シタル官廳名ヲ最寄警察官ニ届出ツヘシ

第二十條 前條ノ届出ヲ爲シタル場合ニ於テハ許可又ハ認可ヲ爲シタル官廳ニ事由ヲ説明シテ許可證又ハ認可證ノ再下付ヲ申請スルコトヲ得

第二十一條 軍用銃砲、拳銃、短銃、仕込銃、火藥類讓受ノ許可證ハ銃砲火藥類ヲ讓受クルノ際之ヲ讓渡人ニ、其ノ讓渡ノ許可證又ハ認可證ハ銃砲火藥類ヲ讓渡スノ際之ヲ讓受人ニ交付スヘシ

銃砲火藥類取締法施行規則第十六條及第十七條ノ規定ニ依ル火藥類讓受ノ許可證ヲ有スル者ニ火藥類ヲ讓渡ス者ハ火藥類ノ種類、數量及讓渡ノ年月日ヲ許可證ニ記入シ署名捺印ノ上讓渡シタル數量カ許可數量ニ達セザルトキハ其ノ許可證ヲ讓受人ニ返付スヘシ

第二十二條 銃砲火藥類取締法施行規則第二十一條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケスシテ火藥類ヲ讓受クル者ハ行政官廳ノ與ヘタル許可ノ文書其ノ他資格ヲ證明スルコトヲ得ヘキ文書ヲ讓渡人ニ提示シ且讓渡法ニ依リ銃物ノ試掘若ハ探掘ヲ爲ス者又ハ第十六條ニ依リ工事若ハ工業ノ爲火藥類消費ノ許可ヲ受ケタル者ニ在リテハ讓受クヘキ火藥類ノ種類、數量、讓受ノ事由、用途、消費ノ時、場所、職業、工事若ハ工事ノ種類、試掘又ハ探掘權登錄番號若ハ消費許可證番號ヲ具シタル讓受證書ヲ交付スヘシ

第二十三條 銃砲火藥類製造業者又ハ販賣業者ニ非サル者相續、遺贈又ハ法人ノ合併ニ因リテ軍用銃砲、拳銃、短銃、仕込銃又ハ銃砲火藥類取締法施行規則第十八條各號以外ノ火藥類ノ所有權ヲ取得シタルトキハ取得ノ日ヨリ十日以内ニ所轄警察官署ニ之ヲ届出ツヘシ

第二十四條 銃砲製造業者又ハ販賣業者ニ非サル者軍用銃砲、拳銃、短銃、仕込銃ヲ廢棄シタルトキハ十日以内ニ所轄警察官署ニ之ヲ届出ツヘシ

第二十五條 第七條乃至第九條、第十七條乃至第二十一條、第二十三條、第二十四條及其ノ罰則ノ規定ハ仕込刀劍其ノ他變裝シタル武器ニ之ヲ準用ス

第二十六條 火藥類作業所ニ於テハ左ノ各號ノ規定ヲ遵守スヘシ

- 一 工場又ハ火藥類溜置場ハ相當ノ距離ヲ保有スヘシ
- 二 作業所ノ境界ニハ適當ナル圍墻ヲ構設シ且見易キ場所ニ警戒札ヲ建ツヘシ
- 三 森林内ニ設置スル作業所ニ在リテハ其ノ圍墻ニ沿ヒ幅一間以上ノ防火線ヲ設クヘシ
- 四 作業所内ハ危險區域ト無危險區域トヲ明瞭ニ區分シ作業上已ムヲ得サル建築物ヲ除クノ外危險区域内ニ築造スヘカラス
- 五 汽罐室及煙突ハ無危險區域内ニ之ヲ築造シ爆發又ハ發火ノ危險アル工場若ハ火藥類溜置場ニ對シ相當ノ距離ヲ保有スヘシ
- 六 爆發ノ危險アル工場ノ建築材料ニハ火焰ニ對シ抵抗性ヲ有シ且爆發ニ當リ輕量ノ飛散物トナルヘキモノヲ用ウヘシ
- 七 爆發ノ危險アル工場又ハ火藥類溜置場ニハ必要ニ應ジ避雷裝置及土堤ヲ設クヘシ第三十二條第一項第六號乃至第八號ノ規定ハ本號ノ避雷裝置及土堤ニ之ヲ準用ス
- 八 發火ノ危險アル工場ニハ避雷裝置ヲ爲スヘシ第三十二條第一項第六號ノ規定ハ本號ノ避雷裝置ニ之ヲ準用ス

〔神奈川警〕

〔神奈川警〕

- 九 爆發又ハ發火ノ危險アル工場附近ニハ貯水池又ハ貯水槽ヲ設ケ強風ノ際砂塵ノ飛揚ヲ防止スル爲撒水ヲ爲スヘシ但シ作業上已ムヲ得サルモノニ在リテハ此ノ限ニ在ラス
- 十 爆發又ハ發火ノ危險アル工場ニハ適當箇數ノ窓及非常ノ際從業者ノ避難上便利ナル場所ニ出口ヲ設ケ扉ハ外開トシ其ノ金具ハ直接鐵ト摩擦スル部分ニハ鋼、黃銅又ハ青銅ノ類ヲ用キ日光ノ直射ヲ受ケル部分ノ窓硝子ニハ不透明ノモノヲ用ウヘシ
- 十一 爆發ノ危險アル工場ノ内面ハ土砂類ノ剥落飛散ヲ防キ且鐵類ヲ露ハササル措置ヲ爲スヘシ
- 十二 火藥類粉末飛散ノ虞アル工場ノ天井、内壁ハ罅隙ヲ存スルコトナク且水洗ニ耐ユル塗料ヲ塗布スヘシ
- 十三 爆發又ハ發火ノ危險アル工場ノ床ハ適當ノ材料ヲ用キテ密ニ張り詰メ火藥類ノ滲透又ハ其ノ粉末ノ介入ヲ避ケヘキ適當ノ方法ヲ講スヘシ
- 十四 發火性又ハ引火性瓦斯若ハ有毒瓦斯發散ノ虞アル工場ニハ瓦斯ノ排氣裝置ヲ爲スヘシ
- 十五 爆發又ハ發火ノ危險アル工場ニ接近セル作業所内ノ木造建物ニハ耐火性塗料ヲ塗布スヘシ
- 十六 爆發又ハ發火ノ危險アル工場内ニハ原動機ヲ据付クルコトヲ得ス但シ火藥類粉末又ハ爆發性、引火性瓦斯ノ侵入ヲ防止スヘキ裝置アル區劃内ニ据付クルハ此ノ限ニ在ラス
- 十七 爆發又ハ發火ノ危險アル工場内ニ据付又ハ備付クル機械器具類ハ作業上已ムヲ得サル部分ノ外鐵ト鐵トノ摩擦部ナキモノヲ用キ總テノ摩擦部ニハ充分ナル滑劑ヲ塗布シ且火藥類粉末ノ附著ヲ避ケヘキ適當ノ方法ヲ講スヘシ
- 十八 火藥類ノ作業用機械ニシテ原動力トシテ水車又ハ汽機ヲ使用スルモノニ在リテハ速度調整機ヲ裝置スヘシ但シ之ヲ裝置スルコトヲ得サルモノニ在リテハ手力ヲ以テ容易ニ調整シ得ヘキ裝置ヲ爲スヘシ
- 十九 爆發又ハ發火ノ危險アル工場内ニ於ケル暖房裝置ニハ蒸氣、熱氣又ハ温水ノ外使用スルコトヲ得ス暖房裝置ハ燃焼シ易キ物件ト隔離シ且塵埃又ハ火藥類粉末ノ附著ヲ避ケヘキ適當ノ方法ヲ講スヘシ
- 二十 火藥、爆藥乾燥室内ノ暖房裝置ハ火藥、爆藥ヲ乾燥スル場所ヨリ隔離スヘシ但シ温水暖房裝置ニシテ其ノ溫度乾燥溫度ト略同一ナルモノニ在リテハ此ノ限ニ在ラス
- 二十一 工場又ハ火藥類溜置場ニハ内部又ハ外部見易キ場所ニ揭示板ヲ設ケ其ノ場内ニ存置セシメ得ヘキ原料及

〔神奈川警〕

〔神奈川警〕

- 製作品ノ種類、數量及其ノ取扱心得其ノ他必要ナル事項ヲ明記スヘシ
- 二十二 工場又ハ火藥類溜置場ハ常ニ清潔ニ掃除シ鐵又ハ砂石ノ類ヲ火藥、爆藥内ニ混入セシメサルノ措置ヲ爲スヘシ
- 二十三 火藥類製造機械ノ掃除ニ使用スル布類ハ特定ノ容器ニ收容シ置キ終業ノ際之ヲ工場外適當ノ場所ニ搬出スヘシ
- 二十四 爆發又ハ發火ノ危險アル工場内及其ノ附近ニハ發火又ハ燃焼シ易キモノヲ堆積スヘカラス
- 二十五 工場又ハ火藥類溜置場ニ出入スル勞務者ニ對シテハ携帶品ノ検査ヲ行フヘシ
- 二十六 爆發又ハ發火ノ危險アル工場内ニ於テハ各工場所定ノ履物ノ外使用スヘカラス
- 二十七 爆發又ハ發火ノ危險アル工場内ニハ定員外ノ勞務者ヲ立入ラシムルコトヲ得ス
- 二十八 危險區域内ニハ作業ニ必要ナル從業者又ハ警察官署ノ許可ヲ受ケタル者ノ外立入ラシムルコトヲ得ス
- 二十九 作業所内ニ於テ飲酒シ又ハ工場若ハ火藥類溜置場以外ニ於テ特ニ設ケタル室内ニ非サレハ喫煙スヘカラス
- 三十 爆發又ハ發火ノ危險アル工場若ハ火藥類溜置場内ヲ照明スル設備ニハ種子油類ヲ燃料トシ硝子壁ヲ以テ完全ニ隔離シタル安全燈又ハ電燈ノ外使用スヘカラス
- 三十一 爆發又ハ發火ノ危險アル工場若ハ火藥類溜置場ニハ携帶電燈ノ外燈火ヲ携フルコトヲ得ス
- 三十二 火藥、爆藥及其ノ原料ハ作業ニ要スル最少量ニ非サレハ工場内ニ之ヲ置クコトヲ得ス作業中避ケヘカラスル停滯品ヲ生シタル場合ニ於テハ工場附近ニ於テ相當ノ距離ヲ保有スル場所ニ築造シタル火藥類溜置場ニ一時之ヲ入レ置クヘシ
- 三十三 作業所内ニ於テ生シタル火藥類ノ廢棄及不良品ハ一定ノ廢棄容器ニ收容シ毎日一回一定ノ場所ニ於テ廢棄其ノ他危險豫防上必要ナル措置ヲ爲スヘシ
- 三十四 火藥、爆藥又ハ其ノ原料ヲ運搬スル容器ハ適當ノ材料ヲ以テ之ヲ作り且確實ニ之ヲ閉塞スヘシ
- 三十五 火藥類運搬ノ通路ハ暴露シタル火氣使用ノ場所ヲ回避シ路面ハ之ヲ平坦ナラシメ勾配ヲ附スル必要アル場合ニ於テハ地形上已ムヲ得サル場合ノ外六十分ノ一以下ト爲スヘシ

第二編 保安 第一章 安寧

三十六 爆發又ハ發火ノ危險アル工場又ハ火藥類溜置場ニ於テ改築、修繕等ノ工事ヲ爲サムトスル場合ニ於テハ著手前危險豫防上必要ナル措置ヲ爲スヘシ

三十七 爆發其ノ他ノ災害ヲ生ジタルトキハ直ニ警察官吏ニ之ヲ届出ツヘシ警察官署ノ指揮ヲ受ケタル後ニ非サレハ現狀ヲ變更スルコトヲ得ス

三十八 製造又ハ變形修理シタル火藥、爆藥ノ容器及其ノ外箱ニハ火藥、爆藥ノ種類、數量、作業所名及製造又ハ變形修理ノ年月日ヲ明記スヘシ

第二十六條ノ二 硝酸鹽類ヲ主トスル有煙火藥ノ作業所ニ於テハ第二十六條ノ規定ニ依ルノ外左ノ各號ノ規定ヲ遵守スヘシ

- 一 爆發ノ危險アル工場ニハ各箇ニ避雷裝置及土堤ヲ設ケヘシ但シ同時ニ二十五貫以上ノ火藥ヲ取扱ハサル工場ニ於テハ土堤ヲ省略シ不燃質物ヲ以テ築造セル塔壁、高さ工場ノ屋頂ト同ク厚サ頂部ニ於テテナリテ之ヲ代用スルコトヲ得
- 二 同時ニ二百五十貫以上ノ火藥ヲ取扱フ工場ハ其ノ構造ヲ放爆式ト爲スコトヲ得ス
- 三 放爆式構造ニ在リテハ厚サ二尺五寸以上ノ堅固ナル三側壁トシ放爆面ニ出入口及窓ヲ設ケ屋根ハ奥壁ノ頂部ヨリ前方ニ傾斜セシメ輕量不燃質物ヲ以テ覆葺スヘシ
- 四 火藥乾燥工場ハ作業所内ノ他ノ建築物ニ對シ二十八間以上ノ距離ニテ保有事ヘシ
- 五 爆發ノ危險アル工場ニシテ成形機、壓碎機若ハ搗磨機等ノ機械類ヲ使用スルモノニ在リテハ其ノ作業ノ目的ヲ異ニスル毎ニ各別棟ニ之ヲ築造スヘシ但シ放爆式構造ナルトキ又ハ一工場内ノ勞務者定員四名以下ニシテ厚サ二尺五寸以上ノ防火壁ヲ以テ區劃セルトキハ三工場以内ヲ連接シテ築造スルコトヲ得
- 六 同一工場内ニハ二箇以上ノ爆發ノ危險ナル作業用機械ヲ据付クルコトヲ得ス但シ勞務者ノ定員二人ヲ超エサルトキ又ハ勞務者ノ定員四人ヲ超エサル工場ニ於テ同一種類ノモノ若ハ作業上分離シ難キモノヲ据付クルトキハ此ノ限ニ在ラス
- 七 火藥又ハ其ノ原料ヲ取扱フ工場内ニ在リテハ鐵製飾ヲ使用スルコトヲ得ス
- 八 火藥原料ハ混和前篩分シ砂石類ヲ除去スヘシ

〔神奈川管〕

〔神奈川管〕

- 九 木炭ハ炭化後七日以上ヲ經過スルニ非サレハ粉末ト爲スコトヲ得ス
- 十 硫黃、木炭ノ二味ヲ鐵製混和機ニ依リ粉碎混和スル場合ニ於テハ青銅球ヲ使用スヘシ
- 十一 混和機ヲ使用シ混和シタル硫黃、木炭ノ二味混和物ハ更ニ篩分スルニ非サレハ硝石ヲ混和スルコトヲ得ス
- 十二 硫黃、木炭、硝石ノ三味混和機ニハ金屬製ノモノヲ使用スヘカラス
- 十三 火藥及其ノ原料ニシテ床上又ハ地上ニ落下シ汚穢セルモノハ直ニ廢棄容器ニ之ヲ收容スヘシ
- 十四 左ノ工場内ニハ左ノ數量ヲ超ユル火藥類又ハ其ノ原料ヲ存置シ又ハ定員ヲ超ユル勞務者ヲ立入ラシムルコトヲ得ス

工場ノ種類	火藥類又ハ其ノ原料ノ最大數量	勞務者定員
三味混和工場	仕込量	二人
壓磨又ハ搗磨工場	仕込量	二人
水壓機	仕込量	四人
破砕機	仕込量	三人
成形機	仕込量	三人
篩分機	仕込量	三人
乾燥機	仕込量	二人
粉澤機	仕込量	二人
光澤機	仕込量	二人
混同機	仕込量	三人
收函機	仕込量	三人

本條ニ於テ爆發ノ危險アル工場ト稱スルハ三味混和工場、壓磨又ハ搗磨工場、水壓工場、破砕工場、成形工場、篩分工場、乾燥工場、粉澤工場、光澤工場、混同工場及收函工場ヲ謂フ

第二十六條ノ三 硝化纖維素ヲ主トスル無煙火藥、爆發ノ用途ニ供スル棉火藥ノ作業所ニ於テハ第二十六條ノ規定ニ依ルノ外左ノ各號ノ規定ヲ遵守スヘシ

一 棉火藥乾燥工場ニハ各箇ニ避雷裝置及土堤ヲ設ケヘシ

第二編 保安 第一章 安寧

第二編 保安 第一章 安寧

- 二 棉火藥乾燥工場ハ作業所内ノ他ノ建築物ニ對シ二十八間以上ノ距離ヲ保有スヘシ但シ乾燥工場相互間ノ距離ハ此ノ限ニ在ラス
- 三 火藥類粉末飛散ノ虞アル工場ハ作業所内ノ他ノ建築物ニ對シ二十間以上五十貫以上ノ火藥類ヲ停滯セシノ距離ヲ保有スヘシ但シ土堤又ハ屋頂ヲ超ユルコト二尺以上ノ防火壁ヲ以テ隔離シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス
- 四 火藥類粉末飛散ノ虞アル工場ニシテ放爆式構造ニ依ルモノニ在リテハ三側壁ノ厚サチ一尺以上トシ放爆面ニ出入口及窓ヲ設ケ屋根ハ真壁ノ頂部ヨリ前方ニ傾斜セシメ輕量不燃質物ヲ以テ覆葺スヘシ放爆面ノ防火壁又ハ其ノ保有距離ニ付テハ前號ノ規定ヲ準用ス
- 五 無煙火藥乾燥工場ハ其ノ周圍ニ防火壁又ハ土堤ヲ設ケ若ハ作業所内ノ他ノ建築物ニ對シ二十八間以上ノ距離ヲ保有スヘシ
- 六 アルコール、エーテル、アセトン類ノ貯藏所ノ建築材料ニハ火焰ニ對シ抵抗性ヲ有スルモノヲ用キ作業所内ノ他ノ建築物ニ對シ十二間以上ノ距離ヲ保有スヘシ
- 七 發火ノ危險アル工場ノ建築材料ニハ火焰ニ對シ抵抗性ヲ有スルモノヲ用キ作業所内ノ他ノ建築物ニ對シ十間以上ノ距離ヲ保有スヘシ但シ防火壁ヲ以テ完全ニ隔離シタル場合ニ在リテハ五工場以内ヲ連接シテ築造スルコトヲ得
- 八 發火ノ危險アル工場ニハ自動注水消防設備ヲ爲スヘシ但シ特ニ廳府縣長官ノ許可ヲ受ケ之ニ代ルヘキ消防設備ヲ爲スコトヲ得
- 九 工場内ニ於テハアルコール、エーテル、アセトン類ノ容器ハ硝子製ノモノヲ使用スヘカラス
- 十 棉火藥ハ作業上必要ナル場合ノ外之ヲ乾燥スルコトヲ得ス
- 十一 乾燥工場ニ於ケル乾燥温度ハ攝氏五十度ヲ超ユルコトヲ得ス
- 十二 乾燥セル無煙火藥又ハ棉火藥ハ攝氏三十五度以下ニ放冷シタル後ニ非サレハ之ヲ運搬容器ニ收容スルコトヲ得ス
- 十三 左ノ工場内ニハ左ノ數量ヲ超ユル火藥類ヲ存置シ又ハ定員ヲ超ユル勞務者ヲ立入ラシムルコトヲ得ス

〔神奈川警〕

工場ノ種類	火藥類ノ最大數量	勞務者定員
除水工	二回	二
和工	二回	二
成形(壓伸、壓延、裁斷等)工場	一機ニ付	三
溶解捕集又ハ風乾工場	四十八貫	三
光澤機	四百五十貫	六
篩分	百三十五貫	三
乾燥	千五百貫	五
風晒	千貫	六
收函	八百貫	五
		十

〔神奈川警〕

- 一 化成洗滌工場、乾燥工場及其ノ他ノ雷酸鹽又ハ其ノ混和物ノ取扱工場ハ各別棟ニ之ヲ築造スヘシ
- 二 乾燥工場ハ作業所内ノ他ノ建築物ニ對シ二十八間以上、混和工場、造粒工場及填壓工場ハ作業所内ノ他ノ建築物ニ對シ十二間以上ノ距離ヲ保有スヘシ
- 三 乾燥工場ニハ各箇ニ避雷装置及土堤ヲ設ケヘシ
- 四 乾燥セル雷酸鹽又ハ其ノ混和物ヲ取扱フ混和工場、造粒工場及填壓工場ハ三側壁ノ厚サチ一尺以上トシ抵抗力微弱ナルモノヲ以テ他ノ側壁及屋根ヲ築造シ連接シテ之ヲ築造スル場合ニ於テハ各工場間ノ防火壁チ厚サ一尺以上ノ煉瓦造ト爲スヘシ
- 五 混和工場ニハ混和機二箇以上ヲ据付タルコトヲ得ス
- 六 濕潤セル雷酸鹽ハ水ト共ニ硝子製容器ニ收納スヘシ但シ一容器ニ二貫七百匁以上ヲ收納スルコトヲ得ス
- 七 乾燥セル雷酸鹽及其ノ混和物ハ紙又ハ護謨製容器ニ收納スヘシ
- 八 乾燥セル雷酸鹽又ハ其ノ混和物ヲ運搬スル際ニハ百三十匁以内ノ紙又ハ護謨製容器ニ收納シ總量二百六十匁以内ヲ限リ携行スヘシ
- 九 乾燥セル雷酸鹽又ハ其ノ混和物ノ取扱ヲ爲ス勞務者ニハ胸當ヲ使用セシメ且其ノ粉末飛散ノ虞アル工場内ノ

第二編 保安 第一章 安寧

第二編 保安 第一章 安寧

- 十 勞務者ニハ口覆又ハ覆面ヲ使用セシムヘシ
- 十一 雷酸鹽又ハ其ノ混和物ノ乾燥溫度ハ攝氏五十度以下トシ乾燥チ了リタルモノハ乾燥室外ノ溫度ト大差ナキ溫度ニ放冷シタル後ニ非サレハ之ヲ他ノ容器ニ移入スヘカラス
- 十二 洗濯作業中水ト共ニ流出スル微量ノ雷酸鹽又ハ他ノ作業中床上等ニ落下シ若ハ器具類ニ附著セル藥粉及廢藥等ハ次亞硫酸曹達液ヲ以テ處理シ無危險物ト爲スヘシ
- 十三 左ノ工場内ニハ左ノ數量ヲ超ユル火藥類ヲ存置シ又ハ定員ヲ超ユル勞務者ヲ立入ラシムルコトヲ得ス

工場ノ種類	火藥類ノ最大數量		勞務者定員
	貫	匁	
乾 混和工場	六十	四百	十
雷酸鹽	二十	七十	四
造粒工場	五十	四百	十
造粒工場	四十	三百	八

- 二十六條ノ五 芳香系列ノ三硝基以上ノ硝化物ノフエノール又ハクレゾノ作業所ニ於テハ第二十六條ノ規定ニ依ルノ外左ノ各號ノ規定ヲ遵守スヘシ

- 一 硝化工場、洗滌工場、精製工場及溶解母液回收工場ハ火焔ニ對シ抵抗性ヲ有スル建築材料ヲ用キ火氣ニ對シ特ニ安全ナル場所ヲ選定シ作業所内ノ他ノ建築物ニ對シ高キモノノ高サノ二倍以上ノ距離ヲ保有シ各別棟ニ之ヲ築造スヘシ但シ防火壁ヲ以テ隔離スルトキハ三工場以内ヲ連接シテ築造スルコトヲ得
- 二 乾燥工場及收函工場ハ避雷裝置ヲ設ケ作業所内ノ他ノ建築物ニ對シ乾燥工場ハ二十間以上、收函工場ハ二十間以上ノ距離ヲ保有スヘシ但シ土堤ヲ設ケタル場合ニ在リテハ其ノ距離ヲ二分ノ一ニ短縮スルコトヲ得
- 三 硝化工場、洗滌工場、精製工場及溶解母液回收工場ニハ作業中發生スル瓦斯及蒸氣ノ排氣裝置ヲ爲スヘシ
- 四 引火性ノ原料及溶劑ハ完全ナル容器ニ收納シテ倉庫ニ貯藏シ又ハ堅牢ナル鐵製貯槽ニ收納シテ屋外安全ナル場所ニ貯藏スヘシ

〔神奈川縣〕

〔神奈川縣〕

- 地上倉庫ニ貯藏スル場合ニ在リテハ其ノ倉庫ハ作業所内ノ他ノ建築物ニ對シ十二間以上ノ距離ヲ保有シ且火災豫防上特別ノ設備ヲ爲スヘシ
- 五 硝化物ニ接觸セル從業者ニハ食事前洗面ヲ爲サシメ且終業後入浴セシムヘシ
- 六 硝化物ノ粉末飛散ノ虞アル工場内ノ從業者ニハマスクヲ使用セシムヘシ
- 七 左ノ工場内ニハ左ノ數量ヲ超ユル火藥類ヲ存置シ又ハ定員ヲ超ユル勞務者ヲ立入ラシムルコトヲ得ス

工場ノ種類	火藥類ノ最大數量		勞務者定員
	貫	匁	
乾 收函工場	八十	五百	十

- 二十六條ノ六 ナイトログリセリン及之ヲ主トスル爆藥各種ダイナノ作業所ニ於テハ第二十六條ノ規定ニ依ルノ外左ノ各號ノ規定ヲ遵守スヘシ

- 一 爆發ノ危險アル工場ハ汽機汽罐室、添加劑製造工場、硝土ノ煨、鉛工場等爆藥製造ニ直接關聯セル工場並從業者ノ洗面室、休息室等ニ對シ一町以上、穀工場、木工場、酸工場、棉火藥製造工場、乾燥工場、篩等ダイナマイト製造ニ直接關聯ナキ建築物、事務所、住宅等ニ對シ二町以上ノ距離ヲ保有スヘシ但シ工場ニ直接必要ナル小動力室、混酸室、秤量室、ダイナマイト包裝用紙又ハ容器準備室等ヲ所要工場附近ニ築造スル場合ハ此ノ限ニ在ラス
- 二 爆發ノ危險アル工場ハ棉火藥乾燥工場、同節分工場、配合工場、壓伸工場、壓榨工場、包裝工場、收函工場及古酸分離工場ヲ除クノ外之ヲ系統的ニ配置スヘシ
- 三 一系統内ニ築造スルグリセリン硝化工場ハ豫備工場ヲ除クノ外二工場以上ヲ築造スルコトヲ得ス
- 四 系統相互間ニ於テハ四十四間以上ノ距離ヲ保有スヘシ
- 五 アリセリン硝化工場ハ作業所内ノ他ノ建築物ニ對シ作業中停滯スヘキ爆藥ノ數量百六十貫以内ノモノニ在リテハ二十四間以上、三百二十貫以内ノモノニ在リテハ二十八間以上ノ距離ヲ保有スヘシ

第二編 保安 第一章 安寧

第二編 保安 第一章 安寧

- 六 ナイトログリセリン洗滌工場ハ作業所内ノ他ノ建築物ニ對シ作業中停滯スヘキ爆薬ノ数量前號規定ノ二倍以内ニ於テ各前號規定ノ距離ヲ保有スヘシ
- 七 濾過工場、配合工場、豫担和工場、担和工場、壓伸工場、壓榨工場及包裝工場ハ作業所内ノ他ノ建築物ニ對シ作業中停滯スヘキ爆薬ノ数量第五號規定ノ限度ニ於テ各第五號規定ノ距離ヲ保有スヘシ
- 八 古酸分離工場ハ作業所内ノ他ノ建築物ニ對シ八間以上ノ距離ヲ保有スヘシ
- 九 牧函工場、棉火藥乾燥工場及同篩分工場ハ作業所内ノ他ノ建築物ニ對シ二十八間以上ノ距離ヲ保有スヘシ
- 十 一箇ノ土堤ヲ以テ二箇ノ工場ヲ隔離スル場合ニ於テハ酸、グリセリン又ハナイトログリセリン等ノ流過樋又ハ導管ヲ通スル隧道ノ外其ノ土堤ニ穿孔又ハ通路ヲ設ケルコトヲ得ス
- 十一 爆發ノ危険アル工場ニハ各箇ニ避雷装置及土堤ヲ設ケ土堤ノ外側ニシテ通路ニ接近セル位置ニ爆發ノ際飛散物ニ對スル避難ノ設備ヲ爲スヘシ
- 十二 ナイトログリセリンノ流過樋ハ爆發ノ傳播ヲ防止スル爲工場ヨリ隔離シ常ニ清潔ナラシメ隨時故障ノ有無ヲ検査スヘシ
- 十三 ナイトログリセリン又ハ之ヲ含有スル古酸若ハ水ノ流過樋ニハ鉛、護膜又ハ袖藥ヲ施シタル陶器製ノモノヲ用キ暴露セル部分ニハ覆蓋ヲ設ケ且凍結豫防ノ爲加温ノ設備ヲ爲スヘシ
- 十四 爆發ノ危険アル工場ノ窓ハ外開キトシ且硝子戸ニ在リテハ其ノ内面ニ硝子破損ノ際破片ヲ防止スルニ足ルヘキ金網ヲ張ルヘシ
- 十五 グリセリンノ硝化器及分離器ニハ硝化又ハ分離作業中外部ヨリ内容物ヲ檢温シ得ヘキ装置ヲ爲スヘシ
- 十六 グリセリンノ硝化器及分離器ニハ爆發ノ虞アリト認メタル場合ニ於テ直ニ其ノ内容物ヲ安全槽ニ導入シ得ヘキ装置ヲ爲シ安全槽ニハ常ニ必要ナル程度ニ於テ貯水スヘシ
- 十七 グリセリン硝化器及分離器ノ内容物ヲ壓迫空氣ニ依リ攪拌スルモノニ在リテハ完全ナル豫備攪拌装置ヲ爲スヘシ
- 十八 左ノ工場内ニハ左ノ数量ヲ超ユル火藥類又ハ其ノ原料ヲ存置シ又ハ定員ヲ超ユル勞務者ヲ立入ラシムルコトヲ得ス

〔神奈川警〕

〔神奈川警〕

工場ノ種類	火藥類又ハ其ノ原料ノ最大數量	勞務者定員
硝化工場	千 百 貫	二 人
洗滌工場 (又ハ洗滌濾過工場)	百 八 十 七 貫	二 人
濾過工場	百 八 十 七 貫	二 人
配合工場	百 八 十 七 貫	二 人
豫担和工場	百 六 十 貫	三 人
担和工場	百 三 十 四 貫	三 人
手捏和工場	百 三 十 四 貫	三 人
壓伸工場	百 三 十 四 貫	三 人
壓榨工場	百 三 十 四 貫	三 人
包裝工場	百 三 十 四 貫	五 人
牧函工場	百 三 十 四 貫	五 人
古酸分離工場	百 三 十 四 貫	四 人
棉火藥乾燥工場	百 三 十 四 貫	二 人
同篩分工場	百 三 十 二 貫	四 人

本條ニ於テ爆發ノ危険アル工場ト稱スルハ棉火藥乾燥工場、同篩分工場、グリセリン硝化工場、ナイトログリセリン洗滌工場、濾過工場、配合工場、豫担和工場、担和工場、壓伸工場、壓榨工場、包裝工場、牧函工場及古酸分離工場ヲ謂フ

第二十六條ノ七 硝酸アンモニアヲ主トスル爆薬ノ作業所ニ於テハ第二十六條ノ規定ニ依ルノ外左ノ各號ノ規定ヲ遵守スヘシ

- 一 乙種硝安爆薬ノ混和工場、乾燥工場 攝氏四十五度以上ノ、填藥工場、包裝工場、鹽素酸鹽又ハ過鹽素酸鹽ノ粉碎工場、乾燥及篩分工場及完成爆薬ノ牧函工場ハ各別棟ニ之ヲ築造スヘシ
- 二 甲種硝安爆薬ノ製造工場、鹽素酸鹽又ハ過鹽素酸鹽ノ粉碎工場、乾燥及篩分工場ノ建築材料ニハ火焔ニ對シ抵抗性ヲ有スルモノヲ用ウヘシ

第二編 保安 第一章 安寧

三 乙種硝安爆藥ノ混和工場、乾燥工場、攝氏四十五度以上ノ及完成爆藥ノ取面工場ニハ各箇ニ避雷装置及土堤ヲ設ケ作業所内ノ他ノ建築物ニ對シ作業中停滯スヘキ爆藥ノ數量百六十貫以內ノモノニ在リテハ十二間以上、三百二十貫以內ノモノニ在リテハ二十間以上、五百三十貫以內ノモノニ在リテハ二十五間以上ノ距離ヲ保有スヘシ但シ四プロセント以上ノ硝化纖維素又ハナイトログリセリンヲ含有セサル爆藥ノ工場ニ在リテハ作業中停滯スヘキ爆藥ノ數量ニ關スル本號規定ノ區別ニ從ヒ六間、十二間又ハ十七間ニ短縮スルコトヲ得

四 乙種硝安爆藥ノ填藥工場及包裝工場ニハ各箇ニ避雷装置及土堤ヲ設ケ作業所内ノ他ノ建築物ニ對シ十五間以上ノ距離ヲ保有スヘシ但シ四プロセント以上ノ硝化纖維素又ハナイトログリセリンヲ含有セサル乙種硝安爆藥ノ包裝工場ハ厚サ二尺五寸以上ノ防火壁ヲ以テ隔離シタル場合ニ在リテハ二工場以內又ハ取面工場ト連接シテ築造スルコトヲ得

本條ニ於テ甲種硝安爆藥ト稱スルハ硝酸アンモニアチ主劑トシ二硝基ベンジン、二硝基ナフサリン、硝酸鹽類又ハ穀粉ノ類ヲ混和セルモノヲ謂ヒ乙種硝安爆藥ト稱スルハ硝酸アンモニアチ主劑トシ ナイトログリセリン、硝化纖維素、三硝基トリユオール、鹽素酸鹽又ハ過鹽素酸鹽ノ類ヲ混和セルモノヲ謂フ

第二十六條ノ八 フェノール又ハクレゾールノ二硝基以上ノ硝化物ノ作業所ニ於テハ第二十六條ノ規定ニ依ルノ外左ノ各號ノ規定ヲ遵守スヘシ

- 一 乾燥工場、取面工場、其ノ他乾燥セル硝化物ヲ取扱フ工場ハ各箇ニ避雷装置及土堤ヲ設ケ作業所内ノ他ノ建築物ニ對シ乾燥工場ハ二十八間以上、取面工場其ノ他乾燥セル硝化物ヲ取扱フ工場ハ作業中停滯スヘキ數量百六十貫以內ノモノニ在リテハ十二間以上、三百二十貫以內ノモノニ在リテハ二十間以上、五百三十貫以內ノモノニ在リテハ二十五間以上ノ距離ヲ保有スヘシ
- 二 硝化工場、洗滌及精製工場ハ火焰ニ對シ抵抗性ヲ有スル建築材料ヲ用キ火氣ニ對シ安全ナル場所ヲ選定シ作業所内ノ他ノ建築物ニ對シ高キモノノ高サノ二倍以上ノ距離ヲ保有シ各別棟ニ之ヲ築造スヘシ但シ防火壁ヲ以テ隔離スルトキハ三工場以內ヲ連接シテ築造スルコトヲ得
- 三 硝化物ヲ取扱フ工場ニ於テハ硝化物ノ接觸ニ依リ危險ナル鹽類ノ生成ヲ防クヘキ適當ノ措置ヲ爲スヘシ
- 四 硝化物ニ接觸セル従業員ニハ食事前洗面ヲ爲サシメ且終業後入浴セシムヘシ

〔神奈川營〕

〔神奈川營〕

五 硝化物ノ粉末飛散ノ虞アル工場内ノ従業員ニハマスクヲ使用セシムヘシ

六 左ノ工場内ニハ左ノ數量ヲ超ユル火藥類ヲ存置シ又ハ定員ヲ超ユル勞務者ヲ立入ラシムルコトヲ得ス

乾	工	種	類	ノ	最大	數量	一	勞務	者	定	員
取	面	工	場	場	千	貫	一	人	六	人	
取	面	工	場	場	千	貫	一	人	六	人	
取	面	工	場	場	千	貫	一	人	六	人	

第二十六條ノ九 硝化纖維素トナイトログリセリントノ結合物ヲ主トスル無煙火藥ノ作業所ニ於テハ第二十六條ノ規定ニ依ルノ外左ノ各號ノ規定ヲ遵守スヘシ

- 一 爆發ノ危險アル工場及無煙火藥乾燥工場ハ汽機汽罐室、鉛工場等無煙火藥製造ニ直接關係セル工場並従業員ノ洗面室、休憩室等ニ對シ一町以上、鍛工場、木工場、酸工場、棉火藥製造工場、乾燥工場及乾燥棉火等無煙火藥製造ニ直接關係ナキ建築物、事務所、住宅等ニ對シ二町以上ノ距離ヲ保有スヘシ但シ工場ニ直接必要ナル小動力室、混酸室、秤量室又ハ容器準備室等ヲ所要工場附近ニ築造スル場合ハ此ノ限ニ在ラス
- 二 グリセリン硝化工場及ナイトログリセリン洗滌及濾過工場ハ系統的ニ配置シ系統相互間ニ於テハ四十四間以上ノ距離ヲ保有スヘシ
- 三 一系統内ニ築造スルグリセリン硝化工場ハ豫備工場ヲ除クノ外二工場以上ヲ築造スルコトヲ得ス
- 四 グリセリン硝化工場ハ作業所内ノ他ノ建築物場ヲ除クニ對シ作業中停滯スヘキナイトログリセリンノ數量百六十貫以內ノモノニ在リテハ十四間以上、三百二十貫以內ノモノニ在リテハ二十二間以上、五百三十貫以內ノモノニ在リテハ二十八間以上ノ距離ヲ保有スヘシ
- 五 ナイトログリセリン洗滌及濾過工場ハ作業所内ノ他ノ建築物ニ對シ作業中停滯スヘキ爆藥ノ數量前號規定ノ二倍以上ニ於テ各前號規定ノ距離ヲ保有スヘシ
- 六 棉火藥乾燥工場ハ作業所内ノ他ノ建築物ニ對シ二十八間以上、乾燥棉火藥取扱工場及混和工場ハ作業所内ノ他ノ建築物ニ對シ十四間以上ノ距離ヲ保有スヘシ
- 七 焙煎同敷工場及無煙火藥乾燥工場ハ作業所内ノ他ノ建築物ニ對シ二十八間以上ノ距離ヲ保有スヘシ但シ其ノ周圍ニ防火壁又ハ土堤ヲ設ケタル場合ニ在リテハ同種類ノ工場ニ對シ五間迄、異種類ノ工場ニ對シ十四間迄

- 八 距離ヲ短縮スルコトヲ得
- 九 前號ノ工場ハ防火壁ヲ以テ隔離スルトキハ同種類ノモノニ限リ三工場以内ヲ連接シテ築造スルコトヲ得
- 十 風晒工場、混同工場及取函工場ハ作業所内ノ他ノ建築物ニ對シ二十八間以上ノ距離ヲ保有スヘシ但シ周圍ニ防火壁又ハ土堤ヲ設ケタル場合ニ在リテハ十四間迄短縮スルコトヲ得
- 十一 アセトン其ノ他ノ引火性熔劑ノ貯藏所ハ火焰ニ對シ抵抗性ヲ有スル建築材料ヲ用キ作業所内ノ他ノ建築物ニ對シ十二間以上ノ距離ヲ保有スヘシ
- 十二 發火ノ危険アル工場ハ火焰ニ對シ抵抗性ヲ有スル建築材料ヲ用キ注水消火設備ヲ爲スヘシ
- 十三 一箇ノ土堤ヲ以テ二箇ノ工場ヲ隔離スル場合ニ於テハ酸、グリセリン、ナイトログリセリン等ノ流通種又ハ導管ヲ通スル隧道ノ外其ノ土堤ニ穿孔又ハ通路ヲ設ケルコトヲ得ス
- 十四 爆發ノ危険アル工場ニハ各箇ニ避雷裝置及土堤ヲ設ケグリセリン硝化工場ノ土堤ノ外側ニシテ通路ニ接近セル位置ニハ爆發ノ際ニ於ケル飛散物ニ對スル避難ノ設備ヲ爲スヘシ
- 十五 ナイトログリセリンノ流通種ハ常ニ清潔ナラシメ隨時故障ノ有無ヲ検査スヘシ
- 十六 ナイトログリセリン又ハ之ヲ含有スル古酸若ハ水ノ流通種ニハ鉛、護膜又ハ釉藥ヲ施シタル陶器製ノモノヲ用キ暴露セル部分ニハ蓋蓋ヲ設ケ且凍結豫防ノ爲加温ノ設備ヲ爲スヘシ
- 十七 爆發ノ危険アル工場ノ硝子戸ニハ内面ニ硝子破損ノ際ニ於ケル破片ヲ防止スルニ足ルヘキ金網ヲ張ルヘシ
- 十八 グリセリン硝化器及分離器ニハ硝化又ハ分離作業中外部ヨリ内容物ヲ檢温シ且發散瓦斯ヲ窺見シ得ヘキ裝置ヲ爲スヘシ
- 十九 グリセリン硝化器及分離器ニハ爆發ノ虞アリト認メタル場合ニ於テ直ニ其ノ内容物ヲ安全槽ニ導入シ得ヘキ裝置ヲ爲シ安全槽ニハ常ニ必要ナル程度ニ於テ貯水スヘシ
- 二十 グリセリン硝化器及分離器ノ内容物ヲ壓縮空氣ニ依リ攪拌スルモノニアリテハ完全ナル豫備攪拌裝置ヲ爲スヘシ

〔神奈川警〕

〔神奈川警〕

- 二十一 工場内ニ於テハアセトン其ノ他ノ溶劑ノ容器ハ硝子製ノモノヲ使用スヘカラス
- 二十二 乾燥工場内ノ温度ハ攝氏五十度ヲ、溶劑回收工場内ノ温度ハ攝氏六十度ヲ超エシムルコトヲ得ス
- 二十三 乾燥セル無煙火藥又ハ棉火藥ハ攝氏三十五度以下ニ放冷シタル後ニ非サレハ之ヲ運搬スルコトヲ得ス
- 二十四 担和機及壓伸機ハ同一工場内ニ二箇以上ヲ据付ケルコトヲ得ス
- 二十五 担和機及壓伸機ニハ蓄電ヲ避ケル爲適當ノ裝置ヲ爲スヘシ
- 二十六 左ノ工場内ニハ左ノ數量ヲ超ユル火藥類又ハ其ノ原料ヲ存置シ又ハ定員ヲ超ユル勞務者ヲ立入ラシムルコトヲ得ス

工場ノ種類	火藥類又ハ其ノ原料ノ最大數量	勞務者定員
硝化工場	硝化二回分	四人
グリセリン硝化工場	千五百貫	三人
洗滌及濾過工場	千五百貫	四人
棉火藥乾燥工場	八十貫	二人
乾燥棉火藥取扱工場	担和機二回ノ仕込量	五人
混和工場	四十八貫	三人
壓伸工場	四百五十貫	六人
溶劑回收工場	千五百貫	六人
無煙火藥乾燥工場	二千貫	四人
混同工場	四千貫	五人
風晒工場	八百貫	十人

本條ニ於テ爆發ノ危険アル工場ト稱スルハ棉火藥乾燥工場、乾燥棉火藥取扱工場、グリセリン硝化工場、ナイトログリセリン洗滌及濾過工場及混和工場ヲ謂ヒ發火ノ危険アル工場ト稱スルハ担和工場、壓伸工場、溶劑回收工場、無煙火藥乾燥工場、風晒工場、混同工場及取函工場ヲ謂フ



第二編 保安 第一章 安事

第二十六條ノ十 過燻素酸鹽ヲ主トスル爆薬ノ作業所ニ於テハ第二十六條ノ規定ニ依ルノ外左ノ各號ノ規定ヲ遵守スヘシ

- 一 過燻素酸鹽ノ粉碎及篩分工場及乾燥工場ハ別棟ニ之ヲ築造シ火焔ニ對シ抵抗性ヲ有スル建築材料ヲ用ウヘシ
- 二 混和工場、填薬工場、包裝及收函工場ニハ各箇ニ避雷裝置及土堤ヲ設ケ作業所内ノ他ノ建築物ニ對シ作業中停滯スヘキ爆薬ノ數量八十貫以内ノモノニ在リテハ八間以上、百六十貫以内ノモノニ在リテハ十二間以上、三百二十貫以内ノモノニ在リテハ二十間以上ノ距離ヲ保有スヘシ但シ填薬工場、包裝及收函工場ハ厚サ一尺五寸以上ノ防火壁ヲ以テ隔離シタル場合ニ在リテハ同種類ノモノニ限リ二工場ヲ連接シテ築造スルコトヲ得
- 三 混和工場内ニハ二箇以上ノ混和機ヲ据付クルコトヲ得ス
- 四 左ノ工場内ニハ左ノ數量ヲ超ユル火薬類又ハ其ノ原料ヲ存置シ又ハ定員ヲ超ユル勞務者ヲ立入ラシムルコトヲ得ス

工場ノ種類	火薬類又ハ其ノ原料ノ最大數量	勞務者	定員
混和工場	混和機二回ノ仕込量	二	二人
填薬工場	八十貫	填薬機ヲ使用スル工場	五人
包裝及收函工場	百六十貫	填薬機ヲ使用セサル工場	十人
			六人

第二十六條ノ十一 無燻火薬ヲ原料トスル爆薬ノ作業所ニ於テ第二十六條ノ規定ニ依ルノ外左ノ各號ノ規定ヲ遵守スヘシ

- 一 無燻火薬風乾工場ハ避雷裝置ヲ設ケ作業所内ノ他ノ建築物ニ對シ二十間以上ノ距離ヲ保有スヘシ但シ無燻火薬ノ水蒸場ヲ其ノ附近ニ設置スルハ此ノ限ニ在ラス
- 二 裁斷工場、粉碎工場、篩分及混和工場、填薬及包裝工場及收函工場ハ火焔ニ對シ抵抗性ヲ有スル建築材料ヲ用キテ各別棟ニ之ヲ築造シ各箇ニ注水消火設備、避雷裝置及土堤ヲ設ケ作業所内ノ他ノ建築物ニ對シ十四間

〔神奈川管〕

〔神奈川管〕

- 以上ノ距離ヲ保有スヘシ但シ粉碎工場ハ防火壁ヲ以テ隔離シタル場合ニ在リテハ同種類ノ工場ニ限リ十工場以内ヲ連接シテ築造スルコトヲ得
- 三 粉碎工場ニハ二箇ノ粉碎機ヲ据付ケ其ノ中間ニ避雷裝置ヲ設ケ粉碎機ハ交互ニ之ヲ使用スヘシ
- 四 左ノ工場内ニハ左ノ數量ヲ超ユル火薬類又ハ其ノ原料ヲ存置シ又ハ定員ヲ超ユル勞務者ヲ立入ラシムルコトヲ得ス

工場ノ種類	火薬類又ハ其ノ原料ノ最大數量	勞務者	定員
裁斷工場	一百貫	二	二人
粉碎工場	十五貫	粉碎機二箇ニ付	一人
篩分及混和工場	百五十貫	三	三人
填薬及包裝工場	百五十貫	四	四人
收函工場	百五十貫	五	五人

第二十六條ノ十二 内務大臣ハ第二十六條乃至第二十六條ノ十一ニ規定セル事項ノ外必要ナル設備ヲ命シ又ハ其ノ規定セル事項ニ付土地ノ狀況其ノ他ノ關係ニ依リ危險ノ虞ナシト認ムルトキハ特ニ其ノ變更ヲ許可スルコトアルヘシ

應府縣長官ハ第二十六條乃至第二十六條ノ十一ニ規定セル事項ノ外作業所内ニ於ケル防火ノ設備其ノ他取締上必要ナル事項ヲ命スルコトヲ得

第二十七條 緩燃導火線及煙火ヲ除クノ外火薬類ハ左ノ各號ノ規定ニ從ヒ之ヲ收納又ハ貯蔵スヘシ

- 一 火薬及導火線ハ木器、亞鉛器、銅器ニ收納スルコトヲ要ス但シ硝化纖維素ヲ主トスル無燻火薬ニシテ火薬類保存上有害ナル酸類又ハ鹽基類ヲ含マサル紙若ハ布ヲ以テ包ミタルモノニ在リテハ錫引又ハ亞鉛引鐵器ニ、少量ノ火薬ニ在リテハ白鐵葉器ニ收納スルコトヲ得
- 二 火工品(導火線ヲ除ク)ハ木器、亞鉛器、銅器、白鐵葉器、厚紙製罐ニ收納スルコトヲ要ス但シ其ノ形狀巨大ニシテ收納ニ適セサルモノハ此ノ限ニ在ラス
- 三 ヒクリン酸ハ陶器、磁器、純錫器、純アルミニウム器、硝子器又ハ木器ニ、其ノ他ノ爆薬ハ其ノ種類ニ應ジ木器、紙器、亞鉛器、護蓋器又ハ硝子器ニ收納スルコトヲ要ス但シ硝酸アンモニアヲ主トスル爆薬ニシテ

第二編 保安 第一章 安事

四 ナイトログリセリン又ハ硝化纖維素ヲ含有セザルモノニ在リテハ白鐵素器ニ收納スルコトヲ得  
 雷汞ハ清水ニ滿タセル硝子器ニ收納シテ貯藏スルコトヲ要ス

五 火藥、爆藥ハ容器ト火藥類ト直接ニ觸接セサル爲火藥類保存上有害ナル酸類又ハ鹽基類ヲ含マサル紙若ハ布  
 ナリテ隔絶スヘシ但シ容器ノ内面ニ漆又ハセルラツクノ類ヲ塗布シタル場合若ハ少量ノ火藥ヲ收納スル場合  
 ハ此ノ限ニ在ラス

(削除)

- 六 火藥類ハ乾燥性油紙、桐油、荏油又ハチ以テ之ヲ包被スルコトヲ得ス
- 七 各種ダイナマイトヲ收納スル容器ハ常ニ其ノ内部ノ藥包ヲ横置セシムルコトヲ要ス
- 八 各種ダイナマイトニシテ貯藏中藥包ヨリナイトログリセリン滲出シテ容器ノ外面若ハ床上ヲ汚染シタルトキ  
 ハ苛性曹達ノアルコイル溶液ヲアルコイル五百立方センチメートルニ溶解シ之ヲ注キナイトログリ  
 セリンヲ分解セシメ布片ヲ以テ清拭スヘシ
- 九 各種ダイナマイトニシテ貯藏中凍結シタルトキハ安ニ融解シ若ハ搬出スルコトナク庫内ニ寒氣ノ侵入ヲ防止  
 シ自然ニ融解セシメ又ハ水分ヲ藥包ニ觸接セシメサルノ裝置ヲ爲シタル容器ニ之ヲ收容シ温湯ニ浸シテ間接  
 ニ融解セシムヘシ
- 十 火藥類ハ第二十八條ノ區別ニ依リ互ニ隔離スヘシ
- 十一 火藥類ヲ收納シタル容器ヲ外箱ニ入レルニハ容器ト外箱トノ間ニ空隙又ハ火藥類粉末ノ殘留ナキヲ要ス
- 十二 一旦使用シタル火藥類ノ容器又ハ其ノ外箱ハ適宜ノ方法ニ依リ清掃淨拭スルニ非サレハ再ヒ火藥類ヲ收納  
 スルコトヲ得ス
- 十三 火藥類ノ容器ノ外箱ハ鐵類ヲ露スコトヲ得ス
- 十四 有煙火藥、有煙火藥ヲ裝填シタル銃用實包、銃用空包及有煙火藥ノミナ裝填シタル其ノ他ノ火工品硝酸鹽、  
 鹽素酸鹽若ハ過鹽素酸鹽ヲ主トスル爆藥ニシテ有機硝化物ヲ含有セザルモノ

〔神奈川警〕

〔神奈川警〕

- 二 無煙火藥、無煙火藥ヲ裝填シタル銃用實包、銃用空包及無煙火藥ノミナ裝填シタル其ノ他ノ火工品
- 三 爆藥
- 四 火工品

前項第三號ヲ除クノ外各號中ノ二種類以上ヲ同棟ニ貯藏スルニハ各種類毎ニ銃砲火藥類取締法施行規則第二十八  
 條ニ掲ケタル數量ヲ以テ貯藏セムトスル數量ヲ除シ其ノ商ヲ加ヘ其ノ和一ヲ超ユルコトヲ得ス

第二十九條 火藥類貯藏所ニ火藥類ヲ貯藏スルニハ内壁ヨリ一尺以上ヲ隔テ下部ニハ高サ約三寸ノ枕木ヲ置キテ容  
 器ヲ積上クヘシ

火藥類貯藏所ニ於テハ警察官署ノ指示ニ從ヒ換氣ニ注意スヘシ

火藥類貯藏所内ノ溫度ハ無煙火藥ヲ貯藏スル場合ニ於テ攝氏三十一度以下爆藥ヲ貯藏スル場合ニ於テ攝氏九度以  
 上三十六度以下ヲ保ツコトニ注意スヘシ

火藥類貯藏所ニ於テハ携帶電燈ノ外燈火ヲ携フルコトヲ得ス

火藥類貯藏所ニ於テハ荷造、荷解ヲ爲シ又ハ鐵類若ハ鐵類ノ附屬シタル器具ヲ帶ヒ又ハ靴若ハ土足ノ儘入ルコト  
 ナ得ス戸外ニ於テ先ツ塵埃ヲ拂ヒ且上草履ヲ穿ツヘシ

火藥庫及假貯藏所ニハ他ノ物品ヲ貯藏スルコトヲ得ス

第二十六條 第一項第二號、第二十一號、第二十二號、第二十四號、第二十五號、第二十九號及其ノ罰則ノ規定ハ  
 火藥庫及假貯藏所ニ之ヲ準用シ同條第一項第二十二號、第二十四號、第二十九號及其ノ罰則ノ規定ハ倉庫ニ之ヲ  
 準用ス

第三十條 火藥類ヲ消費スル者ハ消費地警察官署ノ指示ニ從ヒ火藥類ノ收支ヲ明ニスヘシ但シ一年間ニ於テ銃砲火  
 藥類取締法施行規則第十八條各號以內ノ火藥類ヲ消費スル者ハ此ノ限ニ在ラス

第三十一條 銃砲火藥類取締法施行規則第三十二條第一項ノ許可申請書ニハ位置、設備又ハ増築、改築、修繕若ハ  
 模様替ノ仕様並貯藏スヘキ火藥類ノ種類、數量ヲ具スルコトヲ要ス

假貯藏所ニ在テハ前項ノ外火藥類ヲ要スル事業及期間ヲ具スルコトヲ要ス

第三十二條 火藥庫ノ設備ハ左ノ各號ノ制限ニ從フヘシ但シ地下又ハ水上ニ設クル火藥庫ニ關シテハ廳府縣長官ノ

許可を得ず特別ノ設備ヲ爲スコトヲ得

- 一 火藥庫ハ土藏造、鐵筋コンクリート造、煉瓦造又ハ石造ノ平屋建ナルコト
- 二 火藥庫ノ屋根ノ外面ハ薄キ金屬板、石盤板又ハ瓦若ハ輕量ノ不燃質物ヲ用キテ覆葺シ且盜難ヲ防キ得ヘキ構造ト爲スコト
- 三 庫壁ハ土造、鐵筋コンクリート造ノ部分ニ於テ厚サ五寸以上、煉瓦造、石造ノ部分ニ於テ厚サ七寸以上トシ窓ニハ透明ノ硝子ヲ用ヘルコトナク且扉ニハ防火ノ設備ヲ爲スコト
- 四 庫ノ内面ハ石、瓦、ベトン、土砂ノ剝落飛散ヲ防クノ裝置ヲ爲シ鐵類ヲ露ハササルコト
- 五 床ハ密ニ張詰メ鐵類ヲ露ハササルコト
- 六 火藥庫ニハ避雷針ヲ設クルコト但シ避雷針ニ代ルヘキ裝置アルトキハ之ヲ省略スルコトヲ得  
避雷針ハ其ノ尖端ヨリ屋端ノ最モ遠隔セル點ニ至ル想像的直線ト四十五度以内ノ角度ヲ有ツコト  
避雷針ハ少クモ毎年一回梅雨期以前ニ於テ之ヲ檢査シ必要アルトキハ修繕ヲ加フルコト
- 七 無煙銃用實包又ハ無煙銃用空包ヲ貯藏スル火藥庫ノ周圍ニハ土堤又ハ鐵筋コンクリート造、煉瓦造若ハ石造ノ圍壁ヲ、其ノ他ノ火藥類ヲ貯藏スル火藥庫ノ周圍ニハ土堤又ハ圍壁ノ外側面ヨリ堤脚又ハ壁脚迄三尺乃至六間ノ距離ニ於テ可成庫壁ニ接近シテ設クルコト但シ廳府縣長官ハ天然又ハ人造ノ掩體ノ狀態其ノ他土地ノ狀況ニ依リ危險ノ虞ナシト認ムルトキハ土堤又ハ圍壁ノ全部又ハ一部ノ省略ヲ許可スルコトヲ得  
火藥庫ニ以上相接スル場合ニ於テ各庫ノ土堤又ハ圍壁ハ相違ヌルコトヲ得  
土堤又ハ圍壁ハ堤外ヨリ火藥庫ヲ通視シ能ハサラシムルカ爲其ノ一端ヲ屈折延長スルカ又ハ通路ノ入口ノ前面ニ更ニ土堤又ハ圍壁ヲ設ケ若ハ土堤ノ入口ヲ隧道ト爲シ其ノ兩端ニ堅固ナル扉ヲ設クルコト  
無煙銃用實包又ハ無煙銃用空包ヲ貯藏スル火藥庫ノ土堤又ハ圍壁ノ高サハ火藥庫ノ軒桁ノ高サト、其ノ他ノ火藥類ヲ貯藏スル火藥庫ノ土堤ノ高サハ火藥庫ノ屋頂ノ高サト同一以上、圍壁ノ厚サハ一尺五寸以上、土堤ノ頂部ノ厚サハ三尺以上トシ堤面ハ芝草類ヲ以テ被覆スルコト但シ堤脚ハ火藥庫ノ屋頂ノ高サノ三分ノ一ニ至ル迄土留ヲ石積、煉瓦積又ハコンクリート造ト爲スコトヲ得
- 八 土堤ノ外部ニ於テ善地アルトキハ常盤木ヲ栽植スルコト

〔神奈川警〕

〔神奈川警〕

第三十三條 倉庫ノ設備ハ前條ノ規定ヲ準用ス但シ避雷針及土堤ニ關シテハ前條ノ規定ニ拘ラス左ノ各號ノ規定ニ依ルコトヲ得

- 一 避雷針及之ニ代ルヘキ裝置ヲ省略スルコト
- 二 庫壁ノ外側面ニ觸接シ高サハ倉庫ト同シク厚サハ頂部ニ於テ二尺以上ヲ有シ壁ノ混入セサル土ヲ以テ積上ケタル外層ニ依リ圍繞(入口ノ部)シ土堤ヲ省略スルコト但シ庫壁ニシテ其ノ厚サ二尺以上若ハ之ト同一ノ抵抗力ヲ有スルトキハ外層ヲ省略スルコトヲ得  
倉庫ノ入口ハ危險ノ虞少ナキ側面ニ之ヲ設ケ其ノ前面ニ掩體ヲ有セサル場合ハ其ノ扉ヲ堅固ナラシムヘシ
- 第三十四條 假貯藏所ノ設備ニ付テハ廳府縣長官ノ命令ニ從フヘシ
- 第三十五條 繫留船又ハ倉庫船ハ火藥類ノ貯藏、船卸又ハ陸揚ノ場合ニ限り一時倉庫ニ代用スルコトヲ得
- 第三十六條 繫留船又ハ倉庫船ニ火藥類ヲ貯藏セムトスル者ハ船船ノ設備、繫留ノ位置及貯藏スヘキ火藥類ノ種類、數量ヲ具シ船船所在地警察官署ノ許可ヲ受クヘシ  
港務部ノ設置ナキ地ニ於テハ警察官ハ危害豫防ノ爲繫留船又ハ倉庫船ノ位置ヲ指定シ又ハ之ヲ變更セシメ其ノ他必要ナル事項ヲ命スルコトヲ得
- 第三十七條 銃砲火藥類取締法施行規則第十八條各號以外ノ火藥類ハ警察官署ノ許可ヲ受クルニ非サレハ日出前又ハ日没後ニ於テ荷造、荷解、荷積、荷卸又ハ授受スルコトヲ得ス
- 第三十八條 銃砲火藥類取締法施行規則第三十六條ノ規定ニ依ル許可申請書ニハ運搬スヘキ火藥類ノ種類、數量、運搬ノ日時、方法、通路及發着ノ場所ヲ具スルコトヲ要ス
- 第三十九條 所轄警察官署ノ許可ヲ受ケ火藥類ヲ運搬スルニハ許可證ヲ携帯スル外左ノ各號ノ制限ニ從フヘシ  
一 運搬具又ハ牛馬ノ類ヲ用ヒテ運搬スルニハ看守人ヲ附シ晝間ハ赤地ニ火藥ノ二字ヲ白書シタル小旗(陸路ニ縱二尺五寸) 夜間ハ赤色安全燈ヲ携フヘシ  
二 看守人及運搬人ハ前號安全燈ノ外携寸其ノ他發火ノ虞アル物件ヲ携帯シ又ハ荷造、荷解、荷積及荷卸ニ際シ若ハ荷物ニ接近シテ喫煙シ又ハ火氣ヲ取扱フコトヲ得ス  
三 携寸其ノ他發火ノ虞アル物件ハ火藥類ト共ニ積載スルコトヲ得ス

- 四 荷牛馬車ニ在テハ牛馬取付ノ儘荷積又ハ荷卸ヲ爲スコトヲ得ス
  - 五 容器ハ密閉シ堅固ニ積載シ日光ノ直射セサル様適當ノ被覆ヲ爲シ摩擦、動搖、衝突、轉倒及墜落ノ虞ナカラシムヘシ
  - 六 運搬中ハ徐行シ他ニ通路ナキ場合ノ外人家稠密ノ場所又ハ火氣ヲ取扱ヒ若ハ發火質物品ヲ蓄積スル等危險ノ虞アル場所ヲ通過スルコトヲ得ス
  - 七 運搬具又ハ牛馬ニ積載スル火藥類ハ普通積載量ノ二分ノ一ヲ超過スルコトヲ得ス
  - 八 運搬中停留又ハ休泊ヲ爲ストキハ人家ヲ遠隔セル安全ノ位置ヲ撰ミ且看守人ヲ附スヘシ
- 第三十九條ノ二 索道ヲ火藥類運搬ノ用ニ供セムトスルトキハ索道直下ノ地點ヨリ六十間以内ニ在ル社寺、學校、官公衙、病院、公園、工場、鐵道、軌道、國道、府縣道等ヲ明ニスル平面圖、索道ト地面トノ距離、索道ノ方式及綱子並運搬具ノ構造、運搬具ニ積載シ得ヘキ重量、運搬具ニ積載スヘキ火藥類ノ種類、數量、積込ノ方法、發着ノ場所及火藥類運搬中看守人ヲ配置スヘキ場所ヲ具シ所轄廳府縣長官ニ申請シ許可ヲ受ケヘシ
- 第三十九條ノ三 火藥類ヲ自動車ニ依リ運搬セムトスルトキハ危險豫防上特別ノ設備ヲ爲シ且其ノ運搬用トシテ所轄廳府縣長官ノ許可ヲ受ケタルモノナルコトヲ要ス但シ左ニ掲ケル火藥類ヲ客ノ乘用ニ供セサル自動車ニ依リ運搬スル場合及少量ノ銃用火藥類ヲ其ノ携帶者ト共ニ運搬スル場合ハ此ノ限ニ在ラス
- 一 緩燃導火線、煙火、信號管、星火ヲ發スル榴彈、十二箇以下ヲ木製容器ニ收納シ摩擦、動搖又ハ衝突ヲ豫防火箭、六箇以下ヲ木製容器ニ收納シ摩擦、動搖又ハ衝突ヲ豫防シ得ル様各箇ノ間ニ麻屑、紙屑ノ類ヲ填充シタルモノ
  - 二 銃用實包、銃用空包、火藥ヲ裝填セサル雷管附若ハ爆管附藥莖、雷管、工業用雷管、信管、爆管、門管
  - 三 濕藥箱内ノ火藥又ハ爆藥ヲ爆發ノ危險ナキニ至ル迄充分濕潤ノ上箱ヲ密閉シ該箱ノ上ニ濕藥ト明記シタルモノ
  - 四 芳香系列ノ硝化物若ハ之ヲ主トスル混和物ニシテ起爆劑ヲ附セサルモノ

〔神奈川管〕

〔神奈川管〕

- 五 硝酸アンモニア又ハ過鹽素酸アンモニアヲ主トスル爆藥中ナイトログリセリン若ハ硝化纖維素ヲ含有セサルモノニシテ起爆劑ヲ附セサルモノ
  - 六 六貫以下ノ火藥
  - 七 一貫三百匁以下ノ爆藥 起爆劑
- 第三十九條ノ四 索道又ハ自動車ニ據リ火藥類ヲ運搬スル者ハ第三十九條ノ制限ニ從フ外所轄廳府縣長官又ハ警察官署ノ指示スル事項ヲ遵守スヘシ
- 第四十條 銃砲火藥類取締法施行規則第十八條各號以外ノ火藥類ノ運搬ニ付テハ第二十七條及其ノ規則ノ規定ヲ準用ス
- 第四十一條 無煙火藥又ハ爆藥 ナイトログリセリン又ハチ貯藏スル火藥庫又ハ假貯藏所ニハ夏季、ナイトログリセリン又ハ之ヲ主トスル爆藥ヲ貯藏スル火藥庫又ハ假貯藏所ニハ夏季及冬季示差寒暖計ヲ備ヘ毎週一回之ヲ檢シ其ノ溫度ヲ明記シ置ケヘシ
- 示差寒暖計ヲ備フルハ夏季之ヲ最高溫度ノ位置ニ於テシ冬季之ヲ最低溫度ノ位置ニ於テスヘシ
- 本條ニ於テ夏季ト稱スルハ毎年七月ヨリ九月ニ至リ冬季ト稱スルハ毎年十二月ヨリ二月ニ至ル期間ヲ謂フ但シ土地ノ氣候ニ應ジ廳府縣長官特別ノ規定ヲ設ケルコトヲ得
- 第四十二條 無煙火藥、棉火藥又ハナイトログリセリン若ハ硝化纖維素ヲ含有スル爆藥ニ在リテハ其ノ容器ノ内箱ニ藥粒又ハ藥包ト共ニ青色リトマス試験紙ヲ入レ置キ三月毎ニ之ヲ交換スヘシ但シ製造所及製造年月ヲ同クスル同種類ノ火藥類ニシテ製造後二年ヲ經過セサルモノハ其ノ外箱二十五箱編數ハ二十五ニ付、製造後二年以上ヲ經過シタルモノハ十箱編數ハ十箱ニ付各一箱以上ノ割合ヲ以テ青色リトマス試験紙ヲ入レ置キ他ハ之ヲ省略スルコトヲ得
- 前項ノ試験紙全面ニ赤色ニ變シタルトキハ收納セル火藥、爆藥及同一貯藏所内ニ貯藏セル同種類ノ火藥、爆藥ニシテ其ノ製造所及製造年月ヲ同クスルモノハ之ヲ注意品トス
- 第四十三條 火藥、爆藥ニシテ盛ニ赤色瓦斯ヲ發生シ又ハ變質ノ爲刺戟性ノ臭氣ヲ放ツモノハ之ヲ不良品トス
- 第四十四條 第四十二條ノ注意品 硝酸アンモニアヲ主トスル爆藥ニシテナイトログリセリン又ハ硝化纖維素ヲ含有スルモノ及發酸アンモニアヲ含有スルモノヲ除クニシテ前條

ノ作用ヲ起ササルトキハ外箱一箱毎ニ左ノ方法ニ依リ遊離酸試験ヲ行フヘシ但シ本條ノ試験ヲ省略シ直ニ第四十六條ノ耐熱試験ヲ行フコトヲ得

試験スヘキ火藥類ハ其ノ包裝物ヲ除去シ之ヲ硝子瓶ニ入レ瓶内ノ高サ約五分ノ三ニ至ラシメタル後青色リトマス試験紙ヲ火藥類ノ上面ヨリ稍上方ニ吊シ直ニ瓶口ヲ密栓スヘシ

前項ノ場合ニ於テ無煙火藥及棉火藥ハ六時間内、其ノ他ノ火藥類ハ四時間内ニ試験紙ヲ其ノ全面ニ涉リ赤色ニ變シタルモノハ不良品トス

第四十五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ耐熱試験ヲ行フヘシ

- 一 遊離酸試験ノ結果前條ノ不良品ニ該當セザルトキ
- 二 注意品タル火藥類ヲ汽車又ハ汽船等ニ依リ輸送セムトスルトキ及輸送ヲ終リタルトキ
- 三 硝酸アンモニアヲ主トスル爆藥ニシテナイトログリセリン又ハ硝化纖維素ヲ含有スルモノ若ハ硝酸アンモニアヲ含有スルダイナマイトニシテ第四十二條ノ注意品ニ該當スルトキ
- 四 前各號ノ外警察官署ノ指示アリタルトキ

第四十六條 耐熱試験ハ左ノ方法ニ依リ之ヲ行フルシ

- 一 試驗スヘキ火藥類ハ左ノ各號ノ區別ニ從ヒ試料ヲ作り之ヲ試験管中徑約十九耗高二入ルヘシニ入ルヘシ
- 二 硝化土質ダイナマイトハ其ノ二十五乃至三十五ヲ採リ靜ニ壓シ細粒ト爲シ之ヲ口徑約五釐ノ硝子製漏斗ノ底部ニ精製無水石綿若ハ精製脫脂綿ノ小片ヲ置キタル上ニ入レ硝子棒ニテ其ノ表面ヲ平ニシ尙其ノ上部ヲ三耗ノ厚サニ精製硅藻土又ハ精製石綿粉ヲ以テ覆ヒ徐々ニ上面ヨリ蒸溜水ヲ滴下シ漏斗ノ下端ヨリ流出スルナイトログリセリン三五乃至三瓦半ヲ採リ之ヲ一試験管ニ入ルヘキ試料トス
- 三 膠質ダイナマイトハ其ノ三瓦半ヲ採リ硝子板上ニ於テ米粒大ニ細裁シ乳鉢ニ入レ精製滑石粉七瓦ヲ加ヘ木製乳棒ヲ以テ靜ニ攪ク完全ニ摺リ混セ之ヲ一試験管ニ入ルヘキ試料トス
- 四 硅藻土質及膠質以外ノダイナマイトニシテ乾燥セルモノハ其ノ儘、吸濕ノ疑アルモノハ攝氏四十五度ニテ約一時間乾燥セルモノハ其ノ儘、方形、帶狀又ハ紐狀ノモノハ飽、小刀又ハ鉄ヲ以テ細粒狀ニ削裁シ試験管ノ高サノ五分ノ三ニ應スル量ヲ採リ之ヲ一試験管ニ入ルヘキ試料トス
- 五 棉火藥及其ノ他ノ爆藥ニシテ乾燥セルモノハ其ノ儘、濕潤セルモノハ攝氏六十度ノ溫度ニテ約五時間乾燥シタル後試験管ノ高サノ三分ノ一ニ應スル量ヲ採リ之ヲ一試験管ニ入ルヘキ試料トス

〔神奈川管〕

〔神奈川管〕

五時間乾燥シタル後三瓦半ヲ採リ之ヲ一試験管ニ入ルヘキ試料トス

無煙火藥ニシテ粒狀ノモノハ其ノ儘、方形、帶狀又ハ紐狀ノモノハ飽、小刀又ハ鉄ヲ以テ細粒狀ニ削裁シ試験管ノ高サノ五分ノ三ニ應スル量ヲ採リ之ヲ一試験管ニ入ルヘキ試料トス

棉火藥及其ノ他ノ爆藥ニシテ乾燥セルモノハ其ノ儘、濕潤セルモノハ攝氏六十度ノ溫度ニテ約五時間乾燥シタル後試験管ノ高サノ三分ノ一ニ應スル量ヲ採リ之ヲ一試験管ニ入ルヘキ試料トス

沃度加里澱粉紙ノ上部ヲ蒸溜水及グリセリンノ等分混液ヲ用ヒ玻璃棒ニテ潤シ之ヲ玻璃桿鉤ニ懸吊シ桿ヲ保持セ

ル木栓ヲ以テ試験管口ヲ掩ヒ沃度加里澱粉紙ノ下線ヲシテ火藥類ノ上面ヨリ稍上方ニ在ラシムヘシ

前各項ノ準備ヲ爲シタル後湯煎器ヲ熱シ攝氏六十五度ノ溫度ヲ保持スルニ至ラハ試験管ヲ寒暖計ト同シ深サニ蓋孔ヨリ挿入シ沃度加里澱粉紙ノ乾濕分界部ヲ注視シ試験管挿入ノ時ヨリ其ノ淡褐色ニ變スルニ至ルノ時間ヲ以テ

火藥類ノ耐熱時間ト定ムヘシ

沃度加里澱粉紙ニ現ハルル褐色線ノ濃度ハ標準色紙ト對照シテ之ヲ定ムヘシ

標準色紙及沃度加里澱粉紙並精製滑石粉ハ官廳ニ於テ製造シタルモノヲ用ウヘシ

第四十七條 火藥類ノ耐熱時間八分以下ナルトキハ之ヲ不良品トス

第四十七條ノ二 硝酸アンモニアヲ主トスル爆藥ニシテナイトログリセリン又ハ硝化纖維素ヲ含有セザルモノニ在

リテハ製造後二年ヲ經過セザルモノハ毎年一回、製造後二年以上ヲ經過シタルモノ又ハ製造年月不明ノモノハ六月毎ニ一回第四十四條第二項ノ方法ニ依リ遊離酸試験ヲ行フヘシ

前項ノ場合ニ於テ四時間内ニ試験紙ヲ其ノ全面ニ涉リ赤色ニ變シタルトキハ更ニ加熱試験ヲ行フヘシ

第四十七條ノ三 加熱試験ハ左ノ方法ニ依リ之ヲ行フヘシ

經約三十五ミリメートル高サ約五十ミリメートルノ秤量場ヲ乾燥器内ニ於テ乾燥スヘシ

試驗スヘキ爆藥中ヨリ試料十グラムヲ採リ之ヲ前項ノ秤量場ニ入レ密栓シ秤量シタル後栓ヲ除キ攝氏七十五度乃至八十度ニ熱シタル乾燥器内ニ四十八時間靜置スヘシ

前項ノ試験中盛ニ赤色瓦斯ヲ發生スルトキハ之ヲ不良品トス此ノ作用ヲ起ササルトキハ再ヒ之ヲ密栓シ其ノ重量ヲ秤ルヘシ其ノ減耗量百分ノ一以上ナルトキハ之ヲ不良品トス

試驗スヘキ爆藥ニシテ濕氣ヲ吸收シタル疑アルトキハ先ツ其ノ試料ヲ攝氏七十五度乃至八十度ニ熱シタル乾燥器内ニ於テ約五時間乾燥シタル後秤量シ第二項及第三項ノ方法ニ依リ試驗ヲ行ヒ試驗中盛ニ赤色瓦斯ヲ發生スルカ又ハ前項ノ方法ニ依リ秤量シタル減耗量百分ノ〇・一以上ナルトキハ之ヲ不良品トス

第四十八條 耐熱試驗又ハ加熱試驗ノ結果ハ警察官署ノ指示ニ從ヒ之ヲ帳簿ニ記載シ置クヘシ

第四十九條 無煙火藥、棉火藥又ハナイトログリセリン若ハ硝化纖維素ヲ含有スル爆藥ニシテ製造後二年ヲ經過セサルモノハ毎年一回、製造後二年以上ヲ經過シ又ハ製造年月不明ノモノハ三月毎ニ一回第四十六條ニ定ムル試驗ヲ行フヘシ三月以内ニ於テ異狀ヲ認メタルトキ亦同シ

第四十九條ノ二 硝酸鹽、鹽素酸鹽又ハ過鹽素酸鹽ヲ主トスル爆藥ニシテ硝基化合物ヲ含有スルモノアチ主トスルモノ及ナイトログリセリン又ハ硝ニ在リテハ製造後二年ヲ經過セサルモノハ毎年一回、製造後二年以上ヲ經過シタルモノ若ハ製造年月不明ノモノハ六月毎ニ一回第四十六條ニ定ムル試驗ヲ行フヘシ六月内ニ於テ異狀ヲ認メタルトキ亦同シ

第四十九條ノ三 廳府縣長官ハ前條爆藥中種類ヲ限リ第四十七條ノ三第二項、第三項ノ方法ニ依リ加熱試驗ヲ行ハシムルコトヲ得

前項ノ試驗中赤色瓦斯ヲ發生スルトキハ不良品トス

第四十九條ノ四 第四十七條ノ二、第四十九條ノ二及前條ニ依リ試驗ヲ行フヘキ火藥類ノ箱數ハ製造所及製造年月ヲ同クスル同種類ノ火藥類ニシテ製造後二年ヲ經過セサルモノニ在リテハ外箱二十五箱ニ付ハ二箱ニ付、製造後二年以上ヲ經過シタルモノニ在リテハ外箱十箱ニ付ハ二箱ニ付各一箱以上、其ノ他ノモノニ在リテハ外箱ノ各箱トス

第五十條 一年間ニ於テ無煙火藥五千貫以上爆藥二千五百貫以上ヲ取扱フ者ハ何時ニテモ耐熱試驗又ハ加熱試驗ヲ行フコトヲ得ヘキ準備ヲ爲スコトヲ要ス

第五十一條 耐熱試驗又ハ加熱試驗ノ施行ハ所轄警察官署ニ之ヲ申請スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ試驗ニ關スル費用ハ申請者之ヲ負擔スヘシ

第五十二條 不良品タル火藥類ハ警察官署ノ指示ニ從ヒ硝酸鹽類ヲ主トスル有煙火藥ニ在リテハ之ヲ水中ニ放流シ

〔神奈川管〕

〔神奈川管〕

其ノ他ノ火藥類ニ在リテハ屋外廣潤ナル場所ニ於テ風ヲ除ク少量宛之ヲ燃燒スヘシ但シ警察官署ノ認可ヲ受ケ屬質ニアラサルダイナマイト類ハ海岸ヲ距ルコト二十哩以上ノ海水中ニ、ダイナマイト以外ノ火藥類ハ海岸ヲ距ルコト十哩以上ノ海水中又ハ他ニ危險若ハ損害及ホササル適當ナル水中ニ之ヲ沈下スルコトヲ得

不良ノ程度極メテ輕微ナル火藥類ハ警察官署ニ於テ危險ノ虞ナシト認メタルトキハ期間ヲ指定シテ其ノ貯藏ヲ許可スルコトアルヘシ此ノ場合ニ於テハ之ヲ良品ト隔離スルヲ要ス

第五十三條 火藥類貯藏所危險ノ状態ト爲リ又ハ火藥類異狀ヲ呈シタルコトヲ發見シタル者ハ直ニ警察官ニ之ヲ届出ツヘシ

前項ノ場合ニ於テ火藥類貯藏所又ハ火藥類ノ所有者又ハ管理者ハ直ニ應急ノ措置ヲ行フヘシ

第五十四條 第二條ノ二、第五條、第六條ノ三、第十九條第二十六條第一項第一號乃至第三號、第九條、第十九條、第二十一號乃至第三十四號、第三十六號乃至第三十八號、第二十六條ノ二第一項第七號乃至第十四號第二十六條ノ三第一項第九號乃至第十三號、第二十六條ノ四第一項第六號乃至第十二號、第二十六條ノ五第一項第四號乃至第七號、第二十六條ノ六第一項第十二號、第十六號、第十八號、第二十六條ノ八第一項第四號乃至第六號、第二十六條ノ九第一項第十五號、第十九號、第二十一號乃至第二十三號、第二十六條ノ十第一項第四號、第二十六條ノ十一第一項第三號、第四號、第二十七條第二十九條第一項乃至第六項第三十六條第一項第三十七條、第三十九條、第三十九條ノ二、第三十九條ノ三、第三十九條ノ四、第四十一條第一項第二項第四十二條第一項第四十四條第一項第四十五條第四十七條ノ二、第四十九條第五十條第五十二條第五十三條ニ違反シ又ハ第六條ノ四、第二十六條ノ八、第三十六條第二項ニ依リ命令ニ違反シ又ハ第四十六條第七項ノ標準色紙及沃度加里澱粉紙並精製滑石粉ヲ偽造シタル者又ハ本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令若ハ許可條件ニ適合セサル火藥類作業所ニ於テ火藥類ヲ製造シ又ハ變形修理シタル者又ハ本令ニ基キテ發スル廳府縣長官ノ命令若ハ許可條件ニ適合セサル火藥類貯藏所ニ火藥類ヲ貯藏シタル者ハ三月以下ノ懲役若ハ拘留又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十五條 第三條、第六條、第七條乃至第九條第十一條乃至第十三條第十八條第二十一條乃至第二十四條第三十條第四十六條第七項第四十八條ニ違反シ又ハ交付若ハ提示ヲ受クヘキ許可證、認可證又ハ文書ノ受領若ハ檢閲セシテ銃砲火藥類ヲ讓受又ハ讓受ケタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス



〔明治〕年 月 日

運搬許可ヲ受ケタル者	住所	氏名
種類		
數量		
運搬ノ日時		
運搬ノ方法		
通過ノ路		
發着ノ場所		

警察官署名 印

已號 (銃砲火藥類取締法施行規則第三十九條銃砲火藥類取締法施行規則第十七條第二十五條)

用紙美濃中切

●銃砲販賣業火藥類販賣業者定員

明治四十四年三月十一日 內務省告示第十七號

改正 大正元年一〇月內務省告示第二四號、五年六月第三六號、六年九月第六三號、一〇年二月第一五號

銃砲販賣業者、火藥類販賣業者定員左ノ通之ヲ定ム

銃砲販賣業者定員ハ北海道二十六人東京府京都府大阪府長崎縣各二十人神奈川縣兵庫縣各三十人其ノ他ノ縣各十二人

甲種火藥類販賣業者定員ハ北海道四十六人東京府二十四人京都府大阪府兵庫縣長崎縣各二十三人神奈川縣二十八人福島縣二十人福岡縣二十五人佐賀縣十九人其ノ他ノ縣各十八人

〔神奈川管〕

乙種火藥類販賣業者定員ハ神奈川縣二十三人兵庫縣二十五人長崎縣五人

●火藥類取扱免狀書式

明治四十四年六月二十日 內務省告示第四十八號

銃砲火藥類取扱法施行細則第四條ニ依リ交付スヘキ火藥類取扱免狀書式左ノ通定ム (用紙美濃四ツ切)

(甲種) 火藥類取扱免狀

第 號

住所

氏名

銃砲火藥類取扱法施行細則第四條ニ依リ本免狀ヲ附與ス

年月日

廳府縣名

●火藥類作業主任者免狀書式

大正七年一月九日 內務省告示第一號

銃砲火藥類取扱法施行細則第六條ノ二ニ依リ交付スヘキ火藥類作業主任者免狀書式左ノ通定ム (用紙美濃中切)

(甲種) 火藥類作業主任者免狀

(乙種)

(丙種)

住所

氏名

生年月日

銃砲火藥類取扱法施行細則第六條ノ二ニ依リ本免狀ヲ付與ス

年月日

內務省

(又ハ廳府縣名)

●火藥類取扱及作業主任者資格證明書交付方



大正七年一月二十九日  
陸軍省告示第三號

改正 大正一二年五月陸軍省告示第一號  
銃砲火藥類取締法施行細則第四條及第六條ノ二ニ依リ甲種火藥類取扱及乙種、丙種火藥類作業主任者資格證明書交付方左ノ通定ム

- 一 甲種火藥類取扱及丙種火藥類作業主任者ノ資格證明書ノ下付ヲ受ケムトスル者 陸軍ニ於テ火藥類ノ取扱、火工ハ履歴ヲ具シ陸軍造兵廠長官又ハ陸軍兵器本廠長ニ出願スヘシ
- 二 乙種火藥類作業主任者ノ資格證明書ノ下付ヲ受ケムトスル者 陸軍ニ於ケル火藥類製造所ニ於テ三年以ハ現所管ノ如何ヲ問ハス履歴ヲ具シ陸軍造兵廠長官ニ出願スヘシ
- 三 前二號ノ諸官出願者ノ履歴ヲ審査シ火藥類ノ取扱又ハ當該火藥類製造ニ充分ナル技能ヲ有スル者ト認ムルトキハ當該證明書ヲ交付ス但シ必要アリト認ムルトキハ試験ヲ行フコトアルヘシ

### ● 火藥類取扱及作業主任者資格證明書交付規程

大正七年二月七日  
海軍省告示第一號

改正 大正九年五月海軍省告示第六號、一二年八月第四號  
銃砲火藥類取締法施行細則第四條及第六條ノ二ニ依リ甲種火藥類取扱及乙種丙種火藥類作業主任者資格證明書交付規程左ノ通定ム

- 一、甲種火藥類取扱及丙種火藥類作業主任者ノ資格證明書ノ下付ヲ受ケントスル者 海軍ニ於テ火藥類ノ取扱火工ハ履歴ヲ具シ其ノ所屬ニ從ヒ海軍艦政本部長、海軍工廠長、舞鶴要港部工作部長、海軍技術研究所長又ハ海軍火藥廠長ニ出願スヘシ
- 二、乙種火藥類作業主任者資格證明書ノ下付ヲ受ケントスル者 海軍ニ於ケル火藥類製造所ニ於テ三年以ハ履歴ヲ具シ所屬ノ如何ヲ問ハス海軍艦政本部長ニ出願スヘシ
- 三、前二號ノ諸官ハ出願者ノ履歴ヲ審査シ火藥類ノ取扱又ハ當該火藥類製造ニ充分ナル技能ヲ有スル者ト認ムルトキハ

〔神奈川警〕

〔神奈川警〕

キ當該證明書 銃砲火藥取締法施行細則第四條又ハ第ニ交付ス但シ必要アリト認ムルトキハ試験ヲ行フコトアルヘシ

前項ノ場合ニ於テ各海軍工廠長、舞鶴要港部工作部長、海軍技術研究所長又ハ海軍火藥廠長ハ證明書付與前豫メ之ヲ海軍艦政本部長ニ協議スヘシ

### ● 軍用銃砲ノ種類ヲ定ム

明治三十二年八月五日  
陸軍省海軍省告示

〔銃砲火藥類取締法第四條〕ニ依リ軍用銃砲ノ種類ヲ左ノ通り定ム  
軍用銃砲トハ口径五密米突以上ニシテ腔綫ニ施シ且千米突以上ノ距離ニ達スヘキ照尺ノ裝置アル銃砲ヲ謂フ但シ特ニ獵用若クハ射的ノ用ノ爲メ製作シタルモノ及軍用銃砲ト雖トモ陸海軍官衙ニ於テ廢品ノ處分ヲ爲シタルモノハ此限ヲニアラス

### ● 陸軍軍用銃砲及火藥類拂下規則

明治四十四年四月二十九日  
陸軍省令第四號

改正 大正元年八月陸軍省令第一號  
陸軍軍用銃砲及火藥類拂下規則左ノ通定ム

陸軍軍用銃砲及火藥類拂下規則

- 第一條 砲兵工廠ハ左ニ掲ケル者ニ對シ軍用銃砲ノ拂下ヲ爲スコトヲ得
    - 一 官廳、公署、官公立中學校又ハ之ト同等以上ノ官公立學校
    - 二 銃砲販賣業者
    - 三 軍用銃砲ノ輸出ニ付内務大臣及陸軍大臣又ハ海軍大臣ノ許可ヲ受ケタル者
    - 四 軍用銃砲ノ讓受ニ付警察官署ノ許可ヲ受ケタル者
- 前項第四號ニ據リ拂下クル銃砲ノ數量ハ一人ニ付一箇トス但シ在郷軍人會及學校ハ此ノ限ニ在ラス

第二條 砲兵工廠ハ左ニ掲クル者ニ對シ火藥類ノ拂下ヲ爲スコトヲ得

一 官廳、公署、官公立中學校又ハ之ト同等以上ノ官公立學校

二 甲種火藥類販賣業者

三 軍用火藥類ノ拂下ニ在リテハ其ノ輸出ニ付内務大臣及陸軍大臣又ハ海軍大臣ノ許可ヲ受ケタル者、其ノ他ノ

火藥類ノ拂下ニ在リテハ其ノ輸出ニ付關稅長官ノ許可ヲ受ケタル者

四 火藥類ノ讓受ニ付關稅長官又ハ警察官署ノ許可ヲ受ケタル者

五 銃砲火藥類取締法施行規則第二十一條ニ依リ火藥類ノ讓受ニ付許可ヲ要セサル者

前項第四號及第五號ノ者ニ拂下クル火藥類ハ火藥ハ十二貫、爆藥ハ三貫、實包ハ三萬箇、空包ハ三萬箇、銃用雷

管ハ十萬箇、工業用雷管ハ一萬箇、信管爆管門管ハ各三萬箇以上トス但シ現役將校同相當官、准士官、在郷軍人

會又ハ學校カ射撃用ノ爲拂下ヲ受ケル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三條 砲兵工廠ハ前條第一項各號ノ一二該當スル者ヨリ火藥類ノ變形修理ヲ願出タルトキハ之ニ應スルコトヲ

得

第四條 砲兵工廠ニ軍用銃砲又ハ火藥類ノ拂下ヲ願出ル者ハ願書ニ拂下ヲ受ケヘキ品種、數量ヲ記載シ軍用銃砲火

藥類ノ讓受若ハ輸出許可證又ハ讓受ニ關シ其ノ資格ヲ證明スヘキ書類ヲ提示スヘシ

第五條 砲兵工廠ニ於テ火藥類讓受許可證ニ依リ火藥類ヲ拂下タルトキハ火藥類ノ種類、數量及讓渡ノ年月日ヲ許

可證ニ記入シ主任官署名捺印スヘシ

第六條 砲兵工廠ニ於テ讓受許可證ノ交付ヲ受ケ軍用銃砲又ハ火藥類ノ拂下ヲ爲シタルトキハ交付ヲ受ケタル許可

證ヲ毎月取置メ許可ヲ與ヘタル關稅長官又ハ警察官署ニ之ヲ送付シ讓受許可證ノ交付ヲ受ケス又ハ讓受許可證

ニ依ラス軍用銃砲又ハ火藥類ノ拂下ヲ爲シタルトキハ其ノ種類、數量、讓受人ノ住所氏名、讓受ノ事由、目的及

用途ヲ翌月十日迄ニ讓受人住所地所轄ノ警察官署ニ通報スヘシ

第七條 砲兵工廠ハ毎月拂下ヲ爲シタル軍用銃砲及火藥類ノ品種、數量、讓受人ノ住所氏名ヲ翌月十日迄ニ陸軍大臣

ニ報告スヘシ

第八條 陸軍兵器本廠ハ陸軍大臣ノ認可ヲ得タル場合ニ限り會計法第二十四條第八號ノ範圍内ニ於テ隨意契約ニ依

〔神奈川警〕

〔神奈川警〕

同廠ニ貯藏スル舊式又ハ不用軍用銃砲火藥類ノ拂下ヲ爲スコトヲ得  
前項ノ拂下ニ付テハ前諸條ノ規定ヲ準用ス

附則  
本令ハ明治四十四年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十二年陸軍省令第二十三號ハ之ヲ廢止ス

### ●軍人分會ニ對スル銃砲火藥類讓受願取扱方ニ關スル

件 明治四十四年八月  
警保局長通牒

別紙甲號照會ニ對シ乙號ノ通り回答致置候條此段及通牒候也  
(甲號)

北海道廳長官照會(明治四十四年八月九日警保第七四六三號)  
内務省警保局長照會

從來在郷軍人團體ニ於テ使用スル軍用銃砲並火藥ノ讓受願(射的練習用トシテ陸軍兵器廠ヨリ拂下ヲ受ケル場合)  
ニ對シテハ團員各箇ニ其ノ手續ヲ爲サシメ來リ候處昨年帝國軍人會ナルモノ設立セラレ皇族ヲ總裁ニ推戴シ又陸軍  
高級將官ヲ顧問トシ且陸軍大臣ノ監督ヲ受ケ會則ハ陸軍大臣ノ認可ヲ受ケルコトニ相成リ其組織ハ既設ノ尙武團  
體ト全然趣ヲ異ニスルニ至リシ様被存候ニ就テハ自今地方軍人會カ其ノ筋ヨリ軍用銃砲並火藥類ノ拂下ヲ受ケル  
場合ハ該會長ノ申請ニ依リ之ニ許可スルモ差支ナキ見込ニ候得共聊力疑義有之候條御意見承知致度此段及御照會候  
也

(乙號)

警保局長回答(明治四十四年八月)  
北海道廳長官宛

本月九日付警保第七四六三號ヲ以テ在郷軍人團體ニ於テ軍用銃砲並火藥類ノ拂下申請許可ノ件ニ付御照會ノ趣了承  
右ハ御意見ノ通り御措置相成可然存候此段及回答候也

### ●軍用銃砲ノ廢品處分ニ依リ非軍用銃砲トシテ取扱フ ヘキモノニ關スル件

明治四十四年八月十一日  
内務省警部第二〇五九號

軍用銃砲ノ廢品處分ニ依リ非軍用銃砲トシテ取扱ハルヘキモノノ方式ニ關シ別紙甲號ノ通り當省次官ヨリ陸軍次官  
並海軍次官ニ照會候處乙號ノ通り同答有之候條御了知相成度依命此段及通牒候也

(別紙)

甲號  
陸軍次官海軍次官ヘ照會(明治四十四年五月九日)  
警部第二〇五九號内務次官)

陸海軍官衙ニ於テ軍用銃砲ニ對シ廢品處分ヲ爲シタルモノニシテ非軍用銃砲トシテ取扱ヲ爲スヘキモノハ取締ニ當  
ル者並當業者ニ於テモ之カ方式ヲ承知致置候必要有之候間自然將來廢品處分ニ依リ右ニ該當候モノ相生候御見込ニ  
候ハハ豫メ方式ヲ一定セラレ官報ヲ以テ公示相成候條御配慮相煩度此段及照會候也

乙號二通

陸軍次官回答(明治四十四年六月十日)  
陸軍省送達陸警部第二一八四號)

陸軍官衙ニ於テ廢品處分ヲナシタル軍用銃砲中非軍用銃砲トシテ取扱フヘキモノニ關スル方式公示方ノ件ニ付五月  
九日警部第二〇五九號ヲ以テ御照會ノ趣了承當省ニ於テハ從來廢品處分ヲ爲シ非軍用銃砲ノ取扱ニ移セシモノニ付取  
締上不都合ノ點アルヲ認メ去ル明治四十一年以來ハ斷然從來ノ廢兵器處分法ヲ改正シ其ノ結果廢兵器トシテ拂下ケ  
ヘキモノハ修理ヲ加フルモ銃砲ノ形體ニ復スヘキ虞ナキモノニ限リ其ノ他ハ總テ軍用銃砲トシテ拂下ケ居候而シテ  
銃砲火藥類取締法改正後ニ於テモ依然右ノ取扱ヲ爲ス管ニ付御照會ノ如キ方式公示ノ必要無之候條御承知相成度  
候也

海軍次官回答(明治四十四年七月二十五日)  
官房第一五九三號ノ二)

内務省警部第二〇五九號御照會ノ趣了承當省ニ於テ廢品處分ヲ行フ銃砲ハ依然軍用銃砲トシテ取扱ヲナスカ若シクハ  
直チニ材料ヲ保管轉換スルモノノミニシテ御照會ノ主旨ニ該當ノ場合無之候條御承知相成度右同答ス(終)

〔神奈川警〕

〔神奈川警〕

### ●在郷軍人會及豫後備將校團射擊ニ關スル件

明治四十五年六月十日  
警保收第三四二八號保安課長通牒

別紙寫ノ通り内務省警保局長ヨリ通牒有之候條御了知ノ上相當御取締相成度候也

別紙寫 (明治四十五年六月七日)  
内務省警部第二六六五號警保局長通牒)

在郷軍人射擊獎勵ノ爲其ノ射擊ヲ行フ場合各軍隊保管ノ彈藥ヲ一時貸與スル旨陸軍ニ於テ内定施行ノ趣然ルニ右ハ  
銃砲火藥類取締法ニ依リ行政官廳ノ許可ヲ要スル次第ニ付陸軍省ト協議ノ上左記ノ通り内定候條右御了知ノ上相當  
御取締相成候條依命此段及通牒候也

記

- 一、帝國在郷軍人會及豫後備將校團小銃射擊演習實施ノ場合ニ於テ軍隊所屬ノ射的場内ニテ軍隊監視ノ下ニ之ヲ  
施行シ彈藥ノ出納ハ凡テ軍隊ニ於テ取扱フモノニ限リ特ニ便宜火藥類讓受許可ノ申請ヲ省略シ得ルコト
- 一、前項射擊ノ爲消費シタル彈藥ヲ軍隊ニ補填スル爲讓受許可ノ申請ヲ省略シ得ルコト
- 一、帝國在郷軍人會及豫後備將校團ノ小銃射擊ト雖モ第一項ニ該當セサル場合ハ總テ許可ノ申請ヲ要スルコト

### ●軍用銃砲ニ關スル件

大正二年五月二十日  
内務省警部第二〇六號ノ内務保局長通牒

甲號大阪府知事照會ニ對シ乙號ノ通り同答候條及通知候也

(甲號) 高親第四七七號

管下大阪市東區大手通一丁目非軍用銃砲製造業者小倉藤九郎ナル者四十年頃門司陸軍兵器支廠ヨリ拂下テ受ケタル  
露國式五連發銃二千三百挺ノ修繕方ヲ銃砲販賣業者岡田要藏ヨリ委託セラレ目下修繕中ニ有之全部修繕ヲ終レハ清  
國ニ輸出スル趣ニ有之候處其ノ製品ヲ檢査スルニ銃身ニ腔線ヲ有シ銃口ノ大キサ露國式五連發銃ノ實包ニ適合シ且  
少照星及表尺ヲ裝置(最大射程二千六)セルヲ以テ銃砲火藥類取締法施行規則第一條第二項ニ依リ軍用銃トシテ取扱  
フヘキモノト思料スルモ實際陸軍又ハ海軍ノ用ニ供シ得ヘキモノナリトヤ否ヤ疑義相生シ候間至急何分ノ御回示相煩  
度此段及照會候也

(乙號)  
本月十二日付高親第四七七號ヲ以テ本件ニ關シ御照會ノ處右軍用銃砲ニ屬スヘキモノニ有之候條御了知相成度隨テ右修繕行爲ハ軍用銃ノ製造ニ不外ヲ以テ法ノ認メサルコトニ候條相當御措置相成度候

軍用銃砲取締ノ件依命通牒

大正三年一月十三日  
內務省祕第二六二〇號警保局長

(東京大阪)  
ヲ除ク

軍用銃砲廢品處分取扱方ニ付テハ明治四十四年八月十一日附內務省警第二〇五九號ヲ以テ及通牒置候通廢兵器トシテ拂下クルモノハ修理ヲ加フルモ銃砲ノ形體ニ復スヘキ虞ナキモノニ限ル義ニ候處陸軍々用銃砲及火藥類拂下規則ニ依リ拂下クルモノノ内「廢」字ノ刻印アルモノヲ認メ候ニ付陸軍省ニ及協議候處右「廢」字ノ符號ハ廢品處分ヲ示スヘキ符合ニハ無之モ將來誤解ヲ防ク爲同字ノ刻印ヲ爲ササルコトニ改正相成候間爾今同拂下規則ニ依リ拂下品ニシテ同刻印アルモノ可無之ハ勿論ニハ候ヘ共現ニ民間ニ存在スル銃器ニ同字ノ刻印アルモノ多々可有之右ハ上記ノ通廢品處分ノ符合ニ無之ニ付テハ同廢字ノ刻印アルモノ軍用銃トシテ嚴重御取締相成度候

軍用銃取締ノ件依命通牒

大正四年七月  
內務省令祕第一六〇六九號警保局長通牒

本件ニ付テハ客年十月十三日附祕第二六二〇號ヲ以テ及通牒置候處民間ニ輾轉セル銃器中ニハ明治三十二年陸海軍告示ニヨリ廢品處分ヲ爲シタル爲メ「廢」字ノ刻印アルモノトノ二種有之ヲ以テ右兩者ヲ判別シ得ル方法無之ニ於テハ軍用銃砲取締上支障不渺ヲ認メ陸軍省ニ及協議候處左記ノ標準ニ依リ判別スルコトト相成候條相當御措置相成度候尤モ同標準ニ依ルモ判定困難ノ場合ハ當該警察官署ヨリ最寄陸軍兵器支廠同出張所又ハ要塞司令部砲兵部ニ現品ヲ差出シ檢定ヲ請求スルニ於テハ夫々判定ノ上檢定書ヲ交付スルコトト相成候條前記ノ方法ニ依リ軍用銃砲取締方嚴重御處理相成度候

記

陸軍拂下銃器ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノハ軍用銃トシテ取扱ヲ爲スコト

(神奈川警)

(神奈川警)

- 一、陸軍ニ於テ現用銃トシテ判定使用シ居ルモノ(即チ三十年式步(騎)兵銃、三十八年式步(騎)兵銃、四四式騎銃(但シ拳銃ヲ含マス)又ハ構造之ニ類似セルモノ)
  - 二、口徑五密米以上(之ヲ含ム)ニシテ腔綫ヲ施シ且ツ千米突以上ノ距離ニ彈著セシムヘキ照準具ノ裝置アルモノ
  - 三、破損銃タルモ修理ヲ加フレハ前二號ノ一ニ該當スル銃器ノ形體ニ復シ得ヘキ虞アルモノ
- 追テ本文檢定ニ費用ヲ要スル場合ハ檢定請求者ニ於テ之ヲ負擔スヘキ管ニ有之尙右檢定ニ要スル費用トハ主トシテ荷造運搬費ナルモ檢定請求銃多數ナルトキハ特ニ手入費ヲ要スルコトモ有之候趣ニ付御了知相成度候

拂下軍用銃標識打刻ノ件

大正十二年一月二十六日  
警保第一八號內務省警保局長通牒

陸軍ヨリ學校及在郷軍人會ニ拂下クヘキ小銃ニハ尾筒御紋章ノ下部約十耗ノ位置(露式連發銃ニ在リテハ相當位置)ニ左記標識ヲ打刻シ且ツ學校ニ拂下ノ分ニ對シテハ連匣番號ノ頭ニ番號ト同一字形ノ〇ヲ二個、在郷軍人會拂下ノ分ニ對シテハ同上〇ヲ三個併列打刻スルコトニ定メタル趣陸軍省ヨリ通牒有之候ニ付御了知相成度候

左記

- 學校ニ拂下ノ分ノ標識 文(徑約八耗)
- 在郷軍人會ニ拂下ノ分ノ標識 卍(徑約八耗)

海軍無煙火藥賣却規則

大正十年十二月十七日  
海軍省告示第十四號

海軍無煙火藥賣却規則左ノ通定ム

海軍無煙火藥賣却規則

- 第一條 海軍工廠及海軍火藥廠ハ左記ノ者ニ限リ無煙火藥ヲ賣却スルコトヲ得
  - 一 甲種火藥類販賣業者
  - 二 火藥類製造業者
  - 三 特ニ行政官廳ヨリ無煙火藥讓受ノ許可ヲ受ケタル者

第二編 保安 第一章 安寧

第二編 保安 第一章 安寧

第二條 前條ニ依リ賣却スル無煙火藥ハ左記ノモノニ限ル

一 海軍ニ於テ使用ノ見込ナキモノ

二 銃砲火藥類取締法施行細則ニ依リ耐熱試験ノ成績八分以上ノモノ

第三條 無煙火藥ヲ賣却シタルトキ廳長ハ契約締結ノ都度直ニ左記ノ事項ヲ海軍大臣ニ報告シ同時ニ内務大臣及關係地方長官ニ通報スヘシ

一 買受人ノ住所、營業地、作業地及氏名

二 火藥ノ種類及數量

三 賣却ノ時日

第四條 無煙火藥ヲ賣却シタルトキハ契約擔任官ハ本則第一條第一號及第二號ノ買受人ニ對シテハ之カ證明書ヲ交付シ、同第三號ノ買受人ニ對シテハ其讓受許可證ノ餘白ニ賣却セル火藥ノ種類、數量及賣却ノ時日ヲ記入シ署名捺印スヘシ

附則

本規則ハ大正十年十二月二十日ヨリ之ヲ施行ス

● 火藥類鐵道運送規程

大正四年十月八日 閣令第一號

改正 大正一二年四月鐵道省令第一號

火藥類鐵道運送規程左ノ通改正ス

火藥類鐵道運送規程

第一條 鐵道ニ依リ火藥類ヲ運送スル場合ハ本規程ニ依ル

本規程ニ於テ火藥類トハ銃砲火藥類取締ニ關スル法令ニ規定スルモノヲ謂フ

第二條 火藥類ノ荷送人ハ少クトモ三十六時間前ニ發送停車場ニ託送ヲ申込ミ其ノ承諾ヲ求ムヘシ

第三條 火藥類ノ荷送人カ銃砲火藥類取締ニ關スル法令ノ規定ニ依リ當該官廳ノ運搬許可證ヲ受クヘキ場合ニ於テハ鐵道係員ハ其ノ許可證ヲ檢閱スヘシ

〔神奈川警〕

〔神奈川警〕

第四條 火藥類ハ銃砲火藥類取締ニ關スル法令ノ規定ニ依リ容器ニ收納スヘシ但シ軍衙ノ託送ニ係ルモノハ當該軍衙所定ノ容器ニ收納スルコトヲ得

火藥類ハ其ノ容器又ハ包裝ノ外部見易キ所ニ火藥、爆藥若ハ火工品ト朱記シ又ハ朱記シタル標札ヲ附シ且轉輸セシムヘカラサルモノニ在リテハ其ノ旨ヲ明記スヘシ

第五條 火藥類ノ受授ハ貨物掛又ハ驛長ノ外之ヲ爲スコトヲ得ス

火藥類搬入ノ日時、場所及方法ニ關シテハ前項ノ係員ノ指示ニ從フヘシ其ノ搬出ノ日時及方法ニ付亦同シ

第六條 一車以上ノ火藥類ノ運送ヲ引受ケタルトキハ鐵道ハ荷送人ニ對シ附添人ヲ要求スルコトヲ得

附添人ハ火藥類積載ノ貨車ニ乗込ムコトヲ得ス

第七條 火藥類ハ木製有蓋貨車ヲ以テ運送スヘシ但シ貨車ノ内部ニ鐵釘、鐵具等ノ突起シタルモノアルトキハ木板、革、布又ハ葦ノ類ヲ以テ之ヲ覆フヘシ

第八條 銃砲火藥類取締ニ關スル法令ノ規定ニ依リ各別棟ノ火藥類貯藏所ニ貯藏スヘキ火藥類ハ之ヲ同一車中ニ積載スルコトヲ得ス但シ火藥類ヲ裝填セサル雷管附又ハ爆管附藥莢ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第九條 火藥類積載ノ重量ハ貨車積載定額ノ三分ノ二ヲ超過スルコトヲ得ス

第十條 火藥類ハ之ヲ他ノ貨物ト同一車中ニ混載スルコトヲ得ス但シ銃用實包、銃用空包、火藥類ヲ裝填セサル雷管附若ハ爆管附藥莢、雷管（工業用雷管ヲ除ク）、信管、爆管、門管、緩燃導火線、爆藥（箱内ノ火藥又ハ爆藥ヲ爆發ノ危險ナキニ至ル迄十分濕潤ノ上箱ヲ密閉シ該箱）、芳香系列ノ硝化物若ハ之ヲ主トスル混和物ニシテ起爆劑ヲ附セサルモノ、硝

酸アンモニウム又ハ過鹽素酸アンモニウムヲ主トスル爆藥中「ナイトログリセリン」若ハ純硝化纖維素ヲ含有セサルモノニシテ起爆劑ヲ附セサルモノ、煙火、信號煙管、星火ヲ發スル榴彈（十二箇以下ヲ木製容器ニ收納シ摩

箇ノ間ニ麻屑、紙屑ノ類ヲ填充シタルモノ）、火筒（六箇以下ヲ木製容器ニ收納シ摩

擦ヲ得ル様各箇ノ間ニ麻屑、紙屑ノ類ヲ填充シタルモノ）又ハ五十斤以下ノ火藥

類ヲ填充シタルモノ）ニシテ左ノ條件ヲ具備スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

若ハ五十斤以下ノ爆藥（起爆劑ヲ除ク）ニシテ左ノ條件ヲ具備スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

若ハ五十斤以下ノ爆藥（起爆劑ヲ除ク）ニシテ左ノ條件ヲ具備スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

若ハ五十斤以下ノ爆藥（起爆劑ヲ除ク）ニシテ左ノ條件ヲ具備スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

若ハ五十斤以下ノ爆藥（起爆劑ヲ除ク）ニシテ左ノ條件ヲ具備スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

若ハ五十斤以下ノ爆藥（起爆劑ヲ除ク）ニシテ左ノ條件ヲ具備スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二編 保安 第一章 安寧

- 一 容器又ハ包装ヲ安全堅牢ナラシメ且其ノ外部見易キ所ニ品名ヲ明記シタルトキ
- 二 他ノ貨物カ容易ニ燃焼シ又ハ爆發ノ誘因トナルヘキ虞ナキモノナルトキ
- 三 火藥類及混載貨物ノ重量ヲ合シテ貨車積載定量ノ三分ノ二ヲ超過セサルトキ
- 第十一條 前條ノ規定ニ依リ火藥類ヲ他ノ貨物ト混載シタルトキハ他ノ貨物ト相當間隔ヲ保タシメ又ハ墜落ノ虞ナキ箇所ニ於テ他ノ貨物ノ上積ト爲スヘシ
- 第十二條 火藥類ハ摩擦、動搖、衝突又ハ轉轍セサル様緊密ニ積載スヘシ
- 第十三條 火藥類ノ積卸等ヲ爲ストキハ手鉤類ヲ用キ若ハ投下スルコトヲ得ス又衝動ヲ豫防シ得ル縲革、麻布若ハ毛布ノ類ヲ以テ其ノ經過スヘキ場所ヲ覆ヒタルトキノ外之ヲ轉轍スルコトヲ得ス
- 火藥類ノ積卸ヲ爲ス場所又ハ火藥類積載ノ貨車内ニ於テハ安全燈以外ノ燈火ヲ使用シ、燐寸其ノ他發火シ易キ物品ヲ携帶シ又ハ喫煙スルコトヲ得ス
- 火藥類ヲ取扱フ者ハ鐵釘等ヲ附シタル靴類ヲ穿ツコトヲ得ス
- 火藥類ノ積卸ヲ爲スニ當リテハ仕業ノ前後其ノ場所及車内ヲ清掃スヘシ
- 第十四條 火藥類ノ積卸ハ第十條但書ニ掲ケタル火藥類ヲ除クノ外旅客乘降場ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得ス但シ旅客ヲ搭載シタル客車カ場内ニ在ラサルトキハ此ノ限ニ在ラス
- 第十五條 火藥類ハ銃砲火藥類取締法施行規則第十八條各號ノ規定ニ該當スルモノヲ除クノ外日出前及日没後ニ於テ受授、積卸、荷造又ハ荷解ヲ爲スコトヲ得ス
- 第十六條 火藥類積載貨車ノ兩側面ニハ見易キ位置ニ白地ニ火藥ト朱記シタル標札ヲ附スヘシ
- 第十七條 火藥類積載貨車ノ前後ニハ各二輛以上ノ空車ヲ聯結スヘシ但シ不燃貨物ヲ積載シタル無蓋貨車又ハ發火ノ虞ナク且燃焼シ易カラサル貨物ヲ積載シタル有蓋貨車ヲ以テ空車ニ代フルコトヲ得
- 前項ノ適用ニ付テハ「ボギー」車一輛ハ之ヲ二輛ト看做ス
- 第一項ノ規定ハ第十條但書ノ火藥類ノ積載貨車ニ之ヲ適用セス
- 第十八條 火藥類積載ノ貨車ハ七輛以下ニ限リ他貨物積載ノ貨車ト同一列車ニ之ヲ聯結スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ前條第二項ノ規定ヲ準用ス

〔神奈川管〕

〔神奈川管〕

- 第十九條 火藥類積載ノ貨車ハ旅客列車又ハ混合列車ニ之ヲ聯結スルコトヲ得ス但シ鐵道ノ自用ニ供スル信號用管及第十條但書ニ掲ケタル火藥類ノ積載貨車並ニ他ノ貨物ト混載シタル貨車ハ此ノ限ニ在ラス
- 第二十條 火藥類積載ノ貨車ニ在リテハ制動機ヲ使用スルコトヲ得ス但シ車側制動機ハ此ノ限ニ在ラス
- 第二十一條 火藥類ハ成ルヘク到達停車場迄直通スル列車ヲ以テ運送スヘシ且ムコトヲ得サル場合ヲ除クノ外運送中ニテ他ノ貨車ニ積替フルコトヲ得ス
- 第二十二條 火藥類ヲ運送スル列車停車スルトキハ特ニ車輛ノ點檢ヲ嚴ニシ危險アリト認ムルトキハ即時ニ該車輛ヲ解放シテ危險防止ノ處置ヲ爲スヘシ
- 列車運轉中車軸發熱ノ徵候ヲ發見シタルトキハ其ノ進行ヲ停メテ之ヲ冷却シ又ハ危險ナキ程度ニ於テ徐行シ次ノ停車場ニ到リ前項ノ處置ヲ爲スヘシ
- 第二十三條 火藥類ヲ運送スル列車二時間以上停車ヲ要スルトキハ成ルヘク隔離シタル線路ニ火藥類ヲ積載シタル貨車ヲ移シ危險防止ノ處置ヲ爲スヘシ此ノ場合ニ於テハ所轄警察官署又ハ警察官吏ニ之ヲ届出ツヘシ前條ノ規定ニ依リ車輛ヲ解放シタル場合亦同シ
- 第二十四條 火藥類積載ノ貨車到達停車場ニ著シタルトキハ直ニ之ヲ荷受人ニ通知スヘシ
- 荷受人前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ遅滞ナク火藥類ヲ停車場外ニ搬出スヘシ
- 荷受人カ火藥類積載ノ貨車到着後二時間内ニ火藥類ヲ搬出セサルトキハ鐵道ハ所轄警察官署又ハ警察官吏ニ之ヲ届出ツヘシ
- 第二十五條 旅客ハ火藥類ヲ携帶シテ乘車スルコトヲ得ス但シ少量ノ銃用火藥類及緩燃導火線ヲ携帶スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

附 則

本令ハ大正四年十月十日ヨリ之ヲ施行ス

### ● 火藥類船舶運送及貯藏規則

明治四十四年四月十三日 逓信省令第九號

大正四年六月逓信省令第二五號、五年七月第四〇號、二年三月第四五號

第二編 保安 第一章 安寧

火藥類船舶運送及貯藏規則ノ通定ム

火藥類船舶運送及貯藏規則

第一條 船舶ニ依リ火藥類(玩具用普通火工品ヲ含ム)ヲ運送シ又ハ船舶ニ常用火藥類ヲ貯藏スルトキハ本規則ヲ遵守スヘシ

第二條 本規則ハ船舶ノ全部ヲ以テ軍事輸送ノ用ニ供スル場合ニハ之ヲ適用セス  
開港其ノ他ノ港ニ於テ本規則ニ定ムル事項ト同一ノ事項ニ付特別ノ規定アル場合ニ於テハ其ノ事項ニ限リ本規則ヲ適用セス

火藥類ヲ貨車積ノ儘鐵道聯絡ノ爲專ラ貨車輸送ニ供スル船舶ニ積ミ運送ヲ爲ス場合ニハ第十三條、第十九條及之ニ基ク第二十三條ノ罰則ノ規定ヲ除クノ外本規則ヲ適用セス火藥類鐵道運送規程ニ依ル

第三條 火藥類ノ荷送人カ銃砲火藥類取締法施行規則ノ規定ニ依リ當該官廳ノ運搬許可證ヲ受クヘキ場合ニ於テハ船長ハ其ノ許可證ヲ檢閲シタル後ニ非サレハ之ヲ積積スルコトヲ得ス

第四條 火藥類ハ銃砲火藥類取締法施行規則ノ規定ニ依リ容器ニ收納スヘシ但シ軍衙ノ託送ニ保ルモノハ當該軍衙所定ノ容器ニ收納スルコトヲ得

火藥類ハ其ノ容器又ハ包裝ノ頂部見易キ所ニ火藥、爆藥、火工品若ハ玩具用普通火工品ト朱記シ又ハ朱記シタル標札ヲ附シ且轉輾セシムヘカラサルモノニ在リテハ其ノ旨ヲ標記スヘシ

船舶ハ前二項ニ該當スルモノニ非サレハ火藥類ヲ積積スルコトヲ得ス

第五條 湖川港内ニ於テ火藥類ノ積積若ハ陸揚ヲ爲シ又ハ火藥類ヲ積積スル船舶湖川港内ニ於テ航行、碇泊若ハ繫留セムトスルトキハ發航地、碇泊地又ハ繫留地ノ所轄警察官署ニ届出ツヘシ

前項ノ場合ニ於テ警察官ハ危害豫防ノ爲必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第六條 銃砲火藥類取締法施行規則第十八條各號以外ノ火藥類ハ所轄警察官署ノ許可ヲ得タル場合ヲ除クノ外日没ヨリ日出迄ノ間ニ於テ積積、陸揚又ハ荷繰ヲ爲スコトヲ得ス

第七條 甲板ナキ船舶ニ於テ旅客ヲ運送スルトキハ火藥類ヲ積積スルコトヲ得ス

第八條 火藥類ハ旅客ノ上船又ハ下船ト同時ニ積積又ハ陸揚ヲ爲スコトヲ得ス

〔神奈川管〕

〔神奈川管〕

第九條 銃砲火藥類取締法施行規則ノ規定ニ依リ別棟ノ火藥類貯藏所ニ貯藏スヘキ火藥類ハ之ヲ同一ノ船舶ニ積積スルコトヲ得ス

前項ノ火藥類ハ甲板ナキ船舶ニ在リテハ同時ニ之ヲ積積スルコトヲ得ス

第十條 火藥類ハ容易ニ燃燒シ若ハ爆發ノ誘因ト爲ルヘキ虞アル物品ニ接近シテ積積シ又ハ他ノ貨物ノ下ニ積積スルコトヲ得ス

第十一條 火藥類ノ動搖セサル様緊密ニ積積スヘシ

第十二條 火藥類ノ積積、陸揚又ハ荷繰ヲ爲ストキハ之ヲ投下スルコトヲ得ス又激突ヲ豫防シ得ル様革、帆布又ハ毛布ノ類ヲ以テ其ノ經過スヘキ場所ヲ蔽ヒタル場合ヲ除クノ外之ヲ轉輾スルコトヲ得ス

火藥類ノ取扱ハ安全且迅速ニ之ヲ完了スヘシ

第十三條 火藥類ハ機關室、蓄電池、發電機、料理場、石炭庫、油槽其ノ他熱氣アル場所ニ接近シテ積積スルコトヲ得ス

第十四條 火藥類ハ旅客室、船員室又ハ之ニ接近シタル場所ニ積積スルコトヲ得ス但シ旅客室ニ在リテハ旅客ヲ運送セサル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十五條 火藥類ヲ積積スル場所ニ鐵釘其ノ他鐵具アルトキハ木板、革、帆布又ハ毛布ノ類ヲ以テ之ヲ覆フヘシ

第十六條 火藥類ヲ積積シタルトキハ船口ヲ密閉シ覆布ヲ以テ之ヲ覆フヘシ

第十七條 火藥類ノ積積場所又ハ火藥類ヲ積積シタル場所ニ於テハ安全燈ヲ除クノ外燈火ヲ使用スルコトヲ得ス

前項ノ場所ニ於テハ鐵釘等ヲ附シタル靴類ヲ穿テ其ノ他發火シ易キ物品ヲ携帯シ又ハ喫煙スルコトヲ得ス

第十八條 火藥類ノ取扱ヲ始ムル前及之ヲ終リタル後ハ其ノ都度其ノ場所ヲ掃除スヘシ

第十九條 銃砲火藥類取締法施行規則第二十八條ノ規定ニ依リ倉庫ニ貯藏スルコトヲ得ヘキ數量ヲ超過スル火藥類ヲ積積スル船舶湖川港内ニ於テ航行、碇泊又ハ繫留スルトキハ船舶檢査規程ニ依リ信號旗及紅燈ヲ具フルモノニ在リテハ晝間ハBノ信號旗夜間ハ紅燈ヲ橋頭其ノ他見易キ場所ニ掲ケ其ノ他ノ船舶ニ在リテハ晝間ハ赤旗夜間ハ

第二編 保安 第一章 安寧

赤色安全燈ヲ見易キ場所ニ掲クヘシ但シ常用火藥類及第二十二條ニ掲ケル火藥類ノミナ積載スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二十條 船舶ニハ其ノ常用外ノ火藥類ヲ貯藏スルコトヲ得ス但シ銃砲火藥類取締法施行細則ノ規定ニ依リ緊留船又ハ倉庫船ニ貯藏スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

開港港則施行細則第五條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス但シ船舶ノ業務用トシテ積載スル火藥類ハ此ノ限ニ在ラス

船舶ノ常用火藥類ハ木製ノ箱ニ容レ且容易ニ取出シ得ヘキ安全ナル場所ニ之ヲ貯藏スヘシ

第二十一條 旅客ハ火藥類ヲ携帯シテ乘船スルコトヲ得ス但シ船長ノ許可ヲ得テ少量ノ銃用火藥類及玩具用普通火工品ヲ携帯スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二十二條 銃用火包、銃用空包、雷管（工業用雷管ヲ除ク）、爆管、信管、門管、緩燃導火線、濕藥（箱内ノ火藥爆發ノ危険ナキニ至ルマテ十分濕潤ノ上箱、芳香系列ノ硝化物又ハ之ヲ主トスル混和物ニシテ起爆劑ヲ附セサルヲ密閉シ該箱ノ上ニ濕藥ト明記シタルモノ）、又ハ純硝化纖維素ヲ含有セサルモノニシテ起爆劑ヲ附セサルモノ、硝酸「アンモニア」ヲ主トスル爆藥中「ナイトログリセリン」又ハ純硝化纖維素ヲ含有セサルモノニシテ起爆劑ヲ附セサルモノ、烟火及玩具用普通火工品ニハ第七條、第八條、第十四條乃至第十六條及第十八條ノ規定ヲ適用セス

火藥類ヲ裝填セサル雷管附又ハ爆管 附藥莖ノ 積載並信號用トシテ船舶ニ備付ケル信號管、星火ヲ發スル榴彈（十二箇以下ヲ木製容器ニ收納シ摩擦、動搖又ハ衝突ヲ豫（六箇以下ヲ木製容器ニ收納シ摩擦、動搖又ハ衝突ヲ豫防シ得ル様各箇ノ間ニ麻屑、紙屑ノ類ヲ填充シタルモノ）又ハ火箭（衝突ヲ豫防シ得ル様各箇ノ間ニ麻屑、紙屑ノ類ヲ填充シタルモノ）相互間ノ積載ニ關シテハ前項ノ外第九條ノ規定ヲ適用セス

第二十三條 左ノ場合ニ於テハ船長ヲ百圓以下ノ罰金ニ處ス

- 一 第三條、第四條第三項、第五條第一項、第六條乃至第十一條、第十二條第二項、第十三條乃至第十六條、第十八條、第十九條又ハ第二十條第一項、第三項ニ違背シタルトキ
- 二 第五條第二項ノ命令ニ違背シタルトキ

〔神奈川警〕

〔神奈川警〕

第二十四條 第四條第一項第二項、第十二條第一項、第十七條若ハ第二十一條ニ違背シ又ハ詐偽ノ所爲ヲ以テ第十二條ノ適用ヲ受ケタル者亦前條ニ同シ

附 則

本令ハ明治四十四年五月一日ヨリ之ヲ施行ス  
明治三十五年九月通信省令第三十九號火藥類船舶運送及貯藏規程ハ之ヲ廢止ス

### 西洋形船へ大小砲設備方

明治八年五月三十一日  
太政官布告第九十八號

海軍官船ヲ除ク外西洋形船へ賊難防禦ノ爲大小砲設備ノ儀差許候條左ノ通可相心得此旨布告候事

第一條 海軍官船ヲ除ク外諸省〔使〕府縣所轄ノ西洋形官船並ニ人民所持ノ西洋形商船へ大砲口径四寸以内二門小銃三拾挺設備スル事苦シカラス

但船ノ噸數ニ因リ本文ニ掲ケル銃砲ノ數ヲ減スルカ又ハ銃砲ノ種類ヲ取捨スルハ其便宜ニ任スト雖モ若シ増置セントスルハ更ニ願出許可ヲ受ケヘシ

第二條 〔大砲一門ニ彈藥五十發小銃一挺ニ同百發ヲ越ユヘカラス〕

第三條 船内へ銃砲ヲ設備スル時省〔使〕正院〔上請シ〕府縣ハ内務省へ申出許可ヲ受ケヘシ  
但人民所持船ノ分ハ其管轄廳へ願出許可ヲ受ケヘシ而シテ該廳ニ於テハ免狀狀ヲ與ヘ其旨内務省へ届出ヘシ

第四條 銃砲ノ設備ヲ許可セシキハ其旨海軍省へ通知スル事トス尤省〔使〕分ハ正院ヨリシ〔府縣並ニ人民ノ分ハ内務省ヨリ通知スヘシ〕

第五條 諸省〔使〕府縣並ニ人民ニ於テ外國ヨリ買入レノ船内ニ附屬セシ分モ前條ノ手續ニ依ルヘシ  
但銃砲〔彈藥〕等買入ル、節ハ〔明治五年（正）第廿八號布告銃砲取締規則〕ニ從フヘシ

### 銃砲火藥類取締法施行取扱規則

明治四十四年五月九日  
縣令第三十六號



第二編 保安 第一章 安寧

改正 大正二年四月縣令第五六號

銃砲火藥類取締法施行取扱規則左ノ通之ヲ定ム

銃砲火藥類取締法施行取扱規則

第一條 火藥類貯藏所ノ新設ヲ爲サムトスルトキハ左ノ事項ヲ具シ出願スヘシ其増設改築修繕又ハ模様替ノ工事ヲ爲サムトスルトキ亦同シ但シ位置ノ變更ナキモノハ第一號ノ圖面ヲ省略スルコトヲ得

一、設置位置ヨリ五町以内ノ場所圖面但シ銃砲火藥類取締法施行規則第三十三條第一項各號規程ノ距離ヲ詳記シ同條第一項第一號ノ所在地ニ在リテハ二十二町以内ノ圖面ヲ要ス  
倉庫ニ在リテハ二町以内ノ圖面トス

二、設備

三、建設物構造設計書建設物ノ側面及平面圖

四、落成期日

第二條 但貯藏所ノ設備ハ左ノ各號ノ制限ニ從フヘシ

一、屋根ハ輕量ニシテ小形ナル不燃質物ヲ用キ屋根裏又ハ天井ヲ設ケ窓ニハ透明ノ硝子ヲ用ウヘカラサルコト

二、内部ニハ石土砂其他塵芥等ノ剝落飛散ヲ防クノ裝置ヲ爲シ床ハ密ニ張詰メ鐵類ヲ露ハサ、ルコト

三、建設物ノ周圍ニハ其ノ外側面ヨリ一間乃至六間ノ距離ニ於テ高サ屋頂ト同一ノ土堤ヲ設クルコト但シ天然又ハ人造ノ掩體ノ狀態其ノ他土地ノ狀況ニ依リ危險ノ虞ナシト認ムルトキハ土堤ノ全部又ハ一部ノ省略ヲ許可スルコトアルヘシ

四、避雷裝置ヲ爲シ少クモ毎年一回梅雨期以前ニ於テ之ヲ検査シ必要アルトキハ修繕ヲ加フルコト但シ短期間ノ使用若クハ土地ノ狀況ニ依リ危險ノ虞ナシト認ムルトキハ裝置ノ猶豫又ハ省略ヲ許可スルコトアルヘシ

前項ノ外必要アリト認ムルトキハ特ニ設備ヲ命スルコトアルヘシ

第三條 銃砲火藥類取締法施行規則第三十九條ニ依リ許可ノ出願ヲ爲ストキハ授受運搬又ハ攜帶ノ目的及原籍住所氏名年齡ヲ詳記スヘシ

第四條 火藥類渡讓受ニ關スル許可又ハ認可火藥類運搬ノ許可軍用銃砲渡讓受ノ許可又ハ拳銃短銃仕込銃仕込刀劍其ノ他變裝シタル武器ノ授受若クハ運搬攜帶ノ許可證ノ交付ヲ受ケタル者其ノ證書ノ有效期間内ニ於テ住所

〔神奈川警〕

〔神奈川警〕

氏名ニ變更アリタルトキハ所轄警察官署ニ出願シ證書ノ更正ヲ受クヘシ

第五條 銃砲火藥類取締法施行規則第十八條各號以外ノ火藥類消費者ハ火藥收支ノ帳簿ヲ備付ク其ノ授受消費ノ都度之ヲ登錄スヘシ

第六條 銃砲火藥類取締法施行規則第八條ノ屆書ハ左記様式ニ依ルヘシ

第七條 銃砲火藥類取締法施行規則第五十一條ニ依リ警察官署ニ火藥類ノ耐熱試驗ノ施行ヲ申請シタルトキハ左ノ費用ヲ負擔スヘシ

一、火藥類 一種一個一回ニ付 金五拾錢

第八條 耐熱試驗施行ニ關シ技術官ノ出張ヲ要スルトキハ申請者ハ其官職相當ノ旅費及試驗器具運搬費實ヲ負擔スヘシ

第九條 前二條ノ費用ハ明治四十四年三月神奈川縣令第二十二號縣稅諸外收入徵收規則ニ依リ之ヲ徵收ス

第十條 銃砲火藥類取締法及同法ニ基キテ發スル命令ノ規程ニ依リ提出スヘキ願屆書ハ所轄警察官署ヲ經由スヘシ

附 則

明治三十二年九月神奈川縣令第七十號ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第一號様式

銃砲取引及月末現在屆(用紙美濃紙)何月分

種 類	讓 受 數	讓 渡 數	現 在 數

住所職業

氏 名

年 月 日

所轄警察(分)署長宛

第二編 保安 第一章 安寧

備考 銃砲火藥類取締法施行規則第三十九條ニ依リ取引及月末現在ニ關シテモ本表ニ記入ヲ要ス

第二號様式

火藥取引及月末現在屆(用紙美濃紙)何月分

種 類	前月越 高 讓 受	讓 渡	現 在

住所職業

年 月 日

氏 名

所轄警察(分)署長宛

銃砲火藥類取締法施行取扱手續

明治四十四年五月九日  
訓令第三十一號

改正 大正二年四月訓令第三三號、一三年二月第三五號

警察署 警察分署

銃砲火藥類取締法施行取扱手續左ノ通之ヲ定ム

銃砲火藥類取締法施行取扱手續

第一條 銃砲火藥類ノ製造販賣其ノ營業又ハ火藥類貯藏所設置若クハ火藥類ノ讓渡讓受ノ許可出願アリタルトキハ左ノ事項ヲ調査シ許可ノ意見ヲ附シ進達スヘシ其ノ變更等ノ出願アリタルトキ亦同シ

一、願書記載ノ事項ニ相違ナキヤ否

二、法令違背ノ點ナキヤ否

三、危険ノ虞ナキヤ否

四、他人ニ名義ヲ藉スモノニアラサルヤ否

其ノ他取締上必要ト認め又ハ参考ニ供スヘキ事項

第二條 銃砲火藥類取締法施行規則第三十五條ニ依リ船舶ノ一時倉庫代用ヲ爲シ同則第三十六條ニ依リ船舶内ニ火藥類ヲ貯藏セントスル出願アリタルトキハ横濱港内ニ於テハ港務部長及警察部長ニ其ノ他ノ場所ニ於テハ警察部長ニ稟議スヘシ同則第三十六條第二項ニ依リ位置ノ指定又ハ變更其ノ他必要ノ命令ヲ爲ストキ亦同シ

第三條 銃砲火藥類取締法施行規則第十七條第十八條第二十二條ニ依リ火藥類ノ讓渡讓受同則第二十五條ニ依リ火藥類ノ行使及同則第三十九條ニ依リ拳銃短銃仕込銃仕込刀劍其ノ他變裝シタル武器ノ讓渡讓受運搬又ハ携帯ノ許可認可ノ出願アリタルトキハ事實ヲ審査シ危害ノ虞ナシト認めタルトキ許可又ハ認可スヘシ

銃砲火藥類取締法施行規則第二十二條第二項及第二十五條ノ數量ニシテ同則第十七條各號ニ等シク又ハ之ヲ超過

〔神奈川警〕

〔神奈川警〕

スル許可若クハ認可ヲ爲ストキハ警察部長ニ稟議スヘシ

前二項ノ許可又ハ認可ヲ爲シタルトキハ第七號様式ニ依リ毎月分ヲ統計シ翌月十日限り警察部長ヘ報告スヘシ

第四條 銃砲火藥類取締法施行規則第三十九條ニ依リ火藥類ノ運搬許可ヲ爲シタルトキハ其ノ運搬日時以前ニ關係警察官署ヘ通報スヘシ其ノ管外ニ關スルモノハ警察部ヘ報告スヘシ

第五條 銃砲火藥類取締法施行取扱規則第四條ニ依リ證書更正ヲ爲シタルトキ又ハ住所ノ異動アリタルトキハ關係警察官署ニ通知スヘシ

第六條 警察官署ハ毎月一回銃砲火藥製造業者及其ノ販賣業者火藥類貯藏所ノ實況設備現品帳簿其ノ他之カ取扱ニ關スル事項ヲ精密検査シ危害又ハ法令違背ノ廉ナキヤ否ヲ監視スヘシ

銃砲火藥類取締法施行規則第三十條ニ依リ火藥類ノ消費者ニ關シテハ毎月二回以上臨檢シ前項ノ検査及收支消費數量等ヲ監視シ之カ執行ノ都度收支帳簿ニ檢印スヘシ

前二項ノ検査又ハ監視ニシテ技術ヲ要スルモノト認めタルトキハ警察部ニ報告スヘシ

第七條 警察部ヨリ時々吏員ヲ派遣シ前條ノ検査ヲ執行スルコトアルヘシ

第八條 銃砲火藥類取締法施行規則第五十一條ニ依リ耐熱試驗ノ施行申請アリタルトキハ警察部ニ技術者ノ派遣ヲ請求スヘシ

第九條 銃砲火藥類取締法施行規則第五十二條ニ依リ火藥類ノ棄却ヲ爲ストキハ警察部長ニ稟議スヘシ

第十條 左ノ事項ハ警察部長ニ報告スヘシ

一、法令ニ違背ノモノアリタルトキ

二、銃砲火藥類取締法施行規則第十六條第十七條ノ許可ヲ受ケタルモノニ對シ同則第十九條ニ依リ許可ノ取消ヲ爲シタル場合

三、銃砲火藥類取締法施行規則第十八條ノ許可ヲ受ケタルモノニ對シ同則第十九條ニ依リ許可ノ取消ヲ爲シタル場合

四、銃砲火藥類取締法施行規則第八條ニ依リ設備其ノ他ノ事項ヲ命スル必要アリト認めタルトキ

五、銃砲火藥類取締法施行規則第八條第二項ノ届出アリタルトキ

六、銃砲火藥類取締法施行規則第二十六條第二項ノ命令ヲ爲ス必要アリト認メタル場合  
 七、銃砲火藥類取締法施行規則第五十三條ノ届出アリタルトキ  
 第十一條 銃砲火藥類取締法及同法ニ基キテ發スル命令ノ規程ニ依リ許可又ハ認可シタルモノハ左ノ區別ニ依リ臺帳ヲ作製記入スヘシ

- 一、銃砲火藥製造又ハ營業者臺帳 第一號様式
- 一、火藥類貯藏所臺帳 第二號様式
- 一、火藥類運搬許可臺帳 第三號様式
- 一、軍用銃砲讓渡讓受許可臺帳 第四號様式
- 一、火藥讓渡讓受許可認可臺帳 第五號様式
- 一、拳銃短銃仕込銃仕込刀鋸其他變裝シタル武器授受又ハ運搬攜帶許可臺帳 第六號様式

第一號様式 (用紙美濃紙)

銃砲火藥製造又ハ營業者臺帳

番	號	開	止	廢	種	目	位	置	原	籍	現	住	號	稱	年	氏	身	齡	名	分	備	考

第二號様式 (用紙美濃紙)  
火藥類貯藏所臺帳

名	稱	許	可	ノ	時	同	番	期	間	位	置

願人住所氏名

〔神奈川管〕

〔神奈川管〕

備	考	距	公	人	離	道	家

第三號様式 (用紙美濃紙)  
火藥類運搬許可臺帳

許	可	年	月	日	種	類	數	量	日	運	搬	通	路	發	場	所	著	方	運	搬	願	人	住	所	氏	名	備	考

第四號様式 (用紙美濃紙)  
軍用銃砲讓渡讓受許可臺帳

許	可	年	月	日	銃	砲	種	類	數	讓	受	人	住	所	氏	名

第五號様式 (用紙美濃紙)  
火藥讓渡讓受許可認可臺帳

許	可	年	月	日	火	藥	種	類	數	量	讓	受	人	住	所	氏	名	讓	渡	人	住	所	氏	名	備	考

備考 銃砲火藥類取締法施行規則第二十五條ニ依リ許可ノ場合ハ備考ヘ其ノ事由ヲ記入スヘシ同則第二十

第二編 保安 第一章 安寧

二條ニ依ル認可ノ場合亦同シ

第六號様式 (用紙美濃紙)

拳銃短銃仕込銃仕込刀劍其他變裝シタル武器授受又ハ運搬携帯許可臺帳

許可年月日	種	類	數	許可ノ理由	願人住所氏名	備	考

第七號様式 (用紙半紙)

火藥類讓渡讓受許可又ハ認可報告

明治 年 月 日

何々警察官署

許可年月日	種	類	數	許可又ハ認可ノ事由	願人ノ住所氏名

銃砲火藥類取締法規施行ニ關スル件

明治四十四年五月九日 警保發第四五號保安課長通牒

銃砲火藥類取締法及其ノ施行ニ關スル命令訓令等公布相成之カ實施ニ該リテハ左記事項御了知ノ上可然御處理相成度候也

- 一、施行規則第三十九條ノ拳銃、短銃、仕込銃、仕込刀劍其ノ他變裝シタル武器等ニ對スル取締規程ヲ設ケラレタル趣旨ハ專ラ犯罪慣行者又ハ不良少年等ノ兇暴ナル行爲ヲ豫防警戒スルノ目的ニ依ルモノニ付是等ニ對シ

〔神奈川警〕

〔神奈川警〕

テハ最も嚴密ナル措置ヲ要スルハ勿論ノ儀ニ候得共相當ノ地位身分アル者ニシテ從前ヨリ護身用其ノ他ノ必要ニヨリ所持シ居リタル者ニ對シテハ取締法規實施ノ際ニ於テハ實害ノ件ハサレ場合ハ法令ノ手續ニ欠缺アリタル等ノ事由ヲ以テ直チニ之カ處分ヲ爲スカ如キ必要無之ニ付斟酌シテ之カ措置ヲナスヘキモノトス

- 一、前項ノ武器等ニシテ從前ヨリ所持シ居リ同則實施ノ後繼續シテ之カ受授、携帯、運搬ヲ爲スモノハ同條ノ規程ニ依リ許可ヲ要スルモノナリ
  - 一、改正法令ノ規定制限ニ適合セザル火藥類貯藏所ノ改造期間ハ當座ニ於テ調査ノ上其ノ適否程度ニ依リ一ケ年以上二ケ年以内ノ期間ヲ以テ之ヲ指定ス
  - 一、銃砲火藥類取締法令ハ官公署ニ適用スル限リニ非サレトモ右ハ危險ナルト一方ニハ人民ニ對シ制裁モ有之儀ニ付官公署ニ於ケル火藥ノ受授運搬貯藏ノ方法等ハ該法令ニ準據シ取扱フモノトス
  - 一、火藥類ヲ要スル工事工業ノ爲メ火藥類讓渡ノ許可ヲ受ケタル者ハ自ラ之カ消費ヲ爲スノミニアラス却テ請負人使用人及其ノ職工其ノ他勞務者ニ於テ之ヲ使用スル場合多キヲ占ム然ルニ從來往是等ノ者ニ於ケル火藥類ノ授受甚タ疎漏ナルノ虞アルヲ以テ今同施行細則第三十條ノ規程ヲ設ケラレタル趣旨ニ付本縣訓令第六條第二項ノ監視ハ特ニ注意ヲ要ス
  - 一、火藥類貯藏所設置ノ出願アリタルトキハ其ノ位地及之カ設置ニ付テハ土地ノ利害關係ニ付テハ最も精査ヲ要ス
- 追テ新法令ニ付之カ實施ニ該リテハ同一方針ヲ以テ處理スヘキモノ又ハ疑義ノ點モ有之ニ付不日召集ノ審長會議ニ於テ決定ノ見込ニ付爲念申添候也

銃砲火藥類取締ニ關スル件

明治四十四年五月八日 警保發第三五九〇號保安課長通牒

星火ヲ發スル榴彈、火箭及信號煙管ハ銃砲火藥類取締法ニ依ル普通加工品ニ該當スルヲ以テ選信省令船燈信號器救命具取締規則ニ依リ信號器トシテノ製造販賣ヲナサントスル者ハ先ツ普通加工品ノ製造販賣ノ許可ヲ要シ候條錯誤ナカラシムル機該當營業者ヘ注意方御取計相成度候也

第二編 保安 第一章 安寧